

香淳皇后実録 卷三

昭和九年（西暦一九三四年） 三十一歳

一月

一日 月曜日 皇太子御出産後の御静養のため、御静養室^{御洋館}において新年を迎えられる。なお、昨年十一月三日の鳩彦王妃允子内親王薨去による宮中喪^{第二}のため、新年の拝賀・参賀を始め諸儀式は政始を除いて取りやめとなり、一月三十一日に至るまでの喪中の祭典は掌典部限りにて行われる。○女官長

日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、祭祀録、儀式録、典式録、宮内省省報

四日 木曜日 昨年九月三十日臨時帝室編修局廃局につき、在官中の労績により、この日天皇・皇后・皇太后より元臨時帝室編修局総裁金子堅太郎に御紋付料紙文庫、元臨時帝室編修官長三上参次に御紋付銀花瓶^{唐草大}を下賜される。○省中日誌、恩賜録、宮内省省報、官報

六日 土曜日 午後、御静養室において、葉山より帰京の成子内親王と御対面になる。終わって、内

昭和九年一月

親王は皇太子と初めて対面する。以後、この年も随時、皇太子始め皇子女と御対面・御会食になる。

○女官長日記、女官日誌、呉竹寮日誌

九日 火曜日 昨日京都駅において呉海兵团入団者見送りの際、群衆が折り重なって転倒する事故が発生し多数の死傷者を出したため、この日天皇・皇后より御救恤として金一封を京都府知事に下賜される。○省中日誌、恩賜録、重要雜録、宮内省省報、官報、読売新聞

十日 水曜日 午前、侍医寮事務嘱託梅林寺こう^{助産}婦・坂田あき^同参内につき、御静養室において謁を賜い、暇乞いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

十二日 金曜日 この日、海軍省医務局長より皇后宮大夫を通じて上海事変恩賜義眼義肢拝領者写真帖一部が献上される。○贈賜録

十三日 土曜日 昨十二日、宮中顧問官佐藤愛麿死去につき、この日、天皇・皇后より祭資を下賜される。なお、同人の病氣に際して、お尋ねとして天皇・皇后より葡萄酒を下賜される。○省中日誌、恩賜録、宮内省省報

十四日 日曜日 午後、御静養室において、先般皇后宮職御用掛を拝命の伊達璋子・内山はるに謁を賜い、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進退録

十八日 木曜日 午後、御休所にお出ましになり、皇太子誕生に際しての献上品等を御覧になる。○女官長日記、女官日誌

御静養中のため、今般満洲より凱旋の元騎兵第一旅団長陸軍少将高波祐治・元関東軍飛行隊長陸軍少将牧野正迪の賜謁はなく、皇后宮大夫を通じて次のお言葉を賜う。

満洲デハ永々一方ナラヌ骨折リデ御苦勞デアリマシタ此度ハ凱旋デ御芽出タウ

○侍従職日誌、典式録

葉山より帰京の皇子御養育掛伊地知ミキより、和子内親王・厚子内親王の動静をお聞きになる。以後、この年も随時、内親王方の動静についてお聞きになる。○女官長日誌、女官日誌

十九日 金曜日 午後、宮内省御用掛磐瀬雄一に謁を賜い、本日付にて御用被免の挨拶と賜品拝領のお礼言上をお受けになる。○女官長日誌、女官日誌、侍従職日誌、贈賜録

二十二日 月曜日 御床払いにつき、午前、奥内謁見所において、総代の内大臣・宮内大臣・侍従長・皇后宮大夫・侍医頭・侍従武官長、皇后宮女官長始め皇后宮女官等よりそれぞれ祝詞言上をお受けになる。正午過ぎ、御座所において天皇と御対面になり、御床払いのお礼をお申し入れになる。夕刻、天皇と共に奥御食堂において、久方振りに御夕餐を御会食になる。また、この日、皇后と皇太后との間に相互に御使の御差遣がある。○女官長日誌、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

満洲における今回の事変により傷痕を受け失眠した者、手足を切断した者に対し、思召しをもって義眼・義肢を下賜される。なお、この年は昭和三年支那事変により傷痕を受けた者を含め、合計二十三次にわたり傷痕軍人に義眼又は義肢を下賜される。○贈賜録

二十三日 火曜日 夕刻、雍仁親王・同妃勢津子参内につき、天皇と共に奥御対面所において御対面になり、寒中御機嫌伺い並びに御出産後のお見舞いをお受けになる。以後、この年も随時、皇族・王公族・御親族と御対面・御会食になる。○女官長日誌、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、秩父宮御側日誌、秩父宮附日誌

昭和九年一月

二十四日 水曜日 午後、奥内謁見所において、皇太后御使として参内した権典侍清水谷英子に謁を賜い、皇太后の御風気全快につき、お見舞いに対するお礼をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、贈賜録

二十六日 金曜日 午後、天皇と共に奥御対面所において、崇仁親王及び故恒久王妃昌子内親王・故成久王妃房子内親王・稔彦王妃聡子内親王と御対面になり、崇仁親王より来る二十九日熱海お成りの挨拶を、三内親王より皇后御床払い後の御機嫌伺いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

二十七日 土曜日 この日午前に邦彦王五年式年祭があり、午後、天皇と共に奥御対面所において朝融王^{御兄}と御対面になる。宮中喪のため御代拝はなく、御喪明け後の二月二日、皇后宮女官東貞子に墓所の御代拝を仰せ付けられる。皇后より霊舎に菓子・野菜を、常磐松町の久邇宮別邸における写真に菓子・切り花をお供えになる。また、墓所には天皇・皇后より榊を、皇后より菓子・果物をお供えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、重要雑録

二十九日 月曜日 午後、天皇と共に奥御対面所において、故邦彦王妃侃子と御対面になり、寒中御機嫌伺い及び皇后御床払いの祝詞言上をお受けになる。その後、お揃いにて御静養室において、皇太子と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

三十一日 水曜日 枢密顧問官男爵古市公威去る二十八日死去につき、この日、天皇・皇后より祭資を下賜される。なお、同人の病気に際して、天皇・皇后よりお尋ねとして葡萄酒を下賜される。○省中

日誌、恩賜録、贈賜録、宮内省省報、官報

二月

一日 木曜日 鳩彦王妃允子内親王薨去に伴う宮中喪の御喪明けにつき、午前、総代の皇后宮女官長竹屋志計子より御機嫌伺いをお受けになる。午後、奥内謁見所において、皇太后御使の典侍竹屋津根子に謁を賜い、御喪明けの御機嫌伺いをお受けになる。翌二日、御返礼のため、皇后宮女官長を大宮御所に差し遣わされる。以後、この年も折に触れ、参内した皇太后御使に謁を賜い、また、天皇・皇后あるいは皇后から大宮御所に御使を遣わされる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、重要雑録、祭祀録

二日 金曜日 御夕餐後、天皇と共に奥内謁見所において、映画「皇太子殿下御誕生奉祝実況」等を御覧になる。内大臣始め側近奉仕者が陪覧する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

五日 月曜日 午前、皇太后御参内につき、天皇と共に奥御対面所において御対面になり、ついで奥御食堂において御昼餐を御会食になる。御食後、お揃いにて皇太子と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、重要雑録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報

六日 火曜日 午前、天皇と共に奥内謁見所において、新任の皇后宮職御用掛保科武子に謁を賜う。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、省中日誌、進退録

八日 木曜日 午前、奥内謁見所において、元皇后宮職御用掛珍田岩子故侍従長珍田捨巳夫人に謁を賜う。以後、この年も随時、元奉仕者の拝謁等がある。○女官長日記、女官日誌、贈賜録

午後、天皇と共に奥御対面所において、崇仁親王と御対面になり、熱海より帰京の挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

昭和九年二月

正七位勲五等留岡幸助去る五日死去につき、この日、天皇・皇后・皇太后より特に祭資を下賜される。同人は、家庭学校を創立して多年にわたり不良児の教化に尽瘁し、社会への貢献が多であったことから、社会事業家として初めて祭資を下賜された。○省中日誌、恩賜録

九日 金曜日 翌十日が鳩彦王妃故允子内親王百日祭に当たするため、この日、御使として皇后宮女官

長竹屋志計子を権舎^{朝香宮邸}及び墓所^{豊島岡墓地}に差し遣わされる。天皇・皇后より権舎に切り花・盛菓子を、

墓所に色花・果物をお供えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、重要雑録、朝香宮奥日誌

十日 土曜日 午後、奥宮殿において木戸ツル^{侯爵木戸幸一夫人}に謁を賜い、皇太子誕生の祝詞言上をお受けに

なる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

この日、鳩彦王妃故允子内親王百日祭につき、皇后宮使として皇后宮事務官黒田長敬を権舎及び墓所に差し遣わされ、それぞれ玉串をお供えになる。また、天皇・皇后より権舎に榊を、霊前に盛菓子を、墓前に榊をお供えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、皇親録、重要雑録、宮内省省報、

官報、朝香宮奥日誌

十一日 日曜日 紀元節につき、午前、参内の成子内親王と御対面になる。また、天皇と共に廊下において侍従職嘱託土屋正直・皇后宮職嘱託松井定克に謁を賜う。その後、御学問所において崇仁親王、内大臣・宮内大臣・式部長官・侍従長以下の側近高等官、及び元宮内大臣一木喜徳郎よりそれぞれ拝賀をお受けになる。ついで、雍仁親王・同妃勢津子を始め皇族・王公族より拝賀をお受けになる。午後、奥御食堂において成子内親王と共に酒饌を召され、紀元節宴会終了後に入御の天皇を交えてお茶をお召し上がりになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、呉竹寮日録、秩父宮御側日誌、典

式録、祭祀録、儀式録

十二日 月曜日 大聖寺・宝鏡寺・曇華院・光照院・円照寺・林丘寺・靈鑑寺・中宮寺・瑞竜寺・三時知恩寺・禅智院・水薬師寺・長福寺・善光寺に乾海苔を下賜される。○贈賜録

十三日 火曜日 午後、奥内謁見所において、昨年結婚後初参内の伯爵葛城茂麿（菊麿王の第五王子）及び同夫人敏子に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、典式録

鈴木タカは侍従長夫人として、広幡文子は皇后宮大夫夫人としていずれも初参内につき、謁を賜い、御機嫌伺いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、典式録

天皇と共に奥内謁見所において鳩彦王と御対面になり、去る十日執行の同妃故允子内親王百日祭に際してのお仕向けにつきお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、重要雑録、朝香宮奥日誌

十五日 木曜日 午前、女官候所にお出ましになり、皇太子に賜う童形服の裂地等を皇后宮大夫広幡忠隆の説明にて御覧になる。○女官長日記、女官日誌

去る十二日退官の前車馬監友田元効に対し、この日天皇・皇后より特に賜品等がある。同人は大正二年に宮内省御用掛に就任し、多年にわたり天皇の御乗馬のお相手を務めた。○侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、進退録、恩賜録、贈賜録、宮内省省報、官報

十七日 土曜日 去る十一日博義王妃朝子が伏見宮邸において第三王女を出産する。誕生した女子は、七夜に当たるこの日（あやこ）章子と命名される。命名当日に際し、お祝いとして天皇・皇后より白羽二重・酒・鮮鯛を博義王に賜う。○侍従職日誌、省中日誌、皇親録、贈賜録、皇族身分録、宮内省省報、官報

昭和九年二月

十九日 月曜日 夕刻、天皇と共に御学問所において、今般欧米各国への旅行に出発の恒憲王・同妃敏子のため送別の宴を催される。なお昨十八日、天皇・皇后より王・同妃それぞれにお品を、王・同妃に三種交魚等を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、重要雑録

ベルギー国皇帝アルベール一世崩御につき、この日、宮中喪が発せられ、三月十一日まで二十一日間服喪される。ただし、二月二十一日の仁孝天皇例祭、二十三日・二十四日・二十六日・二十七日に皇太子明仁親王誕生につき催される饗宴・賜饌等、三月六日の皇后のお誕生日は除喪される。翌二十日には、弔問のため、皇后宮使として皇后宮職御用掛高木多都雄を同国大使館に差し遣わされる。二十二日に小石川区関口台町の天主公会において行われる弔祭式には、御名代として雍仁親王妃勢津子を差し遣わされ、二十二日同妃より復命をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、秩父宮御側日誌、祭祀録、重要雑録、慶弔録、宮内省省報、官報

二十日 火曜日 枢密顧問官伯爵伊東巳代治昨十九日死去につき、この日、弔問のため、皇后宮使として皇后宮事務官野口明を同人邸に差し遣わされる。二十一日には、皇后宮使として皇后宮事務官黒田長敬を同人邸に差し遣わされ、花を賜い、焼香させられる。さらに、天皇・皇后・皇太后より祭資を下賜される。二十二日に築地本願寺において行われる葬送には、皇后宮使として皇后宮事務官永積寅彦を差し遣わされ、焼香させられる。なお、昨十九日、同人の病気に際して、天皇・皇后よりお尋ねとして葡萄酒を下賜され、侍医村山浩一を差し遣わされる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、省中日誌、恩賜録、重要雑録、宮内省省報、官報

二十一日 水曜日 午前、仁孝天皇例祭が行われるが、御拝礼・御代拝は共にお取りやめになる。○

侍従職日誌、内舍人日誌、祭祀録、典式録、儀式録

二十三日 金曜日 この日及び二十四日・二十六日・二十七日の四日間には、宮中において皇太子誕生の御祝儀が行われ、第一日は饗宴が催される。正午過ぎ、天皇と共に御学問所において、雍仁親王・同妃勢津子始め皇族・王公族二十五方と御対面になる。続いて、皇族・王公族を伴い西溜ノ間において、大勲位以下前官礼遇以上及び特に召された者並びに同夫人に謁を賜う。ついで千種ノ間において、各国大使・公使及び同夫人を御引見になる。その際、外交団より銀製花盛器及び署名帖の献上があり、天皇に続いて謝辞を述べられる。その後、豊明殿において饗宴に臨まれる。御食後、牡丹ノ間に移られ、各国大使・公使及び同夫人と御会話になり、ついで千種ノ間において、その他の招待者に御会釈を賜う。終わって、天皇と共に御静養室において、皇太子・成子内親王・和子内親王・厚子内親王と記念写真の撮影に臨まれる。

またこの日、天皇と共に内宴を催される。夕刻、皇太后御参内につき、天皇と共に奥御対面所において御対面になる。その後、天皇と共に御学問所において、三條西信子 三條西公正夫人、御妹・大谷智子大谷光暢夫人、御妹、並びに内大臣・宮内大臣始め宮内省各部局長官及び側近奉仕高等官等に謁を賜う。終わって、皇太后と共に皇族・王公族二十七方を伴い、豊明殿において内宴に臨まれる。なお、内宴に先立ち、皇后の思召しにより、皇太子は皇后宫女官に抱かれて参集の諸員の拝謁を受け、また皇太后及び皇族・王公族と対面する。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、吳竹寮日録、省中日誌、秩父宮御側日誌、儀式録、

皇親録、重要雑録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報

皇太子誕生の御祝儀につき、天皇・皇后より内大臣牧野伸顯・宮内大臣湯浅倉平・宮内次官大谷正

昭和九年二月

男・皇后宮大夫広幡忠隆に花瓶を、侍従長鈴木貫太郎に蒔絵手筈を、侍従武官長本庄繁に蒔絵硯箱を下賜される。また、侍従長・皇后宮大夫・侍医頭・侍従武官長・皇子御養育掛長始め侍従・侍医・侍従武官等に御紋付白金懷中時計を、皇后宮女官長始め皇后宮女官等に御紋付白金腕時計を下賜される。

その他宮内判任官以下に腕時計・帶留・手釦等を、地方在勤及び公務のため不参の宮内高等官・同待遇等、宮内判任官以下の職員一同並びにその直系尊属の七十歳以上の者に記念として木杯を下賜される。なお、天皇・皇后に、朝香宮より鮮鯛の御贈進があり、また、子爵入江為守より菓子、日本美術院代表横山大観より「旭光帖」乾坤二帖・春瑞額彫刻一面の、麝香間祇候一同より銀製花盛器・三種交魚の献上がある。さらに、宮内高等官・同待遇及び判任官一同より、天皇・皇后・皇太后及び皇太子にそれぞれ鮮鯛が献上される。○女官長日記、侍従職日誌、省中日誌、皇親録、重要雑録、朝香宮奥日誌

二十四日 土曜日 皇太子誕生の御祝儀第二日につき、午前、天皇と共に正殿において、枢密院副議長以下公爵以上及び同夫人、宮内次官・宮内省部局長官及び同夫人、秘書課長・総務課長・大膳課長・皇宮警察部長・式部次長、東京府知事・東京市長に謁を賜う。ついで西溜ノ間において、天皇・皇后御結婚後に退官した元宮内次官・元宮内省部局長官・元側近奉仕者、宮内高等官・同待遇、麝香間祇候・錦鶏間祇候に謁を賜う。その後、豊明殿・千種ノ間・東溜ノ間において一同に酒饌を賜う。

御祝儀第三日の二十六日には、従一位より従四位、勲一等より勲三等、高等官一等・同二等、勅任待遇、貴族院副議長・衆議院副議長、侯爵・伯爵・子爵・男爵、功二級・功三級、神仏各宗派管長に対し、第四日の二十七日には、貴族院議員・衆議院議員、高等官三等より同五等並びに該等の待遇を受ける者、正五位・従五位の有位華族に対し、豊明殿等において祝酒・茶菓を賜う。なお、天皇・皇后

より参列者全員に、記念品を下賜される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、儀式録、重要雑録、宮内省省報、官報

奥内謁見所において、この日賜饌に召された旧女官の千種任子・園祥子・西西子・生源寺伊佐雄に謁を賜い、祝詞言上をお受けになる。午後、奥御進講所において、侯爵久邇邦久^{御兄}及び同夫人と御対面になり、ついで元皇后宮女官長始め元皇后宮女官に謁を賜う。いずれもこの日のお召しについてのお礼言上がある。○女官長日記、女官日誌、重要雑録

二十六日 月曜日 午後、奥内謁見所において、堀田秀子・鍋島紀久子に順次謁を賜い、御機嫌伺い、並びに皇太子誕生御祝儀第三日につき祝詞言上をお受けになる。ついで奥御進講所において、元侍従職御用掛阪口鎮雄に謁を賜い、去る二十四日の皇太子誕生御祝儀へのお召しについてのお礼言上等をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、重要雑録

三月

一日 木曜日 学習院評議会会員子爵東園基光去る二月二十六日死去につき、この日、天皇・皇后・皇太后より祭資を、皇后より盛菓子を下賜される。なお、同人の病気に際して、お尋ねとして天皇・皇后・皇太后より菓子を、皇后より果物を下賜される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、恩賜録、贈賜録、宮内省省報

五日 月曜日 午前、奥内謁見所において、今般満洲より凱旋の元混成第十四旅団長陸軍少将平田重三に謁を賜い、お礼言上をお受けになり、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典

昭和九年三月

昭和九年三月

式録

六日 火曜日 満三十一歳のお誕生日を迎えられる。

午前、奥内謁見所において、宮内大臣始め側近奉仕高等官の拝賀をお受けになる。ついで桐ノ間入口外の西廊下において皇族付武官・御用取扱の拝賀をお受けになった後、桐ノ間において雍仁親王・同妃勢津子始め皇族・王公族、続いて大勲位以下公爵以上、宮内勅任官及び同待遇並びに以上の者の夫人の拝賀を、西溜ノ間において宮内奏任官・同待遇の拝賀をお受けになる。また、お祝いに参じた元皇后宮女官等に謁を賜う。その後、天皇と共に成子内親王と御対面になり、祝詞言上をお受けになる。正午、天皇及び成子内親王・和子内親王・厚子内親王と共に奥御食堂において、お祝御膳を御会食になる。その後、奥内謁見所において、広幡文子^{皇后宮大夫広幡忠隆夫人}、御同級生総代に順次謁を賜い、祝詞言上をお受けになる。ついで同所において、永久王の拝賀をお受けになる。

夕刻、天皇及び成子内親王・和子内親王・厚子内親王と共に御学問所において内宴に臨まれ、宮内大臣始め側近奉仕高等官と御夕餐を共にされる。内宴終了後、余興として福引があり、さらに申ノ口においてピンポンを楽しまれる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、儀式録、典式録

七日 水曜日 正午頃、奥内謁見所において、翌八日欧米旅行へ出発の恒憲王・同妃敏子と御対面になり、暇乞いをお受けになる。なお出発に際しては、天皇・皇后より御使として皇后宮事務官兼侍従岡本愛祐を賀陽宮邸に差し遣わされる。王・同妃は欧州並びに南米各国を周遊し、米国經由にて九月十八日に帰国する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、重要雑録、宮内省省報、官報
この日厚子内親王の誕生日のところ、宮中喪につき祝賀行事は延期となる。○女官長日記、女官日誌

八日 木曜日 午後、元皇后宮大夫河井弥八参内につき、謁を賜い、祐子内親王命日につき御機嫌伺いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌

十二日 月曜日 この日、ベルギー国皇帝崩御に伴う御喪明けとなる。午後一時三十五分天皇と共に御出門、この年初めて大宮御所に行啓され、皇太后と御対面になり、宮中喪の間に皇太后からしばしばお尋ねの品の御贈進があつたことへのお礼をされる。四時還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、幸啓録、行幸録、行啓録、贈賜録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報

十三日 火曜日 午後、参内の島津伊楚子御叔父公爵島津忠重夫人、同息女経子参内につき、奥内謁見所において謁

を賜い、御機嫌伺い及び昨年十一月経子の島津久大への帰嫁につき挨拶をお受けになる。ついで朝融王妃知子女王参内につき、天皇と共に御対面になり、御機嫌伺い及び病中お尋ねのお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録

十四日 水曜日 午後、天皇と共に奥内謁見所において、宮内次官大谷正男に謁を賜い、病氣全快のお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、贈賜録

十五日 木曜日 午後、奥御進講所において侍従武官石田保秀に謁を賜い、去る十日陸軍記念日祝賀会において天覧に供された携帯用食糧品等について説明をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌

十六日 金曜日 この日、和子内親王の着袴の儀が行われる。本儀は先例により昨年数え五歳の年の十二月に挙行予定のところ、鳩彦王妃允子内親王薨去及びベルギー国皇帝崩御による宮中喪のため、この日まで延期となる。午前、天皇と共に奥御座所において、童形服姿の和子内親王と御対面になり、お礼言上をお受けになる。その際、天皇・皇后よりお祝品を内親王に御贈進になる。ついで天皇と共に奥内

昭和九年三月

謁見所において、総代の内大臣・宮内大臣・侍従長・皇后宮大夫・侍医頭・侍従武官長・皇子御養育掛長より祝詞言上をお受けになり、御常御殿御入側において皇后宮女官等の拝賀をお受けになる。

正午過ぎ、成子内親王参内につき、奥御食堂において天皇及び和子内親王・厚子内親王と共に祝御膳をお召し上がりになる。御食後、皇太后宮大夫参内につき、天皇と共に謁を賜い、祝詞言上をお受けになる。

夕刻、天皇と共に奥内謁見所において、内宴にお召しの雍仁親王・同妃勢津子を始め皇族と御対面になり、祝詞言上をお受けになる。ついで千種ノ間において内宴を催される。

この日、天皇・皇后より皇后宮女官東貞子に多摩陵^{大正天皇陵}の御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官

日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、呉竹寮日録、典式録、皇子保育録、進退録、貞明皇后実録正本

午後、恒徳王参内につき、天皇と共に奥内謁見所において御対面になり、三条光子^{公爵三条公輝の息女}との結婚勅

許につきお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、皇族身分

録、宮内省省報、官報

十七日 土曜日 宮中喪のため延期されていた成子内親王・厚子内親王の誕生日のお祝いがこの日行われる。午前、成子内親王及び厚子内親王よりお礼言上を天皇と共に受けになる。ついでお揃いで奥内謁見所において、内大臣始め総代、皇后宮女官一同よりそれぞれ祝詞言上をお受けになる。また、拝賀のため参内の元皇后宮女官に謁を賜う。

午後、天皇と共に御学問所において内宴を催され、天皇及び三内親王と御会食になり、御食後、御相伴にあずかった側近等による余興を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、呉

竹寮日録

十八日 日曜日 午前、崇仁親王参内につき、天皇と共に奥内謁見所において御対面になり、昨日陸軍士官学校予科卒業のお礼言上をお受けになり、親王持参の卒業証書を御覧になる。なお、天皇・皇后より親王にお祝品を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、皇親録、贈賜録、侍従武官府資料

十九日 月曜日 午後、故恒久王妃昌子内親王及び礼子女王<sup>来る二十六日従五位
佐野常光と結婚予定</sup>参内につき、奥内謁見所において御対面になり、振袖姿の女王を御覧になる。なお、女王にお祝品を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、慶弔録

二十日 火曜日 午後、天皇と共に奥御対面所において崇仁親王と御対面になり、昨日士官候補生として騎兵第十五聯隊に入隊につきお礼言上をお受けになる。退出の際、お祝品を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、皇親録、贈賜録

夜、外務省よりオランダ国皇太后エンマの御病状不良の旨を告げる通知到達につき、天皇・皇后よりお見舞電報を同皇太后に御發送になる。その後間もなく崩御の報到達につき、天皇・皇后より同国皇帝ウイルヘルミナに弔電を御發送になる。ついで二十六日には、天皇・皇后は御使として同国駐劄特命全権公使武富敏彦を故皇太后の王宮に差し遣わされ、柩前に花環をお供えになる。○侍従日誌、省中日誌、外交慶弔録、外交贈答録、重要雜録、宮内省省報、官報

二十一日 水曜日 午前、春季皇靈祭及び同神殿祭につき、皇后宮女官津輕理喜子に御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、儀式録、祭祀録、典式録、宮内省省報

昭和九年三月

昨日オランダ国皇太后エンマ崩御につき、この日宮中喪が発せられ、二十七日までの七日間服喪される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、慶弔録、宮内省省報、官報

二十二日 木曜日 午前、天皇と共に奥内謁見所において、故恒久王妃昌子内親王及び礼子女王と御対面になり、女王よりこの日勲二等宝冠章拝受のお礼言上をお受けになり、また、来る二十六日従五位佐野常光と結婚につき暇乞いをお受けになる。その際、天皇・皇后よりお祝品を御贈進になる。○

女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、典式録、皇族身分録、皇族叙勲録、官報

二十三日 金曜日 午後、天皇と共に奥御進講所において、皇子御養育掛長藤井種太郎に謁を賜い、成子内親王の女子学習院における成績につき奏上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、呉竹寮

日誌、藤井種太郎日誌

二十四日 土曜日 去る二十一日より二十二日にかけて北海道函館市において大火による被害発生につき、天皇・皇后より御救恤として金一封を北海道庁に下賜される。被害状況視察のため、勅使として侍従徳大寺実厚の御差遣があり、同人より同行に伝達される。三十日、皇后は帰京の徳大寺より復命をお聞きになる。ついで四月十二日、六十歳以上の罹災孤独者、十四歳未満の罹災孤独者、罹災重傷病者に対し、皇后より思召しをもって白綿ネルを下賜される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、省中日誌、恩賜録、重要雑録、宮内省省報、官報

二十六日 月曜日 御結婚満十年御祝儀去る一月二十六日に実施予定のところ、宮中喪のため延期につき、天皇と共に内宴を催される。午後、天皇と共に千種ノ間において、内大臣・宮内大臣・侍従長始め男女側近奉仕者、及び御結婚当時の東宮侍従長入江為守皇太后
宮大夫始め元奉仕者と御会食になる。牡丹ノ間・竹ノ間において賜茶の後、成子

内親王・和子内親王・厚子内親王を交えて奥内謁見所において御結婚当時の御動静等についての活動写真を御覧になる。その後、御常御殿御座所御入側にお出ましになり、内庭において行われた側近奉仕者による余興を御覧になる。夕刻、申ノ口付近の各種模擬店にお出ましになり、一同と御会食になる。なお、内宴に召された者より、また元東宮女官長及び元東宮女官より、それぞれ天皇・皇后に祝いの品が献上される。天皇・皇后より、この日お召しの者全員にボンボニエールを賜い、さらに御成婚前から勤続の側近奉仕者に別途お品を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、呉竹寮日録、典式録、進献録、贈賜録、貞明皇后実録正本

前官礼遇中橋徳五郎昨二十五日死去につき、この日、弔問のため、皇后宮使として皇后宮事務官永積寅彦を同人邸に差し遣わされる。二十八日には、皇后宮使として皇后宮事務官岡本愛祐を差し遣わされ、柩前に花を賜い、焼香させられる。二十九日に青山斎場において行われる葬送には、皇后宮使として皇后宮事務官大金益次郎を差し遣わされ、焼香させられる。また、天皇・皇后・皇太后より祭資を下賜される。なお、昨二十五日、同人の病氣に際して、天皇・皇后よりお尋ねとして侍医寛繁を同人邸に差し遣わされる。また、葡萄酒を下賜される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、恩賜録、

重要雑録、宮内省省報、官報

二十七日 火曜日 宮中喪のところ、今般来日の満洲国特使参内につき、除喪される。午前、桐ノ間において、満洲国特使鄭孝胥國務總理大臣・同熙洽財政部大臣に謁見を仰せ付けられる。また、同国総務庁次長阪谷希一以下随員に謁を賜う。午後、天皇と共に豊明殿において満洲国特使のため午餐を催される。御食後、天皇・皇后・皇太后に対する満洲国皇帝よりの御贈進品が披露され、皇后には玉盒、豹皮、白熊

昭和九年三月

皮が贈られる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、秩父宮御側日誌、外賓參内録、外賓接待録、典式録、進獻録、宮内省省報、官報

故恒久王妃昌子内親王・恒徳王参内につき、天皇と共に奥御対面所において御対面になり、昨日の礼子女王結婚に際してのお仕向けにつきお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、皇親録、贈賜録、典式録、皇族身分録、宮内省省報、官報

今般支那駐屯軍へ御差遣の侍従武官町尻量基に謁を賜い、司令官に対する次の令旨を下される。

司令官以下一同力遠ク家郷ヲ離レ氣候風土ノ異レル海外ノ地ニ於テ困難ナル警備ノ諸勤務ニ服シ居ルコトハ誠ニ苦勞多キコトト思フ殊ニ任務ノ為死傷シ病患ニ罹リタル者ニ対シテハ氣ノ毒ニ堪ヘス充分ニ勞ハリ遣ハセ將兵各自一層身体ヲ大切ニシテ奉公ノ誠ヲ致ス様宜シク申伝ヘヨ

町尻は翌二十八日出発、北支那において駐屯軍の状況を実視し、四月十七日帰京、二十五日復命する。

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、典式録、進退録、恩賜録、侍従武官府歴史、宮内省省報、官報

二十八日 水曜日 去る二十四日多摩陵に御参拝予定のところ、宮中喪のため延期され、この日行啓される。午後零時五十分御出門、原宿駅より御乗車、東浅川駅にて御降車になる。陵所御休所より陵前に参進され、御拝礼になる。終わって東浅川駅より御乗車になり、原宿駅にて御降車、四時還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、行啓録、幸啓録、宮内省省報、官報

二十九日 木曜日 女子学習院卒業式に御臨席のため、午前九時御出門、同院に行啓される。御着後、便殿において雍仁親王妃勢津子・博恭王妃経子・故菊麿王妃常子・朝融王妃知子女王・守正王妃伊都子・稔彦王妃聡子内親王と御対面になる。ついで宮内大臣湯浅倉平・女子学習院長長屋順耳・内大臣

牧野伸顕に謁を賜う。また、在学中の湛子女王・多惠子女王・美智子女王・成子内親王・正子女王・朝子女王と御対面になる。それより式場に臨御され、証書・恩賜品・寄贈品の授与、院長の式辞、宮内大臣告辞、卒業生総代の謝辞、「金剛石」の唱歌がある。終わって陳列場に出御され、学生の成績品を御巡覧になる。なお、皇后宮大夫より院長に賜物が伝達される。十一時三十五分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、吳竹寮日録、省中日誌、行啓録、幸啓録、宮内省省報、女子学習院関係資料、女子学習院五十年史

午後、天皇と共に奥内謁見所において、今般京都より上京参内の多嘉王^{御父邦彦王の弟}・同妃静子並びに徳彦王^{多嘉王第三王子}・恭仁子女王と御対面になり、この日徳彦王の賢所初参拝につき挨拶をお受けになる。なお、

家彦王^{多嘉王第二王子}も賢所初参拝の予定のところ、風気のためお取りやめになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、祭祀録、儀式録、典式録、省中日誌、宮内省省報、官報

三十日 金曜日 午前、成子内親王と共に奥内謁見所にお出ましになり、雛人形の拝観に御招待の美智子女王・正子女王・朝子女王・湛子女王・多惠子女王と御対面になる。ついで奥宮殿において御昼餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、吳竹寮日録、朝香宮奥日誌

三十一日 土曜日 午前、奥内謁見所において、今般満洲より凱旋の元第八師団長陸軍中将西義一、元関東軍参謀長陸軍中将小磯国昭・元第一独立守備隊司令官陸軍中将井上忠也、元騎兵第四旅団長陸軍少将茂木謙之助に順次謁を賜い、慰労のお言葉を賜う。西・小磯・井上へのお言葉は次のとおり。

満洲デハ永イ間困難ナ任務ヲ首尾ヨク遂行シ^{ミズメヒカリ}皇国ノ光輝ヲ^{ヒカリ}發揚シタコトハ洵ニ御苦勞デアリマシ

昭和九年四月

夕、今回目出度凱旋シテ本当ニ喜バシク思ヒマス、ドウカ愈々自愛シテ御奉公ヲスルヤウニ
また、茂木にも同趣旨のお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、典式録

四月

一日 日曜日 午前、天皇と共に申ノ口において、皇太子へ贈られる童形服を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、省中日誌、皇親録

二日 月曜日 午後、奥内謁見所において、伯爵東伏見邦英^{御弟}と御対面になり、今般京都帝国大学卒業のお礼言上をお受けになる。同人に対し、天皇・皇后それぞれよりお祝品を下賜される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、贈賜録

三日 火曜日 午前、神武天皇祭につき、皇后宮女官東貞子に御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、祭祀録、儀式録、宮内省省報

四日 水曜日 午前、天皇と共に奥内謁見所において、章子女王を出産後初参内の博義王妃朝子と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

五日 木曜日 午前、皇太子の賢所皇靈殿神殿に謁するの儀が行われる。儀終了後、天皇及び皇太子と共に奥内謁見所において、宮内大臣・宮内次官及び侍従長始め側近奉仕高等官の拝賀をお受けになる。正午、天皇及び成子内親王・和子内親王・厚子内親王と共に奥御食堂において、お祝御膳をお召し上がりになる。午後、奥内謁見所において、伯爵東伏見邦英・広幡文子に順次謁を賜い、拝賀をお受けになる。

夕刻、天皇及び皇太子と共に奥内謁見所において、雍仁親王・同妃勢津子始め皇族・王族と御対面になり、祝賀をお受けになる。ついで天皇と共に豊明殿において内宴を催され、皇族・王族等と御晩餐を御会食になる。

この日、天皇・皇后より皇太子に童形服及び鮮鯛代料・裱人形・稚児人形をお贈りになる。皇太子より天皇・皇后に献上の品があり、皇后には鮮鯛が贈られる。また、天皇・皇后と皇太后との間にもお祝品の御贈答がある。なお、この日の賢所皇靈殿神殿に謁するの儀をもつて、皇室親族令付式中の皇子誕生式の諸儀終了につき、御奉告のため、天皇・皇后よりこの日皇后宮女官万里小路ソデを多摩陵へ、十五日には侍従牧野貞亮を神宮・山陵^{神武天皇陵・孝明天皇陵・英照皇太后陵・明治天皇陵・昭憲皇太后陵}へそれぞれ差し遣わされる。○女官

長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、吳竹寮日録、省中日誌、秩父宮御側日誌、祭祀録、儀式録、重要雜録、皇親録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報

七日 土曜日 午後、第三艦隊及び旅順要港部並びに駐滿海軍部へ御差遣の侍従武官桑折英三郎に謁を賜い、各司令長官・司令官に対する令旨を下される。第三艦隊司令長官への令旨は次のとおり。

司令長官以下一同カ時局多端ノ際風土異ナル地方ニ在リテ困難ナル警備ノ任ニ服スルコトハ誠ニ苦勞ニ思フ各自一層身体ヲ大切ニシテ勤務スル様宜シク申伝ヘヨ又傷病者ハ能ク勞ハリ遣ハセ

旅順要港部司令官及び駐滿海軍部司令官にも同趣旨の令旨を下される。桑折は四月九日出発、支那及び滿洲の状況を実視し、六月四日帰京、十八日復命する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、典式録、恩賜録、進退録、侍従武官府歴史、宮内省省報、官報

九日 月曜日 午前、皇后宮職囑託松井定克より、謡曲「小鍛冶」の指導をお受けになる。以後、こ

昭和九年四月

の年も随時、同人より謡曲の指導をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

宮中顧問官元東宮侍従本多正復伏見宮付別当死去につき、天皇・皇后・皇太后より祭資を、天皇・皇后より盛

菓子を下賜される。なお、同人の病氣に際して、お尋ねとして天皇・皇后より果物を、皇后より花卉を下賜される。また、同人の危篤に際して、天皇・皇后・皇太后より葡萄酒を下賜される。○侍従職日

誌、省中日誌、恩賜録、贈賜録、宮内省省報

十一日 水曜日 午前、昭憲皇太后二十年式年祭につき、皇后宮女官万里小路ソデに御代拝を仰せ付けられる。なお、山陵の儀の御代拝を掌侍取扱敷嘉根子に仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従

日誌、侍従職日誌、祭祀録、典式録、儀式録、宮内省省報

十二日 木曜日 午後、天皇と共に御学問所において、東京天文台長早乙女清房より「南洋ニ於ケル日蝕観測ニ就テ」と題する講話をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、進

講録

十三日 金曜日 午前、奥内謁見所において、新任の宮内省参事官岡本愛祐、皇后宮事務官兼侍従野口明、侍従兼皇后宮事務官小出英経、侍従職経理課長並びに皇后宮職経理課長を拝命の侍従兼宮内事務官皇后宮事務官永積寅彦に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、省中日誌、進退録、宮内省省報、官報

奥内謁見所において、故成久王妃房子内親王と御対面になり、京都旅行より帰京の挨拶をお受けになる。午後、再び奥内謁見所において、故恒久王妃昌子内親王と御対面になり、同じく京都旅行より帰京の挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宮内省省報

十四日 土曜日 午後、宣仁親王妃喜久子参内につき、天皇と共に奥御対面所において御対面になり、

この日広島県呉市より帰京の挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、宮内省省報
十五日 日曜日 午前、天皇と共に奥御対面所において、雍仁親王・同妃勢津子及び稔彦王妃聡子内親王と御対面になる。雍仁親王より広島県下及び近畿地方への旅行から帰京につき、稔彦王妃より京都府下への旅行から帰京につき、それぞれ挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、秩父宮御側日誌、宮内省省報

十七日 火曜日 午後、奥内謁見所において、御機嫌伺いのため参内した京都在住華族総代の子爵大宮公孝に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、典式録、恩賜録

奥御座所において今般宮内省参事官に転出の前皇后宮事務官兼侍従岡本愛祐に謁を賜い、お手許品を下賜される。また、天皇・皇后より金員等を下賜される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、進退録、恩賜録、贈賜録、宮内省省報、官報

十八日 水曜日 午前、奥内謁見所において、今般満洲より凱旋の第八師団長陸軍中将中村孝太郎、元関東軍軍医部長伊藤賢三に謁を賜い、それぞれお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、典式録
午後、従五位佐野常光及び同夫人礼子恒久王の王女参内につき、奥内謁見所において謁を賜い、先般結婚のお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、典式録

恒徳王と三条光子との結婚に先立ち、この日納采の儀終了につき、天皇・皇后より恒徳王に五種交魚を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、皇族身分録、重要雑録

十九日 木曜日 午前、奥内謁見所において、今般上京の神宮大官司伯爵三条西実義に謁を賜い、御機嫌伺いをお受けになる。引き続き元侍従子爵加藤泰通参内につき、謁を賜い、今般欧米旅行へ出発

昭和九年四月

の暇乞いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、典式録

午後、奥内謁見所において、今般上京の伯爵大谷光暢・同夫人智子及び得度式を終えた子息光紹に謁を賜う。翌日、皇太子と共に奥御対面所において、再度謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

二十日 金曜日 天皇と共に新宿御苑において、観桜会を催される。午後二時三十分御出門、天皇と共に新宿御苑に行啓される。先着の皇族と御対面になり、賜謁所において各国大公使等と御握手になる。四時十分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、幸啓録、観桜会録、典式録、謁見録、宮内省省報、官報

二十一日 土曜日 去る三月十七日東京音楽学校において天皇皇后御結婚十周年並びに皇太子誕生奉祝の音楽演奏会が開催された際に、同校から皇后行啓の願い出があったものの、宮中喪等の御都合により行啓はお取りやめとなる。しかしながら、同校において作詞・作曲され同演奏会で邦楽及び洋楽にて演奏された奉祝歌が、演奏会の聴衆、及びラジオを通じて鑑賞した全国民に相当の感銘を与えたことから、同校より皇后の行啓並びに奉祝歌演奏の願い出が再度あり、この日、東京音楽学校に行啓される。午後零時四十五分御出門になり、同校に御到着後、便殿に入られる。同所において、陪聴する成子内親王・雍仁親王妃勢津子・博恭王妃経子・博義王妃朝子・故邦彦王妃倪子・故菊麿王妃常子・守正王妃伊都子・李鍵公妃誠子と御対面になり、文部大臣斎藤実、校長乗杉嘉寿に謁を賜い、校長より演奏曲目等の書類の奉呈をお受けになる。また、教授高野辰之以下に謁を賜う。それより奏樂堂に出御される。まず第一部の邦楽では、同校嘱託梅若万三郎^{前シ}・講師観世左近^{後シ}等による能楽「小鍛冶」、講師宮城道雄・同中能島欣一による箏曲「皇太子殿下御誕生奉祝歌」^{高野辰之作詞、宮城道雄作曲}、講師吉住小

三郎・同杉本金太郎^{稀音家六四郎}及び同校職員・生徒による長唄「百夜草神田祭」^{幸堂得知作詞、稀音家六四郎・吉住小三郎作曲}を鑑賞される。

この後、第二部開始の前に、上野児童音楽学園・上野男児合唱団による斉唱歌「皇太子殿下御誕生奉祝歌」二曲^{一曲目は文部省作、二曲目は日本教育音楽協会選}及び教授真篠俊雄によるヘンデル作曲「フーガ」のパイプオルガン

独奏をお聴きになる。第二部の洋楽では、生徒によるヴィヴァルディ作曲「三つのヴァイオリンのための協奏曲」、バッハ作曲「三つのピアノのための協奏曲」の演奏、及び囑託橋本國彦指揮、同校管絃楽部・教職員・生徒の管絃楽・独唱・合唱による同校作の「皇太子殿下御誕生奉祝歌」をお聴きになる。最後に「君が代」の合唱がある。この日、陪聴者は各皇族妃・公族妃のほか、供奉員、文部大臣を始め総勢四百余名に上り、ラジオにより全国に放送される。終了後、便殿において校長よりお礼言上をお受けになり、お言葉を賜う。なお、校長・御前演奏者その他に賜品等がある。四時十五分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、呉竹寮日録、省中日誌、幸啓録、宮内省省報、官報、東京芸術大学大学史料室所蔵資料、行啓記念写真帖

去る十八日青森県下北郡脇野沢村において火災被害発生につき、御救恤として天皇・皇后より金一封を同県に下賜される。○省中日誌、恩賜録、宮内省省報、官報

二十三日 月曜日 午前、奥御食堂において皇太子の箸初の儀が行われる。終わって、天皇及び皇太子と共に奥内謁見所において、総代の侍従長・皇后宮大夫・侍医頭・侍従武官長より祝詞言上をお受けになる。正午、天皇及び和子内親王・厚子内親王と共に奥御食堂においてお祝御膳を御会食になる。なお、天皇・皇后より皇太子にお祝品を御贈進になる。また、天皇・皇后と皇太后の間にお祝品の御贈答がある。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

昭和九年四月

二十四日 火曜日 午後、天皇と共に豊明殿において、今般離任帰国の英国特命全権大使フランス・オズワルド・リンドレーのため午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省

中日誌、秩父宮御側日誌、謁見録、典式録、宮内省省報、官報

二十六日 木曜日 午後、奥内謁見所において、宣仁親王妃喜久子と御対面になり、徳川実枝子威仁親王の王女

宣仁親王妃の母 死去後の喪明け、及び昨二十五日の一年祭に際してのお仕向けに対するお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、贈賜録

別格官幣社靖国神社において臨時大祭挙行につき、この日天皇・皇后より同社に祭資を下賜される。

○省中日誌、儀式祭典録

二十八日 土曜日 午前、桐ノ間において、今般着任のコロンビア国特命全権公使ドミンゴ・エスゲラ及び同夫人に謁見を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、謁見録、典式

録、宮内省省報、官報

二十九日 日曜日 天長節につき、午前、奥御進講所において、総代の内大臣・宮内大臣・宮内次官・侍従長・皇后宮大夫・侍医頭・侍従武官長・皇子御養育掛長、皇后宮女官長始め皇后宮女官等の拝賀をお受けになる。それより天皇及び皇太子・成子内親王・和子内親王・厚子内親王と共に御常御殿の広芝に降り立たれ、写真撮影に臨まれる。その後、宮内高等官により鯉幟鯉幟は埼玉県北埼玉製造業組合長金子猪之助より、幟竿は東京市杉並区内藤庄

右衛門よりそれぞれ献上 が掲げられる様子を御覧になり、また宮内大臣の発声にて万歳の三唱をお受けになる。

午後、皇太后宮御休所において、皇族妃・王公族妃の拝賀をお受けになる。ついで、奥内謁見所にお

いて内宴を催される。御食後、天皇と共に奥御対面所において、崇仁親王より祝詞言上をお受けになる。ついで旧女官の園祥子・生源寺伊佐雄、元皇后宮女官長等に謁を賜う。その後、元侍女鈴木タカを始め五名参内につき、天皇と共に奥御座所縁側座敷において謁を賜う。

夕刻、天皇と共に御学問所における天長節内宴に臨まれ、成子内親王・和子内親王・厚子内親王等と御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、進献録

天長節に当たり、布哇日本人慈恵会^{在ホノルル}・加州日本人慈恵会^{在サンフランシスコ}・南加小児園^{在ロサンゼルス}など在外邦人経

営の優良三十七団体に、社会事業御奨励の思召しをもって、天皇・皇后より金一封ずつ下賜される。

また、サンパウロ日本病院建設の御補助の思召しをもって、天皇・皇后より在伯同仁会に金一封を下賜される。○省中日誌、恩賜録、宮内省省報、官報

この日、聯合艦隊の戦技実視のため御差遣中の侍従武官小林謙五を通じ、司令長官末次信正に天皇・皇后より清酒を下賜される。○省中日誌、進退録、恩賜録、重要雑録、侍従武官府歴史、宮内省省報

三十日 月曜日 午前、故依仁親王妃周子参内につき、奥内謁見所において御対面になり、先般京都帝国大学卒業の伯爵東伏見邦英へのお仕向けに対するお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、贈賜録

午後、宣仁親王妃喜久子参内につき、奥内謁見所において御対面になり、故徳川実枝子の歌集の献上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

昭和九年五月

五月

二日 水曜日 午後、奥内謁見所において、昨一日フランス語通訳の担当として皇后宮職御用掛を拝命した河合りよう子に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、進退録

四日 金曜日 愛国婦人会第三十三回通常総会に臨御のため、午前十時御出門、憲法記念館に行啓される。便殿において総裁故依仁親王妃周子、名誉会員の雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子・博義王妃朝子・故邦彦王妃倪子・朝融王妃知子女王・稔彦王妃聡子内親王・李王垠妃方子女王・李鍵公妃誠子と御対面になる。ついで会長本野久子・副会長水野満寿子に謁を賜い、会長より書類の奉呈をお受けになる。また、便殿外において本部顧問等の拝謁がある。その後、式場に臨御され、次の令旨を賜う。

愛国婦人会第三十三回総会に臨み親しく各員を見るを喜ぶ

本会は総裁以下一致の努力に頼り年を追うて其の基礎益々固く施設見るべきものあるは深く満足する所なり会員宜しく時世の進運に鑑み自彊精励益々会務の内容を充実し以て婦人報国の会旨を達成せむことを望む

ついで総裁の奉答がある。閉会後、十一時十四分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、行啓録、幸啓録、宮内省省報、官報、愛国婦人会四十年史

五日 土曜日 午後、天皇と共に奥御対面所において雍仁親王と御対面になり、今般滿洲国皇帝即位の祝賀及び皇帝・皇后へ勲章御贈進のため同国へ御差遣の御沙汰拝領につきお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、秩父宮御側日誌、秩父宮

本録之内滿州御差遣録、宮内省省報、官報

故邦彦王妃倪子参内につき、天皇と共に奥御進講所において御対面になる。ついでお一方にて故邦彦王妃及び折柄参内の侯爵久邇邦久を御案内になり、皇太子初節句の人形を披露される。○女官長日記、女

官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

夕刻、天皇及び皇太子・成子内親王・厚子内親王と共に申ノ口において和子内親王は発、熱のため不参加、皇太子初節句御

祝儀として、宮内大臣・侍従長以下の側近男女高等官等と茶菓を共にされる。終了時、側近高等官等

一同に御所人形兜持をそれぞれ下賜される。また賜茶に先立ち、一同に対し、奥御進講所及び皇族御休

所二ノ間に陳列された各種節句人形の拝観を許される。なお皇太子初節句に際し、天皇・皇后より皇

太子に御贈進の品があり、皇后より檜兜・飾弓・飾箆・小幟が、天皇・皇后より神武天皇御神像が贈られる。天皇・皇后と皇太后の間にも御贈答がある。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、呉竹寮日

録、省中日誌

六日 日曜日 午前、元侍女鈴木タカほか五名参内につき、天皇及び皇太子と共に奥内謁見所において謁を賜う。終わって、五月人形・鯉幟の拝観を差し許される。以後五月十一日までの間、皇太子初節句のお祝いに参内の皇族・御親族・元側近奉仕者等に謁を賜い、五月人形等の拝観をお許しになる。

○女官長日記、女官日誌

宣仁親王妃喜久子参内につき、天皇と共に奥御対面所において御対面になる。ついでお揃いにて花蔭亭にお出ましになり、厚子内親王を交えて御昼餐を御会食になる。御食後、皇太子初参亭につき、宣仁親王妃と共に御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

昭和九年五月

昭和九年五月

七日 月曜日 午前、皇太后御参内につき、天皇と共に奥御対面所において御対面になり、皇太子初節句の御祝詞をお受けになる。ついで奥御食堂において御昼餐を御会食になる。御食後、お揃いにて再び奥御対面所にお出ましになり、皇太子と御対面になる。ついで御常御殿御入側にお出ましになり、和子内親王・厚子内親王を交え、内庭における側近奉仕者による余興を御覧になる。終わって、成子内親王参内につき、お揃いにて御対面になる。それより天皇と共に皇太后を奥御進講所等に御案内になり、初節句の人形等を披露される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、呉竹寮日誌、省中日誌、重要雑録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報

八日 火曜日 この日、駐日満洲国公使館より天皇・皇后それぞれに康徳元年時憲書^{同国}の一部が献上される。○外交贈答録

九日 水曜日 午後、天皇及び皇太子と共に奥内謁見所において、公爵西園寺公望に謁を賜い、御機嫌伺いをお受けになる。御前において皇后より賜品がある。また、五月人形等の拝観を西園寺に許される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録

学習院評議协会会员伯爵松浦厚去る七日死去につき、この日、天皇・皇后より祭資を下賜される。なお、同人の病気に際して、天皇・皇后よりお尋ねとして菓子を下賜される。○省中日誌、恩賜録、宮内省省報

十日 木曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、御養蚕始の儀を行われる。臨時皇后宮職御用掛有泉善三、東京高等蚕糸学校長本多岩次郎及び助手三名が奉仕する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、蚕糸年鑑、読売新聞

十一日 金曜日 午前、桐ノ間において、今般来日した豪州連邦副総理大臣J・G・レーサム及び同

夫人・息女、並びに同連邦司法省書記官E・ロングフィールド・ロイド以下の随員三名に謁見を仰せ付けられる。午後、レーサム副総理大臣・同夫人のため、天皇と共に豊明殿において午餐を催される。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、秩父宮御側日誌、謁見録、典式録、宮内省省報、官報

十二日 土曜日 午後、天皇と共に鳳凰ノ間において、この日結婚した恒徳王・同妃光子の参内朝見の儀に臨まれる。式中、御前に参進の王・同妃より謝恩の辞の言上をお受けになり、天皇の勅語に続き、懿旨を賜う。なお、王の結婚に際し、皇后宮使として皇后宮女官長竹屋志計子を竹田宮邸に差し遣わされ、王・同妃にそれぞれお祝品を御贈進になる。また、天皇・皇后より王・同妃及び故恒久王妃昌子内親王、並びに公爵三条公輝にもお祝品を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、皇親録、皇族身分録、重要雑録、慶弔録、宮内省省報、官報

十三日 日曜日 午前、恒徳王・同妃光子参内につき、天皇と共に奥内謁見所において御対面になり、昨日結婚の儀終了につきお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、重要雑録

夜、申ノ口にお出ましになり、この日跡見女学校において開催されたバザーにて御差遣の皇后宮女官を通じてお買上げになった品を御覧になる。○女官長日記、女官日誌

この日、皇太子誕生奉祝のため、貴族院議員関屋貞三郎を通じて全国母の会より書籍『母の友』一部が、青山学院において開催の万国母の日大会より生花^{カーネーション}一籠がそれぞれ献上される。○侍従職日誌、進献録

十四日 月曜日 午後、奥内謁見所において、皇太子と共に一条悦子^{博義王妃朝子の母}に謁を賜う。ついで天皇

昭和九年五月

と共に奥御対面所において故恒久王妃昌子内親王と御対面になり、一昨十二日の恒徳王結婚の儀終了につきお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、重要雑録

十五日 火曜日 午後、奥内謁見所において、今般バタビアへ出発の特命全権大使長岡春一、帰任のシヤム国駐劄特命全権公使矢田部保吉に順次謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、拝謁参拝録、典式録、宮内省省報、官報

十六日 水曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、蚕の様子を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

十九日 土曜日 この日、月曜会バザーへ皇后宮女官伊地知ミキ、同東貞子、皇后宮職御用掛伊達璋子を、共立女子職業学校のバザーへ皇后宮女官長竹屋志計子、皇后宮女官北村民枝、皇后宮職御用掛内山はるをそれぞれ差し遣わされ、お買上げになる。御夕餐後、お買上品を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、木戸幸一日記

二十一日 月曜日 午後一時三十分皇太子と共に御出門、大宮御所に行啓され、皇太后と御対面になる。四時五十二分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、幸啓録、宮内省省報、官報

二十二日 火曜日 夕刻、天皇と共に奥内謁見所において、故恒久王妃昌子内親王・恒徳王妃光子と御対面になる。恒徳王との結婚後、王と共に神宮及び山陵参拝を終え昨二十一日帰京した挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、重要雑録、宮内省省報

二十四日 木曜日 午後、奥内謁見所において、宣仁親王・同妃喜久子と御対面になり、この日広島県呉市から帰京した挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

東京慈恵会総会に御臨席のため、午後二時二十分御出門、東京慈恵会に行啓される。便殿において、総裁故恒久王妃昌子内親王、名誉会員の雍仁親王妃勢津子・故依仁親王妃周子・博恭王妃経子・博義王妃朝子・故邦彦王妃倪子・守正王妃伊都子・朝融王妃知子女王・李王垠妃方子女王と御対面になる。ついで会長徳川家達及び副会長・理事・医院長等に謁を賜う。また、便殿外において商議員・評議員・有功会員・終身会員・医員に謁を賜う。その後、式場に臨御され、会長の報告書奉呈をお受けになった後、会長による看護婦への有功章・優等章の授与を御覧になる。式後、参考室に臨御され、東京慈恵会医科大学教授中村為男・同助教授新井正治の説明にて血管系の「コロジオンスアナトミー」標本を、同教授矢崎芳夫の説明にて紫外線測定器をそれぞれ御覧になる。終わって、便殿において総裁と御対面になり、お礼言上をお受けになる。三時四十四分還啓される。なお、総会開催に当たり、東京慈恵会医院の入院患者にお菓子料を下賜される。

また、この年以降、皇后による病院の巡覧をお取りやめとする昨年決定の原則が施行されることとなり、皇后宮女官津軽理喜子・同北村民枝を差し遣わされ、還啓後、総裁故恒久王妃昌子内親王及び総会に出席の皇族妃と共に病院を巡視させられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、幸啓録、行啓録、宮内省省報、官報、読売新聞

天皇と共に、故恒久王妃昌子内親王及び今般結婚の恒徳王・同妃光子のため、御晩餐を催される。天皇と共に奥内謁見所において、故恒久王妃及び恒徳王・同妃と御対面になり、その際、故恒久王妃よりこの日の東京慈恵会行啓についてのお礼言上をお受けになる。ついで、御学問所において御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、重要雑録

昭和九年五月

二十五日 金曜日 午前、皇后宮職御用掛加藤虎之亮より、この年初めて漢文の進講をお聴きになる。同人作成の「奉賀皇太子降誕」古詩の朗読を、説明と共にお聴きになる。以後、この年は、金曜日を定例として合計十三回にわたり同人より漢文の進講をお聴きになり、『烈女伝』・『論語』・『日本外史』について学ばれる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、加藤虎之亮関係資料

午後、和子内親王・厚子内親王と共に、紅葉山御養蚕所にお出ましになる。お手ずから桑の葉をお与えになり、蚕の発育状況を御覧になる。また、臨時皇后宮職御用掛有泉善三に御下問になる。さらに、戸外飼育及び天蚕の飼育状況も御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

二十八日 月曜日 午前、奥内謁見所において、元権典侍山口正子に謁を賜い、昨年六月退官についてのお札言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

午後、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、お手ずから桑の葉をお与えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

天皇と共に奥御食堂において、今般満洲国へ特使として差遣される雍仁親王のため送別の宴を催され、雍仁親王・同妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子と御晚餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、秩父宮御側日誌、重要雑録、秩父宮殿下御渡満日誌

二十九日 火曜日 午前、皇太后御参内 天長節に御参内予定のところ、宮中御多用のためこの日に延期されるにつき、天皇と共に奥御対面所にお

いて御対面になる。ついで、お揃いにて奥御食堂において、この日に延期された天長節のお祝御膳を御会食になる。御食後、皇太子・和子内親王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、重要雑録、進献録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報

三十日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より、「第六十五議會通過の重要法律」と題する進講をお聴きになる。雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子が陪聴する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

この日、元帥海軍大将東郷平八郎死去につき、弔問のため、皇后宮使として皇后宮事務官大益次郎を同人邸に差し遣わされる。内閣告示により、天皇より同人に特に国葬を賜う旨が発表される。翌三十一日には、天皇・皇后より盛菓子を下賜される。六月四日には、皇后宮使として皇后宮事務官黒田長敬を同人邸に差し遣わされ、祭糝料・榊を賜い、柩前に玉串をお供えになる。六月五日に日比谷公園内葬斎場において行われる国葬には、皇后宮使として皇后宮事務官大益次郎を差し遣わされ、玉串をお供えになる。なお、同人の病気に際しては、昨年十二月二十七日より毎日、天皇・皇后より病氣お尋ねとしてスープを下賜される。五月二十七日には天皇・皇后より果物を下賜される。二十八日には天皇・皇后より盆栽・野菜を下賜される。二十九日の病氣危篤に際しては、天皇・皇后よりお尋ねとして侍医八田善之進を差し遣わされ、また、葡萄酒を下賜される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、重要雜録、恩賜録、侍従武官府歴史、宮内省省報、官報、公文別録

三十一日 木曜日 午前、奥内謁見所において、この日満洲より凱旋の第十師団長陸軍中将広瀬寿助、第十四師団長陸軍中将畑俊六にそれぞれ謁を賜い、両名より満洲における兵の状況につき言上をお聞きになる。終わって、両名に次のお言葉を賜う。

満洲デハ毎時^{イッモ}一方ナラヌ骨折リデ洵ニ御苦勞デアリマシタ本日ハ凱旋デ喜バシク思ヒマス此上更ニ自愛シテ御奉公ヲスルヤウニ

昭和九年六月

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録

午後、故依仁親王妃周子参内につき、奥内謁見所において御対面になる。同妃に紅葉山御養蚕所の拝観を許される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

六月

一日 金曜日 午前、桐ノ間において、今般ベルギー国皇帝アルベール一世の崩御並びにレオポルド三世の即位を報じるため来日した同国特派大使ウイリアム・タイス、ついでダナンス・ド・ムールク以下随員四名に謁見を仰せ付けられる。午後、天皇と共に豊明殿において、特派大使及び同夫人・息女のため午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、外賓参内録、

外賓接待録、典式録、宮内省省報、官報

故邦芳王一年祭につき、皇后宮使として皇后宮事務官永積寅彦を墓所に差し遣わされ、玉串をお供えになる。また、天皇・皇后より靈前に盛菓子^{（註）}を、墓前に榊をお供えになる。○侍従職日誌、省中日誌、皇親

録、典式録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報

二日 土曜日 午後、雍仁親王参内につき、天皇と共に奥御対面所において御対面になり、今般満洲国皇帝即位に当たり特使としてこの日満洲国へ出発につき暇乞いをお受けになる。夕刻、天皇・皇后の御使として皇后宮大夫兼侍従次長広幡忠隆を秩父宮邸に差し遣わされる。親王はこの日東京駅を出発、七日新京において同国皇帝・皇后に天皇の親書並びに勲章^{（註）}を捧呈し、十八日帰

京する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、秩父宮御側日誌、秩父宮殿下御渡満日誌、重

要雜録、外交贈答録、宮内省省報、官報、雍仁親王実紀

三日 日曜日 午後、天皇と共に奥御対面所において、雍仁親王妃勢津子と御対面になり、昨日雍仁親王が満洲国への特使として出発につきお札言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職

日誌、内舍人日誌、秩父宮御側日誌

四日 月曜日 午後、天皇及び和子内親王・厚子内親王と共に紅葉山御養蚕所にお出ましになる。各室を御巡覧になり、お手ずから桑の葉をお与えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

六日 水曜日 天皇及び皇太子・和子内親王・厚子内親王と共に葉山に行啓される。午前九時二十五分天皇及び皇太子と共に御出門、東京駅にて両内親王とも合流され御乗車、逗子駅にて御降車になり、十時五十分葉山御用邸に御到着になる。なお、葉山への行幸啓は三日に予定されていたが、東郷の国葬により、この日に延期された。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中

日誌、呉竹寮日誌、幸啓録、行幸録、侍従武官府歴史、宮内省省報、官報

七日 木曜日 この日満洲国皇帝・皇后より、今般御差遣の雍仁親王を通じて親書並びに勲章の御贈進を受けたことに対し、天皇・皇后に礼電が寄せられる。よって、天皇より答電を發せられる。○省中

日誌、秩父宮殿下御渡満日誌、行幸録、外交贈答録、宮内省省報、官報

八日 金曜日 夕刻、天皇及び皇太子・和子内親王・厚子内親王とお揃いにてお庭にお出ましになり、海岸における葉山町小学生・青年団・在郷軍人等による皇太子の葉山初行啓を奉祝のための旗行列_{葉山町主}を御覧になる。○女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、行幸録

昭和九年六月

九日 土曜日 午前、今般馬公要港部の状況実視のため御差遣の侍従武官小林謙五に謁を賜う。終わつて、皇后宮大夫を通じて同部司令官に対する次の令旨を下される。

要港部司令官以下一同力時局多端ノ際氣候風土異ナル僻遠ノ地ニ在リテ困難ナル警備ノ任務ニ服スルコトハ誠ニ苦勞ニ思フ今ヨリ愈々炎暑ニ嚮フ折柄各自一層身体ヲ大切ニシテ勤務スル様宜シク申伝ヘヨ又傷病者ハ能ク勞ハリ遣ハセ

小林は十四日に出発、台湾・馬公・南支那沿岸を巡視して帰還、八月十日に復命する。○女官長日記、女官日誌、省中日誌、進退録、恩賜録、典式録、侍従武官府歴史、宮内省省報

和子内親王・厚子内親王と共に鯨島にお出ましになり、天皇の海洋生物御採集の間、小エビや小魚をお掬いになる。正午、還御される。○女官日誌、侍従日誌、行幸録

十四日 木曜日 午後二時十五分、天皇及び皇太子・和子内親王・厚子内親王と共に葉山御用邸を御出門、三時五十分宮城に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、省中日誌、幸啓録、行幸録、宮内省省報、官報

十六日 土曜日 午後、宣仁親王妃喜久子参内につき、奥内謁見所において御対面になり、広島県呉市より帰京の挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、宮内省省報

十七日 日曜日 今般泉涌寺靈明殿の屋根葺き替え工事が終了し、この日御歴代御尊像・御尊牌・御尊影の御還座奉告法要挙行につき、天皇より鏡・菓子・色花を、皇后より菓子・果物・色花を下賜される。○女官長日記

十八日 月曜日 夕刻、雍仁親王参内につき、奥内謁見所において御対面になり、満洲国より帰国の

挨拶をお受けになる。なお、親王の秩父宮邸帰還に際し、天皇・皇后は御使として皇后宮大夫兼侍従次長広幡忠隆を差し遣わされる。また親王の宮邸帰還に先立ち、天皇・皇后は御使として侍従黒田長敬を差し遣わされ、同親王に果物等を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、秩父宮御側日誌、秩父宮殿下御渡満日誌、皇親録、重要雜録、宮内省省報、官報

十九日 火曜日 午前、奥内謁見所において光照院門跡の広橋聖瑞に謁を賜い、御機嫌伺いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

午後、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、繭の毛羽取機の使用状況等を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

二十日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より「大佐東郷平八郎の高陞号撃沈」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

御夕食後、天皇と共に申ノ口にお出ましになり、雍仁親王が満洲より持ち帰った献上品を御覧になる。

○女官長日記、女官日誌

二十一日 木曜日 午前、桐ノ間において、今般着任のシヤム国特命全権公使ブラ・ミットラカム・ラクサー及び同夫人に謁見を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、謁見録、典式録、宮内省省報、官報

この月初旬朝鮮総督府管内において暴風雨被害発生につき、天皇・皇后より御救恤として金一封を同総督府に下賜される。○省中日誌、恩賜録、宮内省省報、官報

二十三日 土曜日 夕刻、満洲国より帰国の雍仁親王、並びに同妃勢津子をお招きになり、天皇と共に

昭和九年六月

に奥御食堂において内宴を催される。御会食に先立ち、雍仁親王が満洲より持ち帰った瑪瑙の加工品、及び満洲国國務総理大臣鄭孝胥より献上の写真帳等を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、秩父宮御側日誌、重要雑録

二十五日 月曜日 午前、仲恭天皇七百年式年祭につき、皇后宮女官津輕理喜子に御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、祭祀録、儀式録、宮内省省報

二十六日 火曜日 午前、故成久王妃房子内親王参内につき、天皇と共に奥御対面所において御対面になり、今般永久王と男爵徳川義恕の息女祥子との結婚の内約御聴許につきお札言上をお受けになる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、永久王殿下御結婚の件、皇族身分録

二十七日 水曜日 午前、奥内謁見所において、今般上京参内の稔彦王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌

東京帝国大学教授穂積重遠より「訴訟と調停」と題する進講をお聴きになる。宣仁親王妃喜久子が陪聴する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、穂積家文書

夕刻、天皇と共に奥御対面所において雍仁親王と御対面になり、誕生日祝い去る二十五日誕生日のところ、仲恭天皇七百年式年祭のためこの日に延期として天皇・皇后それぞれより鮮鯛拝領につき、お札言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従

日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、秩父宮御側日誌、贈賜録

二十八日 木曜日 午前、桐ノ間において、今般着任の英国特命全權大使ロバート・ヘンリー・クライブ及び同夫人、随員等二十三名に謁見を仰せ付けられる。終わって、天皇と共に豊明殿においてクライブ大使及び同夫人のため午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中

日誌、秩父宮御側日誌、謁見録、典式録、宮内省省報、官報

二十九日 金曜日 皇太后御誕辰祝日 去る二十五日は仲恭天皇七百年式年祭のためこの日に延期される につき、午前、天皇と共に奥内謁見所

において、側近奉仕高等官総代の侍従長・皇后宮大夫より祝詞言上をお受けになる。また祝賀のため、天皇・皇后の御使として皇后宮大夫を大宮御所に差し遣わされる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、儀式録、典式録、貞明皇后実録正本

七月

二日 月曜日 午前、桐ノ間において、今般着任のポルトガル国特命全権公使トーマス・リベイロ・デ・メロ及び同夫人に謁見を仰せ付けられる。暫時の後、再び同所に出御され、アフガニスタン国特命全権公使ハビブラー・カンの夫人に、公使同伴にて謁見を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、謁見録、典式録、宮内省省報、官報

午後、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、東京高等蚕糸学校長本多岩次郎の案内にて製糸の実況を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、紅葉山御養蚕所八十年記念誌、読売新聞

四日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より「グロチウス夫人マリアの内助」についての進講をお聴きになる。雍仁親王妃勢津子が陪聴する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、穂積家文書
九日 月曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、御養蚕納の儀を行われる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

十三日 金曜日 午前、女子学習院教授宇佐美ケイ 幼稚園主務 参内につき、奥内謁見所において謁を賜い、

昭和九年七月

賜品拝領のお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、呉竹寮日誌、学習院百年史

十四日 土曜日 午前、奥宮殿において、葉山御用邸へ行幸の天皇をお見送りになる。○女官長日記、女

官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、省中日誌、宮内省省報、官報

十五日 日曜日 皇太子と共に那須御用邸に行啓のため、午前八時二十五分御出門、午後零時五十分

同邸に着御される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、呉竹寮日誌、省中日誌、行幸録、幸啓録、宮内省省

報、官報

十六日 月曜日 去る十一日より十三日にわたり石川県・富山県・岐阜県の管内において豪雨被害発生につき、御救恤として天皇・皇后より各県に金一封を下賜される。○侍従職日誌、省中日誌、幸啓録、恩賜

録、重要雜録、宮内省省報、官報

二十日 金曜日 午後、男爵林権助参邸につき、皇太子と共に謁を賜い、今般式部長官より枢密顧問

官に転任につきお礼言上をお受けになり、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、省中日誌、行幸録、宮内省省報

宮城より和子内親王・厚子内親王参邸につき、皇太子と共に御対面になる。○女官長日記、女官日誌、内舍

人日誌、幸啓録、行幸録

二十二日 日曜日 午前、皇太子・和子内親王・厚子内親王と共に内庭にお出ましになり、テニスコ―

トにおいて開催された儀仗衛兵及び供奉側近判任官以下による各種競技を御覧になる。○女官長日記、女

官日誌、行幸録

二十六日 木曜日 この日、遠洋航海を終え横須賀軍港に帰着した練習艦隊に対し、侍従武官小林謙

五を通じ、天皇・皇后より同司令官松下元に清酒を下賜される。○侍従日誌、省中日誌、恩賜録、重要雑録、宮内省省報

二十七日 金曜日 午前、宮内大臣湯浅倉平参邸につき、謁を賜い、御機嫌伺いをお受けになる。○

女官日誌、省中日誌、那須御用邸管理事務所日誌、行幸録

三十日 月曜日 午前、明治天皇例祭につき、皇后宮女官東貞子に御代拝を仰せ付けられる。○女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、儀式録、祭祀録、典式録、宮内省省報

八月

三日 金曜日 ドイツ国大統領パウル・フォン・ヒンデンブルク昨二日死去につき、この日、弔問使として皇后宮職御用掛高木多都雄を同国大使館に差し遣わされる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、慶弔録、宮内省省報、官報

六日 月曜日 午後、葉山御用邸より天皇御到着につき、皇太子・和子内親王・厚子内親王と共にお出迎えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、省中日誌、那須御用邸管理事務所日誌、行幸録、宮内省省報、官報

七日 火曜日 紅葉山御養蚕所生産の繭^黄・生糸^黄を大日本蚕糸会に下賜される。○侍従職日誌、蚕糸年鑑

霊南坂基督教会においてドイツ国大統領故パウル・フォン・ヒンデンブルクの弔祭式挙行につき、天皇の御名代として雍仁親王が、皇后の御名代として同妃勢津子がそれぞれ差し遣わされる。○女官長日記

昭和九年八月

昭和九年八月

記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、秩父宮御側日誌、慶弔録、重要雜録、宮内省省報、官報

八日 水曜日 午前、天皇及び皇太子・厚子内親王と共に屋上展望台にお出ましになり、那須村各小
学校生徒・在郷軍人・青年団員等約二千名による旗行列<sup>聖寿万歳並びに皇太子誕生後初めての
の行幸啓につき奉祝のため行われる</sup>を御覧になり、行列

の一団が御用邸正門前に整列し、万歳奉唱を行う度に御会釈を賜う。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、内
舍人供奉日誌、那須御用邸管理事務所日誌、幸啓録、行幸録、栃木県庁文書

九日 木曜日 午前、内閣総理大臣兼拓務大臣岡田啓介・枢密院議長一木喜徳郎・海軍大臣大角岑
生・外務大臣広田弘毅・陸軍大臣林銑十郎参邸につき、天皇と共に謁を賜う。○女官長日誌、女官日誌、侍

従日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、行幸録

十日 金曜日 午後、天皇と共に澄空亭付近において高山植物を採集される。以後、那須御用邸御滞
在中は折に触れて天皇の植物御調査に同行される。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、那須御用

邸管理事務所日誌、幸啓録、行幸録

七月中旬以来朝鮮総督府・台湾総督府管下において暴風雨被害発生につき、天皇・皇后より御救恤と
して朝鮮総督府・台湾総督府にそれぞれ金一封を下賜される。なお、実情視察及び御救恤金伝達等の
ため、天皇より侍従黒田長敬を朝鮮に御差遣になる。二十五日、黒田より被害状況につきお聞きにな
る。○女官長日誌、省中日誌、恩賜録、重要雜録、行幸録、宮内省省報、官報

十三日 月曜日 昨日落雷のため、那須村在住の岩崎松之助一家五名死傷につき、特に思召しをもつ
てこの日菓子料を遺族に下賜される。○行幸録、栃木県庁文書

十五日 水曜日 午前、通信大臣床次竹二郎・司法大臣小原直・文部大臣松田源治・鉄道大臣内田信

也参邸につき、天皇と共に謁を賜い、御機嫌伺いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、那須御用邸管理事務所日誌、幸啓録、行幸録

十六日 木曜日 午後、稔彦王参邸につき、天皇と共に御対面になり、今般第四師団長として大阪へ赴任につき暇乞いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、那須御用邸管理事務所日誌、幸啓録、行幸録、皇族身分録

皇子御養育掛長藤井種太郎参邸につき、天皇と共に謁を賜い、成子内親王の近況と日課につき言上をお受けになる。なお、成子内親王はこの日葉山より参邸する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、那須御用邸管理事務所日誌、行幸録、藤井種太郎日誌

十七日 金曜日 午後、今般凱旋の元関東憲兵隊司令官陸軍中将田代皖一郎参邸につき、同人による天皇への任務奏上終了後、皇族休所において皇后宮大夫を通じ次のお言葉を賜う。

満洲デハ永々一方ナラヌ骨折リデ御苦勞デアリマシタ、此ノ度ハ凱旋デ御芽出タウ

○行幸録、典式録、田代皖一郎日記

豊島岡墓地において輝仁親王^{明治天皇第五皇子}四十年式年祭が執行されるにつき、皇后宮女官長竹屋志計子に御代拝を仰せ付けられる。また、墓前に柵をお供えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、祭祀録、儀式録、典式録、行幸録、宮内省省報

二十日 月曜日 午前、内務大臣後藤文夫・商工大臣町田忠治・大蔵大臣藤井真信・農林大臣山崎達之輔参邸につき、天皇と共に謁を賜い、御機嫌伺いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、那須御用邸管理事務所日誌、幸啓録、行幸録、栃木県庁文書

昭和九年八月

昭和九年九月

九月

一日 土曜日 関東大震災十一周年記念日につき、午前十一時五十八分より黙禱され、当時を御追想になる。○女官日誌

三日 月曜日 午後、天皇と共にゴルフ場にお出ましになり、ゴルフ大会に参加される。競技の結果、第一等を獲得されるも、第二等の皇后宮職御用掛岡本愛祐^{宮内省参事官}に譲られる。天皇は第七等となられる。

入賞者には御夕餐後、天皇・皇后の御前において賞品が授与される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、呉竹寮日録、那須御用邸管理事務所日誌、幸啓録、行幸録、本庄繁大將日誌

六日 木曜日 午後零時三十分、天皇及び皇太子・成子内親王・和子内親王・厚子内親王と共に那須御用邸を御出門、黒磯駅より御乗車、原宿駅にて御降車になり、四時五十七分宮城に還啓される。

今回より天皇・皇后御同列、皇太子・内親王御同伴にて行幸啓の場合における宮廷列車の御乗降順序が定められる。すなわち、御乗車の際は、御剣、天皇、御璽の順に第一号車の昇降口より乗車され、皇后・皇太子・三内親王は御奉送後、第二号車の昇降口より皇后から順に御乗車になる。また御降車の際は、御乗車の場合に準じ、内親王より順に降車される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内

舍人日誌、内舍人供奉日誌、呉竹寮日録、省中日誌、那須御用邸管理事務所日誌、幸啓録、行幸録、例規録、宮内省省報、官報

七日 金曜日 午前、後堀河天皇七百年式年祭につき、皇后宮女官津軽理喜子に御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、儀式録、祭祀録、典式録、宮内省省報

奥内謁見所において、今般満洲より凱旋の元第三独立守備隊司令官陸軍中将武田秀一、元騎兵集団長陸軍中将宇佐美興屋に謁を賜う。両名より出征中のお礼言上をお受けになり、次のお言葉を賜う。

満洲デハ一方ナラヌ骨折リデ御苦勞デアリマシタ此度ハ凱旋デ御芽出タウ

○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、典式録

九日 日曜日 夕刻、奥御対面所において雍仁親王妃勢津子と御対面になり、この日誕生日に当たり

天皇・皇后から鮮鯛を拝領したことにつきお礼言上をお受けになる。○女官長日誌、女官日誌、侍従職日誌、

内舍人日誌、秩父宮附日誌、贈賜録

十四日 金曜日 皇太后御参内につき、天皇と共に奥御対面所において御対面になり、ついで奥御食

堂において御昼餐を御会食になる。御食後、成子内親王・和子内親王・厚子内親王を交えて奥内謁見所において東郷元帥に関する映画等を御覧になる。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、

呉竹寮日誌、重要雑録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報

十七日 月曜日 午前、桐ノ間において、今般着任のブラジル国特命全権大使カルロス・マルティンス・ペレイラ・エ・ソウザ及び同夫人に謁見を仰せ付けられる。暫時の後、再び桐ノ間において、今般離任帰国のペルシャ国特命全権公使ハッサン・アリ・ハーン・ナマル・ヘダヤット及び同夫人に謁見を仰せ付けられる。○女官長日誌、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、謁見録、典式録、宮内省省報、官報

十八日 火曜日 午後一時御出門、天皇と共に大宮御所に行啓される。皇太后と御対面の後、御茶屋において映画を御覧になる。四時四十分還啓される。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、幸啓録、行幸録、行啓録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報

夕刻、恒憲王・同妃敏子参内につき、天皇と共に奥内謁見所において御対面になり、御機嫌伺い及び欧米各国旅行よりこの日帰国のお礼言上をお受けになる。なお王・同妃の帰国に際し、天皇・皇后の

昭和九年九月

御使として侍従兼皇后宮事務官黒田長敬を賀陽宮邸に差し遣わされる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、

侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、皇親録、重要雑録、宮内省省報、官報

十九日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より「武家社会の婦人救済施設」と題する進講を

お聴きになる。雍仁親王妃勢津子が陪聴する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、穂積家文書

午後、奥御対面所において、故成久王妃房子内親王と御対面になり、佐和子女王^{成久王第二王女}の結婚につき

お聞きになる。○女官長日記、女官日誌

二十日 木曜日 午前、奥内謁見所において、今般イタリア国より帰国の特命全権大使松島肇、同国

へ赴任の特命全権大使杉村陽太郎に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、拝謁

参拝録、典式録、宮内省省報、官報

午後、天皇と共に豊明殿において、前任のブラジル国特命全権大使シルヴィノ・グルジェル・ド・アマラル、今般着任の同国特命全権大使カルロス・マルティンス・ペレイラ・エ・ソウザ及び同夫人のため午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、秩父宮御側日誌、謁見

録、典式録、宮内省省報、官報、雍仁親王実紀

二十一日 金曜日 午前、奥内謁見所において故成久王妃房子内親王と御対面になり、昨日佐和子女

王と子爵東園基文との結婚御内許につきお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

二十四日 月曜日 午前、秋季皇霊祭及び同神殿祭につき、御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従

日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、儀式録、祭祀録、典式録、宮内省省報

二十五日 火曜日 午前、天皇と共に奥御対面所において、朝融王・同妃知子女王と御対面になり、

朝融王より翌日横須賀より航海へ出発につき暇乞いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宮内省省報

二十六日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より「朝鮮所見」と題する進講をお聴きになる。雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子が陪聴する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

今般欧米各国旅行より帰国の恒憲王・同妃敏子のため、天皇と共に御学問所において御晩餐を催される。その際、王・同妃より天皇・皇后にそれぞれ土産品の御贈進がある。なお御晩餐に先立ち、お一方にて奥内謁見所において、今般の旅行に随行した賀陽宮御用掛櫛淵鎭一、同御用取扱松村菊枝に謁を賜い、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、重要雑録、拝謁参拝録、進献録

二十九日 土曜日 今般暴風雨^{室戸台風}により甚大な被害を受けた京都府・大阪府・兵庫県・奈良県・三重県・愛知県・山梨県・滋賀県・岐阜県・長野県・福井県・鳥取県・島根県・岡山県・広島県・和歌山県・徳島県・香川県・愛媛県・高知県の二府十八県に対し、天皇・皇后より御救恤として金一封ずつを下賜される。なお、特に被害が甚大であつた各府県に対して、天皇より侍従の御差遣がある。○省中日誌、恩賜録、重要雑録、宮内省省報、官報

三十日 日曜日 午前、天皇と共にこの日誕生日の和子内親王と御対面になる。ついで天皇及び和子内親王と共に奥内謁見所において、内大臣・宮内大臣・宮内次官、及び総代の侍従長・侍従武官長・侍医頭・皇后宮大夫・皇子御養育掛長より拝賀をお受けになる。その後、御座所御入側において皇后宮女官等より拝賀をお受けになる。正午、奥御食堂において天皇及び皇太子・成子内親王・和子内親

昭和九年十月

王・厚子内親王とお祝御膳を御会食になる。夕刻、天皇及び成子内親王・和子内親王・厚子内親王と共に御学問所において、内宴に臨まれる。御食後、申ノ口において余興を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、呉竹寮日録

午後、天皇と共に奥御対面所において、雍仁親王・同妃勢津子と御対面になる。神武天皇御東遷記念二千六百年祭全国協賛会総裁として親王が同妃と共に宮崎県への旅行に出発するに当たり、親王・同妃より暇乞いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、呉竹寮日録、秩父宮御側日誌、贈賜録、宮内省省報、雍仁親王実紀

十月

四日 木曜日 午前、奥内謁見所において、今般米国へ帰任の特命全権大使斎藤博及び同夫人に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、拝謁参拝録、典式録、宮内省省報、官報

桐ノ間において、米国元ウイリアムス大学総長ハーリー・A・ガーフィールド及び同夫人に謁見を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、謁見録、典式録、例規録、宮内省省報、官報
六日 土曜日 御風気につき、この日より十三日まで断続的に御仮床に就かれる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌

この日、今般の暴風雨^{室戸台風}による罹災者に対し、思召しをもって着物^{木綿袴五百枚}を下賜される。また、災害地学童の学用品・玩具等の資に充てるため、東京連合婦人会に皇后宮女官長の名をもって金一封を下賜される。○侍従職日誌、贈賜録

十日 水曜日 思召しをもつて満洲事変傷痍者に繙帶三百本を下賜される。○侍従職日誌、重要雑録

昨九日フランス国マルセイユにおいてユーゴスラビア国皇帝アレキサンダル一世が暗殺されたため、この日宮中喪が発せられ、十四日までの五日間服喪される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内

舍人日誌、省中日誌、重要雑録、慶弔録、宮内省省報、官報

十四日 日曜日 午前、九州旅行より帰京の雍仁親王・同妃勢津子参内につき、天皇と共に奥御対面所において御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、秩父宮御側日誌、宮内省省報、

雍仁親王実紀

十五日 月曜日 午後、天皇と共に皇子御養育掛長藤井種太郎に謁を賜い、この日女子学習院終業式につき、成子内親王の成績に関する奏上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、藤井種太郎日誌

十六日 火曜日 日本赤十字社第四十二回総会に御臨席のため、午前十時御出門、憲法記念館に行啓される。総裁載仁親王を始め雍仁親王妃勢津子・故邦彦王妃倪子・守正王妃伊都子・稔彦王妃聡子内親王・故恒久王妃昌子内親王・李王垠妃方子女王と御対面になる。ついで内務大臣後藤文夫、陸軍大臣林銑十郎、海軍大臣大角岑生、日本赤十字社社長徳川家達、同副社長徳川圀順・同中川望、篤志看護婦人会副会長小笠原貞子^{伯爵小笠原長幹夫人}・同香坂郁江子ほかに謁を賜う。また、社長より報告書その他の書類の奉呈をお受けになり、同社の現況を聴取される。終わって全国各地より上京の社員、第十五回赤十字国際会議に参列のため来日の各国代表等を收容の式場に臨御され、次の令旨を賜う。

本日茲に日本赤十字社第四十二回総会に臨み本社の事業及び施設愈々整備進展せるを見深く之を喜ふ近く第十五回赤十字国際会議の本邦に開かれむとするあり此を好機とし彼此提携して益々斯

昭和九年十月

業の伸暢を図らむとするは殊に満足する所なり

総裁以下各員よろしく一致協力して時代の要求に応じ広く人道の為に貢献せむことを望む

載仁親王より奉答があり、ついで社長より閉会の宣告がある。十一時十五分還啓される。その後、奥内謁見所において参内の載仁親王と御対面になり、行啓のお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官

日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、幸啓録、行啓録、宮内省省報、官報、事業年報（日本赤十字社）、日本赤十字社史続稿、

梨本伊都子日記、読売新聞

十七日 水曜日 午前、神嘗祭につき、皇后宮女官長竹屋志計子に御代拝を仰せ付けられる。○女官長

日記、女官日誌、省中日誌、儀式録、祭祀録、典式録、宮内省省報

十八日 木曜日 午前、奥内謁見所において、今般フランス国へ帰任の特命全權大使佐藤尚武及び同夫人に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、拝謁参拝録、典式録、宮内省省報、官報

桐ノ間において、今般着任のペルシャ国特命全權公使ミルザ・バゲール・ハーン・アジミ及び同夫人に謁見を仰せ付けられる。暫時の後、再び桐ノ間に出御され、今般来日のフィリピン駐屯米國極東軍司令官陸軍少将フランク・パーカー及び同夫人に謁見を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、謁見録、典式録、宮内省省報、官報

十九日 金曜日 午前、奥内謁見所に日本赤十字社総裁載仁親王を召され、翌日日本赤十字社本社において開催予定の第十五回赤十字国際会議に賜う令旨をお手ずからお渡しになる。令旨は次のとおり。

第十五回赤十字国際会議東京二開カレ茲ニ汎ク参列諸員ニ告クルノ機会ヲ得タルヲ歟フ

赤十字ノ事業ハ各国ノ提携協力ニ頼リ年ト共ニ伸展シ今ヤ更ニ其ノ力ヲ平和事業ニ致セルヲ見ル

其ノ国際ノ親善ト人類ノ博愛トニ貢献スルコト愈々大ナルモノアルヲ信ス本会議亦赤十字ノ趣旨ニ遵ヒ其ノ目的ノ達成ニ寄与セムコトヲ望ム

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、典式録、事業年報（日本赤十字社）、日本赤十字社史続稿

午後、故恒久王妃昌子内親王参内につき、奥内謁見所において御対面になり、過日誕生日に際して天皇・皇后より万那拝受のお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、贈賜録

宣仁親王妃喜久子参内につき、御書斎において御対面になり、この夜広島県呉市へ出発につき暇乞いをお受けになる。皇太子・和子内親王・厚子内親王も同席する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

二十日 土曜日 午後、日本赤十字社総裁載仁親王参内につき、奥内謁見所において謁を賜い、この日第十五回赤十字国際会議開催に際して令旨下賜のお礼言上並びに同会議についての復命を聴取される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、典式録、事業年報（日本赤十字社）、日本赤十字社史続稿、梨本伊都子日記

二十四日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より「内地人口の動きに就て（一）」と題する進講をお聴きになる。雍仁親王妃勢津子が陪聴する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、穂積家文書

奥内謁見所において故依仁親王妃周子と御対面になり、愛国婦人会総裁として昨月よりこの月にかけて朝鮮を旅行したことの挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、宮内省省報、愛国婦人会四十年史

午後、天皇と共に西溜ノ間において、今般第十五回赤十字国際会議に参列の各国政府代表及び赤十字代表等約八十名に謁見を仰せ付けられる。天皇に続き、まず日本国赤十字代表徳川家達日本赤十字社社長にお言葉を賜い、ついで米国政府代表の米国赤十字社社長ジョン・バートン・ペインに御握手とお言葉を賜

昭和九年十月

う。また、その他の代表等に御握手又は御会釈をそれぞれ賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日

誌、内舍人日誌、省中日誌、謁見録、典式録、宮内省省報、官報、事業年報（日本赤十字社）、日本赤十字社史続稿

二十六日 金曜日 午前、奥内謁見所において、参内の禅智院門跡の生源寺暎峰に謁を賜い、御機嫌伺いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌

今般東京において第十五回赤十字国際会議開催に当たり、平時救護事業御奨励の思召しをもって、皇后・皇太后より金一封を日本赤十字社を通して昭憲皇太后基金^{国際赤十字}に下賜される。○省中日誌、恩賜録、

典式録、貞明皇后実録正本、事業年報（日本赤十字社）、日本赤十字社史続稿

二十七日 土曜日 午後、ドイツ国赤十字社長ザクセン・コープルヒ・ゴータ大公^{カール・エドアルド}のため、

天皇と共に豊明殿において午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、

謁見録、典式録、宮内省省報、官報

二十九日 月曜日 東京女子高等師範学校開校六十周年記念式に臨御のため、午前九時御出門、同校に行啓される。便殿において文部大臣松田源治、校長吉岡郷甫、文部政務次官添田敬一郎・文部次官三辺長治を始め文部省職員及び同校教授倉橋惣三等に謁を賜い、校長より書類の奉呈をお受けになる。終わって、式場に臨御され、校長の式辞、記念歌の合唱等につき、次の令旨を賜う。

茲に開校六十年記念式を挙ぐるに方り親しく諸子を見るは満足に勝へず

昭憲皇太后曩に開業の式に臨ませられ当局の計画を佳尚せられ他日其の美果の全国に蕃結せむことを庶幾ひ給へり今や女子教育大に興り此校の成績愈々揚れるは其の淵源する所甚た遠しと謂ふへし学校長を始め職員は夙夜黽勉して事に当り生徒等は皆善く学習を励み常に将来の進展を期し

以て此校の使命を完くせむことを望む

校長の奉答、文相・生徒児童幼児総代・卒業生総代の各祝辞をお受けになり、校歌「金剛石」の合唱をお聴きになる。式終了後、陳列室において、校長の説明にて生徒の成績品その他を御覧になる。ついで体操遊戯御覧所に出御され、運動場における同校及び附属高等女学校生徒による合同体操、全校生徒による行進遊戯等を御覧になる。便殿にお戻りの途次、通路において勤続二十五年以上の学校職員に謁を賜う。終わって、便殿において皇后御縁故の同校卒業生野口幽香・中島さと・土取信・木内成・石坂みちに特別に謁を賜い、正午還啓される。なお、行啓に際しては校長を始め関係者にそれぞれ賜品がある。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、幸啓録、行啓録、宮内省省報、官報、読売新聞午後、奥内謁見所において、今般天機並びに御機嫌伺いのため上京の京都在住華族総代子爵清岡長言に謁を賜う。ついで新任の侍従入江相政に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、恩賜録、進退録、宮内省省報

三十日 火曜日 午前、吳竹寮にお出ましになり、女子学習院教授宇佐美ケイ幼稚園主務に謁を賜う。○女官

長日記、女官日誌、侍従職日誌、吳竹寮日誌、女子学習院五十年史

三十一日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より、去る二十四日に引き続き「内地人口の動きについて(二)」と題する進講をお聴きになる。雍仁親王妃勢津子が陪聴する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

この日、第十五回赤十字国際会議のスペイン国赤十字代表ほかより天皇・皇后に対し、ヴァレンシア地方風俗人形一箇及び書籍二冊が献上される。○外交贈答録

昭和九年十一月

十一月

二日 金曜日 鳩彦王妃故允子内親王一年祭につき、皇后宮使として皇后宮事務官黒田長敬を権舎朝香宮邸

及び墓所豊島岡墓地に差し遣わされ、それぞれ玉串をお供えになる。また天皇・皇后より霊前に盛菓子・榊

を、墓前に榊をそれぞれお供えになる。さらに、特に思召しをもって皇后より故允子内親王の写真に

切り花・果物をお供えになる。なお、内親王の命日は翌三日なるも、同日は明治節に当たするため、爾後十一月二日を命日として祭典を行うこととなる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、皇親録、重要

雑録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報、朝香宮奥日誌

三日 土曜日 午前、天皇と共に御学問所において、大勲位菊花大綬章を佩用の春仁王と御対面になり、この日叙勲のお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、皇族身分

録、典式録、皇族叙勲録、官報、私の自叙伝

明治節につき、天皇と共に御学問所において、内大臣・宮内大臣・宮内次官・式部長官及び側近奉仕男女高等官より拝賀をお受けになる。暫時の後、お揃いにて再び御学問所において、雍仁親王・同妃勢津子を始め皇族・王公族より拝賀をお受けになる。正午、皇后は奥内謁見所において内宴を催され、雍仁親王妃ほか各妃と御会食になる。

午後、崇仁親王参内につき、天皇と共に奥御対面所において御対面になり、拝賀をお受けになる。ついで旧女官の正二位柳原愛子及び千種任子・園祥子・生源寺伊佐雄に謁を賜い、祝詞言上をお受けになる。その後、皇太后御参内につき、天皇と共に奥御対面所において御対面になり、奥御食堂において酒饌を共にされる。それより天皇・皇太后及び成子内親王・和子内親王・厚子内親王と共に御常御

殿南入側において、内庭において開催の側近奉仕男女高等官による運動会を御覧になる。皇太后御退出後、奥御食堂において皇太子を交えてお祝御膳を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、呉竹寮日録、秩父宮御側日誌、省中日誌、典式録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報

五日 月曜日 午前、倉橋惣三東京女子高等師範学校教授より、児童の教育についての進講をお聴きになる。以後、毎

週月曜日に同人より進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、倉橋惣三関係資料

七日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より「軍縮会議の歴史（一）」と題する進講をお聴きになる。雍仁親王妃勢津子が陪聴する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、穂積家文書

午後、今般上京の瑞竜寺門跡村雲御所の九条日淨参内につき、奥内謁見所において謁を賜い、御機嫌伺いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、典式録

御夕餐後、東北地方の冷害実況、朝鮮の水害実況等の活動写真を天皇と共に御覧になる。この日、凶作地である東北地方に対し、御救恤の思召しをもって天皇・皇后より金員を内務大臣に下賜される。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、省中日誌、進献録、恩賜録、重要雑録、宮内省省報、官報

八日 木曜日 天皇と共に新宿御苑において、観菊会を催される。午後二時御出門、天皇と共に新宿御苑に行啓され、皇族以下を従え菊花を御覧になった後、賜謁場において参列の諸員に謁を賜う。また、今般来日のシヤム国元特命全権公使プラー・ウイースト・サーコーンデイト、英国支那艦隊司令長官海軍大将フレデリック・C・ドレイヤー及び同副官海軍中佐F・トアーズ、オランダ国宮内省御用掛男爵ファン・テユイル・ファン・セロースケルクンの息女に謁見を仰せ付けられる。それより御道筋にて諸員に御会釈の後、仮御茶屋に着御され、皇族を始め内外の諸員一同に茶菓を賜う。三

昭和九年十一月

時五十五分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、幸啓録、典式録、観菊会録、謁見録、宮内省省報、官報、新宿御苑日誌

九日 金曜日 午後、宣仁親王・同妃喜久子参内につき、天皇と共に奥内謁見所において御対面になり、この日広島県呉市より帰京の挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、呉竹寮日録、宮内省省報、高松宮日記

十日 土曜日 午後、皇太子・成子内親王・和子内親王・厚子内親王と共に宮殿において、群馬・栃木・埼玉各県行幸へ御出発の天皇をお見送りになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、呉竹寮日録、行幸録、宮内省省報、官報

十二日 月曜日 午前、倉橋惣三東京女子高等師範学校教授より、「性格教育の種々」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、行幸録、倉橋惣三関係資料

奥内謁見所において、この日伊勢・京都旅行へ出発の故成久王妃房子内親王と御対面になり、暇乞いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、行幸録、宮内省省報

午後、奥内謁見所において、この日御用を免じられた乳人野口善子・進藤はなに謁を賜い、それぞれに白縮緬等を下賜される。両名は皇太子にも拝謁する。○女官長日記、女官日誌、進退録、行幸録

十四日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より「軍縮会議の歴史(二)」と題する進講をお聴きになる。雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子が陪聴する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、行幸録、穂積家文書

十六日 金曜日 午前十一時十五分御出門、大宮御所に行啓される。皇太后と御対面になり、洗心亭

において御昼餐を御会食になる。御食後、赤坂離宮御苑を御散策になる。午後四時三十分還啓される。

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、幸啓録、行啓録、行幸録、宮内省省報、官報

十七日 土曜日 午前、奥内謁見所において、恒徳王妃光子と御対面になり、毛利元昭夫人美佐子の^{光子の父}

^{三條公}死去^{去る十月}後の喪明けにつきお札言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、行幸録、宮内

省省報

十八日 日曜日 午後、群馬・栃木・埼玉各県行幸より天皇還御につき、皇太子及び成子内親王・和

子内親王・厚子内親王と共ににお迎えになる。これに先立ち、天皇の上野駅御到着に際しては、皇后

宮事務官黒田長敬を差し遣わされる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、呉竹寮日録、行幸録

十九日 月曜日 午前、奥御進講所において、倉橋惣三^{東京女子高等師範学校教授}より、「強さの問題としての自我」

と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、倉橋惣三関係資料

天皇と共に奥内謁見所において、鳩彦王・孚彦王と御対面になり、鳩彦王妃故允子内親王一年祭の終了及び喪明けについてのお札言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、

宮内省省報、官報、朝香宮奥日誌

御夕餐後、奥御進講所において、群馬県より献上された養蚕関係の各種研究成果及び標本を御覧になる。この日御覧になった研究及び標本は、過日蚕糸試験場行幸時に天覧に供されたもので、後日、紅

葉山御養蚕所に保管される。○女官長日記、女官日誌、行幸録

英国皇帝ジョージ五世の第四皇子ジョージ親王^{十月にケント公の爵を授けられる}とギリシャ国ニコラス親王の皇女マリナが

昭和九年十一月

近く結婚するに当たり、天皇・皇后よりジョージ親王にお祝品として銀製双鶏置物を御贈進になり、この日、ロンドンにおいて同国駐劄特命全權大使松平恒雄より同親王に伝達される。○外交贈答録

二十一日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より、「心学について」と題する進講をお聴きになる。雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子が陪聴する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、

穂積家文書

午後、天皇と共に御学問所三ノ間及び裏廊下にお出ましになり、群馬・栃木・埼玉各県よりの献上品及びお買上品を御覧になる。以降数回にわたり同所において陳列品を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、行幸録

二十二日 木曜日 午後、天皇と共に奥内謁見所において、故成久王妃房子内親王・永久王・佐和子女王と御対面になり、この日佐和子女王と従五位子爵東園基文の結婚の儀の勅許及び納采の儀終了につき、お礼言上をお受けになる。退出の際、三方にそれぞれお祝品をお贈りになる。また、二十四日、

納采終了のお祝いとして、天皇・皇后より北白川宮に三種交魚を御贈進になる。ついで天皇と共に奥内謁見所において、李鐫公と御対面になり、この日妹の李辰琬^{李峻公息女}と尹源善^{尹致昭子息}の結婚の儀勅許につ

き、お礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、重要雑録、宮内省省報、官報

二十五日 日曜日 故別当^{久邇宮付}宮中顧問官高橋其三葬送につき、天皇・皇后・皇太后より祭資を下賜される。これより先、同人の病気に際しては、お尋ねとして天皇・皇后より葡萄酒を下賜される。○省中

日誌、恩賜録、宮内省省報

二十六日 月曜日 午前、倉橋惣三東京女子高等師範学校教授を召され、「真実性さ」についての進講を聴取される。○

女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、倉橋惣三関係資料

午後、天皇と共に奥内謁見所において、参内の永久王と御対面になり、この日陸軍砲工学校卒業につきお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

二十八日 水曜日 午後、奥内謁見所において、今般臨時朝香宮御用取扱を免じられた宮岡慶子に謁を賜う。御前において白縮緬等を同人に賜う。○女官長日記、女官日誌、恩賜録

二十九日 木曜日 英国皇帝第四皇子ジョージ親王トケン結婚につき、天皇・皇后よりジョージ親王に祝電を發せられる。これに対し十二月二日答電が寄せられる。○省中日誌、外交慶弔録、宮内省省報、官報

三十日 金曜日 午後、奥内謁見所において、故成久王妃房子内親王と御対面になり、永久王の陸軍砲工学校卒業のお祝品拝領等につきお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

十二月

二日 日曜日 午前、天皇と共に奥内謁見所において崇仁親王と御対面になり、この日誕生日に当たり万那拝領のお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

三日 月曜日 午前、倉橋惣三東京女子高等師範学校教授より「やさしさ」についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、倉橋惣三関係資料

この日、関東軍関東州内に在る部隊を除くその他の在滿陸海軍部隊の軍人・軍属並びに警察官吏に対し、皇后・皇太后

昭和九年十二月

より真綿一人につき十五匁ずつを下賜される。○恩賜録、重要雑録

五日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より「現代の文章について」と題する進講をお聴きになる。雍仁親王妃勢津子が陪聴する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、穂積家文書

去る十一月二十五日長崎県西彼杵郡松島村松島炭坑において坑内出水のため多数の死者発生につき、

天皇・皇后より御救恤として金一封を同県に下賜される。○省中日誌、恩賜録、重要雑録、宮内省省報、官報

六日 木曜日 午前、奥内謁見所において、今般ドイツ国より帰国の特命全権大使永井松三、ブラジル国より帰国の特命全権大使林久治郎及び同夫人、同国へ出発の特命全権大使沢田節蔵、ポルトガル国より帰国の特命全権公使笠間杲雄に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、拝

謁参拝録、典式録、宮内省省報、官報

午後、壬生篤子

伯爵壬生基義夫人、御父邦彦王の妹

及び同息女種子参内につき、奥内謁見所において謁を賜い、翌々日種子

と副島種義との結婚につき暇乞いをお受けになる。思召しをもつてお祝品を下賜される。○女官日誌、侍

従職日誌、典式録

この日誕生日の成子内親王参内につき、天皇と共に御座所において御対面になり、お礼言上をお受けになる。ついでお揃いにて奥内謁見所において、内大臣・宮内大臣・宮内次官・侍従長・皇后宮大夫・侍医頭・侍従武官長・皇子御養育掛長、皇后宮女官長代理より総代としての拝賀をお受けになる。その後、元皇后宮女官長等より拝賀をお受けになり、さらに御座所において皇后宮女官等より祝詞言上をお受けになる。なお、この日の内宴は八日に延期される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、

呉竹寮日録

去る十一月三十日第四女子^澄を出産した三条西信子に、七夜に当たるこの日、緋紋縮緬・三種交魚代料を下賜される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、贈賜録

七日 金曜日 歳末に際し東京府下の官公私立団体が協力して貧困者救済のために夜間無料診療を実施するに当たり、思召しをもつて東京府に金一封を下賜される。○恩賜録、宮内省省報

八日 土曜日 午後、成子内親王の誕生日のお祝いにつき、天皇と共に奥御食堂において成子内親王及び皇太子・和子内親王・厚子内親王とお祝御膳を御会食になる。成子内親王の帰寮後、天皇及び和子内親王・厚子内親王と共に呉竹寮にお出ましになり、余興等にて過ごされる。夕刻、天皇及び成子内親王と共に宮殿に還御される。^{和子内親王・厚子内親王は続いて帰還}その後、天皇及び成子内親王・和子内親王・厚子内親王と共に御学問所にお出ましになり、成子内親王の誕生日を祝う内宴に臨まれる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、呉竹寮日録

十日 月曜日 午前、倉橋惣三^{東京女子高等師範学校教授}より「やさしさ」についての第二回進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、倉橋惣三関係資料

今般乳人を免じられた竹中敏子に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌
天皇と共に奥内謁見所において、載仁親王と御対面になり、今般天皇・皇后より古希のお祝品拝領につきお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

十一日 火曜日 午前、奥内謁見所において、今般満洲より帰国の元駐滿海軍部司令官海軍中将小林省三郎に謁を賜い、言上をお受けになる。これに対し、お言葉を賜う。引き続き、今般陸軍兵器本廠付に転任の前侍従武官川岸文三郎、後任の侍従武官後藤光蔵に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

昭和九年十二月

誌、内舍人日誌、典式録、侍従武官府資料、公文備考

十二日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より「養子制度について」と題する進講をお聴きになる。雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子が陪聴する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、穂積家文書

夕刻、奥内謁見所において、故成久王妃房子内親王と御対面になり、去る六日に女子^{美和子}を出産した立花美年子^{成久王第一王女}への賜品に対するお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、贈賜録

十三日 木曜日 午前、天皇と共に鳳凰ノ間において、今般従五位子爵東園基文へ帰嫁する佐和子女王の参内朝見の儀に臨まれる。式中、御前に参進の女王より謝恩の辞の言上をお受けになり、天皇の勅語に続き、懿旨を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、皇親録、重要雑録、慶弔録、宮内省省報、官報

十四日 金曜日 天皇・皇后より日本赤十字社病院維持費として金一封を、皇后より日本赤十字社病院救助患者施療費として金一封をそれぞれ下賜される。なお向寒に際し、思召しをもって日本赤十字社病院・恩賜財団済生会病院・東京慈恵会医院の各救助収容患者及び財団法人福田会育児院収容者に対し、木綿反物・裏地・裁縫料をそれぞれ下賜される。○恩賜録、贈賜録、官報、事業年報（日本赤十字社）、日本赤十字社史続稿

十七日 月曜日 午前、倉橋惣三^{東京女子高等師範学校教授}より「ひろさ」と題する心理学の進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

天皇と共に奥内謁見所において、勲二等宝冠章を佩用の佐和子女王と御対面になり、この日叙勲のお

礼言上をお受けになる。夕刻、天皇と共に奥内謁見所において、故成久王妃房子内親王・永久王及び佐和子女王と御対面になる。ついで御学問所において佐和子女王送別の御晩餐を催される。女王に対し、天皇・皇后よりお祝品を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、皇族叙勲録、重要雑録

奥内謁見所において、今般滿洲へ赴任の関東軍司令官兼特命全權大使関東長官陸軍大将南次郎に謁を賜い、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、典式録、重要雑録

今般東北地方凶作地の乳児一万六千名に対し、この日白ネル着物白木綿
襦袢付一組ずつを下賜される。○省中日

誌、贈賜録、恩賜録、宮内省省報

十九日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より、この年最後の進講として「第六十六議会の経過」と題する進講をお聴きになる。雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子が陪聴する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、穂積家文書

午後、正二位柳原愛子参内につき、天皇と共に奥内謁見所において謁を賜い、歳末のお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌

二十日 木曜日 この日、公族李辰琬李埈公
の息女が尹源善と結婚する。よって天皇・皇后・皇太后よりお祝いとして李辰琬に紅白縮緬を、李錫公李埈公
の嗣子に酒・鮮鯛を下賜される。なお去る六日にも、天皇・皇后

より、また皇后よりそれぞれお祝いの品を李辰琬に下賜される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、皇親録、宮内省省報、官報

昭和九年十二月

二十一日 金曜日 午前、奥内謁見所において稔彦王妃聡子内親王と御対面になり、先般盛厚王の病気に際してのお仕向けのお礼言上、並びに大阪より帰京の挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

侍従職日誌

二十二日 土曜日 午後一時三十分御出門、大宮御所に行啓される。皇太后と御対面になり、歳末の御祝詞を伝えられる。四時十六分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、行啓

録、幸啓録、宮内省省報、官報

二十三日 日曜日 皇太子初誕辰につき、午前、天皇と共に御学問所において、内大臣・宮内大臣・宮内次官及び側近奉仕男女高等官、元皇后宮女官等の拝賀をお受けになる。ついで奥内謁見所において、雍仁親王・同妃勢津子始め皇族・王公族の拝賀をお受けになる。また、崇仁親王より祝詞言上をお受けになる。その後、お一方にて再び奥内謁見所において、皇太后御使の権典侍清水谷英子より祝詞言上をお受けになる。これに対し、天皇・皇后より皇后宮女官津軽理喜子を大宮御所に差し遣わされ、祝詞を皇太后にお伝えになる。さらに、宮内省御用掛の磐瀬雄一・栗山重信、広幡文子に謁を賜い、祝詞言上をお受けになる。

正午、天皇及び成子内親王・和子内親王・厚子内親王と共に奥御食堂において、お祝御膳の御昼餐を御会食になる。午後、天皇及び三内親王と共に申ノ口において、表奥側近奉仕者等による余興を御覧になる。その後、お揃いにて御学問所において、内宴を催される。なお、皇太子のお出ましは都合により取りやめとなる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、呉竹寮日録、秩父宮御側日誌、皇親録、貞明皇后

実録正本

二十四日 月曜日 多摩陵に御参拝のため、午前十時二十五分御出門、原宿駅より御乗車、東浅川駅にて御降車になり、陵所御休所に着御される。それより陵前に進まれ、御拝礼になる。御休所において御昼餐後、諸陵頭渡部信、陵墓監古河末虎、内務大臣後藤文夫、東京府知事香坂昌康以下に謁を賜う。午後二時十八分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、行啓録、幸啓録、宮内省省報、官報

二十五日 火曜日 午前、大正天皇祭皇靈殿の儀につき、御拝礼になる。夕刻、同御神楽の儀につき、皇靈殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、儀式録、祭祀録、宮内省省報

二十六日 水曜日 午後、奥内謁見所において、この日誕生日を迎えた宣仁親王妃喜久子と御対面になり、万那拝領のお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

奥内謁見所において、今般ソビエト連邦より賜暇帰国の特命全権大使大田為吉及び同夫人に謁を賜う。

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、拝謁参拝録、典式録、宮内省省報、官報

二十七日 木曜日 午前、鍋島紀久子^{鳩彦王第一王女}参内につき、謁を賜い、歳末の御機嫌伺いをお受けになる。午後、天皇と共に奥御対面所において、歳末につき参内の旧女官千種任子・園祥子・生源寺伊佐雄に謁を賜う。その後、同所において元皇后宮女官長島津治子、元皇后宮女官の山岡淑子・油小路蒙子に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

二十八日 金曜日 夜、御静養室において、御風気により御仮床にある天皇を看病される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、重要雑録

昭和九年十二月

二十九日 土曜日 御風気の天皇を御看病のため、皇族・王公族、並びに内大臣・宮内大臣以下の歳末祝詞言上へのお出ましはお取りやめになる。なお、皇后宮大夫広幡忠隆を大宮御所に差し遣わされ、天皇の御風気を皇太后にお伝えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、典式録、重要雑録

三十日 日曜日 午後、皇太后御使として典侍竹屋津根子参内につき、奥内謁見所において謁を賜い、天皇の御風気につき御機嫌伺いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、重要雑録

三十一日 月曜日 午前、崇仁親王参内につき、奥内謁見所において御対面になり、天皇の御容体伺い、及び歳末の祝詞言上をお受けになる。ついで参内の宣仁親王・同妃、朝融王・同妃知子女王と御対面になり、天皇の御容体伺いをお受けになる。なお、皇后宮女官津軽理喜子を大宮御所に差し遣わされ、本年中のお礼及び歳末の祝詞を皇太后にお伝えになる。

午後、雍仁親王・同妃勢津子参内につき、奥内謁見所において御対面になり、天皇の御容体伺い、及び歳末の祝詞等の言上をお受けになる。また、皇太后御使として権典侍清水谷英子参内につき、奥内謁見所において謁を賜い、歳末につき本年中のお礼等の言上をお受けになる。さらに参内の故成久王妃房子内親王と御対面になり、歳末の御機嫌伺いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職

日誌、内舍人日誌、秩父宮附日記、重要雑録、高松宮日記

昭和十年（西暦一九三五年） 三十二歳

一月

一日 火曜日 天皇の御風気のため、新年の拝賀等はお取りやめとなる。午前、奥内謁見所において、参内の雍仁親王・同妃勢津子始め皇族・王公族二十九方と御対面になる。ついで奥御進講所において皇子御養育掛長藤井種太郎に謁を賜う。なお、内大臣始め側近奉仕者の各総代その他よりの祝詞は皇后宮女官長を通じて皇后に言上される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、呉竹寮日誌、省中日誌、儀式録、重要雑録、宮内省省報、官報

三日 木曜日 午前、元始祭につき、皇后宮女官津軽理喜子に御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、儀式録、祭祀録、重要雑録、宮内省省報

奥内謁見所において、邦寿王始め未成年皇族の拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、重要雑録

この日、皇后のお年日につき、天皇より川合玉堂筆の兎の絵が贈られる。○女官長日記、女官日誌

六日 日曜日 午前、奥内謁見所において、故成久王妃房子内親王及び翌七日に結婚する佐和子女王成久王第二王女と御対面になり、佐和子女王より暇乞いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、重要雑録

奥内謁見所において、元久邇宮家奉仕者の滝野繁尾・田中俊子に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌

昭和十年一月

奥内謁見所において、皇太后より御使始として差遣された権典侍清水谷英子に謁を賜う。午後、この日の天皇御床払いの御報告を兼ねて、御使始として皇后宮女官津軽理喜子を大宮御所に差し遣わされる。以後、この年も折に触れ、参内した皇太后御使に謁を賜い、また天皇・皇后あるいは皇后から皇太后の許に御使を差し遣わされる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、重要雑録

七日 月曜日 午前、皇后宮職嘱託松井定克をお召しになり、謡初めを行われる。以後、この年も随時、同人より謡曲の指導をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

奥内謁見所において、この日凱旋の元関東軍司令官菱刈隆・元関東軍参謀副長岡村寧次に謁を賜う。菱刈・岡村には、それぞれお言葉がある。菱刈へのお言葉は次のとおり。

満洲デハ永々御苦勞デアリマシタ重要ナ任務ヲ終ヘテ芽出度凱旋シタノハ本当ニ喜バシク思ヒマ
スドウカ更ニ自愛シテ御奉公ヲスルヤウ

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、侍従武官府歴史

奥御対面所において天皇と共に、参内の宣仁親王・同妃喜久子と御対面になり、天皇御床払いのお悦び並びに寒中御機嫌奉伺をお受けになる。以後、この年も随時、皇族・王公族・御親族と御対面・御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌、高松宮日記

午後、奥御対面所において、元皇后宮女官長島津治子・元皇后宮女官山岡淑子・同油小路蒙子に謁を賜う。以後、この年も随時、元奉仕者の拝謁等がある。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

奥内謁見所において故成久王妃房子内親王及び永久王^{成久王第一王子}と御対面になり、この日佐和子女王と子爵東園基文結婚につき、お礼言上をお受けになる。天皇・皇后・皇太后よりお祝いとして、女王に紅

白縮緬を、永久王に酒・鮮鯛を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、重要雑録、皇親録、皇族身分録、宮内省省報、官報

八日 火曜日 正午、葉山より帰京の成子内親王参内につき、天皇と共に御対面になり、新年の祝詞言上をお受けになり、和子内親王・厚子内親王を交えて御昼餐を御会食になる。以後、この年も随時、皇太子始め皇子女と御対面・御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、呉竹寮日誌、呉竹寮日録

九日 水曜日 天皇及び皇太子・和子内親王・厚子内親王と共に葉山御用邸に行啓のため、午前十時三十分御出門、正午御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、侍従武官日誌、省中日誌、幸啓録、行幸録、侍従武官府歴史、宮内省省報、官報

十一日 金曜日 英照皇太后並びに多喜子内親王の祥月命日につき、午前、お出ましを控えられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌

十二日 土曜日 午後、和子内親王・厚子内親王と共に葉山丸に御乗船になり、森戸方面より鎌倉沖を一周される。○女官日誌、侍従武官日誌、幸啓録

午後、天皇及び皇太子・和子内親王・厚子内親王と共に、この日参邸の成子内親王と御対面になる。ついでお揃いにて海岸にお出ましになる。なお、成子内親王は葉山に一泊し、翌日午後呉竹寮に帰寮する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、侍従武官日誌、呉竹寮日誌、呉竹寮日録、幸啓録

十六日 水曜日 午前、崇仁親王の御使として参邸の澄宮御養育掛長田内三吉に、天皇と共に謁を賜

昭和十年一月

う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、侍従武官日誌、幸啓録

去る昭和八年一月二十七日、満洲国小梨子溝において匪賊討伐の際に凍傷により両手指を損傷した陸軍歩兵上等兵佐藤稔^{歩兵第二十三聯隊機関銃隊所屬}に、この日、義肢を下賜される。なお、この年は合計十三回にわたり、傷痍軍人に義眼又は義肢の下賜がある。○贈賜録

十七日 木曜日 午前、練習艦隊にて横須賀入港の博英王・正彦王参邸につき、天皇と共に御対面になり、海軍兵学校卒業及び内地航海実習終了のお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人供奉日誌、侍従武官日誌、幸啓録、贈賜録

十八日 金曜日 午後、今般結婚の子爵東園基文・同夫人佐和子参邸につき謁を賜い、お礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従武官日誌、幸啓録、重要雜録

二十日 日曜日 午後、今般愛媛県総務部長に転任の前皇宮警察部長白井演及び新任の皇宮警察部長内藤三郎参邸につき、天皇と共に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人供奉日誌、侍従武官日誌、省中日誌、幸啓録、進退録、宮内省省報、官報

二十一日 月曜日 午前十時三十分天皇と共に葉山御用邸を御出門、十一時五十六分宮城に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、侍従武官日誌、省中日誌、幸啓録、行幸録、宮内省省報、官報

二十二日 火曜日 正彦王成年式につき、午前十一時、天皇と共に鳳凰ノ間において、参内朝見の儀に臨まれる。御前に参進の王より謝恩の辞の言上をお受けになり、天皇の勅語に続き懿旨を賜う。正彦王は昨年一月四日成年に達し、この日、賢所大前において成年式を行う。午後、天皇と共に奥内謁

見所において、正彦王と御対面になり、お礼言上をお受けになる。天皇・皇后より正彦王に酒・鮮鯛及びお品を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、儀式録、皇親録、皇族身分録、侍従武官府歴史、宮内省省報、官報

葉山より交代帰京の皇子御養育掛小倉満子に謁を賜い、皇太子及び内親王方の動静についてお聞きになる。以後、この年も随時、関係者に謁を賜い、皇子女の動静についてお聞きになる。○女官長日記、女

官日誌

二十三日 水曜日 午前、奥内謁見所において、今般関東軍へ御差遣の侍従武官中島鉄蔵に謁を賜い、令旨を下される。中島は、この日東京出発、二月二十八日帰京し、三月三十日に復命する。○女官長日

記、女官日誌、侍従職日誌、侍従武官日誌、省中日誌、進退録、侍従武官府歴史、宮内省省報、官報

午後、奥内謁見所において天皇と共に、新任の別当^{久邇}宮付宇川済に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日

誌、侍従職日誌、侍従武官日誌、省中日誌、進退録、宮内省省報、官報

奥内謁見所において天皇と共に、参内の鳩彦王と御対面になり、昨日の正彦王成年式につきお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌

二十四日 木曜日 午前十時、天皇と共に鳳凰ノ間において、歌会始の儀に臨まれる。この年のお題は「池辺鶴」であり、皇后の御歌は次のとおり。

皇后宮御歌

たつの声宮の内まできこえきぬ御いけのきしにまたつとふらむ

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、儀式録、儀式祭典録、御歌録、侍従武官

昭和十年一月

府歴史、宮内省省報、官報、あけぼの集

二十五日 金曜日 今般ジャワにおける日本蘭領東印度間通商問題商議に帝国代表委員として参列した特命全権大使長岡春一帰国につき、午後、奥内謁見所において謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、拝謁参拝録、宮内省省報、官報

二十六日 土曜日 午後、天皇と共に呉竹寮にお出ましになり、成子内親王の綴り方を御覧になる。

以後、この年は、天皇と共に、あるいはお一方にて、しばしば呉竹寮にお出ましになり、成子内親王と御対面、また成子内親王・和子内親王・厚子内親王の遊びの様子などを御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、呉竹寮日誌、呉竹寮日録

二十七日 日曜日 邦彦王^{御父}の祥月命日につき、お慎みになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、侍従武官日誌

二十八日 月曜日 午前十時、天皇と共に鳳凰ノ間において、講書始の儀に臨まれる。国書は京都帝国大学教授新村出より「和名類聚抄」を、漢書は東京帝国大学教授宇野哲人より「論語為政篇 為政以德章」を、洋書は東京帝国大学名誉教授姉崎正治より「十七条憲法の外国語訳文に就て 特に法の意義に就て」の進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、儀式録、儀式祭典録、侍従武官府歴史、宮内省省報、官報

二十九日 火曜日 午後、奥内謁見所において恒徳王妃光子と御対面になり、毛利美佐子^{光子の伯母}の死去に伴う喪明けにつきお礼言上並びに寒中御機嫌奉伺をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職

日誌、宮内省省報

三十日 水曜日 午前、孝明天皇例祭につき、皇靈殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍

従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、儀式録、祭祀録、宮内省省報

三十一日 木曜日 午後、奥内謁見所において、故成久王妃房子内親王と御対面になり、過日の誕生日の賜物についてのお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

二月

一日 金曜日 午前、皇后宮職御用掛加藤虎之亮より漢文の進講として『日本外史』についてお聴きになる。以後、この年は、概ね金曜日に同人より十七回にわたり進講をお聴きになり、主に『日本外史』『論語』について学ばれる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、加藤虎之亮関係資料

元東宮職嘱託高取稚成死去につき、この日盛菓子を下賜される。同人は皇后の入内前より絵画の講師として奉仕する。○侍従職日誌、贈賜録

四日 月曜日 午前、東京女子高等師範学校教授倉橋惣三より「生活指導ノ実際」と題する進講をお聴きになる。以後、この年は、概ね月曜日に同人より十一回にわたり進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、倉橋惣三関係資料

五日 火曜日 午後一時三十五分御出門、大宮御所に行啓され、皇太后と御対面になる。四時三十分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、侍従武官日誌、省中日誌、幸啓録、宮内省省報、官報

六日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より「ザールの人民投票について」と題する進講を

昭和十年二月

お聴きになる。宣仁親王妃喜久子が陪聴する。以後、この年は、概ね水曜日に同人より十五回にわたり進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、穂積家文書

七日 木曜日 午前、桐ノ間においてスイス国特命全権公使バルダー・ツルンヘル及び同夫人に謁見を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、謁見録、宮内省省報、官報

八日 金曜日 午後、天皇と共に奥内謁見所において、朝融王妃知子女王と御対面になり、この日の勲一等宝冠章拝受についてのお礼言上をお受けになる。皇后より女王に三種交魚を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、皇族身分録、皇族叙勲録、官報

十一日 月曜日 午前、紀元節祭につき、賢所・皇靈殿・神殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、儀式録、祭祀録、宮内省省報

十二日 火曜日 午前、桐ノ間において、今般離任帰国のメキシコ国特命全権公使ミグエル・アロンソ・ロメロ及び同夫人、息女に謁見を仰せ付けられる。午後二時より、御座所において、ラジオ放送にてメキシコ国公使夫人の「日本を去るに臨みて」、同息女の「娘時代を過したお国の皆様へ」をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、謁見録、宮内省省報、官報、読売新聞

この日、大聖寺・宝鏡寺・曇華院・光照院・円照寺・林丘寺・靈鑑寺・中宮寺・瑞竜寺・三時知恩寺・禅智院・水薬師寺・長福寺・善光寺に乾海苔を賜う。○贈賜録

十三日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より「論語に現れたる法律思想」と題する進講をお聴きになる。雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子が陪聴する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、穂積家文書

人日誌、穂積家文書

皇太后御参内につき、天皇と共に奥御対面所において御対面になり、午餐を御会食になる。御食後、参内の成子内親王も交えて御団欒になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、吳竹寮日誌、幸啓録、重要雜録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報

十四日 木曜日 午前、奥内謁見所において天皇と共に、今般練習艦隊にて遠洋航海に出発の朝融王御兄・博英王・正彦王と御対面になり、暇乞いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、皇親録、贈賜録、宮内省省報、官報

十五日 金曜日 午前、奥内謁見所において侯爵久邇邦久^{御兄}に謁を賜い、今般陸軍大学校の聴講終了に際してのお仕向けにつきお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

昨年末、東北地方凶作地の児童に白ネル着物^{白木綿襦袢付}を下賜のところ、福島県下において不足が生じたため、同県下凶作農家の児童に対し、これを下賜される。○侍従職日誌、贈賜録、恩賜録

十六日 土曜日 佐野礼子^{恒久王第一王女} 去る十日男子を出産し、七夜に当たるこの日、常行^{つねゆき}と命名される。

命名当日に際し、故恒久王妃昌子内親王に三種交魚を御贈進になり、佐野礼子に白羽二重・万那料を下賜される。翌十七日午前、奥内謁見所において天皇と共に、参内の昌子内親王と御対面になり、賜物拝領につき、お礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、贈賜録

二十日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より「英国法曹祈祷式について」と題する進講をお聴きになる。雍仁親王妃勢津子が陪聴する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

夕刻、奥内謁見所において天皇と共に、参内の雍仁親王と御対面になり、この日陸軍運輸部・海軍工

昭和十年三月

廠視察のため広島県へ出張につき暇乞いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎

人日誌、侍従武官日誌、秩父宮御側日誌、宮内省省報、雍仁親王実紀

この日遠洋航海へ朝融王出發につき、皇后宮事務官黒田長敬を久邇宮邸に差し遣わされる。○女官長日

記、女官日誌、侍従職日誌、重要雑録

二十三日 土曜日 午後、天皇と共に奥内謁見所において、参内の鳩彦王と御対面になり、今般遠洋

航海へ出發の正彦王に対する賜物のお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、

内舎人日誌、侍従武官日誌

二十五日 月曜日 午前、東京女子高等師範学校教授倉橋惣三より生活性の教育についての進講をお

聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、倉橋惣三関係資料

午後、出産後初参内の三条西信子御妹と御対面になり、反物等を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

二十七日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より「明治天皇と立憲政治」と題する進講をお

聴きになる。雍仁親王妃勢津子が陪聴する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

三月

三日 日曜日 成子内親王・和子内親王・厚子内親王の節句につき、午前、湛子女王鳩彦王第二王女・多恵子

女王成久王第三王女・美智子女王恒憲王第一王女・正子女王朝融王第一王女・朝子女王朝融王第二王女、並びに三条西信子・同子女淑子を

お召しになり、成子内親王・和子内親王・厚子内親王と共に奥宮殿において御対面になる。ついで一

同と御昼餐を御会食になる。午後、参内の三条西実謙^{信子}・同実栄^{信子}・同洋子^{信子}に謁を賜う。○女官長

日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、吳竹寮日誌、吳竹寮日録

四日 月曜日 午前二時三十分、侯爵久邇邦久病氣危篤の報をお聞きになり、直ちに皇后より御使として皇后宮事務官永積寅彦を同人邸に差し遣わされる。また皇后より侍医高橋信を差し遣わされ、天皇・皇后よりお見舞いとして葡萄酒を下賜される。その後、邦久死去の旨をお聞きになる。皇后は、

九十日^{第一期二十日、第二期七十日} 服喪される。午後、お見舞いとして敷布団・搔卷を下賜され、弔問のため、皇后宮

使として皇后宮事務官小出英経^{侍従}を同人邸に差し遣わされる。さらに、この日の通夜に皇后宮女官津

軽理喜子を差し遣わされる。翌五日には、皇后より靈前に野菜・棹物をお供えになり、通夜のため皇

后宮女官長竹屋志計子・皇后宮女官万里小路ソデを同人邸に差し遣わされる。六日午後には、皇后宮

女官東貞子・同伊達璋子・皇子御養育掛小倉満子を同人邸に差し遣わされ、靈前に果物をお供えにな

る。七日には、皇后宮使として皇后宮事務官大金益次郎^{侍従}を同人邸に差し遣わされ、幣帛を下賜され

る。また、天皇・皇后・皇太后より祭資・櫛を下賜される。さらに、この日の通夜に皇后宮女官伊地

知ミキ・同内山はるを差し遣わされ、靈前に菓子をお供えになる。八日の通夜には、皇后宮女官北村

民枝・皇子御養育掛大迫セイを差し遣わされる。九日に同人邸^{葬祭場}において行われる葬儀には、皇后宮

使として皇后宮事務官黒田長敬を差し遣わされ、玉串をお供えになる。また出棺に際し、お見送りの

ため皇后宮女官津軽理喜子を差し遣わされ、靈前に果物をお供えになる。

久邇邦久は、明治三十五年邦彦王第二王子として誕生、天皇^{裕仁親王}の学習院初等学科御在学中に同じ組に

昭和十年三月

て学んだ後、大正十二年華族に列して侯爵を授けられ、久邇の家名を下賜される。享年三十四。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、重要雑録、皇親録、恩賜録、例規録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報、侯爵久邇邦久伝

六日 水曜日 満三十二歳のお誕生日を迎えられる。御服喪中のため、拝賀・内宴等はお取りやめとなる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、省中日誌

十三日 水曜日 故侯爵久邇邦久十日祭につき、皇后宮女官津軽理喜子を靈舎久邇侯爵邸及び墓所護国寺に差し遣わされる。なお、靈舎に菓子・盛花をお供えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、重要雑録

十八日 月曜日 午後、奥御進講所において天皇と共に、皇子御養育掛長藤井種太郎に謁を賜い、成子内親王の成績につき言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、吳竹寮日誌、藤井種太郎日誌

二十日 水曜日 午前、この日沼津にお成りの成子内親王参内につき、天皇及び和子内親王・厚子内親王と共に御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、吳竹寮日誌

寮日誌

二十三日 土曜日 故侯爵久邇邦久二十日祭につき、皇后宮女官東貞子を靈舎久邇侯爵邸及び墓所護国寺に差し遣わされる。なお、靈舎に果物を、墓所に菓子をお供えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、重要雑録

二十五日 月曜日 夕刻、奥内謁見所において、参内の故成久王妃房子内親王と御対面になり、昨日皇后御喪明け第一の御機嫌奉伺、並びに菓子拝領のお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従

職日誌

二十六日 火曜日 正午前、奥内謁見所において、前任の侍従武官町尻量基並びに新任の侍従武官酒井康に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、贈賜録、侍従武官府資料、侍従武官府歴史、官報

二十七日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より、前回に引き続き「明治天皇と立憲政治」と題する進講をお聴きになる。雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子が陪聴する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、穂積家文書

午後、沼津より帰京の成子内親王参内につき、天皇及び皇太子・和子内親王・厚子内親王と共に御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、呉竹寮日誌、呉竹寮日録

昨日永久王と男爵徳川義恕の息女祥子との結婚勅許につき、この日天皇・皇后より万那料等を永久王に下賜される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、重要雑録、皇族身分録、永久王殿下御結婚の件、宮内省省報、官報

二十八日 木曜日 午前、女子学習院において卒業式挙行につき、守正王妃伊都子を差し遣わされる。

後刻、参内の同妃と奥内謁見所において御対面になり、復命をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍

従職日誌、省中日誌、皇親録、宮内省省報、官報

午後、天皇及び成子内親王・和子内親王・厚子内親王と共に花蔭亭にお出ましになり、同亭前庭において三内親王がメリーゴーラウンドにて遊ぶ様子を御覧になる。このメリーゴーラウンドは、先般皇太子誕生日奉祝のため、学習院職員・学生一同より目録をもつて献上されたもので、最近現品が到来し、この日、組み立てが完了したことから、三内親王により初めて使用された。以後、しばしば内親

昭和十年四月

王方がメリーゴーラウンドにて遊ぶ様子を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人

日誌、侍従武官日誌、進献録、呉竹寮日録

この日、御服喪中のため、満洲より凱旋参内の第七師団長杉原美代太郎の賜謁はなく、皇后宮事務官を通じてお言葉のみ御伝達になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

二十九日 金曜日 午前、この日沼津にお成りの成子内親王参内につき、御対面になる。○女官長日記、

女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、呉竹寮日誌、呉竹寮日録

四月

二日 火曜日 午前、天皇と共に奥内謁見所において、宮内省御用掛工藤壮平より、近日御来日の満洲国皇帝のため、御泊所赤坂離宮に陳列予定の絵画及び古文書等に関する説明をお受けになる。○女官

長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、外賓接待録、入江相政日記

故侯爵久邇邦久三十日祭につき、午前、皇后宮女官万里小路ソデを^{久邇侯}霊舎^{護国}及び墓所^寺に差し遣わさ

れる。なお、霊舎に果物・野菜を、墓所に色花・盛菓子をお供えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日

誌、重要雑録

四日 木曜日 午前、奥内謁見所において、参内の故邦彦王妃^{御母}侃子と御対面になり、侯爵久邇邦久

死去後の忌明けにつきお礼言上をお受けになる。なおこの日、故久邇邦久の初月命日につき、皇后宮

女官内山はるを^{久邇侯}霊舎^{護国}及び墓所^寺に差し遣わされる。また、霊舎に蓬団子を、墓所に果物をお供え

になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、重要雑録

午後、奥内謁見所において式部長官松平慶民より満洲国皇帝御参内次第の説明をお聞きになる。○女官

長日記、女官日誌、侍従職日誌

五日 金曜日 午前、奥内謁見所において、今般第三艦隊・旅順要港部・駐満海軍部へ御差遣の侍従武官小林謙五に謁を賜い、令旨を下される。小林は七日東京を出発、五月二十日帰京し、六月四日に復命する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、侍従武官日誌、省中日誌、進退録、侍従武官府歴史、宮内省省報、官報

六日 土曜日 満洲国皇帝溥儀の御着京及び宮城御参内につき、除喪される。午前、御座所において皇帝の横浜御上陸、及び東京駅御到着の模様を伝えるラジオ放送をお聞きになる。

午後、満洲国皇帝御参内につき、鳳凰ノ間において天皇と共に御会見になる。その際、儀礼叙勲があり、皇后には大勲位蘭花大綬章が贈呈される。夕刻、天皇と共に豊明殿において、満洲国皇帝のための宮中晩餐に臨まれる。御食後、お揃いにて正殿に出御され、舞樂を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、秩父宮附日誌、秩父宮御側日誌、重要雑録、外賓参内録、外賓

接待録、侍従武官府歴史、宮内省省報、官報

九日 火曜日 午前、満洲国皇帝のため代々木練兵場において挙行の陸軍観兵式のラジオ中継放送をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、宮内省省報、官報、読売新聞

十日 水曜日 午前、奥内謁見所において、先般支那駐屯軍への御差遣から帰還の侍従武官石田保秀より復命をお受けになる。石田は去る三月九日、皇后宮大夫を通じて令旨を拝受し、十日出発、北支那の状況を実視し、同月三十日帰京した。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、侍従武官日誌、省中日誌、

昭和十年四月

進退録、侍従武官府歴史、宮内省省報、官報

十一日 木曜日 この日、皇后宮大夫を通じて、今般滿洲より凱旋の元第三師団長陸軍中将若山善太郎に対し、お言葉を下賜される。○侍従職日誌、内舍人日誌

十二日 金曜日 故侯爵久邇邦久四十日祭につき、皇后宮女官東貞子を靈舍久邇侯爵邸及び墓所護国寺に差し遣

わされる。なお、靈舍に菓子を、墓所に果物をお供えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、重要雑録

十四日 日曜日 翌十五日滿洲国皇帝溥儀御退京につき、午後、天皇と共に豊明殿において開催の同皇帝御告別の午餐会に臨まれる。なお、滿洲国皇帝より天皇・皇后それぞれに『纂組英華』『纂組英華解説』の御贈進がある。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、秩父宮附日記、秩父宮御側日誌、重要雑録、外賓参内録、外賓接待録、侍従武官府歴史、宮内省省報、官報

十五日 月曜日 午前、天皇と共に奥内謁見所において、参内の雍仁親王と御対面になり、この日の滿洲国皇帝の御退京につき、東京駅におけるお見送り並びに接伴の復命をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、秩父宮附日記、秩父宮御側日誌、外賓接待録、侍従武官

府歴史、宮内省省報、官報、雍仁親王実紀

東京女子高等師範学校教授倉橋惣三より生活指導と賞罰についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、倉橋惣三関係資料

十六日 火曜日 午前、奥内謁見所において、参内の故成久王妃房子内親王と御対面になり、昨日永久王の結婚にかかる納采の儀及び告期の儀が終了したことについてお礼言上をお受けになる。納采の儀に際しては、天皇・皇后より王に五種交魚を、北白川宮に鮮鯛を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌

誌、侍従職日誌、重要雑録、永久王殿下御結婚の件

皇太后御参内につき、天皇と共に奥御対面所において御対面になり、ついで奥御食堂において午餐を御会食になる。御食後、天皇と共に奥御対面所において、今般滿洲国皇帝より天皇・皇后に贈られた勲章を皇太后に御披露になる。その後、参内の成子内親王、及び皇太子・和子内親王・厚子内親王を交えて御団欒になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、吳竹寮日誌、

吳竹寮日録、幸啓録、重要雑録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報

十七日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より「第六十七回帝国議会の成果」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

十八日 木曜日 午前、奥内謁見所において、参内の朝融王妃知子女王と御対面になり、今般邦昭王朝融王第一王子の入学に際してのお仕向けにつきお礼言上をお受けになる。なお、学習院初等科入学の邦昭王

には、去る七日万那料等が下賜された。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

十九日 金曜日 午後一時三十分御出門、大宮御所に行啓され、皇太后と御対面になる。この日の行啓は、去る三月二十四日に第一期御喪明けにつきお礼の意味もあり、実施される。御退出に際し、皇太后より皇后に井上通泰著『肥前風土記新考』『豊後風土記新考』等の御贈進がある。四時三十四分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、侍従武官日誌、省中日誌、幸啓録、重要雑録、宮内省省報、官報

二十二日 月曜日 午前、東京女子高等師範学校教授倉橋惣三より進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、倉橋惣三関係資料

故侯爵久邇邦久五十日祭につき、皇后宮女官長竹屋志計子を靈舍久邇侯及び墓所護国寺に差し遣わされる。

昭和十年四月

なお、霊前に盛菓子・果物を、墓所に櫛・菓子をお供えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、重要雑録

二十三日 火曜日 午後、奥内謁見所において久邇董子故侯爵久邇邦久夫人に謁を賜い、第一期忌明けにつきお礼

言上をお受けになる。この際、故久邇侯爵愛翫の品の献上がある。○女官長日記、女官日誌、重要雑録

二十四日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より「国民融和事業について」と題する進講をお聴きになる。雍仁親王妃勢津子が陪聴する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、穂積家文書

去る二十一日発生の台湾における地震の被害に対し、天皇・皇后より台湾総督に御救恤金を下賜される。御救恤金は、実情視察のための御使として御差遣の侍従入江相政を通じて伝達される。○侍従職日誌、省中日誌、重要雑録、恩賜録、宮内省省報、官報、台湾大年表

二十五日 木曜日 午後、奥内謁見所において稔彦王妃聡子内親王と御対面になり、今般盛厚王の陸

軍士官学校予科卒業、並びに俊彦王の学習院初等学科入学に際してのお仕向けにつきお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

二十六日 金曜日 この日永久王と徳川祥子男爵徳川義恕第二女子結婚につき、午後、鳳凰ノ間において参内朝見の

儀が行われる。皇后は御服喪中につきお出ましにならず、お介添えとして皇后宮女官万里小路ソデを参列させられる。これに先立ち、勅使兼皇后宮使として侍従徳大寺実厚を北白川宮邸に差し遣わされ、王・同妃にお祝品を御贈進になる。また、天皇・皇后より男爵徳川義恕にお祝品を下賜される。○女官

長日記、女官日誌、侍従職日誌、侍従武官日誌、省中日誌、重要雑録、皇親録、永久王殿下御結婚の件、例規録、宮内省省報、官報

二十七日 土曜日 午前、奥内謁見所において、昨日結婚の永久王・同妃祥子と御対面になり、お礼

言上をお受けになる。ついで参内の故成久王妃房子内親王と御対面になり、お礼言上をお受けになる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、侍従武官日誌、重要雑録

別格官幣社靖国神社において臨時祭挙行につき、天皇・皇后より祭資を下賜される。○儀式祭典録

二十九日 月曜日 天長節につき、除喪される。午前、天皇と共に奥宮殿において成子内親王と御対

面になり、祝詞言上をお受けになる。ついでお一方にて奥内謁見所において、宮内大臣始め各総代、皇后宮女官長始め側近奉仕者の拝賀をお受けになる。また、皇太后御使として参内の皇太后宮大夫入江為守に謁を賜う。午後、奥内謁見所において、皇族代表の雍仁親王・同妃勢津子・宣仁親王の拝賀をお受けになり、ついで皇族妃・王公族妃の拝賀をお受けになった後、御休所において内宴を催される。雍仁親王妃・故依仁親王妃周子・博恭王妃経子・博義王妃朝子・故菊麿王妃常子・故邦彦王妃侃子・守正王妃伊都子・稔彦王妃聡子内親王・故成久王妃房子内親王・永久王妃祥子・故恒久王妃昌子内親王・恒徳王妃光子・春仁王妃直子・李王堀妃方子女王・李鍵公妃誠子が出席する。御食後、天皇と共に奥御対面所において、崇仁親王と御対面になり、祝詞言上をお受けになる。続いて、旧女官の正二位柳原愛子及び千種任子・園祥子・生源寺伊佐雄、元皇后宮女官の青山元子・油小路蒙子等に謁を賜う。また、天皇及び成子内親王と共に奥御座所において、元侍女及び出仕に謁を賜う。夕刻、かねて御延期の皇后のお誕生日及び厚子内親王の誕生日のお祝いを兼ねた天長節の内宴が催され、天皇及び成子内親王と共に御学問所において、内大臣・宮内大臣始め側近高等官と御夕餐を共にされる。

和子内親王・厚子内親王は風気のため臨席を取りやめる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、呉竹寮日誌、呉

竹寮日誌、儀式録、侍従武官府歴史

昭和十年五月

三十日 火曜日 午後、天皇と共に奥内謁見所において、近く侯爵朴泳孝の孫賛珠と結婚の李錫公、及び朝鮮より上京の故李垓公妃李錫公の継母と御対面になる。その際、皇后より李垓公妃にお品・万那料を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌、王公族録

五月

一日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より「動物愛と子供愛の一茶の俳句」と題する進講をお聴きになる。雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子が陪聴する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

午後、今般退職の元伏見宮御用取扱橋口琴子に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌

三日 金曜日 この日李錫公と侯爵朴泳孝の孫賛珠結婚につき、勅使兼皇后宮使として侍従黒田長敬を公邸に差し遣わされ、李錫公・同妃にお祝品を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、重要雑録、王公族録、皇親録、李錫公殿下御結婚の件、宮内省省報

四日 土曜日 午後、奥内謁見所において、この日参内朝見の儀皇后は御服喪中につき出御なしを終えた李錫公・同妃賛珠と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、重要雑録、王公族録、宮内省省報、官報

八日 水曜日 午前、憲法記念館において日本赤十字社第四十三回通常総会開催のところ、御服喪中のため、御名代として博恭王妃経子を差し遣わされる。その際、次の令旨を下される。

日本赤十字社第四十三回総会に際し各員に告ぐ本社は総裁以下不断の努力に頼り其の施設経営愈々整備進展せるを見る殊に昨秋本邦に開かれたる第十五回赤十字国際会議は良好なる成績を以て終

了し斯業の発展に寄与せしのみならず国際の親善と理解とに資する所ありたるは欣快に堪へず社員一同宜しく協心戮力益々事業の振張を図り以て国家社会に貢献せむことを期すへし

後刻、奥内謁見所において、同社総裁載仁親王と御対面になり、御名代御差遣につきお礼言上をお受けになる。

午後、憲法記念館において愛国婦人会第三十四回通常総会開催につき、御名代として同じく博恭王妃經子を御差遣になる。その際、次の令旨を下される。

愛国婦人会第三十四回総会に際し各員に告ぐ

本会は総裁以下累年の努力により基礎愈々固く事業益々盛なるに至れるは深く満足する所なり會員宜しく時運の趨向に鑑み協力一致会務の伸長を図り以て婦人報国の使命を達成せむことを望む終わって、参内の同妃と御対面になり、日本赤十字社総会及び愛国婦人会総会につき復命をお受けになる。引き続き、愛国婦人会総裁の故依仁親王妃周子と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、

侍従武官日誌、省中日誌、皇親録、宮内省省報、官報、事業年報（日本赤十字社）、日本赤十字社史続稿、愛国婦人会四十年史

十日 金曜日 午前、御養蚕始の儀が行われる。皇后は御服喪中につきお出ましにならず、皇后宮女官長竹屋志計子・皇后宮女官内山はるを差し遣わされる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

十一日 土曜日 午後、奥内謁見所において、御機嫌奉伺のため参内した一条悦子^{故東宮侍従長一条実輝夫人}に謁を賜う。

○女官長日記、女官日誌

去る六日北海道石狩国空知郡赤平村茂尻炭坑において、爆発事故により多数の死傷者発生につき、天皇・皇后より北海道庁に御救恤金を下賜される。○省中日誌、恩賜録、宮内省省報、官報

昭和十年五月

十二日 日曜日 母の日につき、全国母の日会より北原白秋作「母を讃ふ歌」紙色、及び花籠カーネーションの献

上をお受けになる。○女官長日記、侍従職日誌、進献録

十三日 月曜日 午前、東京女子高等師範学校教授倉橋惣三より「賞の実際」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、倉橋惣三関係資料

十四日 火曜日 午後、天皇と共に奥御対面所において、この日より広島・山口両県下への出張に出発の宣仁親王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、宮内省省報

十五日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より「地方長官会議に於ける諸大臣の訓示」と題する進講をお聴きになる。雍仁親王妃勢津子が陪聴する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、穂

積家文書

十六日 木曜日 午前、紅葉山御養蚕所に皇后宮女官二名を差し遣わされ、蚕の発育状態を検分させられる。○女官長日記、女官日誌

二十日 月曜日 午前、東京女子高等師範学校教授倉橋惣三より「知能の教育」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

二十一日 火曜日 夕刻、奥内謁見所において、結婚に伴う神宮及び山陵参拝より帰京の永久王・同妃祥子と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

二十二日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より「相隣関係の種々相」と題する進講をお聴きになる。雍仁親王妃勢津子が陪聴する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

午後、参内の正二位柳原愛子に謁を賜い、先般怪我に際してのお仕向けにつきお礼言上をお受けにな

る。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

二十四日 金曜日 午前、東京慈恵会總會開催のところ、御服喪中のため行啓されず、御名代として故依仁親王妃周子を差し遣わされる。午後、奥内謁見所において参内の故依仁親王妃と御対面になり、復命をお受けになる。ついで参内の同会総裁故恒久王妃昌子内親王と御対面になり、御名代御差遣につきお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、皇親録、例規録、宮内省省報、官報

デンマーク国皇太子フレデリックとスウェーデン国皇太子第一王女イングリット結婚につき、この日、天皇・皇后よりスウェーデン国皇太子グスタフ・アドルフへ祝電をお送りになる。これより先、デンマーク国皇太子に天皇・皇后よりお祝品として七宝花瓶^{図柿}の御贈進になる。翌日、祝電の御発送及びお祝品の御贈進に対しては、答電及び礼電がそれぞれ到着する。○省中日誌、外交慶弔録、外交贈答録、宮内省省報、官報

二十五日 土曜日 午前、昨日沼津より帰京の皇后宮大夫広幡忠隆に謁を賜い、同地御滞在中の皇太后の御様子をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌

二十六日 日曜日 午前、申ノ口付近にお出ましになり、昨日共立女子職業学校のバザーにおけるお買上品を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、呉竹寮日録

奥御対面所において天皇と共に、参内の崇仁親王と御対面になり、翌日より陸軍士官学校本科生徒隊の野営演習に参加するため千葉県に出発につき挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌

二十七日 月曜日 午前、東京女子高等師範学校教授倉橋惣三を召され、「話しあひ」と題する進講

昭和十年六月

をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

二十九日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠を召され、「独逸ヒットラー総統の声明について」と題する進講をお聴きになる。雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子に陪聴を差し許される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、穂積家文書

六月

二日 日曜日 御喪明けにつき、午前、奥内謁見所において、総代の侍従長・侍従武官長・皇后宮大夫・侍医頭・皇子御養育掛長に謁を賜う。後刻、奥御進講所において皇后宮女官長以下の側近奉仕者に謁を賜う。翌日、皇后宮女官長竹屋志計子を沼津御滞在中の皇太后の許に差し遣わされる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、侍従武官日誌、省中日誌、呉竹寮日誌、重要雜録、進退録

奥内謁見所において、新たに皇后宮職御用掛を拝命の雪井よし子に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、進退録

三日 月曜日 午前、東京女子高等師範学校教授倉橋惣三を召され、前回に引き続き「話しあひ」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

四日 火曜日 昨月三十日、福島県石城郡湯本町入山採炭株式会社所有の炭坑におけるガス爆発事故により多数の死傷者発生につき、天皇・皇后より同県に御救恤金を下賜される。○省中日誌、恩賜録、宮内省省報、官報

五日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より「米国産業復興法違憲問題」と題する進講をお

聴きになる。雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子が陪聴する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、穂積家文書

奥内謁見所において、新任の侍従武官平田昇に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、侍従武官日誌、

侍従武官府資料、侍従武官府歴史、官報

午後、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、臨時皇后宮職御用掛有泉善三より説明をお聞きになる。○

女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

六日 木曜日 午後、天皇と共に奥御対面所において、参内の故恒久王妃昌子内親王・故成久王妃房子内親王と御対面になり、皇后御喪明けの御機嫌奉伺をお受けになる。その後、同じく御喪明けの御機嫌奉伺のため参内の宣仁親王を交えて御歓談になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌

七日 金曜日 午後、奥内謁見所において今般第一潜水戦隊司令官に転出の前侍従武官出光万兵衛に謁を賜い、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、侍従武官日誌、贈賜録、侍従武官府資料、侍従武官府歴史、官報

御書齋において、今般京都旅行より帰京の故邦彦王妃侃子、並びに御機嫌奉伺のため参内の三条西信子と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、宮内省省報

八日 土曜日 夕刻、天皇と共に奥内謁見所において、参内の雍仁親王と御対面になり、皇后御喪明けの御機嫌奉伺をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌、秩父宮御側日誌

昭和十年六月

九日 日曜日 午後、天皇及び皇太子・成子内親王・和子内親王・厚子内親王と共に紅葉山御養蚕所にお出ましになり、臨時皇后宮職御用掛有泉善三の説明にて御巡覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、呉竹寮日誌、呉竹寮日録

十日 月曜日 午前、東京女子高等師範学校教授倉橋惣三をお召しになり、「仕事」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

十一日 火曜日 故侯爵久邇邦久百日祭につき、御使として皇后宮女官津軽理喜子を靈舎久邇侯爵邸及び墓所護国寺に差し遣わされ、靈舎に切り花・盛菓子・果物を、墓所に榊・菓子をお供えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、重要雑録

十二日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より「支那古来の国体観念について」と題する進講をお聴きになる。雍仁親王妃勢津子が陪聴する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、穂積家文書

十七日 月曜日 午前、東京女子高等師範学校教授倉橋惣三より「課業的学習」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

午後、奥内謁見所において、昨日大阪より帰京の稔彦王妃聡子内親王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、宮内省省報

紅葉山御養蚕所にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

十八日 火曜日 午後、奥内謁見所において、息女美和子を伴い参内の立花美年子成久王第一王女、立花種勝夫人に謁を

賜う。○女官長日記、女官日誌

天皇と共に御学問所において、故成久王妃房子内親王及び先般結婚の永久王・同妃祥子をお招きになり、御晚餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、重要雑録

十九日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より「徳川時代の一口話」と題する進講をお聴きになる。雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子が陪聴する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、穂積家文書

穂積家文書

二十二日 土曜日 午後、天皇及び参内の皇太子・成子内親王・和子内親王・厚子内親王と共に内庭にお出ましになり、今般皇太子の乗用として沖縄県よりお買上げになった仔馬三頭を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、呉竹寮日録

二十四日 月曜日 午前、東京女子高等師範学校教授倉橋惣三より、前回に引き続き「課業的学習」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

二十五日 火曜日 皇太后のお誕生日につき、午前、天皇と共に総代の侍従長・皇后宮大夫より祝詞言上をお受けになる。終わって、御使として皇后宮大夫広幡忠隆を大宮御所に差し遣わされる。ついで天皇と共に成子内親王と御対面になり、祝詞言上をお受けになった後、天皇及び成子内親王と共に皇后宮女官等の祝詞言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、省中日誌、呉竹寮日録、呉竹寮日録、貞明皇后実録正本

二十六日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より「川柳について」と題する進講をお聴きになる。雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子が陪聴する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、穂積家文書

積家文書

昭和十年七月

二十八日 金曜日 午前、皇太后御参内につき、天皇と共に奥御対面所において御対面になり、御昼餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、幸啓録、重要雑録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報

七月

一日 月曜日 らい病^{ハンセ}病院への寄付のためバザー品をお買い上げにつき、三条静子^{公爵三条公輝夫人}・大隈光子^{侯爵大隈信常夫人}が参内し、皇后宮女官長にお礼を申し入れる。○女官長日記、女官日誌

先月下旬の福岡・京都・大阪の各府県下における豪雨被害につき、天皇・皇后より、福岡県・京都府・大阪府に対し、被害に応じそれぞれ御救恤金を下賜される。○省中日誌、恩賜録、宮内省省報、官報

二日 火曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、東京高等蚕糸学校校長本多岩次郎の案内にて製糸状況を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

今般歩兵第三十一聯隊大隊長として弘前に転任の雍仁親王の送別のため、雍仁親王・同妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王を御晩餐にお招きになる。天皇と共に奥御対面所において五方と御対面になり、ついで奥御食堂に移られ、御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、秩父宮御側日誌、贈賜録、侍従武官府資料、雍仁親王実紀

六日 土曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、御養蚕納の儀を行われる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

この日正午より翌日午前にかけて、昭和十年度東京・横浜・川崎三市防空演習が挙行され、宮城内に

においても灯火管制が実施される。午後二時十分より翌日午前七時十五分まで、六回にわたり空襲警報が発令され、表・奥両御座所方面の各所においても遮蔽及び消灯が行われる。なおこの度は、天皇・皇后御在京時における灯火管制の初例となる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従

武官日誌、省中日誌、重要雑録、東京市公報

八日 月曜日 去る三日、香川県小豆島地蔵崎沖合において、大阪商船株式会社所有汽船緑丸別府航路が定期客船

大連汽船千山丸と衝突・沈没し、多数の死者及び行方不明者を出す。この事故につき、この日、天皇・皇后より逋信大臣に御救恤金を下賜される。○省中日誌、恩賜録、宮内省省報、官報

九日 火曜日 午前、宮内省御用掛磐瀬雄一東京帝国大学教授をお召しになり、拝診をお受けになる。その結果、

御懷妊五箇月であり、御経過は至極御順調である旨が言上される。天皇へは宮内大臣が奏上する。午後四時、宮内大臣謹話として宮内記者会に次のように発表される。

本日侍医拝診ノ結果、皇后陛下ニ於カセラレマシテハ御妊娠第五ヶ月ニ渡ラセラレ至極御経過御順調ニ拝セラル、趣テ御座イマス、聖上陛下ヲ始メ奉リ皇室ニ於カセラレマシテハ誠ニ御満悦ノ御事ト拝察イタシマス、私共ハ全国民ト共ニ竹ノ園生ノ弥栄ヲ衷心ヨリ御祈リ申シ上ゲル次第デアリマス

なお、この日、助産婦の梅林寺こう・坂田あきが御用拝命のお礼並びにお悦びを皇后宮女官長に申し入れる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、侍従武官日誌、省中日誌、皇親録、義宮正仁親王殿下御誕生録、読売新聞
満洲事変傷痍者に対し、この日、繙帛六百本を下賜される。午前、陸軍省医務局長小泉親彦が参殿する。○侍従職日誌

昭和十年七月

十一日 木曜日 午前、奥内謁見所において、御同級生の総代二名に謁を賜い、女子学習院御卒業後十五年につき撮影された写真の献上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、女子学習院五十年史

十二日 金曜日 午前、この日塩原御用邸へ行啓の皇太子に、天皇と共に御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、宮内省省報

十三日 土曜日 一昨十一日静岡県下において強震による被害発生につき、この日天皇・皇后より同県に御救恤金を下賜される。○省中日誌、恩賜録、宮内省省報、官報

十五日 月曜日 天皇及び和子内親王・厚子内親王と共に葉山御用邸に行啓される。午前九時二十三分御出門、十一時十七分同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、侍従武官日誌、省中日誌、幸啓録、行幸録、侍従武官府歴史、宮内省省報、官報

今般水害により長福寺の本堂その他に浸水等の被害発生につき、この日特に金一封を下賜される。○

侍従職日誌、贈賜録

昨十四日宮中顧問官大島義脩死去につき、この日天皇・皇后・皇太后より祭資を下賜される。なお、これより先、同人の病気に際しては、お尋ねとして天皇・皇后より葡萄酒を下賜される。○侍従職日誌、省中日誌、恩賜録、宮内省省報、官報

十六日 火曜日 宮内省御用掛海軍中将小山田繁蔵^{元侍従武官} 去る十四日死去につき、この日、天皇・皇后・

皇太后より祭資を、天皇・皇后より盛菓子を下賜される。なお、これより先、天皇・皇后より病氣お尋ねとして果物・菓子を下賜される。○侍従職日誌、侍従武官日誌、省中日誌、贈賜録、宮内省省報、官報

十八日 木曜日 去る十三日福岡県田川郡伊田町三井炭坑第三坑内において、ガス爆発により多数の

死傷者発生につき、天皇・皇后より同県に御救恤金を下賜される。○省中日誌、恩賜録、宮内省省報、官報

昨日台湾総督府管内において発生した地震の被害に対し、天皇・皇后より同総督府に御救恤金を下賜される。○省中日誌、恩賜録、幸啓録、宮内省省報、官報

二十一日 日曜日 葉山御用邸において内着帯の儀が行われる。午前、御桂袴を召され、奥御座所内の御椅子に着席される。皇后宮女官長竹屋志計子が御帯を捧持し、お側の卓上に安置する。ついで天皇の出御をお迎えになり、奥御座所中央に設けられた御椅子に天皇と御対座になる。天皇は皇后宮女官長が捧持した御帯を、皇后宮女官の陪侍により結ばれ、内着帯の儀が終了する。その後、天皇と共に表謁見所において、宮内大臣及び側近奉仕者総代の侍従長・侍従武官長・皇后宮大夫・侍医頭・皇子御養育掛長に謁を賜い、祝詞言上をお受けになる。また、皇后宮女官長始め皇后宮女官等に謁を賜う。続いて皇太后御使として参邸の権典侍清水谷英子に謁を賜い、祝詞言上をお受けになる。その後、お一方にて内謁見所において、侍医頭佐藤恒丸、侍医塚原伊勢松、宮内省御用掛磐瀬雄一、助産婦の梅林寺こう・坂田あきに謁を賜い、両助産婦より御帯の奉呈をお受けになる。終わって、天皇と共に奥御座所において成子内親王・和子内親王・厚子内親王より祝詞言上をお受けになり、お祝御膳を御会食になる。午後、天皇と共に表謁見所において、雍仁親王・同妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子と御対面になり、祝詞言上をお受けになる。

この日、皇后宮女官津軽理喜子を大宮御所に差し遣わされ、内着帯の儀の終了をお伝えになる。また、元皇后宮大夫河井弥八参邸につき、内謁見所において謁を賜い、祝詞言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、侍従武官日誌、省中日誌、呉竹寮日誌、呉竹寮日録、秩父宮

昭和十年八月

御側日誌、皇親録、幸啓録、行幸録、貞明皇后実録正本、侍従武官府歴史、宮内省省報

二十八日 日曜日 去る六月六日、東京慈恵会総裁故恒久王妃昌子内親王より、永久王妃祥子・恒徳王妃光子・李鍋公妃賛珠を同会名誉会員に推挙することにつき奏請をお受けになり、この日、お許しになる。○重要雑録

三十日 火曜日 午前、明治天皇例祭につき、皇后宮女官東貞子に御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、儀式録、祭祀録、宮内省省報

三十一日 水曜日 午後、天皇と共に、遠洋航海より帰還した朝融王、及び同妃知子女王と御対面になり、御機嫌奉伺をお受けになる。なお、朝融王は翌八月一日、軍艦八雲砲術長から軍令部出仕兼部員に補される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、侍従武官日誌、幸啓録、行幸録、重要雑録、皇族身分録、官報

八月

一日 木曜日 午後、この日騎兵第二十四聯隊長に転出の前侍従武官石田保秀、ついで新任の侍従武官四手井綱正に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、侍従武官日誌、幸啓録、贈賜録、侍従武官府資料、侍従武官府歴史、官報

崇仁親王参邸につき、天皇と共に御対面になり、翌日四国方面への旅行に出発の挨拶をお受けになる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人供奉日誌、侍従武官日誌、幸啓録、行幸録

二日 金曜日 午前、天皇及び成子内親王・和子内親王・厚子内親王と共に、汐見御茶屋先に設営さ

れた天幕にお出ましになり、天機・御機嫌奉伺及び内着帯奉祝のため葉山沖に回航の聯合艦隊の陣形運動を望遠鏡にて御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、侍従武官日誌、吳竹寮日誌、吳竹寮日録、幸啓録、行幸録、侍従武官府歴史

恒憲王及び李王垠・同妃方子女王参邸につき、天皇と共に御対面になる。恒憲王より騎兵第十聯隊長姫路への転任につき、李王より陸軍歩兵大佐進級及び歩兵第五十九聯隊長^{宇都宮}への転任につき、お礼言上並びに暇乞いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人供奉日誌、侍従武官日誌、省中日誌、幸啓録、行幸録、皇族身分録、王公族録、贈賜録、官報

三日 土曜日 昨月下旬台湾総督府管内において暴風雨被害発生につき、この日、天皇・皇后より同総督府に御救恤金を下賜される。○省中日誌、恩賜録、宮内省省報、官報

七日 水曜日 来る九日弘前へ雍仁親王赴任につき、この日、親王・同妃勢津子及び宣仁親王・同妃喜久子をお招きになり、天皇及び成子内親王と共に御夕食を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人供奉日誌、侍従武官日誌、省中日誌、吳竹寮日誌、吳竹寮日録、秩父宮附日記、秩父宮御側日誌、幸啓録、皇族身分録、贈賜録、雍仁親王実紀

九日 金曜日 昨月下旬朝鮮総督府管内において豪雨被害発生につき、天皇・皇后より同総督府に御救恤金を下賜される。○省中日誌、恩賜録、視察録、宮内省省報、官報

十三日 火曜日 天皇と共に、来る十五日に那須へ転地する成子内親王と御晚餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、省中日誌、侍従武官日誌、吳竹寮日誌、吳竹寮日録、幸啓録

昭和十年八月

十七日 土曜日 御夕餐後、天皇と共に内庭にお出ましになり、葉山町主催による打揚げ花火を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌

二十一日 水曜日 夕刻、四国方面への旅行より去る十八日帰還の崇仁親王参邸につき、天皇と共に御対面になり、御夕餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人供奉日誌、侍従武官日誌、幸啓録

二十三日 金曜日 午後、今般英国より帰国の松平信子^{特命全權大使松平恒雄夫人、元皇后宮職御用掛}参邸につき、謁を賜う。○女

官長日記、女官日誌

二十六日 月曜日 先月下旬、青森県下において豪雨被害発生につき、天皇・皇后より同県に御救恤金を下賜される。○省中日誌、恩賜録、宮内省省報、官報

三十日 金曜日 昨二十九日、ベルギー国皇帝レオポルド三世及び皇后アストリッドがスイス国ルツェルン湖畔において自動車事故に遭遇し、皇帝は御負傷、皇后は崩御される。天皇・皇后より皇帝に対し、この日、皇后の崩御を悼むとともに皇帝の御無事を喜ぶ旨の親電を御発送になる。九月四日、御答電が寄せられる。

この日より九月十二日までの十四日間、宮中喪となり、皇后もこの日より御運動等をお慎みになる。またこの日、弔問使として皇后宮職御用掛河合りよう子を同国大使館に差し遣わされる。九月三日の葬儀当日には、天皇・皇后より御使として同国駐箭特命全權大使有田八郎を柩前に差し遣わされ、花環をお供えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人供奉日誌、侍従武官日誌、省中日誌、重要雑録、祭祀録、幸啓録、行幸録、外交慶弔録、外交贈答録、宮内省省報、官報

九月

一日 日曜日 震災記念日につき、往時を追想され、握り飯の御昼餐をお召し上がりになる。○女官長日記、女官日誌

四日 水曜日 今般の高知県下における暴風雨被害に対し、天皇・皇后より同県に御救恤金を下賜される。○省中日誌、恩賜録、宮内省省報、官報

九日 月曜日 通信大臣床次竹二郎昨日死去につき、この日、弔問のため、皇后宮使として皇后宮事務官小出英経を同人邸に差し遣わされる。十日には、皇后宮使として皇后宮事務官野口明を同人邸に差し遣わされ、靈前に櫛を賜い、玉串をお供えになる。さらに、天皇・皇后より祭資を下賜される。十一日葬送につき、皇后宮事務官永積寅彦を青山斎場に差し遣わされ、玉串をお供えになる。なお、昨日、同人の危篤に際して、天皇・皇后より葡萄酒を下賜され、侍医村山浩一を同人邸に差し遣わされる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、幸啓録、恩賜録、贈賜録、宮内省省報、官報

十日 火曜日 午前、東京市小石川区関口台町の天主教教会において、故ベルギー国皇后アストリツド弔祭式を執行につき、天皇の御名代として宣仁親王が、皇后の御名代として同妃喜久子が差し遣わされる。午後、天皇と共に親王・同妃と御対面になり、復命をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍

従日誌、侍従職日誌、内舍人供奉日誌、侍従武官日誌、省中日誌、幸啓録、重要雜録、宮内省省報、官報

十二日 木曜日 天皇と共に、宮内大臣・侍従長・侍従武官長始め供奉男女側近奉仕高等官と御夕餐を共にされる。その後、中秋の名月につき、お月見を行われる。なお、天皇は翌十三日に宮城に還幸される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、侍従武官日誌、幸啓録

昭和十年十月

十四日 土曜日 昨日新潟県北蒲原郡新発田町において火災被害発生につき、天皇・皇后より同県に御救恤金を下賜される。○省中日誌、恩賜録、宮内省省報、官報

二十四日 火曜日 午前、秋季皇霊祭及び同神殿祭につき、皇后宮女官長竹屋志計子に御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、儀式録、祭祀録、宮内省省報

三十日 月曜日 和子内親王の誕生日につき、午後、側近奉仕者の遊戯を御覧になる。なお、去る十三日天皇が宮城に還幸され、また皇后及び和子内親王が葉山御用邸に御滞在在中のため、内宴等の行事は御延期となる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、吳竹寮日誌

この月二十三日から二十四日にかけて各地において暴風雨による被害発生につき、天皇・皇后より北海道・新潟県・群馬県・千葉県・茨城県・岩手県・山梨県に、被害に応じそれぞれ御救恤金を下賜される。○省中日誌、恩賜録、宮内省省報、官報

十月

三日 木曜日 午前九時四十分葉山御用邸を御出門、十一時四十分宮城に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、幸啓録、宮内省省報、官報

七日 月曜日 午前、皇太后御参内につき、天皇と共に奥御対面所において御対面になり、ついで奥御食堂において御昼餐を御会食になる。御食後、奥御対面所において皇太子・成子内親王を交えて御団欒になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、吳竹寮日誌、幸啓録、重要雑録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報

八日 火曜日 来る十日挙行予定の宮内省庁舎新築落成式に先立ち、この日在京宮内職員に菓子を賜う。宮内省旧庁舎は明治二十一年十月十日宮殿と共に竣工の後、度重なる地震の被害を受けたため、昭和六年三月二十六日建替えのこととなる。新庁舎は昭和八年二月十七日起工、この年九月三十日に完成し、鉄骨鉄筋コンクリート造、地上三階、地階一階で、延面積は約一万四千百三十二平方メートルに及ぶ。なお、この年一月三十一日より、本庁舎と宮殿北御車寄との間に宮内省庁舎第二期新築工事が施工されており、翌昭和十一年十月二十五日竣工する。○侍従職日誌、省中目誌、重要雑録、工事録、宮内省省報

九日 水曜日 今般満洲より凱旋の前関東憲兵隊司令官岩佐祿郎参内につき、皇后宮大夫を通じてお言葉を賜う。○侍従職日誌

十日 木曜日 午前、奥内謁見所において、参内の久邇董子に謁を賜い、故久邇邦久の霊前へのお供えとして果物を下賜される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

十五日 火曜日 午後、天皇と共に奥御進講所において皇子御養育掛長藤井種太郎に謁を賜い、成子内親王の成績につき奏上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、藤井種太郎日誌

十七日 木曜日 午前、神嘗祭につき、皇后宮女官津軽理喜子に御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中目誌、儀式録、祭祀録、宮内省省報

二十日 日曜日 午後、成子内親王と共に沼津より帰京した和子内親王は、直ちに呉竹寮に移居する。よって、天皇・皇后より御使として皇后宮女官長竹屋志計子を呉竹寮に差し遣わされ、和子内親王にお品及び万那料を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、呉竹寮日誌、孝宮御日誌、呉竹寮

昭和十年十月

日録、孝宮吳竹寮日録、皇子保育録、宮内省省報

二十二日 火曜日 午前、奥内謁見所において、今般朝鮮より帰京の恒徳王妃光子と御対面になる。

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録、宮内省省報

天皇と共に奥内謁見所において、李鍵公妃誠子及び初参内の李鍵公第二公子李沂と御対面になる。退出の際、李鍵公妃及び李沂にそれぞれ賜品がある。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、祭祀録、宮内省省報、官報

天皇と共に奥内謁見所において、皇子御養育掛長藤井種太郎に謁を賜い、今般の和子内親王の吳竹寮移居につき、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従武官日誌、藤井種太郎日誌

二十三日 水曜日 午後、奥内謁見所において、松平信子・同息女正子雍仁親王妃勢津子の妹に謁を賜う。近く正子

結婚につき、両名にお祝品を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、贈賜録

二十六日 土曜日 かねて延期の和子内親王の誕生日祝いのため、午前、天皇及び和子内親王と共に奥内謁見所において、内大臣・宮内大臣・宮内次官及び侍従長・侍従武官長・皇后宮大夫・侍医頭・皇子御養育掛長より総代としての拝賀を、ついで皇后宮女官長始め皇后宮女官等の拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、孝宮御日誌、孝宮吳竹寮日録

午後、皇太子・成子内親王と共に、参殿者休所に設えられた舞台前において、十五歳以下の式部職・楽部員の舞楽落路・迎陵・頻を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、吳竹寮日録、孝宮吳竹寮日録、重要雑録

夕刻、御学問所において和子内親王の吳竹寮移居のお祝いを兼ねた誕生日の内宴を催され、天皇及び

皇太子・成子内親王・和子内親王・厚子内親王と共に御夕餐を御会食になり、宮内大臣始め側近奉仕高等官に御陪食を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、呉竹寮日誌、孝宮御日誌、呉竹寮日録、孝宮呉竹寮日録

十一月

一日 金曜日 午後、奥御対面所において天皇と共に、来る三日陸軍特別大演習地へ出張の宣仁親王、及び同妃喜久子と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、宮内省省報

三日 日曜日 明治節につき、午前、奥内謁見所において、宮内大臣始め総代より拝賀をお受けになる。ついで皇后宮女官長始め皇后宮女官等より拝賀をお受けになる。午後、皇太后御参内につき、奥御対面所において御対面になり、天皇・皇太后と共に奥御食堂において酒饌をお召しになる。御食後、豊明殿・千種ノ間において男爵岩崎久弥・同岩崎小弥太より大札奉祝のため献上の屏風〔川端龍子筆「三白之下門外清洲橋畔」、橋本閑雪筆「進馬」、堂本印象筆「松鶴佳色」〕を皇太后に御披露になり、奥御対面所において皇太子を交えて過ごされる。○

女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、幸啓録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報

五日 火曜日 午前、奥内謁見所において、瑞竜寺門跡村雲御所の九条日淨皇太后の御兄九条道実の養女に謁を賜い、父に当たる子爵仙石政敬死去後の忌明けにつき、お礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、

昭和十年十一月

贈賜録

昨月二十七日、福岡県田川郡上野村明治鋳業株式会社赤池鋳業所においてガス爆発により多数の死傷者発生につき、この日天皇・皇后より同県に御救恤金を下賜される。また昨月三十日、千葉県安房郡白浜町において火災及び爆発事故により多数の死傷者発生につき、この日天皇・皇后より同県に御救恤金を下賜される。○省中日誌、恩賜録、宮内省省報、官報

六日 水曜日 午前、陸軍特別大演習並びに海軍特別演習御統裁のため鹿児島・宮崎両県に行幸の天皇をお見送りになる。また、天皇を奉送のため、御使として皇后宮大夫広幡忠隆を横須賀軍港まで差し遣わされる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌

英国皇帝第三皇子グロスター公結婚につき、天皇・皇后よりグロスター公へ祝電をお送りになる。これに対し、八日、グロスター公・同妃より答電が寄せられる。また結婚に当たり、天皇・皇后よりお祝品としてグロスター公に綴錦^{四季草花の図}を御贈進になる。後日、グロスター公より天皇・皇后に対しての

謝意を記した親書が寄せられる。○省中日誌、外交贈答録、宮内省省報、官報

十三日 水曜日 午前、女子学習院開校五十周年記念式挙行につき、御名代として故依仁親王妃周子を差し遣わされ、次の令旨を下される。

曩ニ昭憲皇太后ノ懿旨ヲ奉ジ華族女学校ヲ開キシヨリ既ニ五十年ヲ経過シ今茲ニ此ノ記念式ヲ挙グルヲ欣ブ惟ルニ諸科ノ學術ニ熟達スルノミナラズ進ミテ道德ノ本源ニ遡リ各々其地位ニ応ジテ孝順貞烈慈愛ノ徳ヲ修ムルハ斯院ヲ設立セラレタル所以ノ要領ニシテ苟モ業ヲ本院ニ受クル者ノ当ニ挙々服膺スベキ所ナリ宜ク浮華輕佻ヲ去リ質実和順ニ就キ常ニ時世ノ進歩ニ鑑ミ精勵黽勉皆

其本分ヲ完ウセムコトヲ期スベシ

後刻、奥内謁見所において、参内の故依仁親王妃と御対面になり、復命をお受けになる。○女官長日記、

女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、吳竹寮日誌、吳竹寮日録、皇親録、宮内省省報、官報、女子学習院關係資料

二十日 水曜日 午後、成子内親王始め女子学習院に在学中の皇族その他学生の成績品手芸品・書画額などを

御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、女子学習院關係資料

二十一日 木曜日 午前、鹿兒島・宮崎両県より還幸の天皇をお出迎えになる。なお、天皇を奉迎のため、御使として皇后宮大夫広幡忠隆を横須賀軍港まで差し遣わされる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、

侍従職日誌、侍従武官日誌、幸啓録

二十六日 火曜日 厚子内親王の着袴の儀が行われる。午前、天皇と共に奥御座所において、賢所・皇靈殿・神殿への拝礼を終えた童形服姿の厚子内親王と御対面になる。ついで、天皇及び厚子内親王と共に奥内謁見所において、総代の宮内大臣・宮内次官・侍従長・侍医頭・侍従武官長・皇子御養育掛長の拝賀を、続いて皇后宮女官長始め皇后宮女官の拝賀をお受けになる。その後、天皇及び皇太子・和子内親王・厚子内親王と共に、奥御食堂においてお祝御膳を御会食になる。

夕刻、宣仁親王、故恒久王妃昌子内親王、故成久王妃房子内親王、稔彦王妃聡子内親王、朝融王、故邦彦王妃倪子、載仁親王参内につき、天皇と共に奥内謁見所において御対面になり、祝詞言上をお受けになる。なお、皇后は千種ノ間において開催の内宴にお出ましにならず、皇太子・成子内親王・和子内親王・厚子内親王と共に、奥御食堂においてお祝御膳を御会食になる。厚子内親王の着袴に際し、天皇・皇后それぞれよりお祝いの品を、また天皇・皇后より御台人形を内親王に御贈進になる。また

昭和十年十一月

この日、多摩陵^{大正天皇陵}に御奉告のため、天皇・皇后より皇后宮女官北村民枝を差し遣わされる。○女官長

日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌、吳竹寮日誌、吳竹寮日録、皇子保育録、祭祀録

二十七日 水曜日 来る三十日に行われる予定の皇后の着帯が、御慶事御切迫の模様のため、急遽繰

り上げられ、この日に行われる。午後、帯親の載仁親王が勅旨を奉じ、御使をもって御帯を皇后に進献する。皇后は既に御静養室に移られたため、お出ましにはならず、皇后宮大夫代理の皇后宮事務官

黒田長敬^{皇后宮大夫病氣欠勤につき}より皇后宮女官長を経て、参内の掌典にその旨が伝えられる。夕刻、賢所皇靈殿神

殿に着帯奉告の儀が行われ、皇后宮女官東貞子に御代拝を仰せ付けられる。その後、天皇が奥御対面所において、皇后宮女官津軽理喜子より御帯の奉呈をお受けになり、皇后宮女官長にお下げ渡しになる。皇后宮女官長は直ちに御静養室に参入し、御帯を皇后に奉り、着帯の儀が終了する。この日、天

皇・皇后と皇太后との間において、相互に御使を通じてお祝品が取り交わされる。○女官長日記、女官日

誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、皇親録、重要雑録、義宮正仁親王殿下御誕生録、儀式録、祭祀

録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報

二十八日 木曜日 午前三時頃、御静養室から産殿に移られ、七時五十七分親王^{第二皇子}を御出産になる。

その後、同所において天皇と御対面になり、ついで故邦彦王妃倪子と御対面になる。正午前、皇后宮女官長より御剣を賜うの儀が終了した旨の言上をお受けになる。午後七時三十分、産殿において、再度天皇と御対面になる。なお、宮内省により乳人として福島治・狩野のぶが、乳人補充員として前田総子・片岡正子がそれぞれ選出され、去る二十六日に発表される。

親王誕生につき、天皇・皇后と皇太后との間、天皇と皇后との間、天皇・皇后と各宮家との間にそれぞれお祝品が取り交わされる。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、皇親録、重要雑録、義宮正仁親王殿下御誕生録、儀式録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報

二十九日 金曜日 午前十時四十分、産殿より御静養室に移られる。夜、天皇と御対面になる。○女官長日誌、女官日誌

三十日 土曜日 去る二十四日、恒憲王妃敏子が兵庫県姫路市の賀陽宮御仮寓所において第五王子を出産する。誕生した王子は、七夜に当たるこの日、宗憲^{むねのり}と命名される。命名当日に際し、天皇・皇后より恒憲王に白羽二重・酒・鮮魚を賜う。○女官長日誌、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、重要雑録、皇親録、皇族身分録、恒憲王妃敏子殿下御分娩の件、宮内省省報、官報

十二月

二日 月曜日 崇仁親王の成年式が行われ、親王は天皇より三笠^{みかさ}宮の称号を下賜される。これに伴い、澄宮御殿は青山東御殿と改称される。この日、天皇・皇后より御使として皇后宮事務官黒田長敬を差し遣わされ、鮮鯛・昆布・柳樽を贈られる。また、天皇・皇后・皇太后よりそれぞれお祝品を、さらに称号宣下につき、天皇・皇后より五種交魚、鮮鯛代料を御贈進になる。なお、天皇・皇后と皇太后との間、天皇・皇后と各宮家との間にそれぞれお祝品が取り交わされる。○女官長日誌、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、皇親録、儀式録、崇仁親王殿下に称号を賜ふの件、宮内省省報、官報

陸軍中将曾我祐準^{元東宮大夫} 去る十一月三十日死去につき、この日、天皇・皇后より盛菓子を下賜される。

昭和十年十二月

また、天皇・皇后・皇太后より祭資を下賜される。○省中日誌、恩賜録、贈賜録、宮内省省報

四日 水曜日 親王誕生第七日^{七夜}につき、午前、青山御所内寒香亭側において御胞衣埋納の儀が行われる。また浴湯の儀が行われ、皇子御養育掛伊地知ミキの奉仕により親王が浴殿に入り、正三位勲一等三上参次が読書を、正二位勲一等功二級男爵内山小二郎・正二位勲二等功四級伯爵清水谷実英が鳴弦を務める。御胞衣埋納の儀・浴湯の儀の終了については、いずれも皇后宮女官長より皇后に言上される。十一時、命名の儀が行われ、名を正仁^{まさひと}と命じ、義宮^{よしのみや}と称する旨の勅旨が親王に伝えられる。なお、親王の印章は「黄心樹」と定められる。親王の名記は皇后宮女官長より皇后に披露される。同時刻、賢所皇靈殿神殿に誕生命名奉告の儀が行われ、皇后宮事務官野口明に御代拝を仰せ付けられる。また、天皇・皇后より皇后宮女官万里小路ソデを多摩陵に差し遣わされ、御代拝を仰せ付けられる。さらに、天皇・皇后の御使として皇后宮大夫広幡忠隆を大宮御所に差し遣わされる。この日、天皇・皇后と皇太后との間、皇太后と親王との間にそれぞれお祝品が取り交わされる。

午後、御静養室において総代の皇后宮女官長より拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、省中日誌、重要雑録、義宮正仁親王殿下御誕生録、皇親録、儀式録、祭祀録、進退録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報

五日 木曜日 この日、今般満洲より凱旋の前駐満海軍部司令官津田静枝参内につき、皇后宮大夫を通じて令旨を下される。○侍従職日誌、侍従武官日誌

六日 金曜日 成子内親王の誕生日につき、午後、御静養室において内親王と御対面になる。なお、御静養中のため、奥内謁見所における内大臣・宮内大臣始め総代の拝賀、及び夕刻の御学問所におけ

る内宴にはお出ましをお取りやめになる。○女官長日記、女官日誌、呉竹寮日録

九日 月曜日 歳末に際し、来る十八日から二十一日まで東京府下の公私設の施療団体が協力して困窮病者の無料診療を実施するに当たり、東京府に金一封を下賜される。○省中日誌、恩賜録、宮内省省報

十一日 水曜日 七十の賀を迎える元学習院女学部幼稚園主務野口幽香に、紅白羽二重を下賜される。

また翌十二日、華族会館において野口幽香女史古希祝賀会举行につき、皇后宮大夫の名をもって金一封を下賜される。○侍従職日誌、贈賜録、学習院百年史

十七日 火曜日 この日華族会館において五十周年記念会を開催する興風会に、金一封を下賜される。

○侍従職日誌、贈賜録

十八日 水曜日 日本赤十字社病院維持費として、天皇・皇后より金一封を賜う。また、皇后より日本赤十字社に対し、同社病院救助患者施療費として金一封を賜う。さらに向寒に際し、同社病院救助收容患者・恩賜財団済生会病院救助收容患者・東京慈恵会医院救助收容患者・財団法人福田会育兒院收容者の十六歳以上の者に木綿反物・裏地・裁縫料を、十五歳以下の者に洋服を下賜される。○恩賜録、贈賜録、宮内省省報、官報、事業年報（日本赤十字社）

二十日 金曜日 午後、御用被免の助産婦梅林寺こう・坂田あきに謁を賜う。○女官長日記、女官日誌

去る十四日、鍋島紀久子^{鳩彦王第一王女}が第一男子を出産する。誕生した男子は、七夜に当たるこの日、直要^{なおもと}と命名される。命名当日に際し、お悦びとして朝香宮に三種交魚を、紀久子に白羽二重・万那料を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、贈賜録

二十三日 月曜日 この日、皇太子が誕生日を迎える。皇后は御静養中につき、皇族・公族、側近奉

昭和十年十二月

仕高等官総代等の拝賀にはお出ましにならず、午前、総代の皇后宮女官長より祝詞言上をお受けになる。また夕刻の内宴にもお出ましにならず、内宴開始前、御静養室において天皇及び皇太子・成子内親王・和子内親王・厚子内親王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、呉竹寮日録、東宮録

二十六日 木曜日 この日、今般満洲より凱旋の前第九師団長外山豊造参内につき、皇后宮大夫を通じてお言葉を賜う。○侍従職日誌

二十七日 金曜日 この月初旬南洋庁管下トラック島等において暴風雨被害発生につき、天皇・皇后より御救恤として金一封を同庁に下賜される。○省中日誌、恩賜録、宮内省省報、官報

二十八日 土曜日 去る四月の満洲国皇帝御来日の記念として、今般同国皇帝溥儀より天皇・皇后・皇太后を始め皇族・王公族・接伴員等に対し、満洲国皇帝訪日記念章が贈呈される。○省中日誌、外交

贈答録、外賓接待録

二十九日 日曜日 御静養中のため、午前、皇后宮女官長を通じて内大臣・宮内大臣始め各総代の歳末の祝詞言上をお受けになる。また、御静養室において皇后宮女官より歳末祝詞言上をお受けになる。

○女官長日記、女官日誌

三十日 月曜日 この日、御出産後の御静養より御床払いになる。午前、奥内謁見所において総代の宮内大臣・宮内次官・侍従長・侍従武官長・皇后宮大夫・侍医頭より祝詞言上をお受けになる。その後、奥御座所において天皇と御対面になり、御床払いのお礼を述べられる。続いて、天皇と共に皇后宮女官長始め皇后宮女官等より祝詞言上をお受けになる。また、皇太后御使として参内の権典侍清水谷英子に謁を賜い、御床払いに際しての御贈進に対するお礼を申し入れられる。午後、御使として皇

后宮女官津輕理喜子を大宮御所に差し遣わされ、お礼を御伝達になる。後刻、天皇と共に奥御対面所において、雍仁親王・同妃勢津子、崇仁親王と御対面になり、皇后の御床払い及び歳末の祝詞言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌、秩父宮御側日誌、重要雜録、侍従武官府歴史

午後、奥御進講所において、今般新任の皇子御養育掛名取はなに謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、省中日誌、進退録、官報

三十一日 火曜日 午後、奥内謁見所において、皇太后御使として参内の典侍竹屋津根子に謁を賜い、歳末の祝詞言上をお受けになる。同時刻、皇后宮女官長竹屋志計子を大宮御所に差し遣わされ、歳末の祝詞を申し入れられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

昭和十一年一月

昭和十一年（西曆一九三六年） 三十三歳

一月

一日 水曜日 午前、皇太子・厚子内親王と共に奥御食堂御入側にお出ましになり、皇后宮女官長始め皇后宮女官等の祝詞言上をお受けになり、また女官長より内大臣始め一同の祝詞言上をお受けになる。その後、天皇と共に奥内謁見所において、崇仁親王の拝賀を、また葉山滞在中の成子内親王・和子内親王の御使として参内した皇子御養育掛長藤井種太郎の拝賀をお受けになる。終わって、お一方にて同所において新任の侍従武官遠藤喜一に謁を賜う。午後、奥内謁見所において雍仁親王・同妃勢津子と御対面になり、祝詞言上をお受けになる。なお、正仁親王御出産後の御静養のため新年式に定められた諸儀には出御されず、一同代表の内閣総理大臣及び米国特命全權大使^{外交団首席}の祝詞言上を皇后

宮大夫を経てお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、儀式録、藤井種太郎日誌

新年に際し、天皇・皇后がオランダ国皇帝と祝電を御交換になる。従来、オランダ国皇帝に対しては天皇より祝電を御發送のところ、同国皇帝からの祝電は昭和九年より皇后への祝詞も加えられたため、今回より天皇の祝電の中に皇后の御名を加えて發送される。○外交慶弔録、宮内省省報、官報

三日 金曜日 午後、奥内謁見所において乳人の福島治・狩野のぶに謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、

侍従職日誌

天皇と共に奥御対面所において、故恒久王妃昌子内親王・故成久王妃房子内親王と御対面になり、新年の祝詞言上をお受けになる。ついで、奥内謁見所において故依仁親王妃周子・故邦彦王妃倪子御母・故菊麿王妃常子公爵島津忠義第三女子、御伯母と御対面になり、同じく新年の祝詞言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

錦鶏間祇候小宮三保松昨年十二月二十九日死去につき、この日、天皇・皇后より祭資を下賜される。

○恩賜録、宮内省省報、官報

五日 日曜日 午後、天皇と共に奥御対面所において、旧女官の正二位柳原愛子及び千種任子・園祥子・生源寺伊佐雄に謁を賜う。引き続き、同所においてこの日弘前歩兵第三十一聯隊に帰任の雍仁親王・同妃勢津子と御対面になり、暇乞いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、秩父宮御日誌、皇親録、贈賜録、宮内省省報

皇太后御参内につき、天皇と共に奥御対面所において御対面になり、新年の祝詞をお受けになる。ついで、奥御食堂においてお祝御膳を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、行啓録、幸啓録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報

六日 月曜日 午後、天皇と共に奥内謁見所において元皇后宮女官長島津治子始め元皇后宮女官に謁を賜い、新年の祝詞言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌

この日葉山御用邸より帰京の成子内親王・和子内親王参内につき、天皇と共に御対面になり、新年の

昭和十一年一月

祝詞をお受けになり、皇太子・厚子内親王を交えて御夕餐を御会食になる。皇太子及び厚子内親王は翌七日葉山へ出発し、しばらく御用邸に滞在する。以後、この年も随時、皇太子始め皇子女と御対面・御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、呉竹寮日録、省中日誌、宮内省省報、官報

七日 火曜日 午後、皇太后御使の典侍竹屋津根子参内につき、奥内謁見所において謁を賜い、皇太后の御風気のため、この日御予定の大宮御所行啓をお取りやめ願いたい旨の言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

八日 水曜日 午後、天皇と共に奥内謁見所において、宣仁親王妃喜久子と御対面になる。以後、この年も随時、皇族・王公族・御親族と御対面・御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

満洲における今回の事変により傷痕を受けて手足を切断した者六名に対し、思召しをもつて義肢を下賜される。なお、この年は、合計十一回にわたり傷痕軍人に義眼又は義肢を下賜される。○贈賜録

十三日 月曜日 午前、御書齋に皇后宮職嘱託松井定克をお召しになり、謡曲を稽古される。皇后宮職御用掛高木多都雄がお相手を務める。以後、この年も随時、松井嘱託より謡曲の指導をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

十四日 火曜日 午前、鳳凰ノ間において講書始の儀が行われるも、正仁親王御出産後の御静養のためお出ましをお取りやめになる。○女官長日記、女官日誌、省中日誌、儀式録

十六日 木曜日 昨年十一月二十八日正仁親王誕生につき、この日天皇より皇后に御贈進の品がある。

○侍従日誌

十七日 金曜日 午後、奥内謁見所において、関東軍へ差遣される侍従武官後藤光蔵に謁を賜い、令旨を下される。後藤は即日出発、同軍の状況を実視し、二月二十四日帰京、四月一日復命する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、進退録、侍従武官府歴史、宮内省省報

奥内謁見所において、昨年末に陸奥艦長に転出の前侍従武官桑折英三郎に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、侍従武官府歴史、侍従武官府資料、官報

十八日 土曜日 午後、天機奉伺及び去る十五日の大宮御所行幸についてのお礼言上のため皇太后御使として参内した掌侍高松千歳子に謁を賜う。この日、御使始として皇后宮女官長竹屋志計子を大宮御所に差し遣わされる。以後、この年も折に触れ、参内した皇太后御使に謁を賜い、また、天皇・皇后あるいは皇后から大宮御所に御使を遣わされる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

去る十五日錦鶏間祇候向井巖死去につき、この日天皇・皇后より祭資を下賜される。○省中日誌、恩賜録、宮内省省報

十九日 日曜日 午後、葉山より帰京の皇后宮職御用掛雪井よし子に謁を賜い、皇太子・厚子内親王の動静につき天皇と共に聞きになる。○女官長日記、女官日誌

二十日 月曜日 午前、歌会始の儀が行われる。皇后は正仁親王御出産後の御静養のため御欠席になる。この年のお題は「海上雲遠」であり、皇后宮御歌は次のとおり。

皇后宮御歌

朝日かけのほるまに／＼うつくしきいろになりゆく沖のしらくも

○女官長日記、女官日誌、省中日誌、儀式録、儀式祭典録、御歌録、宮内省省報、官報、あけぼの集

昭和十一年一月

夕刻、奥内謁見所において、昨年末退任の前内大臣牧野伸顕及び新任の内大臣齋藤実に謁を賜う。なお、退任の牧野に賜品がある。ついで天皇と共に御学問所において、御相伴に召された兩名及び宮内大臣・侍従長・侍従武官長・皇后宮大夫・皇后宮女官長と御夕食を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌

二十一日 火曜日 この日、英国皇帝ジョージ五世が崩御し、皇儲ウェールズ公がエドワード八世として即位する。ジョージ五世崩御につき、この日より二月十日までの二十一日間、宮中喪となる。夕刻、弔問使として皇后宮職御用掛高木多都雄を英国大使館に差し遣わされる。ついで、天皇と共に奥内謁見所において宣仁親王・同妃喜久子と御対面になり、ジョージ五世崩御につき御機嫌伺いをお受けになる。この日、日英兩皇室間の長きにわたる親密交際の特例として、天皇・皇后より皇太后メアリーに弔電を御發送になる。これに対し二十三日、答電がある。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、外交慶弔録、宮内省省報、官報、高松宮日記

二十四日 金曜日 昨日より御風氣につき、午前より御静養室^{御洋館}に移られ、二月九日まで御仮床に就かれる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

二十七日 月曜日 邦彦王^{御父}の祥月命日につき、終日お慎みになる。○女官長日記

この日、安閑天皇千四百年式年祭執行につき、除喪される。ただし、御拝礼・御代拝は共にお取りやめになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、儀式録、祭祀録、侍従武官府歴史、宮内省省報

二十八日 火曜日 この日、東京市芝区栄町のセント・アンドリュース教会において故英国皇帝ジョージ五世弔祭式挙行につき、天皇・皇后の御名代として宣仁親王・同妃喜久子を差し遣わされる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、重要雜録、宮内省省報、官報

三十日 木曜日 この日、孝明天皇例祭執行につき、除喪される。ただし、御拝礼・御代拝はお取りやめになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、儀式録、祭祀録、宮内省省報

二月

二日 日曜日 文部大臣松田源治昨日死去につき、弔問のため、皇后宮使として皇后宮事務官小出英経を差し遣わされる。三日には、皇后宮使として皇后宮事務官大金益次郎を差し遣わされ、花を賜い、柩前に焼香させられる。さらに、天皇・皇后より祭資を下賜される。四日に築地本願寺において行われる葬送には、皇后宮使として皇后宮事務官永積寅彦を差し遣わされ、焼香させられる。なお、同人の危篤に際しては、天皇・皇后より侍医寛繁を同人邸に差し遣わされ、葡萄酒を下賜される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、恩賜録、重要雜録、宮内省省報、官報

九日 日曜日 御静養室を引き払われる。○女官長日記、侍従職日誌

十一日 火曜日 午前、天皇と共に御学問所において、崇仁親王より紀元節の拝賀をお受けになる。ついで側近奉仕高等官、また宣仁親王始め皇族・王公族より拝賀をお受けになる。終わって、天皇と共に成子内親王・和子内親王及び正仁親王と御対面になり、祝詞言上をお受けになる。ついで、お一方にて両内親王と御昼餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、儀式録、祭祀録、呉竹寮日録、三笠宮崇仁親王

十二日 水曜日 午後、奥内謁見所において、皇太后御使として参内の典侍竹屋津根子に謁を賜い、

昭和十一年二月

紀元節及び宮中喪終了につき御機嫌伺いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌

この日、大聖寺・宝鏡寺・曇華院・光照院・円照寺・林丘寺・靈鑑寺・中宮寺・瑞竜寺・三時知恩寺・水薬師寺・長福寺・善光寺に乾海苔を下賜される。○贈賜録

十三日 木曜日 午前、奥内謁見所において、今般第三艦隊・旅順要港部・駐満海軍部の状況実視のため、中華民国・満洲国及び関東州へ差遣される侍従武官平田昇に謁を賜い、第三艦隊司令長官以下への令旨を下される。平田は十五日出発、三月二十八日帰京、四月十三日復命する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、省中日誌、侍従武官府歴史、宮内省省報、官報

十五日 土曜日 午後、宣仁親王妃喜久子参内につき、天皇と共に奥御対面所において御対面になり、病氣全快及び療養中のお仕向けに対するお礼言上をお受けになる。宣仁親王妃は昨月二十八日東京帝國大学医学部附属医院青山外科に入院、翌二十九日虫様突起の切除手術を受け、二月十日退院する。

同妃の入院中及び退院に際しては、天皇・皇后よりお尋ねの賜品がある。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、皇親録、贈賜録、高松宮日記

天皇と共に呉竹寮にお出ましになり、成子内親王・和子内親王と御団欒になる。以後、この年も、しばしば呉竹寮にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、呉竹寮日録、藤井種太郎日誌

十七日 月曜日 夕刻、葉山から帰京の皇子御養育掛小倉満子より、皇太子・厚子内親王の近況を天皇と共に聞きになる。○女官長日記、女官日誌

二十日 木曜日 午前、奥内謁見所において、今般中華民国より帰国の特命全權大使有吉明、後任と

して同国へ赴任の特命全権大使有田八郎及び同夫人に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、拝謁参拝録、宮内省省報、官報

二十一日 金曜日 午前、仁孝天皇例祭につき、皇后宮事務官野口明に御代拝を仰せ付けられる。○

女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、儀式録、祭祀録、宮内省省報

この日、故麿香間祇候戸田氏共^{去る十七日死去}葬送につき、皇后より花を下賜される。同人の病気に際しては、お尋ねとして天皇・皇后・皇太后より葡萄酒を、死去に際しては天皇・皇后・皇太后より祭資を下賜される。○省中日誌、恩賜録、宮内省省報

二十五日 火曜日 午後、天皇と共に豊明殿において、新任のブラジル国特命全権大使ペドロ・レオン・ヴェロージ及び同夫人のため午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、謁見録、宮内省省報、官報

二十六日 水曜日 この日未明、第一師団・近衛師団管下の一部部隊が、侍従長官邸・総理大臣官邸・内大臣私邸・大蔵大臣私邸・教育総監私邸・前内大臣宿舎^{湯河原伊藤屋旅館}等を襲撃し、警視庁・陸軍大臣官邸等を占拠する事件が勃発する。

午前五時四十五分、当直侍従甘露寺受長は、当番高等官の宮内事務官高橋敏雄^{宮内大臣官房総務課書記官}より、侍従長官邸が軍隊に襲われ、侍従長鈴木貫太郎が重傷を負い、続いて内大臣私邸が襲撃され、内大臣斎藤実が即死した旨の連絡を受ける。午前六時頃、皇后宮女官長竹屋志計子より、お目覚めを願う旨の言上があり、天皇と共に御起床、当直侍従甘露寺から事件の報告をお聞きになる。

昭和十一年二月

午前の東京帝国大学教授穂積重遠の定例進講はお取りやめとなり、翌日以降の外国大公使等の謁見、進講、行啓等も暫時お取りやめとなる。正午前、皇太后御使の皇太后宮大夫入江為守参内につき、奥御進講所において謁を賜い、今暁の事件発生につき御機嫌伺いをお受けになり、お礼を述べられる。この他にも、各宮及び元奉仕者等による御機嫌伺いの申し入れがある。

この日、侍医八代豊雄をお見舞いとして侍従長官邸に差し遣わされる。また、天皇・皇后より侍従長にスープを賜う。爾後、三月十日に至るまで連日スープを賜う。さらに、内大臣重傷危篤につき、お尋ねとして天皇・皇后より葡萄酒を賜い、侍医八田善之進を差し遣わされる。○女官長日記、女官日誌、侍

従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、重要雑録、帝都騒擾事件記録、恩賜録、宮内省省報、穂積家文書

二十七日 木曜日 午前、天皇と共に奥内謁見所において、参内の朝融王と御対面になり、御機嫌伺いをお受けになる。夕刻、神奈川県大磯より帰京の守正王参内につき、天皇と共に奥内謁見所において御対面になる。その後、弘前より急遽上京の雍仁親王、及び宣仁親王参内につき、天皇と共に奥宮殿において御対面になり、御機嫌伺いをお受けになる。ついでお揃いにて御夕餐を御会食になる。この日も各宮及び元奉仕者等による御機嫌伺いの申し入れがある。なおこの日、来る三月六日の皇后お誕生日の参賀・拝賀を延期する旨が定められる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、秩

父宮御日誌、重要雑録、侍従武官府歴史、宮内省省報

二十八日 金曜日 御夕餐後、成子内親王・和子内親王参内につき、天皇と共に御対面になり、御機嫌伺いをお受けになる。またこの日、京都華族総代の子爵日野西資博・同清岡長言その他による御機嫌伺いの申し入れがある。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、吳竹寮日録

大蔵大臣高橋是清去る二十六日死去につき、弔問のため皇后宮使として皇后宮事務官黒田長敬を、同じく内大臣斎藤実死去につき、弔問のため皇后宮使として皇后宮事務官野口明を、それぞれの邸に差し遣わされる。なお斎藤に対しては、天皇・皇后・皇太后より御紋付文台硯箱を賜う。○侍従職日誌、省中日誌、恩賜録、重要雑録、宮内省省報、官報

二十九日 土曜日 終日、去る二十六日以来の事件の経過を報じるラジオ放送をお聞きになる。午後、天皇と共に奥内謁見所において、皇太后御使の皇太后宮大夫入江為守に謁を賜い、事件鎮定につき御機嫌伺いをお受けになる。なお、この日も皇族による御機嫌伺いの申し入れがある。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、貞明皇后実録正本

三月

一日 日曜日 午後、天皇と共に奥御対面所において崇仁親王と御対面になり、今般發生の事件につき御機嫌伺いをお受けになる。ついでお一方にて奥内謁見所において、皇太后御使として参内の典侍竹屋津根子に謁を賜い、事件の鎮定につき御機嫌伺いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、重要雑録

二日 月曜日 午前、天皇と共に奥内謁見所において正彦王と御対面になり、勲一等旭日桐花大綬章拝受のお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、重要雑録、皇族身分録、皇族叙勲録、官報

午後、天皇と共に奥御対面所において、故恒久王妃昌子内親王・故成久王妃房子内親王・稔彦王妃聡

昭和十一年三月

子内親王と御対面になり、今般發生の事件につき御機嫌伺いをお受けになる。○女官長日記、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、重要雜録

夕刻、奥内謁見所において、今般發生の事件に遭難後初参内の前内大臣牧野伸顕に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、重要雜録

今般發生の事件により死去の大蔵大臣高橋是清及び内大臣齋藤実に対し、天皇・皇后より盛菓子を下賜される。○侍従職日誌、重要雜録

三日 火曜日 午後、宣仁親王妃喜久子参内につき、天皇と共に奥宮殿において御対面になり、御機嫌伺いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、重要雜録

皇后宮女官長竹屋志計子を御使として大宮御所に差し遣わされ、今般の事件發生以来たびたび皇太后より御機嫌伺いを受けたことに対するお礼をお伝えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、重要雜録

四日 水曜日 午前、御書齋において宣仁親王妃喜久子と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

故侯爵久邇邦久^{御兄}一年祭につき、御使として皇后宮女官津輕理喜子を靈舎及び墓所に差し遣わされ、拝礼させられる。また、靈前に盛菓子・果物を、墓所に榊をお供えになる。なお、故邦久の写真にも果物をお供えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

五日 木曜日 午前、奥内謁見所において故依仁親王妃周子と御対面になり、今般發生の事件につき御機嫌伺いをお受けになる。午後、同所において博恭王・同妃経子と御対面になり、清棲敦子^{伯爵清棲幸保夫人博}

恭王第二王女 死去後の喪明けにつきお礼言上をお受けになる。なお、同人の病氣及び死去に際し賜品がある。

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、重要雑録、贈賜録

六日 金曜日 満三十三歳のお誕生日を迎えられる。

午前、天皇と共に奥内謁見所において、宮内大臣始め総代の拝賀をお受けになる。ついで、皇后お一方にて奥宮殿において、皇后宮女官長始め皇后宮女官より祝詞言上をお受けになる。その後、天皇と共に、成子内親王・和子内親王と御対面になり、祝詞言上をお受けになり、御昼餐を御会食になる。なお、皇后お誕生日の拝賀及び参賀の儀は、今次の事件のため延期され、その後、お取りやめとなる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、呉竹寮日録、省中日誌、儀式録、藤井種太郎日誌

午後、奥内謁見所において、この日新任の内大臣湯浅倉平・宮内大臣松平恒雄に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、重要雑録、宮内省省報、官報

七日 土曜日 午前、奥内謁見所において、今般支那駐屯軍の状況実視のため北支方面へ差遣される侍従武官中島鉄蔵に謁を賜い、同駐屯軍への令旨を下される。中島はこの日出発、二十四日帰京、四月十一日復命する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、重要雑録、侍従武官府歴史、宮内省省報、官報

午後、宣仁親王・同妃喜久子参内につき、天皇と共に奥御対面所において御対面になり、御機嫌伺いをお受けになる。折柄参内の成子内親王・和子内親王も同席する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、呉竹寮日録、重要雑録

大蔵大臣高橋是清死去につき、皇后宮使として皇后宮事務官永積寅彦を同人邸に差し遣わされ、柩前に花を賜い、焼香させられる。さらに、天皇・皇后より祭資を下賜される。二十六日に築地本願寺に

昭和十一年三月

おいて行われる葬送には、皇后宮使として永積皇后宮事務官を差し遣わされ、焼香させられる。

内大臣斎藤実死去につき、皇后宮使として皇后宮事務官小出英経を同人邸に差し遣わされ、柩前に花を賜い、焼香させられる。さらに、天皇・皇后より祭資を下賜される。二十二日に築地本願寺において行われる葬送には、皇后宮使として皇后宮事務官大金益次郎を差し遣わされ、焼香させられる。○

女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、重要雑録、恩賜録、宮内省省報、官報

八日 日曜日 午前、奥内謁見所において、載仁親王と御対面になり、今般発生の事件につき御機嫌伺い、及び先般病氣お尋ねの拝受につきお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎

人日誌、重要雑録

午後、雍仁親王参内につき、天皇及び成子内親王・和子内親王と共に奥御対面所において御対面になり、この夜弘前へ帰任につき暇乞いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日

誌、秩父宮御日誌、呉竹寮日録、皇親録、重要雑録、帝都騷擾事件記録、宮内省省報、雍仁親王実紀

十二日 木曜日 正二位勲一等伯爵内田康哉病氣につき、天皇・皇后よりお尋ねとして葡萄酒を賜い、お見舞いとして侍医高橋信をその邸に差し遣わされる。その後死去につき、翌十三日、弔問のため皇后宮使として皇后宮事務官大金益次郎をその邸に差し遣わされる。十五日、皇后宮使として皇后宮事務官野口明を差し遣わされ、花を賜う。また、天皇・皇后より祭資を下賜される。十六日葬送につき、皇后宮使として大金皇后宮事務官を青山学院内の葬斎場に差し遣わされる。○女官長日記、女官日誌、侍従

職日誌、省中日誌、恩賜録、宮内省省報、官報

十三日 金曜日 女子学習院において修辞会挙行につき、皇后宮女官津軽理喜子・同内山はるを差し

遣わされる。○女官日誌、侍従職日誌、吳竹寮日録、女子学習院関係資料

十四日 土曜日 二月二十六日の事件により負傷の斎藤春子故内大臣斎藤実夫人に対し、その後のお尋ねとして果

物・花卉を賜う。○女官長日誌、女官日誌、侍従職日誌

十五日 日曜日 午後、成子内親王・和子内親王と共に奥内謁見所において、参内の元皇后宮女官長島津治子に謁を賜い、今般発生の事件につき、元皇后宮女官総代としての御機嫌伺いをお受けになる。

○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、吳竹寮日録

十六日 月曜日 昨年六月以来休止中の進講がこの日より再開される。午前、東京女子高等師範学校教授倉橋惣三より「少年少女期の特色（一）」と題する進講をお聴きになる。以後、この年は月曜日を定例として、倉橋より十七回にわたり進講をお聴きになる。○女官長日誌、女官日誌、侍従職日誌、倉橋惣三

関係資料

十八日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より、ギールケ著『独逸団体法論』についての進講をお聴きになる。宣仁親王妃喜久子が陪聴する。○女官長日誌、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

午後、奥内謁見所において、松平信子宮内大臣松平恒雄夫人に謁を賜う。○女官長日誌、女官日誌、侍従職日誌

満洲事変傷痍者に対し、思召しをもって繙帯三百本を下賜される。この月三十日、関東軍司令官より皇后宮大夫にお札の電報がある。○侍従職日誌、重要雑録

十九日 木曜日 午前、奥内謁見所において、今般新任の関東軍司令官植田謙吉に謁を賜い、令旨を下される。○女官長日誌、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、本庄繁大將日誌

皇太后宮大夫兼御歌所長子爵入江為守病氣につき、お尋ねとして天皇・皇后・皇太后より葡萄酒を賜

昭和十一年三月

い、お見舞いとして侍医寛繁をその邸に差し遣わされる。この日同人死去につき、翌二十日、天皇・皇后より弔問のため侍従黒田長敬をその邸に差し遣わされる。また、天皇・皇后より祭資を下賜される。二十三日葬送につき、思召しをもつて花を下賜される。なお、在官中の勤労により、天皇・皇后・皇太后より御紋付文台硯箱の下賜がある。○女官長日誌、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、恩賜録、重要雜録、宮内

省省報、官報、入江相政日記

二十日 金曜日 午前、皇后宮職御用掛加藤虎之亮より、論語についての進講をお聴きになる。以後、金曜日を定例として、同人より合計二十一回にわたり漢文の進講をお聴きになり、主に『論語』『日本外史』について学ばれる。○女官長日誌、女官日誌、侍従職日誌、加藤虎之亮關係資料

奥内謁見所において、皇族会議に出席のためこの日京都より上京の多嘉王と御対面になる。ついで天皇と共に奥御対面所において、同じく皇族会議に出席のため弘前より上京の雍仁親王と御対面になり、御昼餐を御会食になる。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宮内省省報

この日神奈川県葉山町の北白川宮別邸において故能久親王妃富子が病氣重体となったため、天皇・皇后よりお尋ねとして葡萄酒・果物を賜い、侍従久松定孝及び侍医八田善之進を同別邸に差し遣わされる。その後同妃は薨去し、遺骸は同別邸より東京の北白川宮本邸に移される。二十二日、弔問のため皇后宮使として皇后宮女官長竹屋志計子を北白川宮本邸に差し遣わされる。二十三日、正寝移柩の儀につき、天皇・皇后より盛菓子を賜う。二十五日、天皇・皇后より祭資を、皇后より櫛を下賜される。また霊代安置の儀につき、皇后宮使として皇后宮事務官永積寅彦を同邸に差し遣わされ、玉串をお供えになる。二十六日、斂葬当日柩前祭の儀につき、皇后宮使として皇后宮事務官野口明を同邸に、つ

いで葬場の儀につき、皇后宮事務官大金益次郎を葬斎場^{豊島岡墓地}に差し遣わされ、それぞれ玉串をお供え

になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、皇親録、皇族身分録、墓誌銘録、宮内省省報、官報

二十一日 土曜日 午前、春季皇霊祭及び同神殿祭につき、皇后宮女官北村民枝に御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、儀式録、祭祀録、宮内省省報

二十三日 月曜日 午前、桐ノ間において、今般着任のトルコ国特命全權大使ヒュスレヴ・ゲレデ及び同夫人、随伴の大使館商務参事官レシャット・ケリモル及び同夫人ほか三名に謁見を仰せ付けられる。午後、天皇と共に豊明殿において、同大使及び同夫人のため午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、謁見録、宮内省省報、官報

午後、奥内謁見所において、久邇^{故侯爵久邇邦久夫人、御義姉}董子に謁を賜い、近く松浦家に復籍につき暇乞いをお受

けになる。続いて新任の侍従武官長宇佐美興屋及び前任の侍従武官長本庄繁、さらに新任の皇后宮事務官兼侍従小倉庫次・侍従岡部長章に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省

中日誌、進退録、侍従武官府資料、侍従武官府歴史、宮内省省報、官報、本庄繁大將日誌、本庄日記

二十五日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より「日本婦人の真価」と題する進講をお聴きになる。宣仁親王妃喜久子が陪聴する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、穂積家文書

御書齋において、この日弘前より上京の雍仁親王妃勢津子、及び宣仁親王妃喜久子と御対面になる。

ついで天皇と共に奥御対面所において、両妃と御対面になる。その後、奥御食堂において、御昼餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、秩父宮御日誌、皇親録、宮内省省報

天皇と共に奥御進講所において、皇子御養育掛長藤井種太郎に謁を賜い、成子内親王の成績につき奏

昭和十一年三月

上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、呉竹寮日誌、藤井種太郎日誌

二十七日 金曜日 商工大臣川崎卓吉病氣危篤につき、天皇・皇后よりお尋ねとして葡萄酒を賜い、侍医寛繁をその邸に差し遣わされる。この日同人死去につき、翌二十八日、弔問のため皇后宮使として皇后宮事務官黒田長敬をその邸に差し遣わされる。二十九日、皇后宮使として皇后宮事務官大金益次郎をその邸に差し遣わされ、花を賜い、柩前に焼香させられる。また、天皇・皇后より祭資を下賜される。三十日葬送につき、皇后宮使として皇后宮事務官小倉庫次を青山斎場に差し遣わされ、焼香させられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、省中日誌、恩賜録、宮内省省報、官報

二十八日 土曜日 午前、奥御食堂において、正仁親王箸初の儀が行われる。正午過ぎ、天皇及び正仁親王と共に奥内謁見所において、総代の侍従次長兼皇后宮大夫広幡忠隆、侍従武官長宇佐美興屋、侍医頭佐藤恒丸、皇子御養育掛長藤井種太郎、及び皇后宮女官長竹屋志計子始め女官一同より祝詞言上をお受けになる。その後、天皇及び成子内親王・和子内親王と共に奥御食堂において、お祝御膳をお召し上がりになる。この日、天皇・皇后より皇太后及び正仁親王にお祝品の御贈進がある。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、呉竹寮日録、藤井種太郎日誌

午後、奥内謁見所において、前侍従武官長本庄繁に謁を賜い、暇乞い並びに退職賜物に対するお礼言上をお受けになる。なお同人に対し、天皇・皇后より金員を、皇后よりお品を下賜される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、贈賜録、本庄繁大將日誌、本庄日記

三十日 月曜日 午前、東京女子高等師範学校教授倉橋惣三より「青少年女期の特色（二）」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、倉橋惣三関係資料

奥内謁見所において、守正王妃伊都子と御対面になり、女子学習院卒業式へ御差遣の復命をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、皇親録、宮内省省報、官報、梨本伊都子日記、女子学習院関係資料

葉山より皇太子及び厚子内親王帰京につき、天皇と共に御対面になり、御昼餐を御会食になる。午後、成子内親王・和子内親王参内につき、天皇と共に御対面になり、成子内親王よりこの日女子学習院本科前期終了のお礼言上をお受けになる。その後、天皇及び皇太子・成子内親王・和子内親王・厚子内親王と共に御過ごしになり、御夕餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、呉竹寮日録、宮内省省報、官報

三十一日 火曜日 午前、天皇と共に鳳凰ノ間において、今般臣籍降下の正彦王の参内朝見の儀に臨まれる。式中、御前に参進の正彦王より謝恩の辞の言上をお受けになり、天皇の勅語に続き懿旨を賜う。引き続き、天皇と共に奥内謁見所において、清棲敦子死去後の服喪中のため参内朝見の儀を遠慮した博英王と御対面になり、臣籍降下につきお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、皇族身分録、皇親録、宮内省省報、官報

午後、奥内謁見所において、故依仁親王妃周子と御対面になり、御機嫌伺いと戸田極子故伯爵戸田氏共夫人死去後の忌明けにつきお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

四月

一日 水曜日 正午、天皇と共に竹ノ間において、この日情願により臣籍に降下して華族に列せられた勲一等伯爵伏見博英・同侯爵音羽正彦のために午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職

昭和十一年四月

日誌、内舍人日誌、省中日誌、皇族身分録、皇族叙勲録、宣召録、宮内省省報、官報

二日 木曜日 午前、奥内謁見所において、今般ドイツ国へ帰任の特命全權大使武者小路公共及び同夫人に謁を賜う。○女官長日誌、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、拝謁参拝録、宮内省省報、官報

故恒久王妃昌子内親王参内につき御対面になり、故能久親王妃富子薨去後の忌明けにつきお礼言上をお受けになる。○女官長日誌、女官日誌、侍従職日誌

午後、奥内謁見所において堀田秀子御同級生、伯爵堀田正恒夫人に謁を賜う。○女官長日誌、女官日誌

三日 金曜日 午前、神武天皇祭につき、皇后宮女官津軽理喜子に御代拝を仰せ付けられる。○女官長日誌、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、儀式録、祭祀録、宮内省省報

四日 土曜日 午後、奥内謁見所において、生源寺咲峰に謁を賜い、御機嫌伺い及び元皇后宮職御用掛生源寺政子昨年十二月二十八日死去への賜品についてのお礼言上をお受けになる。○女官長日誌、女官日誌、贈賜録

五日 日曜日 午前、天皇と共に御座所において、賢所皇靈殿神殿に謁するの儀を終えた正仁親王と御対面になる。その際、天皇より同親王に盃を賜う。また、天皇・皇后より同親王に袴人形・稚児人形等を賜い、同親王より鮮鯛等の献上がある。ついでお揃いにて奥内謁見所において、宣仁親王・同妃喜久子始め皇族・公族の拝賀をお受けになる。続いて、内大臣・宮内大臣・宮内次官及び側近奉仕高等官の拝賀をお受けになる。

正午、奥御食堂において、天皇及び皇太子・正仁親王・厚子内親王と共に、お祝御膳をお召し上がりになる。ついで皇太后御使として参内の権典侍清水谷英子に謁を賜い、皇太后よりの祝詞をお聞きになる。これに対し、御使として皇后宮女官津軽理喜子を大宮御所に差し遣わされ、正仁親王の初参拝

終了をお伝えになる。また、多摩陵^{大正天皇}に奉告のため、皇后宮女官万里小路ソデを差し遣わされる。

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、吳竹寮日誌、皇親録、儀式録、重要雜録、宮内省省報、官報

六日 月曜日 午前、天皇と共に奥内謁見所において、正仁親王の帯親を務めた載仁親王と御対面になり、昨五日の正仁親王初参拝についての祝詞言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

桐ノ間において、今般着任の中華民國特命全權大使許世英に謁見を仰せ付けられる。引き続き、随員の大使館参事官王芄生及び同夫人以下十八名に謁見を仰せ付けられる。後刻、天皇と共に豊明殿において、同大使のため午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、謁見録、重要雜録、

宮内省省報、官報

奥内謁見所において、侍従長鈴木貫太郎に謁を賜い、二月二十六日の事件による負傷のお見舞い等についてのお礼言上をお受けになる。なお、負傷快癒につき来る十三日より出勤する鈴木に対し、天皇・皇后より万那料を下賜される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、省中日誌、重要雜録

奥内謁見所において、今般凱旋の元関東軍司令官陸軍大将南次郎・元第三師団長陸軍中将岩越恒一に謁を賜う。南に対し、次のお言葉を賜う。

満洲デハ永々御苦勞デアリマシタ重要ナ任務ヲ終ヘテ芽出度凱旋シタノハ本当ニ喜バシク思ヒマ
ストウカ更ニ自愛シテ御奉公ヲスルヤウニ

ついで元第四独立守備隊司令官陸軍中将清水喜重・元関東軍参謀長陸軍中将西尾寿造・元関東軍司令
部付陸軍中将土肥原賢二・元独立混成第一旅団長陸軍少将藤田進に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍

昭和十一年四月

従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、侍従武官府歴史

七日 火曜日 午後、沼津より帰京の成子内親王・和子内親王参内につき、天皇と共に御対面になり、挨拶をお受けになる。皇太子・厚子内親王を交えて御夕餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従

職日誌、内舍人日誌、呉竹寮日録、藤井種太郎日誌

八日 水曜日 この日、女子学習院に和子内親王入学につき、天皇・皇后より万那料等を、皇后よりお祝いの品を贈られる。また、女子学習院中期一年に進級の成子内親王に、天皇・皇后よりお祝いの品を贈られる。正午、天皇・皇后より両内親王にお祝御膳を賜う。午後、通学用の洋服を着用して両内親王参内につき、天皇と共に御対面になり、お礼言上をお受けになる。後刻、天皇・皇太子・両内親王及び厚子内親王と共に茶菓をお召し上がりになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、呉竹寮日録、女子学習院関係資料

九日 木曜日 午前、桐ノ間において、日伊交換教授として来日のイタリア国ローマ大学教授フランチェスコ・セヴェリ及び同夫人に謁見を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省

中日誌、謁見録、宮内省省報、官報

十日 金曜日 午前、奥内謁見所において、この日任命の東宮傳育官石川岩吉^{前高松宮付別当}及び別当^{高松宮付}渡辺

勝三郎に謁を賜う。東宮傳育官は、皇太子の傳育を掌るための職員として新たに皇后宮職に設置され、

この日、皇室令をもって東宮傳育職員官制ほか関連法令が公布される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、

省中日誌、進退録、皇室令録、宮内省省報、官報

十三日 月曜日 午前、東京女子高等師範学校教授倉橋惣三より「少年少女期の特色（三）」と題す

る進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、倉橋惣三関係資料

十四日 火曜日 午前、桐ノ間において、今般代理公使より昇任のルーマニア国特命全権公使ジョルジュ・G・ストイセスコ及び同夫人に謁見を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、謁見録、宮内省省報、官報

十五日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より「独逸のライン地方出兵について」と題する進講をお聴きになる。宣仁親王妃喜久子が陪聴する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

十六日 木曜日 午後、御書齋において、三条西信子^{御妹}・同実謙^{信子の第、一男子}及び侯爵久邇実栄^{信子の第、一男子}と御対面になる。その際、今般学習院に入学の実謙へのお祝品下賜及び実栄の襲爵についてのお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、贈賜録

故枢密顧問官久保田讓^{去る十四日死去}葬送につき、天皇・皇后より祭資を下賜される。なお、これより先、同人の病氣危篤に際し、天皇・皇后よりお尋ねとして葡萄酒を下賜される。○省中日誌、恩賜録、宮内省省報

十八日 土曜日 午後、天皇と共に奥御対面所において、宣仁親王・同妃喜久子と御対面になり、御機嫌伺いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

十九日 日曜日 午後、天皇と共に奥宮殿において、永久王・同妃祥子と御対面になる。故能久親王妃富子薨去後の喪明けにつき挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

二十日 月曜日 午前、東京女子高等師範学校教授倉橋惣三より「少女少女期の特色（四）」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、倉橋惣三関係資料

夕刻、天皇及び皇太子と共に奥御対面所において、陸軍士官学校生徒として満鮮旅行演習に参加する

昭和十一年四月

ため、翌二十一日に満洲国へ出発する崇仁親王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、皇親録、宮内省省報、三笠宮崇仁親王

二十一日 火曜日 午前、奥内謁見所において、京都在住華族総代の従五位冷泉為臣に謁を賜う。ついで今般満洲より凱旋の元独立混成第十一旅団長陸軍中将川岸文三郎ほか一名に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、宮内省省報

二十二日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より「衆議院議員総選挙について」と題する進講をお聴きになる。宣仁親王妃喜久子が陪聴する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、穂積家文書
午後、天皇と共に奥御対面所において、故成久王妃房子内親王と御対面になり、故能久親王妃富子薨去による第一期服喪期間終了につき挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

二十三日 木曜日 この日、李鍋公妃贅珠は李鍋公家東京別邸において第一公子を出産する。よって、天皇・皇后より白羽二重・酒・鮮鯛を、皇后より三種交魚を李鍋公に賜う。なお、誕生の公子は七夜に当たる二十九日に清と命名される。○省中日誌、皇親録、贈賜録、王公族録、宮内省省報、官報

二十七日 月曜日 午前、東京女子高等師範学校教授倉橋惣三より、「少年少女期の実際問題（一）」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、倉橋惣三関係資料

別格官幣社靖国神社において臨時祭挙行につき、天皇・皇后より同社に祭資を下賜される。○儀式祭典録

二十九日 水曜日 天長節につき、午前、天皇と共に和子内親王成子内親王は風気のため参内を取りやめると御対面になり、祝

詞言上をお受けになる。ついで皇太后宮御休所において、内大臣始め各総代、皇后宮女官長始め皇后宮女官等の拝賀をお受けになる。午後、奥内謁見所において雍仁親王妃勢津子始め皇族妃・王公族妃と御対面の後、内宴を催される。終わって、天皇と共に奥御対面所において正二位柳原愛子に謁を賜い、祝詞言上をお受けになる。引き続き、千種任子以下の旧女官に謁を賜う。その後、お一方にて奥御進講所において鈴木タカ、土山千代に謁を賜う。この日、天皇及び皇太子・正仁親王・和子内親王・厚子内親王と共に祝先付の御夕餐を召される。○女官長日記、女官日記、侍従職日記、内舎人日記、省中日誌、儀式録、呉竹寮日誌、孝宮御日誌

三十日 木曜日 午前、奥内謁見所において、今般スペイン国より帰国の特命全権公使青木新、アルゼンチン国より帰国の特命全権公使山崎次郎、シヤム国より帰国の特命全権公使矢田部保吉に謁を賜う。○女官長日記、女官日記、侍従職日記、内舎人日記、省中日誌、拝謁参拝録、宮内省省報、官報

五月

二日 土曜日 御夕餐の後、天皇と共に奥御進講所において、皇太子・正仁親王のために飾り付けられた五月人形を御覧になる。○女官長日記、女官日記

去る四月十五日、福岡県飯塚市外の忠隈炭坑において機械破損のため多数の死傷者発生につき、天皇・皇后より同県に御救恤金を下賜される。○省中日誌、恩賜録、宮内省省報、官報

三日 日曜日 午後、天皇及び皇太子・和子内親王・厚子内親王と共に花蔭亭にお出ましになり、この日弘前より上京の雍仁親王妃勢津子と御対面になり、御機嫌伺いをお受けになる。○女官長日記、女官

昭和十一年五月

日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、吳竹寮日誌、孝宮御日誌、秩父宮御日誌、皇親録、宮内省省報

東京高等蚕糸学校長本多岩次郎去る四月三十日死去につき、この日、天皇・皇后・皇太后より祭資を、皇后より菓子・盛花を下賜される。同人は、明治四十一年以来、紅葉山御養蚕所のため尽力した。○侍従職日誌、省中日誌、恩賜録、宮内省省報

五日 火曜日 午前、奥内謁見所において、今般ベルギー国へ赴任の特命全權大使来栖三郎及び同夫人、オーストリア国へ赴任の特命全權公使谷正之及び同夫人に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、拝謁参拝録、宮内省省報、官報

正仁親王初節句につき、天皇・皇后と正仁親王との間にお祝品の御贈答があり、皇后より親王に檜兜・飾弓・飾籠・小幟をお贈りになる。なお、時節柄、表向きのお祝い等はお取りやめになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

六日 水曜日 正午過ぎ、奥内謁見所において、新任の皇太后宮大夫大谷正男・宮内次官白根松介・内蔵頭三浦篤・宮内大臣官房大膳課長土岐政夫に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、宮内省省報、官報

午後、奥内謁見所において、参内の雍仁親王妃勢津子と御対面になり、弘前へ出発につき暇乞いをお受けになる。ついで、御一緒に奥御進講所において五月人形を、皇子御座所において雛人形を御覧になる。その際、人形を拝見のため参内した旧女官の正二位柳原愛子及び千種任子・園祥子・生源寺伊佐雄に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

七日 木曜日 午前、天皇と共に鳳凰ノ間において、盛厚王成年式の参内朝見の儀に臨まれる。式中、

御前に参進の盛厚王より謝恩の辞の言上をお受けになり、天皇の勅語に続き懿旨を賜う。午後、奥内謁見所において稔彦王・同妃聡子内親王と御対面になり、お札言上をお受けになる。この日、天皇・皇后より盛厚王に鮮鯛及び酒を賜う。成年式滞りなく終了につき、後日、天皇・皇后より稔彦王・同妃に五種交魚を、また稔彦王・同妃それぞれにお品を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、儀式録、皇族身分録、皇親録、宮内省省報、官報

八日 金曜日 故能久親王妃富子五十日祭につき、皇后宮使として皇后宮事務官永積寅彦を権舎に、皇后宮事務官小出英経を墓所にそれぞれ差し遣わされ、玉串をお供えになる。また、権舎に天皇・皇后より盛菓子、皇后より盛花を、墓所に天皇・皇后より櫛をお供えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、皇親録、故能久親王妃富子殿下喪儀録、宮内省省報、官報

九日 土曜日 午前、桐ノ間において、昨年着任の満洲国特命全権大使謝介石及び同夫人・息女、随員の大使館参事官于静遠及び同夫人以下十名に謁見を仰せ付けられる。謁見は二・二六事件により御延期中のところ、この日実施される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、謁見録、宮内省省報、官報
午後、奥内謁見所において、故能久王妃房子内親王と御対面になり、昨日の故能久親王妃富子五十日祭に際してのお仕向けにつきお札言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

十一日 月曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、御養蚕始の儀を行われる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

十二日 火曜日 午前、桐ノ間において、昨年着任のメキシコ国特命全権公使フランシスコ・ホータ・

昭和十一年五月

アギラール及び同夫人、アルゼンチン国特命全権公使エドゥアルド・ラセド及び同夫人、デンマーク国特命全権公使ルドルフ・フレデリック・カルル・アダム・ベルトウーシュ・リーヌに順次謁見を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、謁見録、宮内省省報、官報

十三日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より「文教刷新の目標 内閣審議会特別委員会答申案」と題する進講をお聴きになる。宣仁親王妃喜久子が陪聴する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、穂積家文書

十四日 木曜日 午前、桐ノ間において、今般着任のチリ国特命全権公使マルティン・フィゲロア・アンギータに謁見を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、謁見録、宮内省省報、官報

夕刻、天皇と共に奥御対面所において宣仁親王と御対面になり、翌々十六日より神奈川県下への旅行及び高知県等への出張につき暇乞いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、皇親録、宮内省省報

この日、侍医頭佐藤恒丸より、かねて不例中の成子内親王は検査の結果、百日咳と診断された旨の言上をお受けになる。なお二十六日、成子内親王は転地療養のため、葉山御用邸附属邸にお成りになる。

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、吳竹寮日誌

十五日 金曜日 夕刻、過日満鮮旅行演習より帰京の崇仁親王参内につき、天皇と共に御対面になる。その際、満洲国皇帝より天皇・皇后への御贈進品及び親王持ち帰りの献上品の披露をお受けになり、親王より旅行中の話をお聞きになる。なお、同国皇帝よりの御贈進に対し、翌十六日天皇より礼電を

発せられ、即日答電が寄せられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、外交贈答録、宮内省省報、三笠宮崇仁親王

十八日 月曜日 午前、東京女子高等師範学校教授倉橋惣三より「少年少女期の実際問題（二）」と題する進講をお聴きになる。終了後、紅葉山御養蚕所にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、倉橋惣三関係資料

十九日 火曜日 午前、奥内謁見所において、今般英国へ赴任の特命全權大使吉田茂及び同夫人に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、拝謁参拝録、宮内省省報、官報

二十日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より「明治天皇の国軍御建設について」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

二十一日 木曜日 午前、後一条天皇九百年式年祭につき、皇后宮女官長竹屋志計子に御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、儀式録、祭祀録、宮内省省報

二十三日 土曜日 共立女子職業学校においてバザー開催につき、皇后宮女官を差し遣わされる。夜、お買い上げの品を御覧になる。○女官長日記、女官日誌

二十五日 月曜日 午前、後伏見天皇六百年式年祭につき、皇后宮女官東貞子に御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、儀式録、祭祀録、宮内省省報

二十六日 火曜日 午前、奥御進講所において、元皇后宮女官長島津治子に謁を賜い、御機嫌伺いをお受けになる。以後、この年も随時、元奉仕者の拝謁等がある。○女官長日記、女官日誌

奥内謁見所において、伯爵壬生基義に謁を賜い、昨日同夫人篤子朝彦親王の王女、御叔母への病氣お見舞い品の拝受

昭和十一年六月

につきお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

二十七日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より「日本歴史川柳百句」と題する進講をお聴きになる。宣仁親王妃喜久子が陪聴する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

午後、紅葉山御養蚕所において、臨時皇后宮職御用掛有泉善三の案内にて蚕の状況を御覧になる。○

女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

二十八日 木曜日 午前、奥内謁見所において、今般チリ国へ赴任の特命全権公使三宅哲一郎に謁を賜う。ついで今般転任の前侍従武官小林謙五、新任の侍従武官山澄貞次郎に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、拝謁参拝録、侍従武官府資料、宮内省省報、官報

桐ノ間において、今般来航の米国亜細亜艦隊司令長官海軍大将オリン・グルド・マーフィン及び同夫人、並びに随従の同艦隊参謀長海軍大佐W・H・ウッドソンほか一名に謁見を仰せ付けられる。暫時の後、桐ノ間において、今般着任のノルウェー国特命全権公使フィン・コーレン及び同夫人に謁見を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、謁見録、宮内省省報、官報

六月

一日 月曜日 午前、東京女子高等師範学校教授倉橋惣三より、「少年少女期の実際問題（三）」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、倉橋惣三関係資料

二日 火曜日 午後、紅葉山御養蚕所にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

三日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より、「特別議会の経過動向について」と題する進

講をお聴きになる。宣仁親王妃喜久子が陪聴する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

四日 木曜日 午前、奥内謁見所において、満洲より帰還の第三師団長陸軍中将伊東政喜、支那より帰還の元支那駐屯軍司令官陸軍中将多田駿に謁を賜い、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

五日 金曜日 午前、天皇と共に奥内謁見所において、恒憲王妃敏子に伴われて初参内の宗憲王と御対面になる。天皇・皇后より恒憲王妃及び宗憲王それぞれにお祝いの品を贈られる。○女官長日記、女官

日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、儀式録、祭祀録、贈賜録、宮内省省報、官報

六日 土曜日 午後、天皇と共に紅葉山御養蚕所にお出ましになり、臨時皇后宮職御用掛有泉善三の説明にて御巡覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

八日 月曜日 午前、東京女子高等師範学校教授倉橋惣三より、「青年期の生活（一）」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、倉橋惣三関係資料

午後、奥内謁見所において、参内の故恒久王妃昌子内親王と御対面になり、先般御衣服拝借のお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

十日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より「第六十九議会通過の重要法律」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

十一日 木曜日 午前、奥内謁見所において、今般メキシコ国より帰国の特命全権公使堀義貴及び同夫人、中華民国へ赴任の特命全権大使川越茂及び同夫人に順次謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、拝謁参拝録、宮内省省報、官報

午後、天皇と共に豊明殿において、今般帰国の仏国特命全権大使フェルナン・ジャン・マリー・ピラ

昭和十一年六月

及び同夫人のため午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、謁見録、

宮内省省報、官報

十二日 金曜日 皇太后御参内につき、天皇と共に奥御対面所において御対面になる。ついで奥御食堂において御昼餐を御会食になる。御食後、天皇・皇太后と共に紅葉山御養蚕所にお出ましになり、臨時皇后宮職御用掛有泉善三の説明にて蚕室を御巡覧になる。終わって同所御休所において、皇太子・和子内親王・厚子内親王を交えて御団欒になる。還御の後、お揃いにて奥御食堂において茶菓をお召し上がりになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、呉竹寮日誌、省中日誌、重要雑録、行啓録、

幸啓録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報

十五日 月曜日 午前、東京女子高等師範学校教授倉橋惣三より「青年期の生活(二)」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、倉橋惣三関係資料

午後一時三十分御出門、この年初めて大宮御所に行啓され、皇太后と御対面になる。四時二十分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、幸啓録、宮内省省報、官報

十六日 火曜日 午後、奥内謁見所において、今般内大臣秘書官長を拝命の松平康昌に謁を賜う。○

女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、進退録、宮内省省報、官報

十七日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より、「滝沢馬琴の嫁路女について」と題する進講をお聴きになる。宣仁親王妃喜久子が陪聴する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、穂積家文書

十八日 木曜日 午後、紅葉山御養蚕所にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

十九日 金曜日 午後、奥内謁見所において、稔彦王妃聡子内親王と御対面になり、御使の皇后宮女

官長を通じて昨十八日賜品・賜金拝領につきお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌
二十二日 月曜日 午前、東京女子高等師範学校教授倉橋惣三より、「青年期の生活(三)」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、倉橋惣三関係資料

この日、英国特命全権大使ロバート・ヘンリー・クライブの息女エイミー・キャサリン・クライブ結婚につき、御使として皇后宮職御用掛高木多都雄を同国大使館に差し遣わされ、お祝品として御紋付金蒔絵手簞笥を下賜される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、外交贈答録、贈賜録

二十三日 火曜日 夕刻、天皇と共に奥御対面所において、崇仁親王と御対面になり、来る二十九日陸軍士官学校本科卒業予定につき挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、皇族身分録

二十四日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より、「方面委員制度について」と題する進講をお聴きになる。宣仁親王妃喜久子が陪聴する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、穂積家文書

二十五日 木曜日 若葉会においてバザー開催につき、御使を差し遣わされ、お買い上げになる。○女官長日記、女官日誌

二十七日 土曜日 故能久親王妃富子百日祭につき、皇后宮使として権舎に皇后宮事務官永積寅彦を、墓所に皇后宮事務官大金益次郎を差し遣わされ、玉串をお供えになる。また、権舎に天皇・皇后より盛菓子を、皇后より盛花を、墓所に天皇・皇后より榊をお供えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、皇親録、宮内省省報

二十九日 月曜日 午後、天皇と共に奥御対面所において、崇仁親王と御対面になり、陸軍士官学校

昭和十一年七月

卒業に際してのお祝品拝領につきお礼言上をお受けになる。親王の卒業に際し、天皇・皇后より五種交魚等を御贈進になる。夕刻、奥内謁見所において、皇太后御使として参内の典侍竹屋津根子に謁を賜い、お祝品の御贈進をお受けになる。天皇・皇后より、御使の皇后宮女官長竹屋志計子を通じて皇太后にお祝品を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、皇族身分録、贈賜録、侍従武官府資料

三十日 火曜日 午前、桐ノ間において、今般離任帰国のカナダ特命全権公使ハーバート・メレデイス・マラー及び同夫人に謁見を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、謁見録、宮内省省報、官報

奥内謁見所において、参内の元澄宮御養育掛長田内三吉に謁を賜い、崇仁親王の陸軍士官学校卒業につき祝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

七月

一日 水曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、臨時皇后宮職御用掛有泉善三の説明にて糸繰りの状況を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

午後、崇仁親王参内につき、天皇と共に奥御対面所において御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

二日 木曜日 午前、桐ノ間において、今般着任のフランス国特命全権大使アルベール・カメレール及び同夫人・息女に謁見を仰せ付けられる。ついで、随伴の大使館三等書記官ゼイムス・ベイエンス

及び同夫人ほか十二名に謁見を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、謁見録、宮内省省報、官報

七日 火曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、御養蚕納の儀を行われる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

翌八日皇太子・厚子内親王が葉山へ出発につき、天皇及び皇太子・和子内親王・厚子内親王と御夕餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、吳竹寮日誌、省中日誌、幸啓録、宮内省省報、官報

九日 木曜日 午前、奥内謁見所において、今般満洲より帰還の第十六師団長陸軍中将児玉友雄に謁を賜い、お言葉を賜う。引き続き、斎藤春子に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、東京日日新聞

十日 金曜日 午前、奥内謁見所において故依仁親王妃周子と御対面になり、近日箱根別邸へお成りにつき御機嫌伺いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

十四日 火曜日 午前、天皇と共に奥内謁見所において春仁王妃直子と御対面になり、この日勲一等宝冠章を拝受のお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、皇族身分録、皇族叙勲録、官報

十八日 土曜日 昨日別当^{秩父}海軍中将犬塚太郎死去につき、この日天皇・皇后・皇太后より祭資を下

賜される。また、これより先、同人の病気に際しては、お尋ねとして天皇・皇后より葡萄酒を賜う。

犬塚は、東宮武官・侍従武官等を歴任する。○侍従職日誌、省中日誌、進退録、恩賜録、宮内省省報

二十日 月曜日 午前、天皇と共に奥内謁見所において、鳩彦王と御対面になり、暑中並びに昨日戒

昭和十一年七月

敵令解除につき御機嫌伺いをお受けになる。引き続き載仁親王と御対面になり、同じく御機嫌伺いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

二十一日 火曜日 午前、参内の和子内親王と御対面になり、葉山御用邸へお成りにつき挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、吳竹寮日誌、省中日誌

二十二日 水曜日 午前、昭和十一年二月二十六日の事件につき賢所皇靈殿神殿に親告の儀が行われ、皇后宮女官北村民枝に御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、儀式録、宮内省省報、官報

二十三日 木曜日 午後、奥内謁見所において、皇太后御使として参内の典侍竹屋津根子に謁を賜い、戒敵令解除、及び昭和十一年二月二十六日の事件につき賢所皇靈殿神殿に親告の儀終了につき御機嫌伺いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌

二十四日 金曜日 午前十時十九分天皇と共に御出門、大宮御所に行啓され、皇太后と御対面になる。ついでお揃いにて赤坂離宮にお出ましになり、御昼餐を御会食になる。大宮御所に戻られた後、午後二時四十五分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、幸啓録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報

夕刻、天皇と共に奥御対面所において、宣仁親王・同妃喜久子と御対面になり、翌日より葉山行幸啓につき御機嫌伺いをお受けになる。ついで奥御食堂において御夕餐を御会食になる。その際、天皇・皇后に『熾仁親王日記』^{卷五・卷六}の献上がある。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、

進献録

二十五日 土曜日 天皇と共に葉山御用邸に行啓のため、午前十時三十分御出門、十一時五十八分同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、省中日誌、幸啓録、行幸録、宮内省省報、官報

二十八日 火曜日 午後、天皇と共に海岸にお出ましになり、百日咳療養のため五月下旬以来附屬邸に滞在中の成子内親王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、吳竹寮日誌、幸啓録
三十日 木曜日 午前、明治天皇例祭につき、皇后宮事務官永積寅彦に御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、儀式録、宮内省省報

三十一日 金曜日 午前、附屬邸より成子内親王参邸につき、天皇及び和子内親王と共に御対面になり、病氣全快の挨拶をお受けになる。ついで御昼餐を御会食になる。なお、本邸に滞在中の和子内親王は成子内親王の全快により、この日附屬邸に引き移る。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人供奉日誌、吳竹寮日誌、幸啓録

八月

一日 土曜日 午後、成子内親王・和子内親王と共に葉山丸に御乗船になり、長者ヶ崎沖を遊覧される。以後、御用邸御滞在中に随時、海上を御遊覧になり、また釣りをされる。○女官長日記、女官日誌、吳竹寮日誌

四日 火曜日 成子内親王・和子内親王と共に鮫島にお出ましになり、海藻を御採集になる。その後、お出ましの天皇と御昼餐を御会食になり、御用邸に戻られる。以後、御用邸御滞在中、お一方又は天

昭和十一年八月

皇と共に御採集になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、吳竹寮日録、幸啓録

七日 金曜日 午前、天皇と共に葉山丸に御乗船、東京帝国大学理学部附属臨海実験所に行啓され、陸路到着の成子内親王・和子内親王と共に本館及び附属水族館を御巡覧になる。終わって、お揃いにて御乗船になり、午後、御用邸に還啓される。○女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、吳竹寮日録、幸啓録、行幸録

八日 土曜日 午前、内閣総理大臣広田弘毅・拓務大臣永田秀次郎・内務大臣潮恵之輔・海軍大臣永野修身・陸軍大臣寺内寿一参邸につき、天皇と共に謁を賜い、天機並びに御機嫌伺いをお受けになる。引き続き、近衛歩兵第二旅団長秦雅尚・近衛歩兵第四聯隊長原田熊吉に謁を賜う。なお、近衛歩兵旅団長等の謁謁に皇后はお出ましにならないのが通例であるが、今回は時間の御都合により、前例によらず、皇后も御一緒に謁を賜う。○女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、行幸録

十一日 火曜日 午後、天皇と共に内庭にお出ましになり、御機嫌伺いのため参邸の宮内次官白根松介に謁を賜う。○侍従日誌、省中日誌、幸啓録

十二日 水曜日 午前、御機嫌伺いのため参邸の枢密院議長平沼騏一郎・司法大臣林頼三郎・大蔵大臣馬場鎧一・鉄道大臣前田米蔵・農林大臣島田俊雄、及び近衛師団長陸軍中将香月清司等に天皇と共に謁を賜う。夕刻、恒徳王参邸につき、天皇と共に御対面になり、今般陸軍大学校学生として満洲国へ旅行につき御機嫌伺いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、行幸録、宮内省省報

十四日 金曜日 午後、宮中顧問官総代の田内三吉、錦鶏間祇候総代の岡本英太郎、宮内省部局長総

代の宗秩寮総裁木戸幸一・式部長官松平慶民に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、木戸幸一日記、松平慶民手帖

十六日 日曜日 午後、春仁王・同妃直子参邸につき、天皇と共に御対面になる。夕刻、稔彦王・同妃聡子内親王、故恒久王妃昌子内親王、成久王妃房子内親王参邸につき、天皇と共に御対面になり、御夕餐を御会食になる。御食後、新築の御二階^{御展望室}に御案内になり、成子内親王・和子内親王を交えて打ち上げ花火を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、吳竹寮日録、幸啓録、工事録

十七日 月曜日 午前、御機嫌伺いのため参邸の通信大臣頼母木桂吉・文部大臣平生釼三郎・商工大臣小川郷太郎・外務大臣有田八郎に、天皇と共に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、行幸録

十九日 水曜日 この日、満洲事変傷痍者に対し、思召しをもって繙帯六百本を下賜される。九月七日、関東軍司令官より皇后宮大夫に対し、お礼の電報がある。○侍従職日誌、重要雑録

二十四日 月曜日 午後、崇仁親王御使として参邸の別当^{三笠宮付}厚東篤太郎に天皇と共に謁を賜う。○女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録

二十六日 水曜日 夕刻、天皇及び成子内親王・和子内親王と共に御食堂にお出ましになり、内庭における海軍軍楽隊の管楽演奏をお聴きになる。行進曲「観艦式」^{昭和五年十月神戸沖の観艦式に際して同隊が作曲}ほか七曲の演奏を御鑑賞になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、吳竹寮日録、幸啓録

二十七日 木曜日 午前、故成久王妃房子内親王・永久王妃祥子参邸につき、御対面になり、過日多

昭和十一年九月

恵子女王が附属邸に招かれたことに対するお礼言上をお受けになる。○女官日誌、幸啓録

二十九日 土曜日 七月下旬からこの月中旬にかけて朝鮮総督府管内において豪雨被害発生につき、天皇・皇后より御救恤金を同総督府に下賜される。その後、再び朝鮮総督府管内において暴風雨被害発生につき、九月八日、天皇・皇后より御救恤金を同総督府に下賜される。なお、被害状況視察のため、天皇より勅使として侍従牧野貞亮を御差遣になる。○侍従職日誌、省中日誌、恩賜録、重要雑録、視察録、宮内省省報、官報

三十日 日曜日 午前、天皇の小磯方面への御採集に同行される。午後はお一方にて海藻の整理に取り組まれ、御夕餐後も続けられる。なお後日、生物学御研究所から北海道帝国大学教授山田幸男に海藻の同定が依頼され、この日鮫島において採集された種が昭和十三年『北海道帝国大学理学部海藻研究所欧文報告』に新種^{エンドウモク}として掲載される。○女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、行幸録、北海道大学総合博物館所蔵資料、北海道大学理学部海藻研究所欧文報告

九月

一日 火曜日 震災記念日につき、お出ましをお控えになる。○女官日誌、幸啓録

三日 木曜日 午後、前朝鮮総督宇垣一成に謁を賜い、退官のお礼言上をお受けになり、御慰労のお言葉を賜う。その後、予備役陸軍歩兵少佐武藤当次郎^{舟夜}制作の『満洲事変絵巻』を天皇と共に御覧になる。○女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、陸軍省大日記、宇垣一成日記

四日 金曜日 午後、昨三日宮内省人事異動により退官の前帝室会計審査局長官河井弥八・前宮内省

参事官浅田恵一、新任の帝室会計審査局長官木下道雄・宮内省参事官金田才平・内匠頭岩波武信・宮内大臣官房総務課長兼宮内大臣官房秘書課長本多猶一郎に、天皇と共に謁を賜う。退官の河井・浅田に對し、天皇に続き、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人供奉日誌、省中日誌、幸啓録、行幸録、宮内省省報、官報

五日 土曜日 午前、参邸の元侍従武官小林謙五に謁を賜い、米国外使館付武官として赴任の挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌

六日 日曜日 天皇及び附属邸より参邸の成子内親王・和子内親王、御相伴に召された元皇后宮事務官兼侍従野口明^{九月三日付で宗秩寮宗親課長へ転任}等と御夕餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、幸啓録

七日 月曜日 故枢密顧問官兼別当^{竹田}石原健三^{元宮内次官}葬送^{去る四日死去}につき、天皇・皇后・皇太后より祭資を下賜される。なお、これより先、同人の病氣に際して、天皇・皇后・皇太后よりお尋ねとして葡萄酒を下賜される。また、死去に際して、天皇・皇后より盛菓子を下賜される。○侍従職日誌、省中日誌、恩賜録、贈賜録、宮内省省報

八日 火曜日 午前、参邸の皇后宮職御用掛吉見光子に謁を賜い、御機嫌伺いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌

附属邸より成子内親王・和子内親王参邸につき、天皇と共に御昼餐を御会食になる。御食後、両内親王より、この日帰京につき、暇乞いの挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録

九日 水曜日 オランダ国皇帝ウイルヘルミナより皇嗣ユリアナ内親王の結婚成約を報じる親電が天

昭和十一年九月

皇・皇后に寄せられたため、即日天皇・皇后より祝電を發せられる。○省中日誌、外交慶弔録、宮内省省報、

官報

十日 木曜日 午後、那須御用邸より皇太子・正仁親王・厚子内親王到着につき、御対面になる。○

女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、吳竹寮日誌、省中日誌、幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内省

省報、官報

夕刻、鳩彦王参邸につき、天皇と共に御対面になり、御機嫌伺い並びに湛子女王病氣全快のお礼言上をお受けになる。ついで御夕餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録

十二日 土曜日 午後、崇仁親王参邸につき、天皇と共に御対面になる。ついで新築の御研究室・御

食堂・御二階を御案内になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、工事録

十四日 月曜日 午後一時五十分天皇と共に葉山御用邸を御出門、三時十五分宮城に還啓される。○

女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、省中日誌、幸啓録、行幸録、宮内省省報、官報

二十一日 月曜日 午前、桐ノ間において、今般来日のブラジル国經濟使節団長ジョアキン・ペドロ・

サルガード・フイリヨ及び同夫人ほかに謁見を仰せ付けられ、団長夫妻にお言葉を賜う。○女官長日記、

女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、謁見録、外交雜録、宮内省省報、官報

午後、奥内謁見所において、参内の湛子女王と御対面になり、病氣全快及び療養中のお仕向けに對するお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

二十二日 火曜日 午前、昨日弘前より上京の雍仁親王妃勢津子参内につき、天皇と共に奥御対面所において御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、秩父宮御日誌、宮内省省報

午後、天皇と共に豊明殿において、今般着任のフランス国特命全権大使アルベール・カメレル及び同夫人・息女のため午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、謁見録、

秩父宮御日誌、宮内省省報、官報

二十三日 水曜日 午後、奥内謁見所において、皇太后御使として参内の皇太后宮職御用掛正親町鍾子に謁を賜い、翌日より天皇の北海道行幸につき御機嫌伺いをお受けになる。ついで天皇と共に同所において、宣仁親王妃喜久子・故恒久王妃昌子内親王・故成久王妃房子内親王・稔彦王妃聡子内親王と御対面になり、葉山よりの還幸啓並びに翌日よりの北海道行幸につき御機嫌伺いをお受けになる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、吳竹寮日録

二十四日 木曜日 午前、天皇の北海道行幸をお見送りのため、御使として皇后宮大夫広幡忠隆を横須賀に差し遣わされる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、幸啓録、進退録

二十五日 金曜日 今般退職の前皇后宮女官東貞子に謁を賜い、在職中のお礼言上をお受けになる。

○女官長日記、女官日誌、進退録

二十八日 月曜日 午前、東京女子高等師範学校教授倉橋惣三より、「青年期の生活(四)」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、倉橋惣三関係資料

葉山より帰京の皇太子・正仁親王・厚子内親王と御対面になり、皇子御座所において御昼餐を御会食になる。御食後、奥御進講所において皇子御養育掛長藤井種太郎に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍

従職日誌、内舎人日誌、吳竹寮日録、省中日誌、宮内省省報、官報

二十九日 火曜日 午後、奥内謁見所において、この日弘前へ帰還する雍仁親王妃勢津子と御対面に

昭和十一年十月

なり、暇乞いをお受けになる。皇太子・正仁親王・厚子内親王も同席する。○女官長日記、女官日誌、侍従

職日誌

三十日 水曜日 午前、奥御進講所において、東京帝国大学教授穂積重遠より「スペインの動乱について」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

呉竹寮にお出ましになり、この日より開始された寮内の幼稚園における厚子内親王の様子を御覧になる。また、この日誕生日を迎えた和子内親王と御昼食を御会食になる。成子内親王と御対面後、還御される。以後、しばしば呉竹寮にお出ましになり、幼稚園の様子等を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、呉竹寮日録

十月

一日 木曜日 午後、奥内謁見所において、崇仁親王と御対面になり、この日陸軍騎兵少尉に任官のお礼言上をお受けになる。天皇・皇后より親王に鮮鯛を御贈進になり、これとは別に皇后より親王にお祝いの品を贈られる。また、親王より鮮鯛の献上がある。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、皇親録、贈賜録

四日 日曜日 午前、奥内謁見所において、この日弘前へ出発する宣仁親王妃喜久子と御対面になり、挨拶をお受けになる。成子内親王・和子内親王が同席する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、呉竹寮日録
七日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より、「社会事業調査会答申」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

八日 木曜日 午前十一時御出門、大宮御所に行啓される。皇太后と御昼餐を御会食の後、お庭にお出ましになり、赤坂離宮前において皇后宮大夫の説明により造営中の東宮の御所を御覧になる。ついで萩の御茶屋にお立ち寄りになる。午後四時四十五分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、幸啓録、宮内省省報、官報

十日 土曜日 去る二日第二女子^{須美子}を出産した大谷智子に、この日、緋紋縮緬・三種交魚代料を下賜される。○贈賜録

十一日 日曜日 午後、奥内謁見所において、昨日北海道より帰京の崇仁親王と御対面になり、御機嫌伺いをお受けになる。ついで御書齋において、この日弘前より帰京した宣仁親王妃喜久子と御対面になり、挨拶をお受けになる。いずれも皇太子・成子内親王・厚子内親王が同席する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、呉竹寮日録

十二日 月曜日 午前、東京女子高等師範学校教授倉橋惣三より、去る九月二十八日に行われた「青年期の生活（四）」の進講の続きをお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

午後、北海道より還幸の天皇を皇太子・和子内親王・厚子内親王と共ににお出迎えになる。これに先立ち、天皇の横須賀軍港御入港に際しては、御使として皇后宮大夫広幡忠隆を御召艦に差し遣わされる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、呉竹寮日録、幸啓録、進退録、宮内省省報、官報

天皇と共に奥御対面所において、元皇后宮女官東貞子に謁を賜い、退官のお礼言上をお受けになる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、進退録、贈賜録

十三日 火曜日 午前、春仁王参内につき、天皇と共に奥内謁見所において御対面になり、翌日より

昭和十一年十月

満洲国への出張及び山口・島根・京都各府県下の視察に出発につき御機嫌伺いをお受けになる。続いて参内の載仁親王と御対面になり、北海道より天皇還幸後の御機嫌伺いをお受けになる。○女官日誌、侍

従職日誌、内舍人日誌、皇族旅行録

十四日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より「白楽天の母子愛の詩について」と題する進講をお聴きになる。宣仁親王妃喜久子が陪聴する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

皇太后御参内につき、天皇と共に奥御対面所において御対面になり、御昼餐を御会食になる。後刻、皇太子及び参内の成子内親王・和子内親王を交えて御一緒に過ごされる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、吳竹寮日録、省中日誌、幸啓録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報

十五日 木曜日 午後、天皇と共に奥御進講所において、皇子御養育掛長藤井種太郎に謁を賜い、成子内親王・和子内親王の成績につき奏上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、藤井種太郎日誌

一昨十三日別当^{朝香宮付}陸軍中将東乙彦死去につき、この日天皇・皇后・皇太后より祭資を下賜される。また、在官中の勤労に対し、天皇・皇后・皇太后より御紋付銀花瓶及び金員を下賜される。なお、これより先、同人の病氣危篤に際しては、お尋ねとして天皇・皇后より葡萄酒を下賜される。○省中日誌、進

退録、恩賜録、贈賜録、宮内省省報、官報

十七日 土曜日 午前、神嘗祭につき、賢所において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍

従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、儀式録、祭祀録、宮内省省報

十九日 月曜日 午前、東京女子高等師範学校教授倉橋惣三より、「児童、青年教養の実際問題 一、道徳的教養（一）」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、倉橋惣三関係資料

二十日 火曜日 天皇が海軍特別大演習行幸へ翌日御出発につき、皇太子・正仁親王・厚子内親王、及び参内の成子内親王・和子内親王を交えて御夕餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、呉竹寮日録

二十一日 水曜日 午前、海軍特別大演習行幸へ御出発の天皇を皇太子始め皇子女方と共に御送りになる。なお、御使として皇后宮大夫広幡忠隆を横須賀軍港の御召艦に差し遣わされる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、呉竹寮日録、省中日誌、幸啓録、進退録、宮内省省報、官報

東京帝国大学教授穂積重遠より、「税制改革について」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

御風気のため、この日より三十日まで断続的に御仮床に就かれる。○女官長日記、女官日誌

二十六日 月曜日 午前、東京女子高等師範学校教授倉橋惣三より進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

二十八日 水曜日 この日御風気のため、東京帝国大学教授穂積重遠の進講をお取りやめになる。また、和子内親王・厚子内親王を同伴されて多摩陵に御参拝予定のところ、同じくお取りやめになる。

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、幸啓録、官報、穂積家文書

昨二十七日元東宮武官陸軍少将伯爵壬生基義^{御叔父}死去につき、この日、天皇・皇后・皇太后より祭資を下賜される。なお、これより先、同人の病気に際しては、お尋ねとして天皇・皇后より果物を下賜される。○侍従職日誌、省中日誌、恩賜録、贈賜録、宮内省省報

三十日 金曜日 夕刻、海軍特別大演習行幸より還御の天皇を皇太子・正仁親王・厚子内親王及び参

昭和十一年十一月

内の成子内親王と共に御出迎えになる。なお、これに先立ち、御使として皇后宮大夫広幡忠隆を横須賀軍港の御召艦に差し遣わされる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、吳竹寮日録、省中日誌、進退録、宮内省省報、官報

三十一日 土曜日 午前、宣仁親王・同妃喜久子参内につき、奥内謁見所において御対面になり、関西地方より帰京の挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

十一月

二日 月曜日 午前、奥内謁見所において、今般ソビエト連邦へ赴任の特命全權大使重光葵に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、拝謁参拝録、宮内省省報、官報

鳩彦王妃允子内親王三年祭につき、天皇・皇后より御使として皇后宮女官津軽理喜子を霊殿及び墓所に差し遣わされ、御代拝を仰せ付けられる。また、天皇・皇后より霊殿に盛菓子、墓所に榊をお供えになり、皇后より允子内親王の写真に果物・切り花をお供えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、

贈賜録

去る十月下旬南洋庁管下において暴風雨被害発生につき、天皇・皇后より御救恤金を同庁に下賜される。○省中日誌、恩賜録、宮内省省報、官報

三日 火曜日 明治節につき、午前、参内の和子内親王に天皇と共に御対面になり、祝詞言上をお受けになる。その後、天皇と共に御学問所において、内大臣・宮内大臣及び側近男女高等官、宣仁親王・同妃喜久子始め皇族・王公族の拝賀をお受けになる。正午、奥内謁見所に親王妃・王妃・公妃を召さ

れ、内宴を催される。御食後、天皇と共に奥宮殿において、旧女官に謁を賜う。ついで皇太后御参内につき、天皇と共に奥宮殿において御対面になり、御一緒に酒饌をお召し上がりになる。皇太后御退出後、天皇・皇太子・正仁親王・厚子内親王及び参内の和子内親王と共に奥御食堂において、お祝御膳を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、吳竹寮日誌、省中日誌、幸啓録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報

四日 水曜日 午前、参内の鳩彦王と御対面になり、一昨日允子内親王三年祭に際してのお仕向けに對するお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

六日 金曜日 午前十時御出門、憲法記念館に行啓され、日本赤十字社第四十四回通常総会に臨御される。便殿において先着の宣仁親王妃喜久子始め皇族等と御対面の後、社長徳川家達より報告書その他書類の奉呈があり、社業の現況について言上をお受けになる。また、名誉職員に謁を賜う。ついで会場に臨御され、次の令旨を賜う。

本日茲に日本赤十字社第四十四回総会に臨み親しく諸君を見るを喜ぶ本社は総裁以下累年の努力に依り内は愈々其の施設を更張し外は益々諸邦赤十字社と友好を敦うするは深く満足する所なり社員一同宜しく時運に鑑み協力一致事業の伸暢を図り以て国家社会に貢献せむことを望む

総裁載仁親王より奉答がある。閉式後、大宮御所に行啓され、皇太后と御昼餐を御会食になる。御食後、午後三時十分大宮御所を御出門、再び憲法記念館に行啓され、愛国婦人会第三十五回通常総会に臨御される。便殿において総裁故依仁親王妃周子始め皇族妃・王族妃・公族妃と御対面になり、会長本野久子及び副会長水野満寿子貴族院議員水野鍊太郎夫人に謁を賜う。その後、式場に出御され、次の令旨を賜う。

昭和十一年十一月

愛国婦人会ハ茲ニ創立三十五周年ヲ迎ヘ其ノ基礎年ト共ニ堅ク施設經營益々見ルヘキモノアルハ
深ク満足スル所ナリ會員宜シク時世ノ進運ニ鑑ミ協心戮力愈々会務ノ内容ヲ充實シ事業ノ進展ヲ
図リ以テ婦人報國ノ使命ヲ達成センコトヲ望ム

總裁故依仁親王妃より奉答がある。閉式後、同所を御出発、四時十五分還啓される。その後、奥内謁
見所において、日本赤十字社總裁載仁親王、愛国婦人会總裁故依仁親王妃周子と御対面になり、行啓
のお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、幸啓録、宮内省省報、官報、
事業年報（日本赤十字社）、日本赤十字社史稿、愛国婦人会四十年史、梨本伊都子日記

七日 土曜日 午前、桐ノ間において、今般着任のカナダ特命全權公使ロバート・ランドルフ・ブルー
ス及び同夫人に謁見を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、謁見録、宮内
省省報、官報

天皇と共に奥御対面所において、雍仁親王・同妃勢津子と御対面になり、翌日弘前へ帰還の挨拶をお
受けになる。また親王より、今般英国皇帝エドワード八世戴冠式へ天皇の御名代として御差遣の御沙
汰拝受、及び同妃同伴の件についてのお礼言上、並びに各国巡行の願い出がある。なお、御差遣の儀
は、この年十二月同皇帝御退位のため自然消滅となる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人
日誌、省中日誌、秩父宮御日誌、皇親録、外国差遣録、宮内省省報、官報、雍仁親王実紀

九日 月曜日 午前、東京女子高等師範学校教授倉橋惣三より、「青年期の道德的教養」と題する進
講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、倉橋惣三関係資料

午後、奥内謁見所において、京都在住華族総代の子爵高倉永則に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従

職日誌、内舎人日誌、恩賜録

十日 火曜日 午後、天皇と共に新宿御苑において観菊会を催される。午後二時天皇と共に御出門、新宿御苑に行啓される。三時五十六分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、幸啓録、宮内省省報、官報、新宿御苑日誌

十一日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より、「電力国営について」と題する進講をお聴きになる。宣仁親王妃喜久子が陪聴する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、穂積家文書

十三日 金曜日 女子学習院開院記念祝賀式に臨御のため、午前九時三十分御出門、同院に行啓される。先着の宣仁親王妃喜久子始め各妃、在学中の成子内親王・和子内親王と御対面になる。その後、祝賀式会場^{講堂}に臨まれ、全生徒による唱歌「金剛石」「水は器」をお聴きになる。ついで生徒の学芸演習、各種体操・体育演習を御覧になる。御昼餐の後、常磐会にお立ち寄りになり、同会会員技芸演習場において女子学習院卒業生による献茶・盆石・生花等の各種技芸を御覧になる。午後二時四十分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、幸啓録、宮内省省報、官報、女子学習院

関係資料、梨本伊都子日記、読売新聞

十四日 土曜日 東京慈恵会総会に御臨席のため、午前十時二十五分御出門、同会に行啓される。総裁故恒久王妃昌子内親王、名誉会員宣仁親王妃喜久子始め十方と御対面になり、副会長以下の役員に謁を賜う。ついで式場に臨まれる。会長徳川家達より報告書奉呈の後、十三年勤続の同会病院看護婦長竹林喜代子に有功章を、看護婦教習所本年度卒業生三等看護婦相馬シンに優等章を授与される。終わって、同会医院長高木喜寛の先導により院内参考室を御覧になり、児玉周一<sup>同会医科
大学教授</sup>・永山武美^同の説

昭和十一年十一月

明をお聞きになる。十一時四十三分還啓される。後刻、参内の総裁故恒久王妃と御対面になり、この日行啓のお礼言上をお受けになる。なおこの日、皇后宮女官津軽理喜子・万里小路ソデを同会病院に差し遣わされ、施療患者にお言葉を伝達させられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、幸啓録、宮内省省報、官報、梨本伊都子日記、読売新聞、東京慈恵会医科大学百年史

奥内謁見所において、この日をもつて御用被免の乳人福島治・狩野のぶ・前田総子に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

十六日 月曜日 午前、東京女子高等師範学校教授倉橋惣三より、「趣味的教養」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

午後、天皇と共に奥内謁見所において、春仁王と御対面になり、今般満洲国より帰京の挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、皇族旅行録

十七日 火曜日 午後、奥内謁見所において、新任の別当^{秩父宮}今村信次郎に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、進退録、宮内省省報、官報

十八日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より、「明治天皇と輔弼の臣（一）」と題する進講をお聴きになる。宣仁親王妃喜久子が陪聴する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

二十日 金曜日 午前、奥内謁見所において、侍従より大膳頭に転任の黒田長敬、新任の宮内大臣官房秘書課長土岐政夫及び侍従徳川義寛に謁を賜う。午後、同所において、退任の前侍従長鈴木貫太郎、及び新任の侍従長百武三郎に謁を賜う。鈴木前侍従長より在職八年間のお礼言上をお受けになり、その際、お品を賜う。また、天皇・皇后・皇太后より御紋付文台硯箱を下賜される。○女官長日記、女官日誌

誌、侍従日誌、侍従職日誌、省中日誌、恩賜録、贈賜録、宮内省省報、官報

二十四日 火曜日 去る二十日尾去沢鉾山秋田県鹿角郡尾去沢町字中沢において発生の鉾毒沈殿池決壊による被害につ

き、この日、天皇・皇后より御救恤金を秋田県に下賜される。○侍従日誌、侍従職日誌、省中日誌、恩賜録、重要雑録、宮内省省報、官報

二十五日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より、「明治天皇と輔弼の臣（二）」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、穂積家文書

多摩陵に御参拝のため、午後零時三十分厚子内親王翌年学齡のため随伴と共に御出門になり、原宿駅より東浅川駅を経て同陵に着御される。陵前に参進され、御拝礼になる。ついで厚子内親王が拝礼する。終わって、御休所において諸陵頭以下扈從の高等官に謁を賜う。三時五十分還啓される。なお、この日予定されていた和子内親王かねて学齡前に参拝予定のところ延期の参拝は、昨二十四日より風氣のため取りやめとなる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、幸啓録、宮内省省報、官報

二十六日 木曜日 午前、奥内謁見所において、大聖寺門跡の石野慈栄及び花山院慈薫に謁を賜い、御機嫌伺いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、贈賜録

午後、天皇と共に奥御対面所において、宣仁親王と御対面になり、海軍大学校卒業につきお礼言上をお受けになる。天皇・皇后より三種交魚及びお品を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、皇族身分録、贈賜録

天皇と共に御学問所において、新任の侍従長百武三郎・侍従武官長宇佐美興屋、前任の侍従長鈴木貫

昭和十一年十二月

太郎・侍従武官長本庄繁と御夕餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌
二十八日 土曜日 正仁親王初誕辰につき、午前、天皇及び正仁親王と共に奥内謁見所において、内大臣・宮内大臣・宮内次官及び侍従長始め側近奉仕高等官の拝賀をお受けになる。ついで皇太后御使として参内の権典侍清水谷英子に謁を賜う。その後、天皇・皇太子・正仁親王・厚子内親王及び参内の成子内親王・和子内親王と共に奥御食堂において、お祝御膳をお召し上がりになる。夕刻、天皇及び正仁親王と共に奥内謁見所において、内宴に召された宣仁親王・同妃喜久子始め在京の皇族・公族等の拝賀をお受けになる。ついで、天皇と共に豊明殿において、内宴を催される。なお内宴は、正仁親王の賢所皇靈殿神殿に謁するの儀当日^{四月五日}に実施予定のところ延期となり、この日、初誕辰に併せて行われた。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、呉竹寮日録、省中日誌
三十日 月曜日 午前、東京女子高等師範学校教授倉橋惣三より、「趣味と芸術」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌
午後、天皇と共に御座所において、鈴木タカに謁を賜い、夫貫太郎の侍従長在職中のお礼、及び退職賜物についてのお礼の言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌

十二月

一日 火曜日 午前、奥内謁見所において、今般ソビエト連邦より帰国の特命全権大使大田為吉及び同夫人、トルコ国より帰国の特命全権大使徳川家正、スイス国より帰国の特命全権公使堀田正昭及び同夫人、オランダ国より帰国の特命全権公使武富敏彦及び同夫人に順次謁を賜い、お言葉を賜う。○

女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、拝謁参拝録、宮内省省報、官報

二日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より、「日独防共協定について」と題する進講をお聴きになる。宣仁親王妃喜久子が陪聴する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、穂積家文書

午後、御書齋において、大谷智子及び同息女須美子と御対面になり、須美子誕生に際してのお仕向けに對するお礼言上をお受けになる。皇太子・厚子内親王も同席する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録

四日 金曜日 午前、元侍従武官蓮沼蕃に謁を賜い、今般第九師団長として満洲へ赴任の挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、百武三郎日記

六日 日曜日 成子内親王の誕生日につき、かねて延期の和子内親王・厚子内親王の誕生日のお祝いも併せて祝賀が行われる。午前、天皇・厚子内親王及び参内の成子内親王・和子内親王と共に奥内謁見所において、内大臣・宮内大臣始め各総代、皇后宮女官長始め皇后宮女官等より拝賀をお受けになる。天皇及び皇太子・正仁親王・三内親王と共に奥御食堂においてお祝御膳をお召し上がりになった後、天皇及び三内親王と共に奥内謁見所において、元皇后宮女官の拝賀をお受けになる。終わって、天皇及び皇太子と共に呉竹寮にお出ましになり、先着の三内親王を交えて手品・活動写真等の余興を御覧になる。夕刻、天皇及び皇太子と共に宮殿に還御される。その後、天皇と共に御学問所において内宴を催され、皇太子及び三内親王、側近奉仕者等と御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、呉竹寮日録

午前、去る二日誕生日を迎えた崇仁親王参内につき、天皇と共に御対面になり、挨拶をお受けになる。

昭和十一年十二月

○侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

七日 月曜日 午前十一時天皇と共に御出門、大宮御所に行啓される。皇太后と御対面になり、本年中のお札を述べられ、御昼餐を御会食になる。午後三時十七分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、幸啓録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報

九日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より「米国大統領選挙について」と題する進講をお聴きになる。宣仁親王妃喜久子が陪聴する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、穂積家文書

十日 木曜日 午後、昨日弘前より帰京の雍仁親王・同妃勢津子参内につき、天皇と共に奥御対面所において御対面になり、親王より今般歩兵第三十一聯隊付より参謀本部付に転任の挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、秩父宮御日誌、省中日誌、皇親録、皇族身分録、重要雑録、宮内省省報、官報、雍仁親王実紀

歳末に際し、東京府管下の困窮病者救済の目的をもって公私施療団体が協力して無料救済を実施につき、思召しをもって金員を同府に下賜される。○恩賜録、宮内省省報

十一日 金曜日 午前、桐ノ間において、デンマーク国特命全権公使ルドルフ・フレデリック・カルル・アダム・ベルトウーシユ・リーヌの夫人に謁見を仰せ付けられ、今般着京の挨拶をお受けになる。

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、謁見録、宮内省省報、官報

午後、奥御進講所において、先般宗秩寮宗親課長に転任の前皇后宮事務官兼侍従野口明に謁を賜う。

○女官長日記、女官日誌

今般宮内省第二期庁舎竣工につき、この日より十四日までの間、侍従職等の関係部局が仮庁舎より移

転する。宮内省第二期庁舎は、昨年十月落成の宮内省庁舎と宮殿北御車寄との間に建設され、昨年一月三十一日起工、この年十月二十五日竣工する。鉄骨鉄筋コンクリート造、地上三階、地階一階、延面積約四千三百平方メートルの建物で、侍従職及び皇后宮職の一部、侍医寮、大膳寮の一部、内閣大臣室等に充てられる。また、地階には金庫室^{延面積約三百七十平方メートル}が備えられる。○省中日誌、工事録、幸啓録、松平恒雄追想録、皇室建築

十二日 土曜日 午前、奥内謁見所において、恒憲王・同妃敏子と御対面になり、御機嫌伺い及び今般騎兵第十聯隊長より騎兵第十六聯隊長に転任につき帰京の挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

誌、侍従職日誌、省中日誌、皇族身分録、宮内省省報

十四日 月曜日 午前、東京女子高等師範学校教授倉橋惣三より「趣味と芸術（二）」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌

十五日 火曜日 夕刻、賢所御神楽につき、御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、儀式録、祭祀録、宮内省省報

十六日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より「昭和十二年度の予算について」と題する進講をお聴きになる。雍仁親王妃勢津子と宣仁親王妃喜久子が陪聴する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

午後、奥内謁見所において、今般関東軍へ差遣される侍従武官酒井康に謁を賜い、関東軍司令官への令旨を下される。酒井は翌十七日出発、翌年一月二十六日帰京、二月二十四日復命する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、侍従武官府歴史、宮内省省報、官報

昭和十一年十二月

十七日 木曜日 午前、奥内謁見所において、元侍従武官の廉をもって前第三艦隊司令長官及川古志郎に謁を賜う。○侍従職日誌、内舍人日誌

皇太后御参内につき、天皇と共に奥宮殿において御対面になり、歳末の御挨拶をお受けになる。ついで、御昼餐を御会食になる。その後、皇太子・厚子内親王及び参内の成子内親王・和子内親王を交えて過ごされる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、吳竹寮日録、省中日誌、行啓録、幸啓録、重要

雑録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報

向寒に際し、思召しをもって日本赤十字社病院・恩賜財団済生会病院・東京慈恵会医院の各救助収容患者及び財団法人福田会育児院収容者の十六歳以上の者に木綿反物・裏地・裁縫料を、十五歳以下の者に洋服をそれぞれ下賜される。○贈賜録、官報、日本赤十字社史稿、事業年報（日本赤十字社）

十八日 金曜日 午前、桐ノ間において、今般着任のペルー国特命全権公使リカルド・リヴェラ・シュレイベルに謁見を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、謁見録、

宮内省省報、官報

午後、天皇と共に奥内謁見所において、孚彦王と御対面になり、藤堂千賀子伯爵藤堂高紹の息女との婚約の勅許につきお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、皇族身分録、孚彦王殿下御

結婚の件

十九日 土曜日 日本赤十字社に対し、病院御補助の思召しをもって天皇・皇后より金一封を下賜される。同賜金は、明治二十四年以来病院維持費として年々継続され、昨年をもって期限満了のところ、同社より引き続き下賜の願い出がある。赤十字病院に対しては皇后より施療費補助の賜金もあり、ま

た既に病院の基礎も確立したため、従来の額を減じ、継続とせず年々の詮議とする条件にて、今回下賜される。また、皇后より同社病院救助患者施療費として金一封を例年のとおり下賜される。○省中日誌、恩賜録、事業年報（日本赤十字社）、日本赤十字社史稿

二十一日 月曜日 午前、奥内謁見所において、故成久王妃房子内親王と御対面になり、去る十日立花美年子^{成久王の王女}男子出産に際してのお仕向けに対するお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍

従職日誌、贈賜録

二十二日 火曜日 午前、桐ノ間において、今般退官帰国のスウェーデン国特命全権公使ヨハン・エリック・エーワルド・フルトマン及び同夫人・息女に謁見を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍

従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、謁見録、宮内省省報、官報

二十三日 水曜日 皇太子の誕生日につき、天皇及び皇太子と共に奥内謁見所において、宮内大臣始め総代、皇后宮女官長始め皇后宮女官等の拝賀をお受けになる。ついで、雍仁親王・同妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子、載仁親王以下の皇族・王公族の拝賀をお受けになる。終わって、皇太子と共に元皇后宮女官に謁を賜う。天皇及び皇太子・和子内親王・厚子内親王と共に奥御食堂においてお祝御膳をお召し上がりになった後、お一方にて、御学友加藤貞に謁を賜う。夕刻、天皇と共に御学問所において内宴を催され、皇太子・成子内親王・和子内親王・厚子内親王、宮内大臣始め側近男女高等官と御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、吳竹寮日録、省中日誌、秩父宮御日誌

二十四日 木曜日 午前、奥内謁見所において、今般満洲より帰還の元第九師団長陸軍中将山岡重厚に謁を賜う。その際、お言葉を賜い、繙帯下賜のお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従

昭和十一年十二月

職日誌、内舎人日誌、侍従武官府歴史

二十五日 金曜日 大正天皇十年式年祭につき、多摩陵に御参拝のため、午前八時五十分天皇と共に御出門、原宿駅より御乗車、東浅川駅にて御降車になり、同陵御休所に着御される。天皇の御拝礼後、陵前に参進され、御拝礼になる。午後零時三十三分還啓される。○女官長日誌、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、秩父宮御日誌、儀式録、祭祀録、幸啓録、宮内省省報、官報

二十六日 土曜日 午前、松平信子に謁を賜い、昨日大正天皇十年式年祭に当たり賜物拝領のお礼言上をお受けになる。○女官長日誌、女官日誌、侍従職日誌

午後、雍仁親王参内につき御対面になり、英国皇帝ジョージ六世戴冠式へ天皇の御名代として御差遣の御沙汰拝受の件につきお礼言上をお受けになる。○女官長日誌、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、秩父宮御日誌、外国差遣録、宮内省省報、官報

夕刻、この日誕生日を迎えた宣仁親王妃喜久子と御対面になり、万那料拝領のお礼言上をお受けになる。○女官長日誌、女官日誌、侍従職日誌、贈賜録

二十八日 月曜日 午前、成子内親王・和子内親王参内につき、天皇と共に御対面になり、この日葉山御用邸附属邸へ出発するに当たり、暇乞いをお受けになる。○女官長日誌、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、呉竹寮日誌

昨二十七日東京府新島において震災被害発生につき、天皇・皇后より御救恤金を同府に下賜される。

○省中日誌、恩賜録、宮内省省報、官報、読売新聞

二十九日 火曜日 午前、天皇と共に奥内謁見所において、宮内大臣始め総代、並びに皇后宮女官長

始め皇后宮女官等に謁を賜い、歳末の祝詞言上をお受けになる。また、お揃いにて同所において載仁親王以下の皇族・王公族と御対面になり、祝詞言上をお受けになる。午後、天皇と共に同所において、元皇后宮女官に謁を賜う。ついでお一方にて歳末につき参内の鍋島紀久子鍋島直泰夫人、鳩彦王の王女に謁を賜う。さらに天皇と共に奥御対面所において、歳末につき参内の故恒久王妃昌子内親王・故成久王妃房子内親王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

午後、雍仁親王参内につき、天皇と共に奥御対面所において御対面になる。その際、英国御差遣の御沙汰及び賜金拝領につきお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、

秩父宮御日誌

三十日 水曜日 午前、朝融王参内につき、奥内謁見所において御対面になり、歳末の祝詞言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

午後、天皇と共に奥御対面所において、歳末につき参内した旧女官の園祥子・生源寺伊佐雄に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

三十一日 木曜日 午前、天皇と共に奥内謁見所において、参内の春仁王ほか皇族と順次御対面になり、歳末の祝詞言上をお受けになる。午後、皇太后御使として典侍竹屋津根子参内につき、天皇と共に奥内謁見所において謁を賜い、歳末の祝詞言上をお受けになる。天皇・皇后より皇后宮女官長竹屋志計子を御使として大宮御所に差し遣わされ、皇太后に歳末の祝詞をお伝えになる。また、歳末のため雍仁親王・同妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王参内につき、天皇と共に奥御対面所において御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、秩父宮御日誌

昭和十二年一月

昭和十二年（西曆一九三七年） 三十四歳

一月

一日 金曜日 新年につき、午前、天皇と共に御学問所において、成子内親王・和子内親王の御使のほか、宮内大臣を始め側近奉仕高等官の拝賀をお受けになる。ついで午前十時、拝賀の儀に臨まれる。天皇と共に鳳凰ノ間において、雍仁親王・同妃勢津子始め皇族・王公族の拝賀をお受けになる。以下、新年式に従い、正殿及び西溜ノ間において恒例のとおり拝賀をお受けになる。翌二日にも拝賀の儀が行われる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、儀式録、宮内省省報、藤井種太郎日誌

三日 日曜日 午前、元始祭につき、賢所・皇靈殿・神殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、儀式録、祭祀録、宮内省省報

天皇と共に奥内謁見所において、盛厚王始め未成年皇族と御対面になる。午後、天皇と共に、年始の挨拶のため参内した故恒久王妃昌子内親王と御対面になる。また、この日誕生日を迎えた宣仁親王と御対面になり、鮮鯛拝領のお礼言上をお受けになる。昌子内親王・宣仁親王の退出後、天皇と共に奥内謁見所において、年始の挨拶のため参内した故依仁親王妃周子・故邦彦王妃俔子^{御母}と御対面になる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録

五日 火曜日 正午、皇太后宮御休所において、参内の雍仁親王妃勢津子を始め皇族・公族と御対面になる。引き続き奥内謁見所において内宴を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

日誌

午後、皇太后御参内につき、天皇と共に奥御対面所において御対面になり、新年の祝詞をお受けになる。ついで奥御食堂においてお祝いの酒饌を召される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報

六日 水曜日 午前、皇后宮職嘱託松井定克をお召しになり、謡初め^{老松、草紙洗、難波}を行われる。以後、同人

による謡曲の指導は七月一日まで不定期に行われる。○女官長日記、女官日誌

午後、年始挨拶のため元皇后宮女官の山岡淑子・青山元子・油小路蒙子参内につき、天皇と共に奥内謁見所において謁を賜う。ついで故成久王妃房子内親王・永久王参内につき、天皇と共に奥内謁見所において御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

七日 木曜日 午前十一時天皇と共に御出門、大宮御所に行啓され、皇太后と御対面になり、ついでお祝御膳を御会食になる。午後三時二十五分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、幸啓録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報

八日 金曜日 午前、二重橋付近にお出ましになり、宮城前外苑において挙行の陸軍始観兵式を内々に御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

午後、奥内謁見所において、今般トルコ国へ赴任の特命全権大使武富敏彦及び同夫人、チェコスロバキア国へ赴任の特命全権公使藤井啓之助及び同夫人、メキシコ国へ赴任の特命全権公使越田佐一郎に

昭和十二年一月

謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、拝謁参拝録、宮内省省報、官報

奥内謁見所において、年始挨拶のため参内した三条西信子御妹と御対面になる。その後、天皇と共に、

成子内親王・和子内親王、及び翌九日より葉山へお成りの皇太子・厚子内親王と御対面になる。○女官

長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

九日 土曜日 午後、天皇と共に呉竹寮にお出ましになり、成子内親王・和子内親王と御一緒にお過ごしになる。以後、この年は、土曜日を定例としてお一方又は天皇と共に呉竹寮にお出ましになり、内親王方の勉強や稽古あるいは成績品等を御覧になり、御一緒にお過ごしになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、呉竹寮日誌、藤井種太郎日誌

十日 日曜日 午前、雍仁親王・同妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子参内につき、天皇と共に奥御対面所において御対面になり、寒中及び翌日よりの葉山行幸啓につき御機嫌伺いをお受けになる。その後、故恒久王妃昌子内親王・稔彦王妃聡子内親王参内につき、天皇と共に奥内謁見所において御対面になり、御機嫌伺いをお受けになる。以後、この年も随時、皇族・王公族・御親族と御対面・御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、秩父宮附日記、秩父宮御日誌

午前、天皇と共に、日曜日につき参内した成子内親王・和子内親王と御対面になる。午後、両内親王及び側近奉仕者をお相手に能カルタをされる。以後、この年も随時、皇太子始め皇子女と御対面・御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

十一日 月曜日 英照皇太后四十年式年祭につき、午前、皇靈殿において御拝礼になる。山陵の儀は、宮内省京都地方事務所長森田久造に御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、

内舍人日誌、省中日誌、儀式録、祭祀録、宮内省省報

天皇と共に葉山御用邸に行啓される。午後一時五十五分御出門、三時二十五分同邸に着御される。○

女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、省中日誌、行幸録、幸啓録、宮内省省報、官報

満洲事変傷痍者に対し、思召しをもつて繙帑六百本を下賜される。○侍従職日誌

十二日 火曜日 午後、天皇と共に御研究室において、御採集品をお調べになり、整理される。以後、

御用邸御滞在中は折に触れ、天皇と共に、又はお一方にて、御研究室において御採集品を整理される。

○女官日誌

十三日 水曜日 午後、この日東宮傳育官を拝命の山田康彦・子爵東園基文参邸につき、天皇と共に

謁見所において謁を賜う。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、省中日誌、幸啓録、進退録、宮内省省報、官報

二十日 水曜日 午前十時三十分皇太子・厚子内親王のお見送りをお受けになり、天皇と共に葉山御用邸を御出門、十一時五十五分宮城に還啓される。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、

内舍人供奉日誌、省中日誌、行幸録、幸啓録、宮内省省報、官報

二十一日 木曜日 午前、桐ノ間において、今般帰京のエレーヌ・バツソンピエール<sup>ベルギー国特命全權大使
アルベール・ド・バツソ
ンピエール夫人</sup>に謁見を仰せ付けられ、御機嫌伺いをお受けになる。○女官長日誌、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、謁

見録、宮内省省報、官報

午後、奥内謁見所において、今般朝鮮軍へ御差遣の侍従武官四手井綱正に謁を賜い、令旨を下される。四手井は二十三日出發、朝鮮軍国境守備部隊等の状況を実視し、二月二十四日帰京、三月二十六日復命する。○女官長日誌、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、侍従武官府歴史、宮内省省報、官報

昭和十二年一月

二十二日 金曜日 午前十時、天皇と共に鳳凰ノ間において、講書始の儀に臨まれる。国書は帝国学士院会員和田英松より「日本書紀持統天皇の条及其他の忠君愛国に関する史実」を、漢書は東京文理科大学教授諸橋轍次より「論語憲問篇子路問君子章」を、洋書は帝国学士院会員宮部金吾より「エーサー・グレー (Asa Gray) の業績 殊に東亜と北米大西洋沿岸地方との植物分布に関する学説」をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、儀式録、儀式祭典録、宮内省省報、官報

二十五日 月曜日 午前、東京女子高等師範学校教授倉橋惣三より「社会的教養」と題する進講をお聴きになる。以後、この年六月まで、月曜日を定例として同人より十三回にわたって進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

二十六日 火曜日 午前十時、天皇と共に鳳凰ノ間において、歌会始の儀に臨まれる。この年のお題は「田家雪」であり、皇后の御歌は次のとおり。

皇后宮御歌

この秋もみのりよからむをやまたのさとましろにそゆきのふりける

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、御歌録、儀式録、儀式祭典録、宮内省省報、官報、あけぼの集

午後、奥内謁見所において、今般支那駐屯軍へ御差遣の侍従武官後藤光蔵に謁を賜い、令旨を下される。後藤は翌日出発、同軍の状況を実視した後、二月二十日帰京し、三月二十二日復命する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、侍従武官府歴史、宮内省省報、官報、百武三郎日記

二十八日 木曜日 皇后宮女官長竹屋志計子を御使として大宮御所に差し遣わされ、昨日邦彦王父御の

祥月命日に際してのお尋ねに対するお礼をお伝えになる。以後、この年も折に触れ、参内した皇太后御使に謁を賜い、また、天皇・皇后あるいは皇后から大宮御所に御使を遣わされる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

二十九日 金曜日 午前、皇后宮職御用掛加藤虎之亮より、漢文の進講として『日本外史』をお聴きになる。以後、この年六月まで、金曜日を定例として同人より十六回にわたって漢文の進講をお聴きになり、『日本外史』『論語』『大学』等を学ばれる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、加藤虎之亮関係資料

皇太子始め皇子女に玩具献上のため松平信子宮内大臣松平恒雄夫人参内につき、奥内謁見所において謁を賜う。○女官長日記、女官日誌

三十日 土曜日 午前、孝明天皇例祭につき、皇霊殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、儀式録、祭祀録、宮内省省報

三十一日 日曜日 午後、天皇と共に花蔭亭において、雍仁親王・同妃勢津子と御対面になり、昨日旅行より帰京の挨拶をお受けになり、成子内親王・和子内親王を交えて茶菓を召される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、呉竹寮日誌、秩父宮御日誌、雍仁親王実紀

二月

一日 月曜日 午前、東京女子高等師範学校教授倉橋惣三より「社会的教養」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

昭和十二年二月

三日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より「偉大なる母と娘 キュリー夫人とジョリオ夫人について」と題する進講をお聴きになる。穂積は、山本有三著『人類の進歩につくした人々』日本少国民文庫第八巻に基づき、キュリー夫人とその息女ジョリオ夫人のノーベル賞受賞の経緯について進講する。以後、この年は、水曜日を定例として同人より十九回にわたって進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

八日 月曜日 午前、東京女子高等師範学校教授倉橋惣三より「少年期の社会的教養」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

九日 火曜日 午前、桐ノ間において、今般日伊交換教授のため来日の伊国学士院会員ジュセツペ・ツツチローマ大学教授にして、東洋文化を専門とする及び同夫人に謁見を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、謁見録、宮内省省報、官報

去る六日宮中顧問官長崎省吾死去につき、この日天皇・皇后・皇太后より祭資を下賜される。なお、病氣危篤に際しては、お尋ねとして天皇・皇后・皇太后より葡萄酒を賜う。○省中日誌、恩賜録、宮内省省報、官報

十日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より「西安事件と中華民国の情勢」と題して、西安事件の顛末とその意義についての進講をお聴きになる。宣仁親王妃喜久子が陪聴する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、穂積家文書

午後、奥内謁見所において、今般御機嫌伺いのため京都より上京参内の樹下定江に謁を賜う。夕刻、

奥御座所において、この年初参内の元侍女の鈴木タカ元侍従長鈴木
貫太郎夫人・曾根ナツに謁を賜い、御機嫌伺いを

お受けになる。以後、この年も随時、元奉仕者の拝謁等がある。○女官長日誌、女官日誌、侍従職日誌

十一日 木曜日 午前、紀元節祭につき、賢所・皇靈殿・神殿において御拝礼になる。その後、今般渡欧のため神宮・山陵参拝へこの夜出発の雍仁親王・同妃勢津子参内につき、天皇と共に奥内謁見所において御対面になる。ついで天皇と共に御学問所において、宮内大臣・内大臣以下の側近奉仕高等官より拝賀をお受けになり、引き続き雍仁親王以下の皇族・公族より拝賀をお受けになる。天皇が紀元節宴会に臨御の間、参内の成子内親王・和子内親王と御一緒に奥宮殿において酒饌を召される。○

女官長日誌、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、呉竹寮日誌、省中日誌、秩父宮御日誌、祭祀録、宮内省省報、官報

十二日 金曜日 本日付をもって陸軍大臣より皇后宮大夫に対し、今般皇后より義眼・義肢を拝受した満洲事変による傷痍者の写真を、皇后へ奉呈することを願う通牒が発せられる。○贈賜録

十三日 土曜日 大聖寺、宝鏡寺、曇華院、靈鑑寺、林丘寺、円照寺、中宮寺、瑞竜寺、三時知恩寺、水薬師寺、長福寺、善光寺、法華寺、禅智院に乾海苔を賜う。○贈賜録

十四日 日曜日 麝香間祇候侯爵浅野長勲去る一日死去につき、この日、天皇・皇后よりそれぞれ盛菓子を、皇后より柿を下賜される。なお、同人の危篤に際して、天皇・皇后よりお尋ねとして葡萄酒を下賜される。また、別当陸軍中将山田良之助去る十二日死去につき、この日、天皇・皇后より祭資を下賜される。なお、同人の危篤に際して、天皇・皇后・皇太后よりお尋ねとして葡萄酒を下賜される。○侍従職日誌、省中日誌、恩賜録、贈賜録、宮内省省報、官報

十八日 木曜日 午前、奥内謁見所において、来る四月ロンドンにおいて開催の万国学術研究会議第

昭和十二年二月

七回総会へ参列のため出発の学術研究会議長長桜井錠二に謁を賜う。正午過ぎ、再び奥内謁見所に出御され、今般侍医を拝命の緒方安雄・太田敬三に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、拝謁参拝録、宮内省省報、官報

午後、天皇と共に豊明殿において、今般離任帰国のフランス国特命全權大使アルベール・カメレール及び同夫人・息女のために午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、謁見録、宮内省省報、官報

十九日 金曜日 午後、雍仁親王・同妃勢津子参内につき、天皇と共に奥御対面所において御対面になり、神宮・山陵参拝より帰京の挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、秩父宮御日誌、外国差遣録、重要雑録、雍仁親王実紀

二十二日 月曜日 午前、東京女子高等師範学校教授倉橋惣三より「青年期ノ社会的教養」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

午後、顕忠府に初めてお出ましになり、侍従武官長宇佐美興屋の説明にて収蔵品を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、重要雑録、侍従武官府歴史

二十三日 火曜日 午後、天皇と共に豊明殿において、今般英国皇帝ジョージ六世・皇后エリザベス戴冠式への御差遣並びに海外旅行へ出発の雍仁親王・同妃勢津子のため御送別の午餐を催される。御食後、牡丹ノ間において御談話になり、天皇と共に親王・同妃の随行員に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、秩父宮御日誌、外国差遣録、儀式録、皇親録、重要雑録、雍仁親王実紀、宮内省省報、官報

二十四日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より「ブラジル移民について」と題して、邦人の海外発展、ブラジル国の情勢、ブラジル移民の種類、ブラジル移民保護奨励施設、邦人の活動状況、ブラジルの外国移民制限問題についての進講をお聴きになる。宣仁親王妃喜久子が陪聴する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、穂積家文書

二十六日 金曜日 二・二六事件一周年につき、思召しをもつて故斎藤実・故高橋是清の各夫人にそれぞれ菓子を下賜される。○女官日誌、侍従職日誌、贈賜録

三月

一日 月曜日 午前、東京女子高等師範学校教授倉橋惣三より「宗教的教養」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

午後、奥内謁見所において、この日参謀本部総務部長に転補の前侍従武官中島鉄蔵、新任の侍従武官町尻量基に謁を賜う。その際、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、侍従武官府資料、官報

二日 火曜日 満洲における今回の事変により傷痍を受けて手足を切断した者に対し、思召しをもつて義肢を下賜される。なお、満洲事変による傷痍者に対するこの年の義眼・義肢の下賜は九回に及ぶ。

○贈賜録

三日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より「母子保護法案」と題する進講をお聴きになる。穂積は、母子保護法案の条文とその理由書につき言上する。終了後、陪聴の宣仁親王妃喜久子と御書齋において御談話になる。その際、天皇・皇后に『幟仁親王日記』が献上される。○女官長日記、女官日誌

昭和十二年三月

誌、侍従職日誌、内舎人日誌、徳積家文書

日本女子大学校に対し、教育御奨励の思召しをもって金一封を下賜される。○省中日誌、奨励録、日本女子大学校四十年史

五日 金曜日 午後、天皇と共に奥内謁見所において、宇都宮の御仮寓所よりこの日帰京の李王垠・同妃方子女王と御対面になる。歩兵第五十九聯隊長として宇都宮に赴任中の李王垠は、この月一日付にて陸軍士官学校教官に転補され、帰京した。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、進献録、王公族録、宮内省省報、官報

翌六日にお誕生日を迎えられるに当たり、この日、思召しをもって、育児院・乳児院・産院等の全国乳幼児保護施設に収容保護中の乳幼児に、栄養品料として金一封を下賜される。○侍従職日誌、省中日誌、贈賜録、恩賜録、官報

六日 土曜日 満三十四歳のお誕生日を迎えられる。

午前、奥内謁見所において内大臣始め側近高等官一同の拝賀をお受けになり、続いて元皇后宮女官総代に謁を賜う。ついで桐ノ間において雍仁親王・同妃勢津子始め在京の皇族・王公族の拝賀を、続いて内閣総理大臣始め公爵以上、宮内勅任官・同待遇並びに以上の者の夫人の拝賀をお受けになる。その後、西溜ノ間において宮内奏任官・同待遇の拝賀をお受けになる。また、成子内親王・和子内親王より祝詞言上をお受けになる。正午、奥内謁見所において広幡文子^{皇后宮大夫広幡忠隆夫人}に謁を賜い、祝詞言上をお受けになる。その後、天皇及び皇太子・成子内親王・和子内親王・厚子内親王と共に祝御膳を御会食になる。午後、お祝いの思召しをもって、謡「西王母」「鶴亀」を御披露になる。○女官長日記、女官

日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、呉竹寮日誌、省中日誌、儀式録

七日 日曜日 厚子内親王の誕生日につき、午前、天皇及び厚子内親王と共に奥内謁見所において、宮内高等官総代、皇后宮女官長始め内廷職員の手賀をお受けになる。正午、天皇及び皇太子・成子内親王・和子内親王・厚子内親王と共に祝御膳をお召し上がりになる。午後、申ノ口において、皇后のお誕生日並びに厚子内親王の誕生日を祝して余興が催され、内大臣より側近奉仕者への感状授与、日名子実三の制作した側近奉仕者の諷刺絵、模擬店等を御覧になる。夕刻、御学問所において内宴が催され、天皇及び皇太子・成子内親王・和子内親王・厚子内親王と御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、呉竹寮日誌

八日 月曜日 午前、東京女子高等師範学校教授倉橋惣三より「宗教的教養」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

九日 火曜日 午前、天皇と共に奥内謁見所において、この日皇后宮職御用掛を拝命の道木菊重に謁を賜う。正午、侍医頭を退官の佐藤恒丸に謁を賜い、続いて新任の侍医頭八田善之進に謁を賜う。なおこの日、雪井よし子は皇后宮職御用掛を免じられ、皇子御養育掛を拝命する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、省中日誌、進退録、贈賜録、宮内省省報、官報

今般英国へ出発の雍仁親王・同妃勢津子のため、送別の御晩餐が催される。夕刻、天皇と共に奥御対面所において、お招きにより参内の皇太后、雍仁親王・同妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王、故恒久王妃昌子内親王、故成久王妃房子内親王と御歓談になる。その後、御学問所において御会食になる。御食後、一同と共に申ノ口において模擬店を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍

昭和十二年三月

従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、秩父宮御日誌、重要雜録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報

十日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より「賢妻貞婦列伝」と題する進講をお聴きになる。宣仁親王妃喜久子が陪聴する。この日の進講は、高群逸枝著『大日本女性人名辞書』に所収の女性のうち二十六人を題材として行われる。○女官長日誌、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、穂積家文書

十一日 木曜日 御風気につき、御仮床に就かれる。これにより、翌日の皇后宮職御用掛加藤虎之亮の定例進講、フランス国特命全權大使夫妻及びスウェーデン国特命全權公使の御引見をお取りやめになる。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌

十五日 月曜日 天皇・皇后の御使として皇后宮女官津輕理喜子を秩父宮邸に差し遣わされ、今般天皇の御名代として英国^{英国皇帝ジョージ六世、皇后エリザベス戴冠式}に差遣される雍仁親王、及び同妃勢津子に対し、天皇・皇后よ

りの御贈進品をお届けになる。○女官長日誌、女官日誌

十六日 火曜日 午前、桐ノ間において、今般離任帰国のイラン国特命全權公使ミルザ・バゲール・ハーン・アジミ及び同夫人に謁見を仰せ付けられる。○女官長日誌、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、謁見録、宮内省省報、官報

十七日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より「国民健康保険制度について」と題して、国民の健康は国力の源泉、国民の健康状態、医療保護の必要、医療費負担に関する問題、保険組織による解決、以上五点についての進講をお聴きになる。宣仁親王妃喜久子が陪聴する。○女官長日誌、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、穂積家文書

午後、天皇と共に奥御対面所において、翌十八日に英国へ出発する雍仁親王・同妃勢津子と御対面に

なり、暇乞いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、秩父宮御日誌、雍仁親王実紀

十八日 木曜日 午後、英国皇帝ジョージ六世・皇后エリザベス戴冠式に天皇御名代として臨席する雍仁親王が同妃勢津子を伴って出発するに際し、皇后宮女官長竹屋志計子を御使として秩父宮邸に差し遣わされる。またお見送りのため、皇后宮大夫広幡忠隆を御使として東京駅に差し遣わされ、御沙汰を伝達させられる。皇后宮大夫はその後、横浜港において親王・同妃の出發を見送り、帰還する。皇后は、その間、親王・同妃の横浜着の模様並びに乗船の光景についてのラジオ放送をお聴きになる。

夕刻、別当^{秩父宮付}今村信次郎より御使御差遣のお札言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍

従職日誌、省中日誌、秩父宮附日記、外国差遣録、重要雜録、進退録、秩父宮御渡欧関係書類、宮内省省報、官報、雍仁親王実紀

十九日 金曜日 去る十六日發生の静岡県田方郡持越金山坑道火災に対し、天皇・皇后より御救恤として金一封を同県知事に下賜される。○省中日誌、恩賜録、宮内省省報、官報

二十日 土曜日 故能久親王妃富子一年祭につき、皇后宮使として皇后宮事務官入江相政を榎舎^{北白川宮邸}

に、皇后宮事務官小倉庫次を墓所^{豊島岡墓地}に差し遣わされ、玉串をお供えになる。また、天皇・皇后より

靈前に盛菓子を、墓前に榊をお供えになる。さらに、別に皇后より果物・切り花を榎舎にお供えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、皇親録、贈賜録、宮内省省報、官報

二十二日 月曜日 午前、東京女子高等師範学校教授倉橋惣三より「宗教的教養」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌

昭和十二年三月

午後、故成久王妃房子内親王・永久王参内につき、天皇と共に奥内謁見所において御対面になり、故能久親王妃富子一年祭へのお仕向け等につきお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

二十四日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より「孫子について」と題する進講をお聴きになる。宣仁親王妃喜久子が陪聴する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、穂積家文書

天皇と共に奥御進講所において、皇子御養育掛長藤井種太郎より、成子内親王・和子内親王の成績についての奏上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、呉竹寮日誌、藤井種太郎日誌

二十五日 木曜日 午前、奥内謁見所において、今般ルーマニア国へ赴任の特命全権公使栗原正ユーゴスラビア国駐劄に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、拝謁参拝録、宮内省省報、官報兼勤

二十七日 土曜日 午前、奥内謁見所において、女子学習院教授宇佐美ケイ幼稚園主務に謁を賜う。厚子内親王幼稚園終了につき、宇佐美及びお相手の園児一同にお品を賜う。○女官長日記、女官日誌

二十八日 日曜日 翌二十九日皇太子が東宮仮御所赤坂離宮青山御所内に新宮の御殿へ、厚子内親王が呉竹寮へそれぞれ移

居につき、この日正午過ぎ、天皇と共に皇太子・成子内親王・和子内親王・厚子内親王を伴って吹上御苑にお出ましになり、花蔭亭において午餐を御会食になる。午後、内苑における男女側近奉仕者の運動会を御覧になる。成子内親王・和子内親王も一部の競技に参加する。夜、御学問所における皇太子・厚子内親王送別の内宴に臨まれ、天皇及び皇太子・成子内親王・和子内親王・厚子内親王と御夕食を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、呉竹寮日録、贈賜録、官報

二十九日 月曜日 この日、皇太子が東宮仮御所へ、厚子内親王が呉竹寮へそれぞれ移居する。午前、奥御進講所において、東宮傳育官石川岩吉・同小出英経に謁を賜う。ついで天皇及び厚子内親王と共に、奥宮殿において皇太子と御対面になり、挨拶をお受けになる。天皇・皇后より皇太子に万那料等を御贈進になる。終わって皇太子は北御車寄を出発、東宮仮御所に移居する。

午後、成子内親王・和子内親王参内につき、天皇と共に御対面になる。その後、厚子内親王は成子内親王・和子内親王に伴われ、呉竹寮に移居する。移居に際し、天皇・皇后より厚子内親王に万那料等を御贈進になる。夕刻、呉竹寮にお出ましになって三内親王と御対面になり、厚子内親王の移居後の様子を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、呉竹寮日誌、順宮呉竹寮日誌、贈賜録、宮内省省報、官報、藤井種太郎日誌

正午前、奥内謁見所において、この日女子学習院卒業式へ御差遣の故依仁親王妃周子と御対面になり、復命を聴取される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、皇親録、宮内省省報、官報

三十日 火曜日 午後、奥内謁見所において、今般新任の別当^{高松宮付}山内豊中・別当^{竹田宮付}茨木清次郎、及び退官の前別当^{高松宮付}渡辺勝三郎に謁を賜う。続いて、天皇と共に稔彦王・同妃聡子内親王と御対面にな

り、成子内親王と盛厚王^{稔彦王第一王子}の結婚内約についてのお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、

侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、照宮御婚儀録、宮内省省報、官報

満洲国皇帝溥儀より、皇弟溥傑と嵯峨浩^{侯爵嵯峨実勝長女}の結婚式に参列のため来日した満洲国宮内府大臣熙洽を通じて、天皇・皇后・皇太后に御贈進の品がある。○省中日誌、外交贈答録、進献録、宮内省省報、官報

昭和十二年四月

三十一日 水曜日 午後、奥内謁見所において、伯爵東伏見邦英^{御弟}と御対面になり、御機嫌伺い並び

に去る二十九日亀井保子^{伯爵亀井茲常第二女子}との結納を終えた旨の報告をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従

職日誌、贈賜録

四月

二日 金曜日 午前、奥内謁見所において、今般満洲より帰還の元第十二師団長陸軍中将清水喜重に謁を賜う。その際、お言葉を賜う。清水より繙帯下賜のお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌

三日 土曜日 午前、神武天皇祭につき、皇霊殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、儀式録、祭祀録、宮内省省報

天皇及び東宮仮御所に移居後初参内の皇太子と御一緒に紅葉山にお出ましになり、御昼餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宮内省省報

四日 日曜日 豊島岡墓地において静子内親王^{明治天皇第五皇女}五十年式年祭が行われ、皇后宮女官万里小路ソデに御代拝を仰せ付けられる。また、榊をお供えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、儀式録、祭祀録、宮内省省報

六日 火曜日 午前、奥内謁見所において、今般ペルー国より帰国の特命全権公使村上義温に謁を賜う。続いて、京都在住華族総代の子爵日野西資博に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

誌、省中日誌、拝謁参拝録、宮内省省報、官報

午前十一時十分天皇と共に御出門、大宮御所に行啓され、皇太后と御対面になる。それよりお揃いにて赤坂離宮御苑内の洗心亭にお出ましになり、桜花を御覧になりつつ、御昼餐を御会食になる。御食後、苑内を御散策になる。茶菓を召された後、皇太后のお召しにより参殿の正二位柳原愛子に謁を賜う。午後三時四十四分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、幸啓録、

貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報

七日 水曜日 午前、奥内謁見所において、退官の前学習院長荒木寅三郎及び新任の学習院長野村吉三郎に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、進退録、宮内省省報、官報

八日 木曜日 午後、成子内親王・和子内親王・厚子内親王参内につき、天皇と共に御対面になり、この日女子学習院に入学した厚子内親王よりお礼言上をお受けになる。ついで天皇及び三内親王と共に奥御対面所において、厚子内親王の入学祝いのため参内した故恒久王妃昌子内親王と御対面になる。

昌子内親王退出後、天皇及び三内親王と共に御夕餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、吳竹寮日誌、順宮御日誌、吳竹寮日録、順宮吳竹寮日録、贈賜録

十日 土曜日 午前十一時天皇と共に御出門、東宮仮御所に初めて行啓され、皇太子と共に過ごされる。また、東宮傳育官小出英経の案内にて仮御所内を御一巡になり、御昼餐後、学習院運動会の活動写真を御覧になる。午後三時四十三分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人

日誌、省中日誌、幸啓録、宮内省省報、官報

夜、ロンドンに到着の神風号純国産朝日新聞社飛行機の飛行士と機関士の挨拶をラジオによりお聞きになる。○女官長

昭和十二年四月

日記、女官日誌、拝謁参拝録

十二日 月曜日 午前、桐ノ間において、今般着任のフランス国特命全権大使シャルル・アルセーヌ・アンリー及び同夫人、及び大使館参事官フレデリック・クノベル及び同夫人ほか十二名に謁見を仰せ付けられる。引き続き、今般着任のスウェーデン国特命全権公使ヴィダール・バッグに謁見を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中目録、謁見録、宮内省省報、官報

十四日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より「永代借地権の撤廃について」と題して、不平等条約改正問題、外国人土地所有権問題、永代借地権の起源、永代借地と外国人課税問題、永代借地権撤廃の交渉、永代借地の買収、日英間・日米間取決めの成立、統計についての進講をお聴きになる。宣仁親王妃喜久子が陪聴する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、穂積家文書

十五日 木曜日 午後、故恒久王妃昌子内親王及び今般女子学習院を卒業の湛子女王^{鳩彦王第二王女} 参内につき、奥内謁見所において御対面になる。内親王・女王にそれぞれ反物等を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

十六日 金曜日 午後、天皇と共に新宿御苑において、観桜会を催される。二時三十分天皇と共に御出門、新宿御苑に行啓される。外交団の謁見の際、来日中の米国人ヘレン・アダムス・ケラー等に対し、特にお言葉又は御握手を賜う。四時十九分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中目録、観桜会録、幸啓録、宮内省省報、官報

十七日 土曜日 永久王妃祥子着帯につき、天皇・皇后より三種交魚を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

十九日 月曜日 午前、東京女子高等師範学校教授倉橋惣三より「児童、青年、教養ノ實際問題、科学的教養」と題する進講をお聴きになる。五月十七日、続きの進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

二十日 火曜日 午前九時御出門、天皇と共に官幣大社明治神宮に行啓され、天皇の御拝礼後、本殿において御拝礼になる。それより神宮外苑内の聖徳記念絵画館にお立ち寄りになり、今般完成の壁画、及び明治神宮の造営に関する絵画を御巡覧になる。十一時五十分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、幸啓録、宮内省省報、官報

二十一日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より「ヘレン・ケラーについて」と題する進講をお聴きになる。宣仁親王妃喜久子が陪聴する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、穂積家文書

二十三日 金曜日 午前、天皇と共に奥内謁見所において、李鐫公妃賛珠、及び初参内の李清^{李鐫公第一公子}と御対面になる。天皇・皇后より公妃にお品を、清に万那料等を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

二十六日 月曜日 午前、桐ノ間において、今般着任のポーランド国特命全権公使タデウシュ・ロメル及び同夫人に謁見を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、謁見録、宮内省省報、官報

午後、奥内謁見所において、この日開催の東京慈恵会総会へ御名代として御差遣の守正王妃伊都子と御対面になり、復命をお受けになる。続いて同会総裁の故恒久王妃昌子内親王参内につき、御対面になり、御名代御差遣のお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、皇親録、宮内省

昭和十二年四月

省報、官報、梨本伊都子日記

二十七日 火曜日 別格官幣社靖国神社において臨時大祭挙行につき、午前十時三十五分御出門、同社に行啓される。本殿において御拝礼になり、十一時五分還啓される。なお臨時大祭の挙行に当たり、天皇・皇后より祭資を同社に下賜される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、儀式祭典録、

幸啓録、宮内省省報、官報、靖国神社社務日誌、靖国神社記念殿日誌

二十八日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より「隣邦ロシア」について」と題する進講をお聴きになる。宣仁親王妃喜久子が陪聴する。進講は、昭和十二年三月発行の陸軍省新聞班長陸軍歩兵大佐秦彦三郎著『隣邦ロシア』に基づいて行われる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、穂積家文書

二十九日 木曜日 天長節につき、午前、皇太后宮御休所において、内大臣始め各総代、皇太后宮女官長以下より拝賀をお受けになる。正午過ぎ、皇太后宮御休所において宣仁親王妃喜久子以下の親王妃・公族妃より拝賀をお受けになる。引き続き元皇后宮女官に謁を賜う。その後、奥内謁見所において内宴を催され、親王妃・公族妃と御会食になる。終わって、天皇と共に奥御対面所において、旧女官の園祥子・生源寺伊佐雄に謁を賜う。引き続き元皇后宮女官等に謁を賜う。その後、天皇と共に御座所において渥美千代・鈴木タカ・曾根ナツ・上山千代・小山登美の五名を召され、拝賀をお受けになる。夕刻、天皇及び成子内親王・和子内親王・厚子内親王と共に御学問所における内宴に臨まれる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、呉竹寮日誌、省中日誌

三十日 金曜日 午前、奥内謁見所において、今般第三艦隊・旅順要港部及び駐滿海軍部へ御差遣の

侍従武官遠藤喜一に謁を賜い、令旨を下される。遠藤は五月二日出発し、六月十三日帰京、二十八日復命する。○女官長日誌、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、進退録、侍従武官府歴史、宮内省省報、官報

五月

二日 日曜日 この日、永久王妃祥子が北白川宮邸において第一王子を出産する。よって皇后より同妃にお祝いの品を、天皇・皇后より故成久王妃房子内親王並びに永久王・同妃にそれぞれ三種交魚を御贈進になる。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、省中日誌、皇族身分録、贈賜録、宮内省省報、官報

四日 火曜日 午前、桐ノ間において、今般離任帰国のペルー国特命全権公使リカルド・リヴェラ・シュレイベルに謁見を仰せ付けられる。○女官長日誌、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、謁見録、宮内省省報、官報

この日、東京府管内の育児事業二十二団体に收容の児童に対し、皇太子及び親王・内親王使用の玩具百八十点を下賜される。この月七日東京府庁において伝達式が行われる。この年七月、十二月にも内親王使用の玩具を育児事業団体に收容の児童に下賜される。○侍従職日誌、恩賜録、日本赤十字社社史稿

昨月下旬樺太において暴風被害発生につき、この日天皇・皇后より御救恤として金一封を樺太庁に下賜される。○省中日誌、恩賜録、宮内省省報、官報

五日 水曜日 午前、正仁親王と共にお庭にお出ましになり、鯉幟を御覧になる。また、奥御進講所に飾り付けの人形を御覧になる。夕刻、正仁親王初節句の賜茶<sup>御都合により昨年
からこの年に延期</sup>が催され、天皇及び成子内親王・和子内親王・厚子内親王と共に申ノ口にお出ましになり、側近奉仕者に茶菓を供される。○女官

昭和十二年五月

長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、吳竹寮日誌、吳竹寮日録

陸軍将校・同相当官による天覧馬術を御陪覧のため、午後、吳竹寮の東庭口の門より本丸馬場にお出ましになる。天皇の出御をお出迎えの後、天皇と共に馬術を御覧になる。終了後、陪覧の宣仁親王妃喜久子、載仁親王、鳩彦王、李王垠・同妃方子女王、李鍵公妃誠子と茶菓を召される。その他の陪覧者・出場者にも茶菓が供される。ついでお一方にて吳竹寮にお立ち寄りになり、成子内親王・和子内親王・厚子内親王と御対面の後、還御される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、吳竹寮日誌、吳竹寮日録、省中日誌、幸啓録、重要雜録、侍従武官府歴史、近衛歩兵第一聯隊歴史、藤井種太郎日誌

伯爵東伏見邦英と亀井保子結婚につき、お悦びとして東伏見宮、久邇宮、東伏見邦英にそれぞれ三種交魚を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、贈賜録

六日 木曜日 午前十時御出門、赤坂区の憲法記念館において挙行の日本赤十字社第四十五回通常総会に行啓される。便殿において先着の総裁載仁親王のほか各皇族妃と御対面になる。引き続き陸軍大臣代理の陸軍省医務局長小泉親彦、海軍大臣代理の海軍省医務局長高杉新一郎、社長徳川家達、副社長徳川圀順等、及び理事以下にそれぞれ謁を賜う。また、徳川社長より報告書等の書類の奉呈、及び社業の現況について言上をお受けになる。それより式場に臨御され、次の令旨を賜う。

茲に日本赤十字社第四十五回総会に臨み親しく各員に告ぐる機を得たるを歎ぶ本社は独り戦時救護準備のみならず平時事業施設も亦愈々整備し且各国赤十字社との提携年を逐うて昌に益々友好の敦きを加ふるは深く満足する所なり社員一同宜しく内外の情勢に鑑み協心戮力以て事業の伸暢を図り国家社会に貢献せむことを望む

ついで総裁の奉答をお聞きになる。終わって会場を御発、大宮御所に行啓され、皇太后と御対面になり、御昼餐を御会食になる。

午後三時十分大宮御所を御発、憲法記念館において挙行の愛国婦人会第三十六回通常総会に行啓される。便殿において先着の総裁故依仁親王妃周子を始め名誉会員の皇族妃・公族妃と御対面になり、内務大臣代理の内務次官篠原英太郎、会長本野久子、副会長水野満寿子貴族院議員水野錬太郎夫人等、及び理事以下にそれぞれ謁を賜う。その後式場に臨御され、次の令旨を賜う。

愛国婦人会第三十六回総会に際し各員に告ぐ本会は総裁以下の協力一致に頼り其の基礎益々固く施設愈々整備せるは深く満足する所なり会員宜しく時運の趨向に鑑み勤勉努力会務の進展を期し以て婦人報国の使命を達成せんことを望む

ついで総裁の奉答をお聞きになる。終わって会場を御発、四時十八分宮城に還啓される。間もなく載仁親王、故依仁親王妃参内につき、奥内謁見所において御対面になり、それぞれ行啓のお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、幸啓録、官報、事業年報（日本赤十字社）、日本赤

十字社社史稿、愛国婦人会四十年史

七日 金曜日 午後、天皇と共に豊明殿において、今般離任帰国のソビエト連邦特命全権大使コンスタンティン・ユレネフ及び同夫人、去る三月に着任のフランス国特命全権大使シャルル・アルセーヌ・アンリー及び同夫人のため午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省

中日誌、謁見録、宮内省省報、官報

去る四月中旬朝鮮総督府管下において暴風雨被害発生につき、この日、天皇・皇后より御救恤として

昭和十二年五月

同総督府に金一封を下賜される。○省中日誌、恩賜録、宮内省省報、官報

八日 土曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、御養蚕始の儀を行われる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌

奥内謁見所において、結婚後初参内の伯爵東伏見邦英・同夫人保子と御対面になる。その際、天皇・皇后より邦英及び同夫人それぞれにお祝いの品を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、贈賜録

夕刻、天皇と共に奥内謁見所において、永久王と御対面になる。去る二日に誕生した同王第一王子が、この日、道久と命名される。命名当日に際し、天皇・皇后より永久王に白羽二重・酒・鮮鯛を、道久王に産衣を御贈進になる。お祝品の御贈進につき、永久王よりお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、皇親録、贈賜録、宮内省省報、官報

十日 月曜日 午前、奥内謁見所において、故依仁親王妃周子と御対面になり、伯爵東伏見邦英結婚に際してのお仕向けに対するお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

中御門天皇二百年式年祭につき、午後、天皇と共に御学問所において、学習院教授板沢武雄より「中御門天皇ノ御事蹟ト御時代」と題する講話をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、進講録

十一日 火曜日 午前、奥内謁見所において、故邦彦王妃倪子と御対面になり、過日の伯爵東伏見邦英結婚に際してのお仕向けに対するお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

午後、天皇と共に豊明殿において、今般離任帰国の英国特命全権大使ロバート・ヘンリー・クライブ及び同夫人のため午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、謁見録

宮内省省報、官報

十二日 水曜日 午前、天皇と共に奥内謁見所において、来る十四日に満鮮特別視察旅行に出発する

守正王<sup>御父邦彦
王の弟</sup>と御対面になる。出発に際し、天皇・皇后より満洲国皇帝・皇后に御贈進の薩摩焼花瓶

を守正王に託される。十八日、守正王を通じて皇帝・皇后に薩摩焼花瓶が贈られ、同日、皇帝・皇后より札電が寄せられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、皇族旅行録、外交雑録、

外交贈答録、宮内省省報、官報

東京帝国大学教授穂積重遠より「総選挙の結果について」と題して、棄権率と当選者各派別についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

午後、故成久王妃房子内親王参内につき、奥内謁見所において御対面になり、過日道久王の誕生に際してのお仕向けに対するお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

この日、英国皇帝ジョージ六世・皇后エリザベスの戴冠式に当たり、天皇・皇后より英国皇帝・皇后に祝電を御発送になる。十五日答電が到達する。なお、首都ロンドンのウェストミンスター寺院における戴冠式には、天皇の御名代として雍仁親王が同妃勢津子を同伴して参列する。○省中日誌、外国差遣

録、外交慶弔録、秩父宮同妃両殿下御渡英御日誌、秩父宮御渡欧関係書類、雍仁親王実紀、宮内省省報、官報

十五日 土曜日 午後、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、臨時皇后宮職御用掛有泉善三の説明にて蚕の發育状況を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

十八日 火曜日 午前、奥内謁見所において、今般オランダ国へ赴任の特命全権公使桑島主計に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、拝謁参拝録、宮内省省報、官報

昭和十二年五月

昭和十二年五月

十九日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より「徳川時代の女流旅日記について」と題して、井上通女『東海紀行』『帰家日記』、白拍子武女『庚子道の記』、油谷倭文女『伊香保の道行ぶり』についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

二十日 木曜日 午前、奥内謁見所において、亀井久子伯爵亀井
茲常夫人に謁を賜い、賜物に対するお礼言上をお受けになる。今般伯爵東伏見邦英と亀井保子結婚につき、昨日、思召しをもって伯爵亀井茲常に三種交魚等を賜う。○女官長日記、女官日誌、贈賜録

二十一日 金曜日 午後、天皇と共に豊明殿において、今般離任帰国の満洲国特命全權大使謝介石のため午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、謁見録、宮内省省報、官報

二十四日 月曜日 午前十時御出門、杉並区高円寺の蚕糸試験場に行啓される。御着後、便殿において農林大臣山崎達之輔を始め場長平塚英吉、農林省蚕糸局長田淵敬治に謁を賜う。それより場長の説明にて場内を御巡覧になり、種々御下問になる。便殿において御昼餐の後、同区上高井戸の財団法人浴風会を訪問される。便殿において内務大臣河原田稼吉、理事、監事その他六名に謁を賜う。園長福原誠三郎の先導にて本館より雨中の園庭を歩かれ、整列の男女高齢者に謁を賜い一つ御巡覧になる。

三時五分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、幸啓録、宮内省省報、官報

二十六日 水曜日 午前十時御出門、赤坂区の憲法記念館において挙行の恩賜財団済生会創立二十五周年記念式に行啓される。総裁載仁親王と御対面になり、続いて会長公爵徳川家達・副会長・顧問・理事長等、及び理事以下にそれぞれ謁を賜う。その後、式場に臨御され、次の令旨を賜う。

済生会力明治天皇ノ聖旨ヲ奉体シテ医療救護ノ業ヲ創メシヨリ二十五年ヲ経過シ成績ノ愈々顕著

ナルヲ見ルニ深く満足スル所ナリ

方今世態ノ推移ニ随ヒ本会ノ努力ニ俟ツ所甚タ多シ諸員能ク心ヲ一ニシ力ヲ勦セ以テ重大ナル使命ヲ達成シ衆庶ヲシテ頼ル所アラシメンコトヲ期セヨ

ついで総裁より奉答をお受けになる。終わつて、東宮仮御所にお立ち寄りになる。皇太子と御対面後、お揃いにて載仁親王と御対面になり、行啓のお礼言上をお受けになる。その後、過日御参殿の皇太后より御贈進の品等を御覧になり、御昼餐を御会食になる。御食後、お庭にお出ましになり、皇太子の様子等を御覧になる。午後三時四十五分宮城に還啓される。その後、この日済生会病院へ御差遣の皇后宮女官津軽理喜子より復命を聴取される。

なおこの日の記念式挙行に際し、済生会関係の全国病院・乳児院・産院・療養所・診療所各入院入所患者に対し、特別の思召しをもつて菓子料を下賜される。また、済生会が創立二十五周年記念事業として看護婦養成所を建設する計画につき、一昨二十四日特別の思召しをもつて金一封を、さらに同会の事業並びに困窮者等の身上を思召され、次の御歌を下賜される。

年月の重なるまゝにいたつきのいえゆくたみのますそうれしき

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、幸啓録、恩賜録、宮内省省報、官報、恩賜財団済生会五十年誌、読売新聞

二十八日 金曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

午後、奥内謁見所において、参内の木戸ツル侯爵木戸幸一夫人に謁を賜い、御機嫌伺いと湛子女王のお相手を拝命の挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

昭和十二年六月

二十九日 土曜日 正午前、皇太后御参内につき、天皇と共に奥御対面所において御対面になり、去る四月二十九日の天長節の祝賀をお受けになり、お祝御膳を御会食になる。皇太后は、天長節当日の内宴に御臨席にならなかったため、この日、祝賀の思召しをもって御参内になる。午後、奥御食堂において成子内親王・和子内親王・厚子内親王を交えて御団欒になる。なお、近く東海・関西地方へ行啓の皇太后よりお暇乞いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報

三十一日 月曜日 午前、東京女子高等師範学校教授倉橋惣三より「教育の本質」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

午後一時四十五分御出門、大宮御所に行啓される。来る六月五日より東海・関西地方へ行啓の皇太后と御対面、御機嫌をお伺いになる。三時四十七分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、幸啓録、宮内省省報、官報

六月

一日 火曜日 午前、桐ノ間において、今般着任のコロンビア国代理公使レオポルド・ボルダ・ロルダン及び同夫人に謁見を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、謁見録、宮内省省報、官報

二日 水曜日 午前、奥内謁見所において、新任の枢密顧問官奈良武次に謁を賜い、お礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、官報

東京帝国大学教授穂積重遠より「憲法と法律と命令との関係について」と題して、法律、緊急勅令、行政命令・委任命令^{勅令・閣令・省令}、憲法上の立法事項、裁判所の法令審査権等についての進講をお聴きになる。宣仁親王妃喜久子が陪聴する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、穂積家文書

三日 木曜日 午後、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、蚕を御覧になる。○女官長日記、女官日誌

四日 金曜日 朝融王妃知子女王着帯につき、三種交魚を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、贈賜録

五日 土曜日 午前、御使として皇后宮女官津軽理喜子を東京駅に差し遣わされ、東海・関西地方への行啓に御出発の皇太后をお見送りになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、行啓録、貞明皇后実録

正本、宮内省省報、官報

午後、天皇と共に紅葉山御養蚕所にお出ましになり、夕刻まで過ごされる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

七日 月曜日 午前、東京女子高等師範学校教授倉橋惣三より前回に続き「教育の本質（二） 教育的熱意二」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

九日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より「近衛内閣総理大臣の声明」と題して、去る四日初閣議後の近衛首相による新聞記者団に対する談話についての進講をお聴きになる。宣仁親王妃喜久子が陪聴する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、穂積家文書

十日 木曜日 午後、天皇と共に紅葉山御養蚕所にお出ましになり、夕刻まで過ごされる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

十一日 金曜日 午後、満洲より帰京の守正王参内につき、天皇と共に奥内謁見所において御対面に

昭和十二年六月

なり、復命をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、皇族旅行録、宮内省省報

十三日 日曜日 午前十時天皇と共に御出門、東宮仮御所に行啓され、皇太子と共にお過ごしになる。

午後三時四十分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、幸啓録、宮内省省報、官報

十四日 月曜日 午前、東京女子高等師範学校教授倉橋惣三より前回に続き「教育の本質 生活と教育について」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

奥内謁見所において、今般満洲より帰還の第九師団長陸軍中将蓮沼蕃^{元侍従}に謁を賜う。○女官長日記、女

官日誌、侍従職日誌

十五日 火曜日 午前十時御出門、財団法人理化学研究所に行啓される。所長大河内正敏、商工次官村瀬直養等の奉迎をお受けになり、便殿において所長、理事、主任研究員に謁を賜い、所長より研究所の研究内容の言上をお聞きになる。ついで屋上より御展望の後、仁科芳雄・長岡半太郎の研究室その他において工業製作品・実験等を御覧になる。御昼餐の後、真島利行ほかの研究室を巡覧され、鈴木梅太郎の研究室では理化学研究所発明の栄養品・薬品を始め、ビタミンに関する説明をお聞きになる。午後三時二十五分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、幸啓録、

宮内省省報、官報、東京朝日新聞、読売新聞

十六日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より「商店法案について」と題する進講をお聴きになる。宣仁親王妃喜久子が陪聴する。内務省社会局による商店法案要綱発表の経緯とその内容、及び社会保健省新設の議についてお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、穂積家文書

精神障害児童教育に長年尽力の勲六等石井亮一 社会事業家 去る十三日死去につき、天皇・皇后・皇太后より

祭資を下賜される。○省中日誌、恩賜録

十七日 木曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、正午過ぎまでお過ごしになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

十九日 土曜日 御風気のため、二十一日の御昼餐まで御仮床に就かれる。これにより、二十一日の東京女子高等師範学校教授倉橋惣三の進講はお取りやめとなる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌

二十二日 火曜日 午前、奥内謁見所において、今般イタリア国へ赴任の特命全権大使堀田正昭、スイス国へ赴任の特命全権公使天羽英二及び同夫人、スウェーデン国へ赴任の特命全権公使栗山茂及び同夫人、シヤム国へ赴任の特命全権公使村井倉松及び同夫人に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、拝謁参拝録、宮内省省報、官報

二十三日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より「詠歌にあらはれたる源実朝の雅懷と忠誠」と題する進講をお聴きになる。宣仁親王妃喜久子が陪聴する。源実朝の『金槐和歌集』所収の和歌についてお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、穂積家文書

二十四日 木曜日 午前、天皇と共に奥内謁見所において、出産後初参内の永久王妃祥子、及びこの日初参内の道久王と御対面になる。天皇・皇后より故成久王妃房子内親王・永久王妃にそれぞれ五種交魚を、永久王妃にお品を、道久王に鮮鯛等を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

二十五日 金曜日 皇太后のお誕生日につき、正午、天皇と共に側近奉仕者一同より祝詞言上をお受

昭和十二年七月

けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

二十六日 土曜日 午前、奥内謁見所において、故成久王妃房子内親王と御対面になり、去る二十四日の道久王の賢所初参拝及び初参内に際してのお仕向けに対するお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

二十八日 月曜日 午前、東京女子高等師範学校教授倉橋惣三より前回に続き「教育の本質 四、教育と指導」と題する進講をお聴きになる。同人の進講がこの日終了するに当たって、思召しをもって野菜・万那等を下賜される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、贈賜録

三十日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より「満洲国民法の公布について」と題する進講をお聴きになる。宣仁親王妃喜久子が陪聴する。満洲国民法第一編・第二編・第三編の公布経緯、外国法継受の理論と実例等についてお聴きになる。進講後、宣仁親王妃と共に紅葉山御養蚕所にお出ましになり、糸取りを御覧になる。正午過ぎ、還御される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、穂積家文書

浅草区石浜町の同情園において今晚出火により収容児童中に多数の死傷者発生につき、特に金一封を下賜される。○侍従職日誌、贈賜録、恩賜録

七月

一日 木曜日 午前、奥内謁見所において、今般イラン国へ赴任の特命全権公使中山詳一に謁を賜う。

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、拝謁参拝録、宮内省省報、官報

午後、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、夕刻まで山繭の糸取りを御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

財団法人静寛院宮奉賛会設立につき、特に思召しをもって同会基金中に金一封を下賜される。○省中日誌、恩賜録

二日 金曜日 午前、稔彦王・盛厚王参内につき、天皇と共に奥内謁見所において御対面になり、盛厚王より陸軍士官学校卒業のお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、皇親録、官報

桐ノ間において、今般着任の満洲国特命全權大使阮振鐸、随伴の大使館参事官原武ほか館員六名に謁見を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、謁見録、宮内省省報、官報

三日 土曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、御養蚕納の儀を行われる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

月曜会・若葉会のバザーに御使を差し遣わされる。○女官長日記、女官日誌

五日 月曜日 天皇と共に葉山御用邸に行啓される。午前十時三十五分御出門、正午到着される。その後、去る三日より附属邸に滞在中の皇太子と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、省中日誌、行幸録、幸啓録、宮内省省報、官報

六日 火曜日 午前、天皇及び皇太子と御一緒に小磯にお出ましになり、海洋生物を御採集になる。終わって、御昼餐を御会食になる。以後、十日まで毎日海岸にお出ましになり、魚・海草などの海洋生物を御採集になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、行幸録、幸啓録

昭和十二年七月

十二日 月曜日 北支事変の情勢窮迫に鑑み、午後一時五十分天皇と共に葉山御用邸を御出門、三時十九分宮城に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、省中日誌、行

幸録、幸啓録、宮内省省報、官報

沼津より皇太后還啓につき、午前、御使として皇后宮職御用掛保科武子を東京駅に差し遣わされる。

夕刻、皇后宮女官万里小路ソデを大宮御所に差し遣わされ、皇太后の御機嫌をお伺いになる。○女官長

日誌、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、行啓録、幸啓録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報

十九日 月曜日 御夕餐後、天皇と共に奥内謁見所において北支事変のニュース映画を御覧になる。

以後も折に触れて事変関係のニュース映画を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌

二十日 火曜日 午後、奥内謁見所において新任の侍医稲田淳に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従

職日誌、省中日誌、宮内省省報、官報

二十一日 水曜日 この日、朝融王妃知子女王が久邇宮邸において第四王女を出産する。よつて、皇后より朝融王・同妃及び故邦彦王妃倪子に三種交魚料を御贈進になる。誕生した王女は、七夜に当たる二十七日、英子と命名される。命名当日に、天皇・皇后より朝融王に白羽二重・酒・鮮鯛を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、皇親録、贈賜録、皇族身分録、宮内省省報、官報

二十二日 木曜日 午前、成子内親王・和子内親王・厚子内親王参内につき、御対面になり、葉山へお成りの暇乞いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、吳竹寮日誌、吳竹寮日録

二十八日 水曜日 午前、奥内謁見所において、今般皇宮警察部長を拝命の高橋静男に謁を賜う。○

女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、進退録、宮内省省報、官報

午後、天皇と共に奥内謁見所において、朝融王と御対面になり、暑中御機嫌伺い及び昨二十七日の英子女王命名に際してのお仕向けに対するお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

二十九日 木曜日 午後、奥御進講所において、海外出張より帰国の宮内省参事官岡本愛祐に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

三十日 金曜日 午前、明治天皇例祭につき、皇霊殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、儀式録、祭祀録、宮内省省報

三十一日 土曜日 午後、戦傷者へ賜う繙帯をお巻きになる。以後、頻繁に繙帯巻きの作業を行われる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌

八月

二日 月曜日 午前、奥内謁見所において、この日野砲兵第一聯隊長へ転出の前侍従武官酒井康に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、贈賜録、侍従武官府資料

三日 火曜日 午後、天皇と共に奥内謁見所において、昨日陸軍騎兵少佐に昇進の春仁王及び同妃直子と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、皇親録、皇族身分録、官報

四日 水曜日 那須より交代帰京の皇子御養育掛雪井よし子に謁を賜い、皇太子・正仁親王の近況をお聴きになる。以後、この年も随時、関係者に謁を賜い、皇子女の動静についてお聞きになる。○女官長日記、女官日誌

昭和十二年八月

五日 木曜日 午後、奥内謁見所において、陸軍大臣杉山元に謁を賜い、北支事変の傷痍者への繙帯・義眼・義肢の下賜に対するお礼の言上と事変の戦死傷状況につき奏上をお受けになる。これに対し、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、侍従武官府歴史、偕行社記事、陸支普綴

十二日 木曜日 午前、奥内謁見所において、今般侍従武官を拝命の陸軍歩兵大佐清水規矩に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官府資料

十四日 土曜日 御夕餐後、天皇と共に奥内謁見所において、先般御自身にて御撮影の孔雀のひな、及び御自身の繙帯巻きの御様子等に関する映画を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌
この月初旬朝鮮平安北道において豪雨被害発生につき、天皇・皇后より御救恤として金一封を朝鮮総督府に下賜される。○省中日誌、恩賜録、宮内省省報、官報

十七日 火曜日 午前、奥内謁見所において、今般上海派遣軍司令官として出征の陸軍大将松井石根に謁を賜う。その際、次のお言葉を賜う。

今回上海派遣軍司令官ノ重任ヲ帯ヒテ彼地へ出発スル趣洵ニ御苦勞ニ思フ就テハ身体ヲ大切ニシテ奮勵センコトヲ望ム

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁参拝録、侍従武官府歴史

宣仁親王妃喜久子参内につき、御対面になり、御一緒に繙帯巻きをされる。天皇を交えての御昼餐御会食後も宣仁親王妃と共に繙帯巻きをされ、同妃退出後、さらに繙帯巻きを続けられる。かねて皇后が下された、今回の北支事変に際し軍人・軍属にして傷痍を受けた者並びに失眠又は四肢切断の者に繙帯・義眼・義肢を下賜する旨の御沙汰により、この月は、陸軍又は海軍に対して五回にわたり、繙

帯・義眼・義肢が下賜される。炎暑中、連日繙帯巻きの作業に勤しまれ、宣仁親王妃との繙帯巻き作業は九月二十二日まで頻繁に行われる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍

従武官府歴史、陸支普綴、海軍公報、百武三郎日記、高松宮日記

十八日 水曜日 この日、満洲事変及び北支事変関係の関東軍の傷痍者に繙帯六百本を下賜される。

○侍従職日誌

十九日 木曜日 午前、宣仁親王妃喜久子と共に申ノ口において繙帯巻きの際、活動写真の撮影を受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

二十日 金曜日 午前、奥内謁見所において、海軍大臣米内光政に謁を賜う。炎暑の折柄上海における出征将士の苦勞を深く思し召され、殊に傷病者一同を克く労り遣わすようお言葉を賜い、今次事変の海軍関係傷痍者へ義眼・義肢・繙帯下賜の御沙汰を下される。ついで海相よりお札の言上をお受けになる。二十四日、さらに今次事変の海軍関係傷痍者に対し、繙帯六百本を下賜される。○女官長日記、

女官日誌、侍従職日誌、侍従武官府歴史、公文備考、海軍公報

宣仁親王妃喜久子と共に申ノ口において繙帯巻きをされた後、御一緒に昨日撮影の繙帯巻きの活動写真を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

昨月二十九日の北支通州における事変^{いわゆる通州事件}に際し、多数の邦人犠牲者発生につき、天皇・皇后より

遺族への祭料を外務大臣広田弘毅を経て下賜される。○省中日誌、恩賜録、侍従武官府歴史、宮内省省報、官報

二十一日 土曜日 午前、宣仁親王妃喜久子参内につき、御一緒に申ノ口において繙帯巻きをされる。

その後、宣仁親王参内につき、天皇と共に奥御対面所において御対面になり、天皇及び親王・同妃と

昭和十二年八月

共に御昼餐を御会食になる。午後、宣仁親王も交えて引き続き繙帯卷きをされる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

夕刻、天皇と共に奥内謁見所において盛厚王と御対面になり、勲一等旭日桐花大綬章拝受と陸軍砲兵少尉任官のお礼言上をお受けになる。この日、天皇・皇后よりお祝いとして鮮鯛を王に賜う。○女官長

日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、皇親録、皇族叙勲録、皇族身分録、官報

二十三日 月曜日 午後、稔彦王妃聡子内親王参内につき、御対面になり、盛厚王の陸軍砲兵少尉任官のお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

二十四日 火曜日 午前、愛国婦人会会長本野久子参内につき、奥内謁見所において謁を賜い、時局につき御機嫌伺いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、愛国婦人会四十年史

二十五日 水曜日 午前、新任の侍従戸田康英に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、省中日誌、進退録、宮内省省報、官報

御夕餐後、天皇と共に奥内謁見所にお出ましになり、御自身の繙帯卷きの御様子を撮影した活動写真等を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌

二十七日 金曜日 午後、侍従武官平田昇を召され、支那軍飛行機の爆弾について説明を聴取される。○女官長日記、女官日誌

三十日 月曜日 この日、事変関係の出征陸軍軍人の傷痍者に対し、繙帯三千本を下賜される。○侍従職日誌、偕行社記事

三十一日 火曜日 午前、奥内謁見所において、今般北支那方面軍司令官として出征の陸軍大将寺内

寿一、第二軍司令官として出征の陸軍中将西尾寿造に謁を賜う。その際、お言葉を賜う。ついで兩名よりそれぞれ奉答をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、拝謁参拝録

九月

一日 水曜日 午前、天皇と共に奥内謁見所において、この日皇后宮職御用掛を拝命の外山豊子に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、進退録

震災記念日につき、午前十一時五十八分サイレンと同時に黙禱される。○女官長日記、女官日誌

二日 木曜日 午前、桐ノ間において、今般着任のソビエト連邦特命全權大使ミハイル・スラブーツキー、並びに随伴の大使館付陸軍武官陸軍中将ジャン・リンク及び同夫人ほか八名に謁見を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、謁見録、宮内省省報、官報

七日 火曜日 午後、皇太后御参内につき、天皇と共に奥御対面所において御対面になる。その際、東海・関西地方行啓の土産品等の御贈進をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、進退録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報

八日 水曜日 午後、葉山より帰京の成子内親王・和子内親王・厚子内親王参内につき、天皇と共に御対面になる。ついで御夕餐を共にされる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、吳竹寮日誌、省中日誌

十一日 土曜日 午前、桐ノ間において、今般着任の英国特命全權大使ロバート・L・クレイギー及び同夫人に謁見を仰せ付けられる。ついで、大使館参事官J・L・ドッズ及び同夫人ほか十九名に謁

昭和十二年九月

見を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、謁見録、宮内省省報、官報

十六日 木曜日 今般高知・兵庫・岡山・徳島各県下において暴風雨被害発生につき、天皇・皇后より御救恤金をそれぞれ下賜される。○省中日誌、恩賜録、宮内省省報、官報

二十日 月曜日 午後、内庭にお出ましになり、横須賀より飛来の海軍機百十一機を御覧になる。○

女官長日記、女官日誌

二十一日 火曜日 午前、奥内謁見所において、今般ポーランド国より帰国の特命全権公使伊藤述史、カナダより帰国の特命全権公使加藤外松及び同夫人に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、拝謁参拝録、宮内省省報、官報

今般支那事変に際し、出征及び応召の軍人遺族並びに家族を救護する目的をもって、諸団体が協力してその実を挙げるに当たり、金一封を内務大臣に下賜される。また、出征及び応召の軍人遺族並びに家族の心情を深く思し召され、次の御歌を下賜される。

なくさめむことの葉もかなたゝかひのにはをしのひてすすすやからを

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、恩賜録、官報、公文備考、読売新聞、日本赤十字社社史稿

二十三日 木曜日 午前、秋季皇霊祭及び同神殿祭につき、御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、儀式録、祭祀録、宮内省省報

二十四日 金曜日 午前、桐ノ間において、今般着任のポリビア国代理公使ホセ・エドゥアルド・ゲラ及び同夫人に謁見を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、謁見録、宮内

省省報、官報

二十五日 土曜日 午前、奥御進講所において、侍従武官町尻量基・侍従武官平田昇より、支那事変の戦況について地図を用いた詳細な言上を御聴取になる。宣仁親王妃喜久子が陪聴する。○女官長日記、

女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

二十六日 日曜日 上海に出征中の第三駆逐隊司令海軍中佐博義王昨二十五日敵砲弾のため左手負傷につき、天皇・皇后より王に、お見舞電報をお送りになり、果物を御贈進になる。○侍従日誌、侍従職日誌、省中日誌、皇族身分録、博義王殿下御事蹟

二十八日 火曜日 午後一時十五分御出門、大宮御所に行啓され、皇太后と御対面になる。四時二十五分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、幸啓録、宮内省省報、官報

二十九日 水曜日 昨日ギリシャ国皇帝ゲオルギオス二世より同国皇太子の結婚成約を報じる親電が天皇・皇后に寄せられたため、この日天皇・皇后より祝電を御發送になる。○省中日誌、外交慶弔録、宮内省省報、官報

三十日 木曜日 夕刻、成子内親王・和子内親王・厚子内親王参内につき、天皇と共に御対面になり、この日誕生日を迎えた和子内親王より、御贈進品についてのお礼言上をお受けになる。ついで天皇及び和子内親王と共に奥内謁見所において、内大臣・宮内大臣始め各総代、続いて側近奉仕者一同より祝詞言上をお受けになる。時局柄、内宴等の催しはなく、天皇及び三内親王と共に祝御膳をお召し上がりになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

今般帝国水難救済会において事業補助のため演劇会開催につき、思召しをもって金一封を下賜される。

○侍従職日誌、贈賜録

昭和十二年十月

十月

一日 金曜日 午前、宣仁親王妃喜久子参内につき、御対面になり、今般将校婦人会に賜う編み物につきお話しになる。その後、御一緒に編み物をされる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

天皇と共に奥内謁見所において、英子女王出産後初参内の朝融王妃知子女王と御対面になり、お礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

午後、神宮祭主大勲位多嘉王^{御父邦彦王の弟、御叔父}が京都市の久邇宮別邸において薨去する。皇后宮女官長より多

嘉王薨去をお聴きになり、九十日^{第一期二十日、第二期七十日}服喪される。この日、満洲国皇帝より天皇・皇后に対し

て弔電が寄せられたため、翌日答電を御発送になる。これより先の昨月二十八日、病氣療養中の王に対し、天皇・皇后よりお尋ねとして果物を御贈進になり、ついで三十日夜には侍医寛繁を差し遣わされ、さらにこの日、天皇・皇后・皇太后より葡萄酒を賜う。翌二日、弔問のため、宮内省京都地方事務所長伊夫伎準一を皇后宮使として京都久邇宮別邸に差し遣わされる。四日、天皇・皇后・皇太后より祭資を下賜される。また、正寝移柩の儀につき、天皇・皇后より盛菓子を賜う。六日、皇后宮使として皇后宮事務官入江相政を同別邸に差し遣わされ、幣帛・櫛を賜う。同夜、霊代安置の儀につき、再び同人を差し遣わされ、玉串をお供えになる。七日、斂葬当日柩前祭の儀につき、皇后宮使として同人を差し遣わされ、玉串をお供えになる。ついで葬送につき、同人を泉涌寺境内の葬斎場に差し遣わされ、玉串をお供えになる。

多嘉王は朝彦親王第五王子として明治八年誕生、四十二年臨時神宮祭主、大正八年神宮祭主に任じられる。明治四十年に子爵水無瀬忠輔長女静子と結婚し、三王子・三王女を儲ける。享年六十三。○女官

長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、外交慶弔録、皇親録、皇族身分録、重要雜録、進退録、墓誌銘録、多嘉王殿下喪儀録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報

二日 土曜日 午後、葉山より帰京の正仁親王と御対面になる。なおこの日、葉山より皇太子帰京につき、皇太子御使の東宮傳育官石川岩吉より、皇太子の様子につき言上をお受けになる。○女官長日記、

女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、呉竹寮日誌、省中日誌、那須御用邸管理事務所日誌、宮内省省報、官報

五日 火曜日 午前、去る二日葉山より帰京の皇太子参内につき、天皇と共に御対面になる。○女官長

日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、宮内省省報

七日 木曜日 夕刻、天皇と共に申ノ口にお出ましになり、侍従武官長宇佐美興屋より献上の海軍飛行機模型を御覧になる。その際、侍従武官平田昇より説明をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌

十日 日曜日 故多嘉王十日祭につき、御使として侍従牧野貞亮を京都久邇宮別邸に差し遣わされ、権舎を拝礼させられる。また、榊・盛菓子をお供えになる。○侍従職日誌、重要雜録

二十一日 木曜日 第一期御喪明けにつき、午前、お清めをされる。暫時の後、奥内謁見所において、今般第四艦隊司令長官として出征の海軍中将豊田副武、第十軍司令官として出征の陸軍中将柳川平助に謁を賜う。その際、お言葉を賜う。入御の後、申ノ口において、皇后宮女官一同より第一期御喪明けの挨拶をお受けになる。正午前、天皇と共に奥内謁見所において、同じく第一期喪明けの朝融王と御対面になり、お礼言上をお受けになる。この日御喪明けにつき、皇后宮女官長保科武子を大宮御所に差し遣わされ、皇太后の御機嫌をお伺いになり、御服喪中のお尋ねについてのお礼を伝えられる。なお、天機並びに御機嫌伺いのため、在京の皇族・王族が参内する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍

昭和十二年十月

従職日誌、内舎人日誌

午後、天皇と共に奥内謁見所において、先般欧州より帰国した雍仁親王・同妃勢津子と御対面になり、

御機嫌伺いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、秩父宮御日誌、官報

二十三日 土曜日 一昨二十一日第一期御喪明けにつき、この日午前、奥内謁見所において参内の故

成久王妃房子内親王、故依仁親王妃周子と相次いで御対面になり、御機嫌伺いをお受けになる。○女官

長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

二十四日 日曜日 午後、稔彦王参内につき、天皇と共に奥内謁見所において御対面になり、多嘉王

薨去後の第一期喪明けの挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宮内

省省報

二十六日 火曜日 令子女王^{博義王第二王女}昨二十五日薨去^{齡四年九箇月}につき、この日、弔問のため、皇后宮女官津

軽理喜子を伏見宮邸に差し遣わされる。また、天皇・皇后それぞれより靈前に盛菓子を賜う。二十八

日には、天皇・皇后・皇太后より祭資・白羽二重・神饌・神を下賜される^{幼年のため賜物の御差遣なし}。二十九日に行

われる葬儀には、皇后宮使として皇后宮事務官小倉庫次を伏見宮邸に差し遣わされ、柩前に玉串をお

供えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、皇親録、皇族身分録、墓誌銘録、貞明皇后実録正本、宮内省省

報、官報

二十七日 水曜日 午前、京都在住華族総代の子爵町尻量弘参内につき、謁を賜い、御機嫌伺いをお

受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録

正午、天皇と共に豊明殿において、先般欧州より帰国した雍仁親王・同妃勢津子のため午餐を催され

る。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、外国差遣録、儀式録、宣召録、秩父宮御日誌、秩父宮御渡欧関係書類、宮内省省報、官報、雍仁親王実紀

二十八日 木曜日 夕刻、天皇と共に御学問所において、近く宮内省御用掛を辞して渡欧予定の山本信次郎のため御晩餐を催される。ただし、山本は病氣のため出席を辞退する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、官報

三十日 土曜日 午前、今般支那方面艦隊及び馬公要港部病院へ御差遣の侍従武官山澄貞次郎に謁を賜い、令旨を下される。山澄は十一月一日出發、同月二十二日帰京、二十六日復命する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、進退録、侍従武官府歴史

午後、博恭王参内につき、天皇と共に御対面になり、昨日令子女王の葬儀に際しての御使御差遣並びに供物の下賜等につきお礼の言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌
故多嘉王三十日祭につき、御使として侍従徳大寺実厚を京都久邇宮別邸に差し遣わされ、玉串をお供えになる。また、権舎に果物・色花を、墓所に榊をお供えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、重要雑録

十一月

一日 月曜日 夕刻、奥内謁見所において、今般満洲国より帰国の前侍従武官長本庄繁に謁を賜い、同国皇帝からの御伝言をお聴きになる。これより先、本庄の渡満に当たり、同人を通じて満洲国皇后にクツションを御贈進になる。なお、本庄より満洲国産の林檎・紅梨の献上をお受けになる。○女官長

昭和十二年十一月

日記、女官日誌、侍従職日誌、外交贈答録、贈賜録、本庄繁大將日記

二日 火曜日 今般日本・ポーランド両国政府間において相互に相手国駐節の公使館を大使館に昇格したことに伴い、午前、桐ノ間において、ポーランド国特命全權大使に昇任のタデウシュ・ロメル及び同夫人に謁見を仰せ付けられる。ついで、随伴の大使館一等書記官ヤツェク・トラヴィンスキ及び同夫人ほか一名に謁見を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、謁見録、宮内省省報、官報

三日 水曜日 多嘉王薨去による第二期御服喪中につき、明治節の皇族・王公族・側近奉仕高等官の拝賀への出御をお取りやめになる。○女官長日記、女官日誌

四日 木曜日 午前、参内の春仁王と御対面になり、今般出征につき暇乞いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

八日 月曜日 午後、永久王妃祥子参内につき、奥内謁見所において御対面になり、去る四日道久王箸初に際してのお仕向け^鯛につきお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、贈賜録

九日 火曜日 午前、参内の載仁親王と御対面になり、春仁王の出征に際しての御贈進に対するお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

十日 水曜日 午前、奥内謁見所において、侍従武官遠藤喜一より御差遣の復命を聴取される。同人は去る十月十四日皇后宮大夫より令旨を拝受し、十五日出発、状況実視のため聯合艦隊^{主として第二艦隊}に、戦傷病者慰問のため海軍軍医学校診療部、横須賀・呉・佐世保・湊・別府・嬉野の各海軍病院、旅順・要港部病院にそれぞれ赴き、二十九日帰京する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、進退録、侍従武官府歴

史

東京慈恵会において慈善観劇会開催につき、思召しをもって金一封を下賜される。○贈賜録

十一日 木曜日 午前、桐ノ間において、今般着任のシヤム国特命全権公使ブラヤー・スイー・セナー及び同夫人に謁見を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、謁見録、宮内省省報、官報

十二日 金曜日 午後一時御出門、牛込区の東京第一陸軍病院に行啓される。御着後、便殿に入られ、陸軍大臣杉山元・陸軍省人事局長阿南惟幾・陸軍省医務局長小泉親彦・参謀次長多田駿・憲兵司令官藤江惠輔等、さらに奏任官以上の職員にそれぞれ謁を賜う。その後、病院長原田豊の先導にて外科・内科の各病室、将校病室を順次御慰問になる。それより陸軍軍医学校に行啓され、校長寺師義信、陸軍軍医少将松村桓に謁を賜う。ついで戦傷者病室、一般病室をお見舞いになる。また、各種参考品を御覧になる。四時四十四分還啓される。なお、東京第一陸軍病院長及び陸軍軍医学校長に対し、次の旨のお言葉を賜う。

此ノ度傷病患者ノ様子ヲ視テ其ノ手当ナドモ相当行届イテ居ルノヲ満足ニ思フ皇国ノ為トハ云ヒナカラ皆氣ノ毒ナ者ニツキ此上トモ充分勞ハリ遣ハス様ニ

またこの日、皇后宮女官津軽理喜子を世田谷区の東京第二陸軍病院に御差遣になる。同人は病院に到着後、皇后の思召しを奉じて入院患者の様子を視察に来た旨を院長に伝えた上、傷病兵を慰問、お言葉と賜りの菓子を伝達する。また退出に際して、この上とも傷病患者を十分慰めるよう希望すると院長に伝え、病院に関する院長よりの言上書を携帯して帰還、復命する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、

昭和十二年十一月

内舍人日誌、省中日誌、幸啓録、皇親録、宮内省省報、官報

十三日 土曜日 午前、奥内謁見所において、この日午後より葉山別邸へ転地する雍仁親王妃勢津子と御対面になり、暇乞いをお受けになる。○女官長日誌、女官日誌、侍従職日誌

去る十一日群馬県吾妻郡小串鉾山の山崩れにより多数の死傷者発生につき、この日、天皇・皇后より御救恤として金一封を同県に下賜される。○省中日誌、恩賜録、宮内省省報、官報

十四日 日曜日 天皇及び皇太子・成子内親王・厚子内親王と共に御昼餐を御会食後、お揃いにて御車寄前の石垣上^{御車寄右貯水池上土手}にお出ましになる。代々木練兵場における機械化装甲部隊の連合演習を終え、

宮城遙拝のため二重橋前の凱旋道路に集合した陸軍戦車学校所属の戦車・装甲自動車約百五十輛が行進する様子を御覧になる。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、吳竹寮日録、省中日誌、重要雜録、宮内省省報

十五日 月曜日 午後、天皇と共に豊明殿において、今般着任のポーランド国特命全權大使タデウシユ・ロメル及び同夫人のため午餐を催される。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、謁見録、宮内省省報、官報

十六日 火曜日 午前、奥内謁見所において、ドイツ国へ赴任の特命全權大使東郷茂徳及び同夫人に謁を賜う。○女官長日誌、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、祭祀録、拝謁参拝録、宮内省省報、官報

参内の博義王妃朝子と御対面になり、令子女王薨去に際してのお仕向けにつきお礼言上をお受けになる。○女官長日誌、女官日誌、侍従職日誌

午後、侍従武官四手井綱正より、北支那方面軍への御差遣につき復命を聴取される。四手井は、去る

十月十九日皇后宮大夫より令旨を拝受し、二十日出発、北支那方面軍の状況を実視し、十一月十二日帰京する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、進退録、侍従武官府歴史

十七日 水曜日 午前、奥内謁見所において、今般文部大臣を拝命の元宗秩寮総裁木戸幸一に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、宮内省省報、官報

傷病兵を御慰問のため、横須賀海軍病院に行啓される。午前十一時三十分御出門、同四十分東京駅を御発になる。車中にて供奉の内務大臣馬場鐙一、海軍大臣米内光政を始め十数名に謁を賜い、ついで御昼餐を召される。午後零時五十分横須賀駅に御着、皇礼砲、軍樂隊による「君が代」奏樂等を受けられつつ、横須賀海軍病院へ向かわれる。御着後、便殿において関係者に謁を賜う。ついで海軍省医务局長高杉新一郎並びに海軍病院長田中朝三の言上を聴取される。それより院長の先導にて各病室を巡られ、傷病兵を親しく病床にお見舞いになり、それぞれ菓子を賜う。終わって、便殿において病院長に次の要旨のお言葉を賜う。

此ノ度恰ク戦傷病者ノ模様ヲ聴キ又コノ病院ノ様子ヲ視テ其ノ手当ナドモ相当行届イテ居ルノヲ満足ニ思フ皇国ノ為トハ云ヒナカラ皆氣ノ毒ナ者ニツキ此上トモ充分労ハリ遣ハス様ニ、殊ニ不具ニナル者モアル様ダカラ将来一層労ハツテヤル様ニ

午後二時四十分病院を御発、四時十分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、幸啓録、皇親録、宮内省省報、官報

一昨十五日枢密顧問官子爵栗野慎一郎死去につき、この日天皇・皇后より祭資を下賜される。なお、その病気に際しては、お尋ねとして天皇・皇后より葡萄酒を賜う。○省中日誌、恩賜録、宮内省省報、官報

昭和十二年十一月

十八日 木曜日 午前、桐ノ間において、今般着京のソビエト連邦特命全權大使ミハイル・スラブー

ツキー夫人大使同伴にて参内に謁見を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、謁見録、官報

十九日 金曜日 午前、奥御進講所において、昨十八日欧州視察より帰国した侍医高橋信に謁を賜う。

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

午後、天皇と共に奥宮殿において、過般公務出張の上海より帰京した宣仁親王と御対面になる。○女官

長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

故多嘉王五十日祭につき、皇后宮使として皇后宮事務官小出英経を京都久邇宮別邸及び墓所泉涌寺境内に差し遣

わされ、それぞれ玉串をお供えになる。なお、天皇・皇后より霊前に盛菓子を、墓所に榊をお供えになる。また、皇后より霊前に榊を、墓所に盛菓子をお供えになる。○省中日誌、皇親録、重要雜録、進退録、宮

内省省報、官報

二十日 土曜日 午前、奥内謁見所において、侍従武官後藤光蔵に謁を賜い、中支那方面軍及び大阪・

広島・小倉各陸軍病院への御差遣につき令旨を下される。その際、お手編みの襟巻二本をお渡しになる。後藤は翌日出発し、十二月十七日帰京、二十七日復命する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日

誌、進退録、侍従武官府歴史

二十二日 月曜日 今般宮中に大本營設置につき、この日陸軍部・海軍部の各幕僚長以下に對し、清

酒を下賜される。○侍従職日誌、侍従武官府歴史

二十五日 木曜日 午前、奥内謁見所において、今般北支より凱旋の元独立混成第十一旅団長陸軍中

將鈴木重康に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、滿州及支那事變録、例規録

午後、侍従武官清水規矩に謁を賜い、内蒙方面作戰部隊を含む関東軍の状況実視のため北支・満洲への御差遣につき、令旨を下される。清水は翌日出発し、現地において次の令旨を伝達する。

皇后陛下ニ於カセラレテハ軍司令官以下一同カ時局多難ノ際久シク異境ニアリテ克ク重大ナル任務ヲ全ウシ又今回ノ事変ニ際シ北支及内蒙方面ニ出動セル部隊ノ勇戦長驅敵ノ堅城ヲ拔キ其ノ大軍ヲ撃攘シテ皇軍ノ武威ヲ発揚セルハ洵ニ苦勞ニ思フ殊ニ君国ノ為身命ヲ隕シ傷痍ヲ受ケ或ハ病患ニ罹リタル者ニ対シテハ氣ノ毒ニ堪ヘス惟フニ東亞ノ事態ハ前途尚多事ナルヘシ將兵一同深ク自重シテ一層奉公ヲ励ム様宜シク申伝ヘヨ又傷病者ハ好ク勞ハリ遣ハセトノ令旨ニアラセラル

清水は十二月二十七日帰京し、翌年一月十九日復命する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、進退録、侍従武官府歴史、歩兵第三聯隊歴史

二十六日 金曜日 午前、奥内謁見所において、今般凱旋の聯合艦隊司令長官兼第一艦隊司令長官海軍大將永野修身、第二艦隊司令長官海軍中将吉田善吾、元聯合艦隊參謀長兼第一艦隊參謀長海軍少將小沢治三郎、元第二艦隊參謀長海軍少將三川軍一に謁を賜う。その際、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、例規録

二十七日 土曜日 午後、三時知恩寺門跡の久我信成、法華寺門跡の久我高照參内につき、奥内謁見所において謁を賜い、信成より御機嫌伺いを、高照より門跡拜命のお礼言上をそれぞれお受けになる。

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、贈賜録

二十八日 日曜日 午前、天皇及び皇太子・成子内親王・厚子内親王と共に、この日誕生日を迎えた正仁親王と御対面になる。ついで天皇及び正仁親王と共に奥内謁見所において、内大臣・宮内大臣以

昭和十二年十二月

下の拝賀をお受けになる。入御の後、御常御殿御入側において皇后宮女官長始め側近奉仕者一同より祝詞言上をお受けになる。その後、洋館にお出ましになり、写真撮影に臨まれる。正午過ぎ、天皇及び皇太子・成子内親王・厚子内親王・正仁親王と共に祝御膳をお召し上がりになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、贈賜録、宮内省省報

二十九日 月曜日 午前、奥内謁見所において、忌明けにつき参内の故多嘉王妃静子と御対面になり、多嘉王薨去に際してのお仕向けのお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

午後一時四十五分御出門、大宮御所に行啓され、皇太后の御機嫌をお伺いになる。四時四分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、幸啓録、宮内省省報、官報

三十日 火曜日 今般支那事変において戦死又は殉職の陸海軍将校以下及び関東局並びに外務省警察官吏に対し、思召しをもって菓子と次の御歌を下賜される。午後、皇后宮大夫より内務次官に伝達される。

やすらかにねむれとおもふ君のためのちさゝけしますらをのとも

○侍従職日誌、省中日誌、皇后陛下御歌下賜録、官報、陸支普綴、入江相政日記、読売新聞

十二月

一日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より「動員と召集と軍事扶助」と題する進講をお聴きになる。宣仁親王妃喜久子が陪聴する。動員・召集の定義と服役年限、軍事扶助の沿革・対象者・

種類・程度、徴兵制度と義勇兵制度、戦時戦後の社会事業の必要についてお聴きになる。○女官長日記、

女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、穂積家文書

天皇と共に奥内謁見所において、本日付にて海軍中佐へ進級及び軍艦長門砲術長へ転補の朝融王と御対面になり、挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、皇親録、

皇族身分録、贈賜録、宮内省省報、官報

本日付にて海軍省教育局長より海軍兵学校長に転任の元侍従武官住山徳太郎に謁を賜う。○女官長日記、

女官日誌

二日 木曜日 午後、天皇と共に奥内謁見所において、この日上海派遣軍司令官に親補の陸軍中将嶋彦王と御対面になり、お礼言上と暇乞いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍

人日誌、皇族身分録

四日 土曜日 月曜会・スマレ会・若葉会主催及び二葉保育園後援のバザー開催につき、皇后宮女官津軽理喜子と皇后宮職御用掛河合りょう子子を御差遣になり、出品物をお買い上げになる。○女官長日記、

女官日誌

五日 日曜日 午前、孚彦王参内につき、天皇と共に奥内謁見所において御対面になり、今般鳩彦王出征に際しての賜物の拝領等につきお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

天皇と共に奥内謁見所において、昨四日上京の崇仁親王と御対面になり、去る二日の誕生日に際しての鮮鯛拝領、及び陸軍騎兵中尉への進級についてのお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍

昭和十二年十二月

従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録、宮内省省報、官報

六日 月曜日 成子内親王の誕生日につき、夕刻、天皇及び成子内親王と共に奥内謁見所において、内大臣始め総代の拝賀を、続いて皇后宮女官長始め側近奉仕者一同の拝賀をお受けになる。その後、元皇后宮女官の拝賀をお受けになる。終了後、天皇及び正仁親王・成子内親王・厚子内親王と共に祝御膳を御会食になる。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、吳竹寮日録、贈賜録

七日 火曜日 午後、陸海軍将校婦人会会長黒木百子故陸軍大将伯爵、黒木為楨夫人、同会幹事の菱刈銓陸軍大将菱刈隆夫人・杉山啓子陸軍大将杉山元夫人・佐藤ソフイ陸軍少将佐藤忠義夫人参内につき、奥内謁見所において謁を賜う。四名より靴下その他の下

賜に対するお礼言上をお受けになり、お言葉を賜う。また、戦地へ発送した賜品の写真を御覧になる。

○女官長日誌、女官日誌、侍従職日誌

八日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より「北支五省について」と題する進講をお聴きになる。宣仁親王妃喜久子が陪聴する。北支五省の範囲・面積・人口・主要都市、農産・畜産・水産・鉱物の各資源についてお聴きになる。○女官長日誌、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

十日 金曜日 天皇・皇后より日本赤十字社病院補助費として金一封を下賜される。ついで十八日、皇后より日本赤十字社病院救助患者施療費として金一封を下賜される。また、日本赤十字社病院・恩賜財団済生会病院・東京慈恵会医院の各救助收容患者及び財団法人福田会育児院收容者の十六歳以上の者に木綿反物・裏地・裁縫料を、十五歳以下の者に洋服を下賜される。○省中日誌、恩賜録、贈賜録、官報、

日本赤十字社文書、事業年報（日本赤十字社）、日本赤十字社社史稿

歳末に際し、東京府下において公私施療団体が協力して貧窮病者及び応召軍人遺家族に無料救療を実

施するに当たって、東京府に金一封を下賜される。なお、この年は、応召軍人の遺家族の利用に供するほか、支那事変による跛行的景気と物価騰貴に基づく生活困難者をも施療して一層規模を拡張するため、賜金を増額する。○省中日誌、恩賜録、宮内省省報

十三日 月曜日 午前、奥内謁見所において、過日戦地より凱旋の元第三戦隊司令官海軍中将有地十五郎ほか十二名に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌

別当^{伏見}海軍中将四竈孝輔^{元侍従} 昨十二日死去につき、天皇・皇后・皇太后より祭資を下賜される。なお、^{宮付}武官

同人の病気に際して、天皇・皇后・皇太后よりお尋ねとして葡萄酒を下賜される。○省中日誌、恩賜録、

宮内省省報、官報

十四日 火曜日 午後、皇太后御使の皇太后宮大夫大谷正男参内につき、奥御進講所において謁を賜い、南京陥落について祝詞言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、貞明皇后実録正本

十八日 土曜日 午後、皇太后御参内につき、天皇と共に奥御対面所において御対面になり、歳末御祝詞とこの年のお礼言上をお受けになる。ついでお揃いにて奥内謁見所において、南京入城式等に関するニュース映画を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、貞明皇后実

録正本、宮内省省報、官報

二十一日 火曜日 歳末につき、午後一時十六分御出門、大宮御所に行啓され、皇太后と御対面になる。四時十分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、幸啓録、宮内省省報、官報

夜、宣仁親王・同妃喜久子参内につき、天皇と共に御対面になり、日本軍の南京入城式等に関するニュース映画を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

昭和十二年十二月

二十二日 水曜日 一昨二十日、和歌山県西牟婁郡南富田村小学校講堂にて開催の出征遺家族慰安会において、活動写真映写中の出火により死傷者多数発生につき、この日天皇・皇后より御救恤として金一封を同県に下賜される。○省中日誌、恩賜録、宮内省省報、官報

二十三日 木曜日 午前、天皇と共に御座所において、この日誕生日を迎えた皇太子と御対面になる。ついで天皇及び皇太子と共に奥内謁見所において、内大臣・宮内大臣始め各総代の拝賀を、続いて側近奉仕者一同の拝賀をお受けになる。その後、元皇后宮女官等に謁を賜う。正午より、天皇及び皇太子・正仁親王と共にお祝御膳を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、宮内省省報

二十四日 金曜日 午前、奥内謁見所において、今般コロンビア国より帰国の特命全権公使岩手嘉雄及び同夫人に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、祭祀録、拝謁参拝録、宮内省省報、官報

エジプト国皇帝フアルーク一世御結婚につき、天皇・皇后より綴錦壁掛^{四季草花ノ図}を御贈進になる。○省中日誌、外交贈答録、外交慶弔録

二十六日 日曜日 午後、奥内謁見所において、この日誕生日を迎えた宣仁親王妃喜久子と御対面になり、お祝品拝領のお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

二十七日 月曜日 この日、東貞子^{元皇后宮女官}、皇后宮職御用掛外山豊子がそれぞれ皇后宮女官に任じられる。○侍従職日誌、進退録

二十九日 水曜日 午前、朝融王・同妃知子女王、守正王・同妃伊都子参内につき、奥内謁見所において御対面になり、歳末の挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

三十日 木曜日 御喪明けにつき、午前、お清めをされる。終わって皇太子・厚子内親王参内につき、天皇と共に御対面になる。ついで天皇と共に奥内謁見所において、歳末祝詞言上のため参内の恒憲王・同妃敏子、稔彦王・同妃聡子内親王と御対面になる。その後、お一方にて侍従長以下の総代に謁を賜い、御喪明けの御機嫌伺いをお受けになる。また、奥宮殿御入側において側近奉仕者一同より挨拶をお受けになる。それより再び天皇と共に奥内謁見所に出御され、内大臣・宮内大臣・侍従長以下の総代より歳末の拝賀をお受けになる。また側近奉仕者、及び元皇后宮女官に謁を賜う。さらに載仁親王以下の皇族・王公族と御対面になり、歳末の祝詞言上をお受けになる。

午後、旧女官の園祥子・生源寺伊佐雄に謁を賜う。その後、天皇及び厚子内親王と共に奥御対面所において故恒久王妃昌子内親王と御対面になり、歳末の祝詞言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、儀式録、宮内省省報

三十一日 金曜日 午前、天皇と共に奥御対面所において、崇仁親王と御対面になり、歳末の祝詞言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

この日葉山へお成りの成子内親王・厚子内親王参内につき、天皇と共に御昼餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、藤井種太郎日誌

午後、皇太后御使の権典侍清水谷英子参内につき、謁を賜う。また、天皇・皇后の御使として皇后宮女官長竹屋志計子は大宮御所に差し遣わされ、歳末につき年内のお礼をお申し入れになり、皇太后の

昭和十二年十二月

御機嫌をお伺いになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

天皇と共に雍仁親王と御対面になり、歳末の祝詞言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、
内舍人日誌、秩父宮御日誌、雍仁親王実紀

昭和十三年（西暦一九三八年）

三十五歳

一月

一日 土曜日 新年につき、午前、天皇と共に御学問所において、成子内親王・和子内親王・厚子内親王の御使のほか、内大臣・宮内大臣始め側近高等官の拝賀をお受けになる。ついで十時、天皇と共に鳳凰ノ間において雍仁親王始め皇族・王公族より拝賀をお受けになる。以下、新年式に従い、正殿及び西溜ノ間において恒例のとおり拝賀をお受けになる。ただし外国交際官の拝賀に際しては、支那事変のため中華民国大使館員は全員欠席する。なお、翌二日にも拝賀の儀が行われる。○女官長日記、女

官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、呉竹寮日誌、省中日誌、秩父宮御日誌、儀式録、宮内省省報

二日 日曜日 午前、拝賀の儀の後、お一方にて桐ノ間にお出ましになり、御裳捧持者に謁を賜う。

ついで奥内謁見所において、年始参内の幸田延音楽の御進講担当者・安藤幸同・神戸絢同等に謁を賜う。○女官長日記、

女官日誌

三日 月曜日 午前、天皇と共に奥内謁見所において、彰常王始め未成年皇族の拝賀をお受けになる。

また、新年初参内の皇太子と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、

宮内省省報

午後、天皇と共に奥御対面所において、故恒久王妃昌子内親王・故邦彦王妃倪子御母とそれぞれ御対面になり、新年の祝詞言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

昭和十三年一月

昭和十三年一月

四日 火曜日 午後、御常御殿御入側において、元侍女鈴木タカ・曾根ナツ・上山千代に謁を賜い、新年の祝詞言上をお受けになる。ついで正仁親王を交え、御歓談になる。○女官長日記、女官日誌

五日 水曜日 支那事变下につき、新年の内宴はお取りやめになる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、

儀式録、宮内省省報

午前、皇太后御参内につき、天皇と共に奥御対面所において御対面になり、新年の祝詞をお受けになる。ついで奥御食堂においてお祝御膳を御会食になる。御食後、正仁親王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、重要雑録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報

六日 木曜日 午前、奥内謁見所において、新年につき参内の元久邇宮侍女滝野繁尾に謁を賜う。正午頃、同所において寒中御機嫌伺いのため参内の伯爵徳川達孝^{元侍}に謁を賜う。午後、天皇と共に奥御

対面所において、新年につき参内の旧女官の園祥子・生源寺伊佐雄、元皇后宮女官の山岡淑子・青山元子に謁を賜う。以後、この年も随時、元奉仕者の拝謁等がある。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

新年につき参内の木戸ツル^{侯爵木戸幸一夫人}に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

去る一日、新潟県魚沼郡十日町所在の演芸場において活動写真興行中、屋根崩落事故により多数の死傷者発生につき、天皇・皇后より御救恤として金一封を同県に下賜される。○省中日誌、恩賜録、宮内省省報、官報

満洲における今回の事変により傷痍を受けて手足を切断した者に対し、思召しをもって義肢を下賜される。なお、満洲事変による傷痍者に対するこの年の義眼・義肢の下賜は十一回に及ぶ。○贈賜録

七日 金曜日 新年につき、午前、天皇と共に奥内謁見所において、故依仁親王妃周子と御対面にな

り、祝詞言上をお受けになる。以後、この年も随時、皇族・王公族・御親族と御対面・御会食になる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌

奥内謁見所において、御学友・御同級生に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌

天皇と共に、この日葉山より帰京した成子内親王・厚子内親王と御対面になる。ついで正仁親王を交えて御昼餐をお召し上がりになる。なお、皇太子は風気のため、和子内親王は昨年十月ジフテリアに罹患し十二月八日より沼津御用邸において静養中のため、いずれも参内を取りやめる。以後、この年も随時、皇太子始め皇子女と御対面・御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、呉竹寮日録、呉竹寮日誌

八日 土曜日 故多嘉王百日祭につき、皇后宮使として皇后宮事務官入江相政を権舎京都久邇宮別邸並びに墓

所泉涌寺に差し遣わされ、それぞれ玉串をお供えになる。なお、天皇・皇后より霊前に盛菓子を、墓所に榊をそれぞれお供えになる。また、別に皇后より権舎に色花を、墓所に果物をそれぞれお供えになる。

○女官長日記、女官日誌、省中日誌、皇親録、重要雑録、宮内省省報、官報

十一日 火曜日 御夕餐後、天皇と共に、この日大本营陸軍参謀を拝命の雍仁親王と御対面になり、ついでお揃いにてニュース映画を御覧になる。以後、この年は、火曜日を定例として、直宮と共に時局関係等の映画を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、秩父宮御日誌、皇族身分録

十二日 水曜日 午後、奥内謁見所において恒憲王妃敏子と御対面になり、寒中御機嫌伺いをお受けになる。また、新年の挨拶のため故成久王妃房子内親王参内につき、天皇と共に奥御対面所において御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

昭和十三年一月

十三日 木曜日 午前、奥内謁見所において春仁王妃直子と御対面になり、春仁王出征中の留守お尋ねについてのお札言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

午後一時三十分御出門、新年の御挨拶のため大宮御所に行啓され、皇太后と御対面になる。お祝御膳はお取りやめになる。四時三分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、幸啓録、宮内省省報、官報

十四日 金曜日 午後、皇太后御使として参内の権典侍清水谷英子に奥内謁見所において謁を賜い、昨十三日の行啓、及び天皇よりの御贈進品についてのお札言上をお受けになる。以後、この年も折に触れ、参内した皇太后御使に謁を賜い、また、天皇・皇后あるいは皇后から大宮御所に御使を遣わされる。○女官長日記、女官日誌

十五日 土曜日 午後、呉竹寮にお出ましになり、成子内親王・厚子内親王のピアノの稽古や勉強の様子を御覧になる。続いて、お庭にお出ましになり、運動のお相手をされ、夕刻還御される。以後、この年は、土曜日を定例として、お一方又は天皇と共に呉竹寮にお出ましになり、内親王方の勉強や稽古あるいは成績品等を御覧になり、御一緒にお過ごしになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、呉竹寮

日録、呉竹寮日誌

十七日 月曜日 午前、桐ノ間において、今般着任のエジプト国特命全権公使アブドウル・ワハープ・ダウード・ベイに謁見を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、謁見録、宮

内省省報、官報

十八日 火曜日 午前十時、天皇と共に鳳凰ノ間において、講書始の儀に臨まれる。国書は帝国学士院会員佐佐木信綱より「御歴代の御製に拝せらるる御聖徳」、漢書は京城帝国大学教授藤塚鄰より「中

庸首章」、洋書は帝国学士院会員長岡半太郎より「原子構造の概要」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、儀式録、儀式祭典録、侍従武官府歴史、宮内省省報、官報

十九日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より「大本営について」と題する進講をお聴きになる。内容は、明治七年の台湾征討より昭和十二年の支那事変までの海外用兵と宣戦布告、並びに大本営設置に及ぶ。以後、この年は、水曜日を定例として同人より進講を合計二十二回にわたってお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

二十日 木曜日 午前、この日葉山へ出発の皇太子参内につき、天皇と共に御対面になり、ついで御昼餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、宮内省省報、官報

二十四日 月曜日 午前十時、天皇と共に鳳凰ノ間において、歌会始の儀に臨まれる。この年のお題は「神苑朝」であり、皇后宮御歌は次のとおり。

皇后宮御歌

五十鈴川きよきなかれをむすひつゝみくにのさちをいのる朝かな

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、儀式録、儀式祭典録、御歌録、進退録、宮内省省報、官報、あけぼの集

二十六日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より「昭和十二年の国際政局について」と題する進講をお聴きになる。内容は、支那事変と列国の態度、日独伊三国防共協定の成立、日蘇関係、スペイン動乱、ドイツの植民地返還要求、満洲国関係に及ぶ。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

二十七日 木曜日 午前、奥内謁見所において、今般凱旋の元第六師団長陸軍中将谷寿夫、元台湾守

昭和十三年二月

備隊司令官陸軍少将重藤千秋に謁を賜う。その際、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職

日誌、内舍人日誌、省中日誌、拝謁参拝録、満州及支那事変録

二十八日 金曜日 午前、奥内謁見所において、新任の宗秩寮総裁武者小路公共に謁を賜う。○女官長

日記、女官日誌、侍従職日誌

午後、天皇と共に奥内謁見所において、今般中支那方面への出張より帰京の恒憲王と御対面になり、

視察談をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、百武三郎日記

三十一日 月曜日 午後、松平信子^{宮内大臣松平恒雄夫人}に謁を賜い、寒中の御機嫌伺いをお受けになる。○女官長日

記、女官日誌、侍従職日誌

枢密院副議長荒井賢太郎去る二十九日死去につき、この日、天皇・皇后より祭資を下賜される。なお
同人の病気に際して、お尋ねとして天皇・皇后より葡萄酒を下賜される。○省中日誌、恩賜録、進退録、宮内

省省報

二月

一日 火曜日 昨日オランダ国皇族ベルナルドより天皇・皇后に、皇嗣ユリアナ内親王の出産を報じ
る親電到達につき、この日天皇・皇后より祝電を御発送になる。○省中日誌、上奏モノ控簿、外交慶弔録、宮内

省省報、官報

二日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より「第七十三回帝国議会に於ける国務大臣の演説
について」と題する進講をお聴きになる。内容は、近衛内閣総理大臣の演説、広田外務大臣の演説、

賀屋大蔵大臣の演説、杉山陸軍大臣の演説、米内海軍大臣の演説に及ぶ。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

三日 木曜日 午前、奥内謁見所において、今般出征の第五艦隊司令長官海軍中将塩沢幸一に謁を賜い、お手編みの襟巻を下賜される。その際、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、重要雑録

四日 金曜日 大聖寺・宝鏡寺・曇華院・円照寺・林丘寺・靈鑑寺・中宮寺・瑞竜寺・三時知恩寺・水薬師寺・長福寺・善光寺・法華寺・禅智院に乾海苔を賜う。○贈賜録

八日 火曜日 午前、奥内謁見所において、故成久王妃房子内親王と御対面になり、昨月二十八日の誕生日に際しての御贈進につき、お礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、重要雑録、贈賜録

午後、葉山より帰京の東宮傳育官石川岩吉に謁を賜い、皇太子・正仁親王の近況をお聴きになる。○

女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

九日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より「長期戦と日本の経済力」と題する進講をお聴きになる。内容は、世界大戦の戦費、支那事変・日清戦争・日露戦争の各戦費と、戦費が巨額となる原因、日露戦争と比較した今日における我が国の戦費負担可能額などに及ぶ。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

今次の事変の陸軍関係傷痍者に対し、思召しをもって繙帯六千本を下賜される。○侍従職日誌

十一日 金曜日 午前、紀元節祭につき、賢所・皇靈殿・神殿において御拝礼になる。その後、御仮

昭和十三年二月

床にある天皇と共に御静養室において、成子内親王・厚子内親王より祝詞言上をお受けになる。天皇御静養中につき、皇族の拝賀はお取りやめとなり、側近高等官総代の祝詞は皇后宮女官長よりまとめてお受けになり、続いて皇后宮女官一同より挨拶をお受けになる。ついで、成子内親王・厚子内親王とお祝御膳の御昼餐を御会食になる。夕刻、皇靈殿御神楽の儀につき、御拝礼になる。○女官長日記、女

官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、呉竹寮日誌、省中日誌、儀式録、祭祀録、重要雑録、宮内省省報、官報

十二日 土曜日 午前、今般旅順要港部・駐滿海軍部へ御差遣の侍従武官山澄貞次郎に謁を賜う。その際、各司令官以下の将兵に対するお言葉を賜う。山澄は翌十三日出発、満洲・中支・北支地方に赴き、三月五日帰京、十一日復命する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、重要雑録、進退録、侍従武官府

歴史、宮内省省報、官報

十三日 日曜日 午前、御静養室より御常御殿へ戻られた天皇と共にお過ごしになる。翌十四日、天皇は御床払いになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、重要雑録

十六日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より「日支関係の古戯曲について」と題する進講をお聴きになる。内容は、近松門左衛門作『国姓爺合戦』の主人公鄭成功とその母に見る日本精神の考察に及ぶ。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

奥内謁見所において、今般中支那派遣軍司令官として出征の陸軍大将畑俊六に謁を賜う。同人に対し、次のお言葉を賜う。

今回中支那派遣軍司令官ノ重任ヲ帯ヒテ彼地へ出発スル趣洵ニ御苦勞ニ思フ就テハ身体ヲ大切ニシテ御奉公ヲスルヤウニ

同人より奉答をお受けになり、お手編みの襟巻を下賜される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、侍従武官府歴史、畑俊六日誌

午後、奥内謁見所において、木戸ツルに謁を賜う。○女官長日記、女官日誌

十七日 木曜日 午前、奥内謁見所において、今般凱旋の元第九戦隊司令官海軍中将小林宗之助に謁を賜う。その際、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

十九日 土曜日 天皇と共に葉山御用邸に行啓のため、午前十時御出門、十一時二十八分同邸に御到着になる。御昼餐時、同邸に滞在中の正仁親王^{皇太子は附属邸にて静養中のため参邸せず}と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、省中日誌、幸啓録、行幸録、宮内省省報、官報

二十日 日曜日 午前・午後、天皇の海洋生物御採集に同行され、小磯にお出ましになる。以後、御用邸御滞在中、折に触れて天皇の海洋生物の御採集に同行される。また、毎日海草の押し葉や御研究をされる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録

二十二日 火曜日 陸軍中将瀬川章友^{元侍従武官}死去につき、天皇・皇后より祭資を賜うとともに霊前に盛菓子を下賜される。なお、同人の病氣に際しては、お尋ねとして天皇・皇后より果物を下賜される。

○侍従職日誌、省中日誌、恩賜録、贈賜録、宮内省省報

二十三日 水曜日 この月中旬樺太庁管下において暴風雪被害発生につき、天皇・皇后より御救恤として金一封を同庁に下賜される。○省中日誌、恩賜録、宮内省省報、官報

二十五日 金曜日 午後、海岸を御散策の後、附属邸にお出ましになる。昨二十四日床払いの皇太子と御対面の後、御帰邸になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、幸啓録

昭和十三年二月

二十六日 土曜日 午前、故菊麿王妃常子邦彦王妃 親子の姉が芝区高輪の山階宮御仮寓所において薨去する。王

妃薨去につき、三十日間第一期十日間 第二期二十日間服喪される。また、皇后より野菜生物学御研究所産・苺を靈前にお供えにな

る。この日、満洲国皇帝より天皇・皇后に弔電が寄せられる。これに対し、翌二十七日、天皇・皇后

より答電をお送りになる。同日、弔問のため、皇后宮使として皇后宮事務官入江相政を山階宮邸に差

し遣わされる。二十八日には正寝移柩の儀が行われ、天皇・皇后・皇太后よりそれぞれ盛菓子を賜う。

また皇后より皇后宮女官長竹屋志計子を差し遣わされ、果物をお供えになる。さらに盛花をお供えに

なる。三月二日には靈代安置の儀が行われ、皇后宮使として入江皇后宮事務官を差し遣わされ、玉串

をお供えになる。また、天皇・皇后・皇太后より祭資を、皇后より櫛を賜う。三日には斂葬当日柩前

祭の儀が行われ、皇后宮使として皇后宮事務官大益次郎を柩前に、ついで行われる葬送には入江皇

后宮事務官を葬齋場豊島岡墓地に差し遣わされ、それぞれ玉串をお供えになる。なお、去る二十五日、王妃

の病氣重体に際して、天皇・皇后よりお尋ねとして葡萄酒を下賜され、侍従小倉庫次・侍医高橋信を

差し遣わされる。

故菊麿王妃常子は明治七年公爵島津忠義の第三女子として誕生、三十五年菊麿王の継室となり、三王子を儲けた。享年六十五。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、省中日誌、幸

啓録、皇親録、皇族身分録、外交慶弔録、重要雑録、墓誌銘録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報

二十七日 日曜日 夜、昨年十二月の入城式よりこの年一月までの南京の状況をまとめたニュース映

画を天皇と共に御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌

三月

四日 金曜日 午後、皇太子参邸につき、天皇と共に御対面になる。一時五十分葉山御用邸をお一方にて御出門、三時十五分宮城に還啓される。御服喪中につき、劍璽との御同列を避けるため、天皇より一日早く宮城に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、吳竹寮日誌、省中日誌、幸啓録、行幸録、重要雜録、宮内省省報、官報

五日 土曜日 午前十一時五十五分天皇が宮城に還幸される。皇后は、御服喪中につきお出迎えを御遠慮になり、御休所において御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、省中日誌、幸啓録、行幸録、重要雜録、宮内省省報、官報

六日 日曜日 満三十五歳のお誕生日を迎えられる。

時局柄、及び御服喪中につき、拝賀等の祝儀は全てお取りやめとなる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、吳竹寮日誌、省中日誌、儀式録、重要雜録

七日 月曜日 厚子内親王の誕生日につき、午前、天皇と共に、皇后宮女官長始め皇后宮女官等より祝詞言上をお受けになる。皇后御服喪中、及び内親王が風氣後療養中のため、天皇・皇后へのお祝御膳の供進、並びに拝賀は行われず、内宴も時局柄お取りやめとなる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、順宮御日誌、吳竹寮日誌、皇子保育録、贈賜録、重要雜録

八日 火曜日 第一期御喪明けにつき、お清めになる。○女官長日記、女官日誌

この日、祐子内親王十年式年祭が行われる。御服喪中のため、午前の豊島岡墓地における墓所祭の御代拝はお取りやめになる。午前、天皇と共に奥内謁見所において、内大臣・宮内大臣始め各総代、皇

昭和十三年三月

后宮女官一同、侍従長始め側近奉仕者に謁を賜い、御機嫌伺いをお受けになる。午後、御使として皇后宮女官長竹屋志計子を祐子内親王の墓所に差し遣わされる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、呉竹寮日誌、省中日誌、儀式録、祭祀録、重要雜録、宮内省省報

十日 木曜日 午前、奥内謁見所において、元皇后宮大夫河井弥八に謁を賜う。祐子内親王十年式年祭終了に当たり、毎年月命日に同人が内親王の墓所に参拝したことに對し、特に思召しをもつてお手許品を下賜される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

十二日 土曜日 今次の支那事變發生以來、現地に救護班を派遣するなど諸般の救護に従事尽力した日本赤十字社に對し、この日、思召しをもつて天皇・皇后より金一封を下賜される。なお十五日、そのうちの一部分が、救護資金として篤志看護婦人会に伝達される。○省中日誌、恩賜録、事業年報（日本赤十字社）、日本赤十字社史稿

十四日 月曜日 午前、学習院教授板沢武雄より「国史の認識」と題する進講をお聴きになる。この日より当分の間、月曜日に同人の進講が行われ、この年は十九回にわたつてお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

午後、天皇と共に奥内謁見所において、この日軍事參議官に親補の鳩彦王と御対面になり、お礼言上をお受けになる。また、戦地の話をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、儀式録、皇族身分録、宮内省省報、官報

十五日 火曜日 午後、御休所において、支那における傷病兵の慰問より帰国の大谷智子伯爵大谷光暢夫人、御妹と御対面になり、種々お話しになる。支那よりの持ち帰り品寝台覆い、洋服地の献上をお受けになる。○女官長日記、女官

日誌、侍従職日誌

十六日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より「独逸合邦について」と題する進講をお聴きになる。内容は、オーストリア共和国の概要から、ドイツ軍のオーストリア進入、インカート内閣の成立、サンジェルマン条約第八十八条のオーストリア独立保障条項の廃棄、新連邦憲法発布、さらにチエコスロバキア問題と英仏伊各国の態度にまで及ぶ。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

十八日 金曜日 午前、奥内謁見所において、今般凱旋の第十一師団長陸軍中将山室宗武に謁を賜う。

その際、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、満州及支那事変録、侍従武官府歴史、宮内省省報、百武三郎日記

十九日 土曜日 午前、奥内謁見所において、故菊麿王妃常子薨去後の忌明けにつき参内の故邦彦王妃倪子と御対面になり、喪中お尋ねのお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、皇親録
二十二日 火曜日 午前十一時十五分御出門、大宮御所に行啓される。皇太后と御対面になり、精進料理の御昼餐を御会食になる。午後三時十七分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、幸啓録、重要雑録、宮内省省報、官報

二十三日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より「経済ブロックと日本の地位」と題する進講をお聴きになる。内容は、経済上の自給自足主義、植民地、「持つ国」と「持たざる国」、米英仏の各国ブロック、独伊ブロック、小国主義、日満ブロック、支那事変の意義、世界における日本の経済的順位に及ぶ。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

二十六日 土曜日 午後、天皇と共に奥御対面所において、宣仁親王・同妃喜久子と御対面になる。

昭和十三年四月

親王・同妃より、昨年末来の病氣快癒につきお礼言上並びに御機嫌伺いをお受けになる。親王は、去る一月二日に中耳炎の手術を受け、来る二十九日、病後の静養のため同妃と共に沼津御用邸東附属邸に赴く。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、皇親録、宮内省省報

故成久王妃房子内親王参内につき、奥内謁見所において御対面になる。去る二十日故能久親王妃富子祥月命日に際しての靈殿へのお供え、及び皇后御喪明けに際しての菓子の手帳等につきお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

二十七日 日曜日 御風気につき、御用心のため御仮床に就かれる。以後、四月十五日の御床払いまで御静養になる。○女官長日記、女官日誌

二十八日 月曜日 御風気のため、御喪明けのお清めを延期される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、重要雑録

二十九日 火曜日 御風気のため、女子学習院卒業式への行啓をお取りやめになり、稔彦王妃聡子内親王を御名代として差し遣わされる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、幸啓録、皇親録、宮内省省報、官報

四月

四日 月曜日 ベルギー国大使館において慈善バザー開催につき、皇后宮女官津軽理喜子・皇后宮職御用掛高木多都雄を差し遣わされる。○女官長日記、女官日誌

六日 水曜日 午前、葉山より帰京の厚子内親王参内につき、天皇と共に御対面になる。○女官長日記、

女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、呉竹寮日誌、順宮御日誌

七日 木曜日 午前、成子内親王・厚子内親王参内につき、御対面になる。 関西京都・大阪・滋賀各府県下 旅行から昨

夜帰京の成子内親王より、昨月三十日以来の旅行中の話をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、

侍従職日誌、内舍人日誌、呉竹寮日誌、照宮御日誌、順宮御日誌

御風気のため、アフガニスタン国へ赴任の特命全権公使守屋和郎及びフィンランド国へ赴任の特命全権公使杉下裕次郎の賜謁が取りやめになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁参拝録、重要雑

録

九日 土曜日 去る一日、宮内大臣より、今次の支那事変による戦傷病者の御慰問及び銃後援助事業

概況の御聴取を目的として各妃を各地方へ御差遣になる旨の皇后の御沙汰が、皇族妃・王族妃に伝達される。各妃の御差遣に際し、陸海軍病院に入院中の戦傷病者満洲事変による者も含むに菓子料を下賜されることとなる。

この日、故恒久王妃昌子内親王来る十二日に山口・広島・岡山各県下へ出発、稔彦王妃聡子内親王来る十二日に兵庫・鳥取・島根各県下へ出発、春仁王妃

直子来る十日に香川・徳島・高知・愛媛各県下へ出発が参内し、御差遣拝命のお礼を皇后宮女官長に申し入れる。○女官長日記、女官日誌、

侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、皇親録、侍従武官府歴史、宮内省省報、官報

十一日 月曜日 今次の支那事変による戦傷病者の御慰問及び銃後援助事業概況の御聴取を目的とし

た、三重・奈良・和歌山・滋賀・京都・大阪各府県下への故依仁親王妃周子の御差遣翌十二日出発につき、こ

の日、同妃より、宮内事務官東伏見宮付を通じて皇后宮女官長に御差遣拝命のお礼の申し入れがある。○女官

長日記、女官日誌、皇親録、宮内省省報、官報

昭和十三年四月

十三日 水曜日 この日、御風気のため去る三月二十八日より延引の御喪明けのお清めを行われる。

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、重要雑録

十四日 木曜日 御風気全快につき、午後、御常御殿御入側において女子学習院より提出の成績品を御覧になる。○女官長日記、女官日誌

十五日 金曜日 御床払いになる。御朝食後、御休所において皇后宮女官長竹屋志計子始め皇后宮女官一同の挨拶をお受けになる。なお、皇后宮女官長を通じて侍従長・皇后宮大夫・侍医頭よりの祝詞が言上される。御喪明け及び御床払いにつき、午後、御使として皇后宮女官万里小路ソデを大宮御所に差し遣わされる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、重要雑録

午前、御休所において、故邦彦王妃侃子と御対面になり、今次の支那事変による戦傷病者の御慰問及び銃後援助事業概況の御聴取を目的とした長崎・熊本・鹿児島・宮崎各県下への御差遣^{来る十八日出発}につき、お礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、皇親録、宮内省省報、官報

今次の事変の陸軍関係傷病者に対し、思召しをもって繙帯を下賜される。○侍従職日誌

十六日 土曜日 故菊麿王妃常子五十日祭につき、皇后宮使として皇后宮事務官小倉庫次を権舎に、同大益次郎を墓所にそれぞれ差し遣わされ、玉串をお供えになる。なお、天皇・皇后より、権舎に盛菓子を、墓所に榊をお供えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、省中日誌、皇親録、重要雑録、宮内省省報、官報

十八日 月曜日 午前、奥内謁見所において、宮中杖を持参の元侍従武官長内山小二郎に謁を賜い、今般天皇よりその使用を差し許されたことについてのお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、

侍従職日誌

午後、天皇と共に奥内謁見所において、博義王と御対面になり、帰還の挨拶をお受けになる。王は、第六駆逐隊司令として中支方面に出征中に潰瘍性口内炎に罹患したため、去る三月二十四日芝浦に帰港し、直ちに海軍軍医学校に入院のところ、三十日退院し、この日正式に東京駅に到着、凱旋する。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、贈賜録、博義王殿下御事蹟、博恭王殿下を偲び奉りて

十九日 火曜日 午前、奥内謁見所において、今般凱旋の第四水雷戦隊司令官海軍少将細萱戊子郎に

謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、満州及支那事変録

二十日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より「第七十三帝国議会の成績」と題する進講をお聴きになる。内容は、第七十三回帝国議会に上程の予算案、国家総動員法案を始めとする法律案八十七件などに及ぶ。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

午後、沼津・箱根における転地療養より帰京の宣仁親王・同妃喜久子参内につき、天皇と共に奥御対面所において御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宮内省省報

二十一日 木曜日 先に、今次の支那事変による戦傷病者の御慰問及び銃後援助事業概況の御聴取を目的として皇族妃・王族妃を各地方へ御差遣になる旨の御沙汰を下されたところ、この日、宮内大臣より、日帰りできる東京・神奈川・埼玉・千葉各府県下にも各妃を御差遣になる旨の皇后の御沙汰が、雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子・永久王妃祥子・博義王妃朝子・朝融王妃知子女王・故依仁親王妃周子に伝達される。○省中日誌、皇親録、官報

二十二日 金曜日 午前、奥内謁見所において、故恒久王妃昌子内親王と御対面になり、今次の支那

昭和十三年四月

事変による戦傷病者の御慰問及び銃後援助事業概況の御聴取を目的とした山口・広島・岡山各県下の陸軍病院等への御差遣<sup>去る十二日出発
し二十一日帰京</sup>につき、復命をお受けになる。同妃持ち帰りの戦傷病兵の製作品を

御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、皇親録、宮内省省報、官報

二十三日 土曜日 午前、奥内謁見所において、春仁王妃直子と御対面になり、今次の支那事変による戦傷病者の御慰問及び銃後援助事業概況の御聴取を目的とした香川・徳島・高知・愛媛各県下の陸軍病院・赤十字病院等への御差遣<sup>去る十日出発し
二十一日帰京</sup>につき、復命をお受けになる。午後、稔彦王妃聡子内親

王と御対面になり、兵庫・鳥取・島根各県下の陸軍病院・赤十字病院等への御差遣<sup>去る十二日出発
し二十一日帰京</sup>につき、

復命をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、皇親録、宮内省省報、官報

二十四日 日曜日 午前、皇太子・成子内親王・厚子内親王参内につき、天皇と共に御対面の後、内庭において御昼餐を御会食になる。午後、皇子御座所にお出ましになり、皇后の御服喪により延期の雛祭りの催しとして雛人形<sup>成子内親王・厚子内親王初節句の折に
天皇・皇后・皇太后より御贈進の品</sup>を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従

職日誌、内舍人日誌、呉竹寮日誌、省中日誌、宮内省省報

二十五日 月曜日 午前、東京帝国大学助教授板沢武雄より聖徳太子の憲法についての進講をお聴きになる。五月九日、第二回の進講を聴取される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

午後、奥内謁見所において、故依仁親王妃周子と御対面になり、今次の支那事変による戦傷病者の御慰問及び銃後援助事業概況の御聴取を目的とした三重・奈良・和歌山・滋賀・京都・大阪各府県下の陸軍病院・赤十字病院等への御差遣<sup>去る十二日出発
し二十四日帰京</sup>につき、復命をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、皇親

録、宮内省省報、官報

二十六日 火曜日 別格官幣社靖国神社において臨時大祭挙行につき、天皇と共に同社へ行啓予定のところ、御都合により皇后のみお取りやめになる。なお、臨時大祭挙行に際し、天皇・皇后より同社に祭資を下賜される。○女官長日記、女官日誌、省中日誌、幸啓録、満州及支那事変録、宮内省省報、官報

二十七日 水曜日 午前、奥内謁見所において、今般支那方面艦隊司令長官兼第三艦隊司令長官として出征の海軍中将及川古志郎に謁を賜い、お手編みの襟巻を下賜される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、拝謁参拝録、侍従武官府歴史

東京帝国大学教授穂積重遠より「自治制發布五十周年」と題する進講をお聴きになる。内容は、明治二十一年の市制町村制とその制定理由に及ぶ。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

奥内謁見所において、京都在住華族総代の正二位清閑寺経房に謁を賜う。続いて、故成久王妃房子内親王・多恵子女王と御対面になり、今般多恵子女王女子学習院卒業につき、お礼言上をお受けになる。退出の際、思召しをもってお祝いの品を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

午後、朝融王妃知子女王・正子女王・朝子女王・通子女王^{初参、内}、並びに三条西信子^{三条西公正夫人、御妹}及びその息

女淑子・味子・洋子・澄子、さらに今般京都より女子学習院中等科に入学の大谷美都子^{御妹智子の第一女子}参内に

つき、成子内親王・厚子内親王を交えて御対面になる。それより一同お揃いにてお庭にお出ましになり、遊びの様子を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、呉竹寮日誌

この日開催の東京慈恵会総会に御名代として御差遣の故依仁親王妃周子、続いて東京慈恵会総裁故恒久王妃昌子内親王と御対面になり、お礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、

昭和十三年四月

昭和十三年四月

皇親録、宮内省省報、官報

二十八日 木曜日 午前、桐ノ間において、今般着任のドイツ国特命全權大使オイゲン・オット及び同夫人、随伴の大使館参事官ネーベルほか七名、ボリビア国特命全權公使アンヘル・アヨロア及び同夫人に謁見を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、謁見録、宮内省省報、官報
夕刻、永久王妃祥子と御対面になり、今次の支那事変による戦傷病者の御慰問及び銃後援助事業概況の御聴取を目的とした千葉県下への御差遣^{昨二十七日習志野・下志津・佐倉の各陸軍病院慰問、この日国府台・千葉の各陸軍病院慰問及び千葉県庁訪問}につき、復命をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、皇親録、宮内省省報、官報

二十九日 金曜日 天長節につき、朝、天皇と共に成子内親王・厚子内親王と御対面になり、祝詞言上をお受けになる。その後、お一方にて奥内謁見所において、内大臣・宮内大臣始め総代の拝賀、皇后宮女官等の祝詞言上、雍仁親王・宣仁親王・同妃喜久子始め皇族・王公族の拝賀をお受けになる。支那事変下につき、宴会及び内宴はお取りやめとなり、天皇及び皇太子・成子内親王・厚子内親王と共に奥御食堂において、お祝御膳の御昼餐をお召し上がりになる。午後、天皇と共に奥御対面所において、旧女官の園祥子・生源寺伊佐雄、元皇后宮女官等に謁を賜う。その後、天皇と共に御学問所において、元侍女の鈴木タカ・曾根ナツ・小山登美に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、吳竹寮日誌、秩父宮御日誌、儀式録、宮内省省報、官報

三十日 土曜日 多摩陵^{大正天皇陵}に行啓される。午前八時五十分御出門、陵所に御到着の後、御拝礼になる。終わって陵所御休所に戻られ、諸陵頭以下関係諸員に謁を賜う。午後零時十七分還啓される。○

女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、宮内省省報、官報

夕刻、奥内謁見所において、博義王妃朝子と御対面になり、今次の支那事変による戦傷病者の御慰問及び銃後援助事業概況の御聴取を目的とした、この日の東京府下の立川陸軍病院への御差遣につき、復命をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、皇親録、宮内省省報、官報

五月

一日 日曜日 午前、雍仁親王・同妃勢津子、崇仁親王参内につき、天皇と共に奥御対面所において御対面になる。雍仁親王は中支・北支及び満洲国へ出張のため翌二日出発する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、秩父宮御日誌、外交雑録、雍仁親王実紀

午後、今般第二軍司令官として出征の稔彦王^{陸軍中将}参内につき、天皇と共に奥内謁見所において御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、皇族身分録

二日 月曜日 午前九時四十五分御出門、別格官幣社靖国神社に行啓され、御拝礼になる。十時十六分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、幸啓録、宮内省省報、官報

守正王妃伊都子と御対面になり、今次の支那事変による戦傷病者の御慰問及び銃後援助事業概況の御聴取を目的とした福岡・佐賀・大分各県下の陸海軍病院等への御差遣^{去る四月十八日出発し二十九日帰京}につき、お礼言上及び復命をお受けになる。続いて、故邦彦王妃倪子と御対面になり、長崎・熊本・鹿児島・宮崎各県下の陸海軍病院等への御差遣^{去る四月十八日出発し二十七日帰京}につき、お礼言上及び復命をお受けになる。ついで御常御殿御入側において故邦彦王妃と御昼餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、皇親録、宮内

昭和十三年五月

省省報、官報

三日 火曜日 午前、奥内謁見所において、今般スペイン国より帰国の特命全權公使矢野真、南アフリカ連邦へ赴任の特命全權公使岡田兼一及び同夫人に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、拝謁参拝録、祭祀録、宮内省省報、官報

四日 水曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、御養蚕始の儀を行われる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

午後、奥内謁見所において、恒徳王妃光子と御対面になり、今次の支那事変による戦傷病者の御慰問及び銃後援助事業概況の御聴取を目的とした、福井・石川・富山・長野・山梨各県下の陸軍病院・赤十字病院等への御差遣^{翌五日}につき、挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、皇親

録、宮内省省報、官報

夕刻、朝融王妃知子女王と御対面になり、今次の支那事変による戦傷病者の御慰問及び銃後援助事業概況の御聴取を目的とした東京府下への御差遣につき、復命をお受けになる。女王は、去る二日に臨時東京第一陸軍病院、三日に陸軍軍医学校、この四日に臨時東京第一陸軍病院赤十字病院を訪問し、入院患者を慰問の上、各院長に次の言葉を述べる。

此度皇后陛下ノ思召ニ依リ此方へ参リマシタ、治療看護良ク行届イテ居ルノヲ見マシテ、満足ニ思ヒマス

皇国ノ為トハ申シナガラ傷病ニ悩ミ中ニハ不具トナル気毒ノ人モアル様子此上トモ十分勞ハリ慰メテ遣ル様望ミマス尚本日ノ模様ハ皇后陛下ニ申上ゲマス

ついで女王は、東京府庁において、府下の銃後の援助施設に関する府知事の言上を聴取し、次の言葉を述べる。

此度皇后陛下ノ思召ニ依リ此方へ参リマシタ、銃後ノ援護施設カ相当行届イテ居ルコトヲ聞キマシテ満足ニ思ヒマス、将来トモ一層之ヲ充実シ出征者遺家族、傷病者ガ生活ニ困ラヌ様十分尽サル、コトヲ希望シマス尚本日ノ様子ハ皇后陛下ニ詳シク申上ゲマス

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、皇親録、宮内省省報、官報

別当^{山階}海軍少将大石正吉去る二日死去につき、この日、天皇・皇后・皇太后より祭資を下賜される。

なお、同人の病氣に際しては、お尋ねとして天皇・皇后・皇太后より葡萄酒を下賜される。○省中日誌、

恩賜録、進退録、宮内省省報

五日 木曜日 午前、今般凱旋の元支那方面艦隊司令長官海軍中将長谷川清、元上海海軍特別陸戦隊司令官海軍少将大川内伝七、元支那方面艦隊参謀長海軍少将杉山六蔵に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、進退録、侍従武官府歴史、海軍公報

皇太子の着袴の儀が行われる。数え年五歳の昨秋に挙行予定であったが、多嘉王薨去による皇后の御服喪及び支那事変のため延期され、この日となる。午前、着袴の儀、深宵木の儀、及び賢所靈殿神殿に謁するの儀が行われる。その後、天皇と共に、童形服を着用して参内した皇太子と御対面になる。

ついで、天皇及び皇太子と共に奥内謁見所において、内大臣・宮内大臣・宮内次官・侍従長・皇后宮大夫・侍医頭・侍従武官長・東宮傳育官・皇子御養育掛長の拝賀をお受けになる。続いて、宣仁親王・同妃喜久子、故恒久王妃昌子内親王、故成久王妃房子内親王、稔彦王妃聡子内親王、載仁親王の拝賀

昭和十三年五月

をお受けになる。午後、皇太子の退出後、奥内謁見所において、お一方にて三条西信子と御対面になり、拝賀をお受けになる。夕刻、天皇と共に、朝融王^{御兄}・同妃知子女王、博義王・同妃朝子と御対面になり、拝賀をお受けになる。その後、成子内親王・厚子内親王より祝詞言上をお受けになり、お祝御膳の御夕餐を御会食になる。この日、天皇・皇后より皇后宮事務官永積寅彦を多摩陵に差し遣わされ、御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日記、侍従日記、侍従職日記、内舍人日記、吳竹寮日記、省中日誌、東宮録、皇子保育録、重要雜録、宮内省省報

六日 金曜日 午前十時御出門、赤坂区の憲法記念館において開催の日本赤十字社第四十六回通常総会に行啓される。先着の總裁載仁親王のほか皇族妃・公族妃と御対面になり、続いて陸軍大臣杉山元、海軍大臣米内光政、拓務大臣代理八角三郎^{拓務政務次官}、社長徳川家達、副社長徳川圀順等に単独の謁を、また理事以下に列立の謁を賜う。それより式場に臨御され、次の令旨を賜う。

茲に日本赤十字社第四十六回総会に臨み親しく各員に告ぐる機を得たるを歡ぶ本社施設の益々整備し其の基礎は愈々鞏固を加ふるに至れりといふ而して今次事変に際しては戦地並に内地の軍病院に多数の救護班を派し本社経営の病院には戦傷病兵を収容し更に出征軍人遺家族に対しても救護の力を効すと聞くは深く満足に思ふ所なり現下時局の重大なるに鑑み本社員一同心を協せ力を戮せて益々国家社会に貢献せむことを望む

終わって、總裁の奉答をお受けになる。十一時二十分還啓される。間もなくお礼のため参内の載仁親王と御対面になる。

午後二時再び御出門、日比谷公園内において開催の愛国婦人会第三十七回通常総会に行啓される。御

着後、総裁故依仁親王妃周子を始め皇族妃・公族妃と御対面になり、便殿において会長本野久子故子爵本野、一郎夫人

副会長水野満寿子貴族院議員水野鍊太郎夫人、陸軍大臣、愛国婦人会顧問水野鍊太郎、傷兵保護院総裁本庄繁に謁を賜

う。ついで式場に臨御され、次の令旨を賜う。

茲に愛国婦人会第三十七回総会に臨み親しく諸員を見るを怡ふ

今や内外多事にして実に挙国一致奉公の誠を効すべきの秋なり此の間に処し本会か創立の趣旨に鑑み全員結束して銃後の援助に万全を期しつゝあるを聞くは深く満足する所なり

惟ふに時局の前途尚ほ計り難し各員益々堅忍持久の節を堅うし愈々婦人報国の大義に邁進せむことを望む

総裁の奉答をお受けになり、三時六分還啓される。後刻、お礼言上のため参内の故依仁親王妃と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、幸啓録、宮内省省報、官報、日本赤十字社社史稿、

愛国婦人会四十年史

春仁王妃直子と御対面になり、今次の支那事変による戦傷病者の御慰問及び銃後援助事業概況の御聴取を目的とした静岡・愛知・岐阜三県下の陸海軍病院等への御差遣去る四月二十六日出発し五月五日帰京につき、復命をお受

けになる。当初は博義王妃朝子を御差遣の予定であったが、同妃病氣につき、四月十一日、春仁王妃に変更の御沙汰を下された。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、皇親録、宮内省省報、官報

七日 土曜日 午後一時三十分御出門、大宮御所に行啓され、皇太后と御対面になる。四時二十七分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、幸啓録、宮内省省報、官報

昭和十三年五月

昭和十三年五月

九日 月曜日 午前、奥内謁見所において、宣仁親王妃喜久子と御対面になり、今次の支那事変による戦傷病者の御慰問及び銃後援助事業概況の御聴取を目的とした神奈川県下の横須賀陸軍病院・同海軍病院及び神奈川県庁への御差遣^{翌十日}につき、挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、^出発

省中日誌、皇親録、宮内省省報、官報

皇太后御参内につき、天皇と共に奥御対面所において御対面になり、ついで奥御食堂において御昼餐を御会食になる。奥御対面所において過ごされた後、皇太后と共に紅葉山御養蚕所にお出ましになる。

夕刻、皇太后は退出される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、重要雑録、貞明皇后

実録正本、宮内省省報、官報

十日 火曜日 午前、桐ノ間において、今般来日の伊国政府派遣経済使節団長上院議員エットーレ・コンティ及び同夫人、外国使節団員二十名に謁見を仰せ付けられる。続いて、スペイン国代理公使フランシスコ・ホセ・デル・カステイリヨ及び同夫人に謁見を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、

侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、謁見録、宮内省省報、官報

夕刻、奥内謁見所において、宣仁親王妃喜久子と御対面になり、今次の支那事変による戦傷病者の御慰問及び銃後援助事業概況の御聴取を目的とした、この日の神奈川県下の横須賀陸軍病院・同海軍病院及び神奈川県庁への御差遣につき、復命をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、

皇親録、宮内省省報、官報

十一日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より「国家総動員法について」と題する進講をお聴きになる。内容は、国家総動員の必要とその準備、国家総動員法の内容、戦時の規定、平時よりの

準備、国家総動員審議会、憲法第三十一条の天皇非常大権の規定との関係に及ぶ。○女官長日記、女官日記、侍従職日誌、穂積家文書

十二日 木曜日 午前、三条西信子^{大日本連合婦人会会長}の「婦人講座 家庭報国講話（四）一家の和合」と題するラジオ放送をお聴きになる。○女官長日記、女官日記、東京朝日新聞、読売新聞

奥内謁見所において、今般事変地より凱旋の元第二軍司令官陸軍中将西尾寿造に謁を賜う。○女官長日記、女官日記、侍従職日誌、内舍人日誌

午後、李王垠妃方子女王と御対面になり、今次の支那事変による戦傷病者の御慰問及び銃後援助事業概況の御聴取を目的とした岩手・青森・秋田・山形・新潟各県下の陸軍病院等への御差遣<sup>去る一日出發
十日帰京</sup>につき、復命をお受けになる。その後、奥内謁見所において雍仁親王妃勢津子と御対面になり、同じく来る十四日の埼玉県下への御差遣につきお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日記、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、皇親録、宮内省省報、官報

夜、奥宮殿において縋帯巻きをされる。以後、七月七日まで折に触れて縋帯巻きをされる。○女官長日記、女官日記

十三日 金曜日 午前、奥内謁見所において、第十六回赤十字国際会議に出席のためロンドンへ出発の公爵徳川家達に謁を賜う。○女官長日記、女官日記、侍従職日誌、日本赤十字社社史稿

午前十時三十分御出門、東宮仮御所に行啓される。皇太子と御昼餐を召された後、お庭にお出ましになる。午後三時五十七分還啓される。○女官長日記、女官日記、侍従職日誌、幸啓録、宮内省省報、官報

十四日 土曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになる。○女官長日記、女官日記、侍従職日誌

昭和十三年五月

午後、奥内謁見所において、雍仁親王妃勢津子と御対面になり、今次の支那事変による戦傷病者の御慰問及び銃後援助事業概況の御聴取を目的とした、この日の埼玉県下の所沢陸軍病院・埼玉県庁への御差遣につき、復命をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、皇親録、宮内省省報、官報

十六日 月曜日 午前、東京帝国大学助教授板沢武雄より大化改新についての進講をお聴きになる。

六月六日、第二回の進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

午後、奥内謁見所において、三条西信子・侯爵久邇実栄故侯爵久邇邦久の養子、三条西信子の子息と御対面になり、実栄の学習

院初等科入学のお祝品下賜につき、お礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、贈賜録

十七日 火曜日 午前、恒徳王妃光子と御対面になり、今次の支那事変による戦傷病者の御慰問及び銃後援助事業概況の御聴取を目的とした福井・石川・富山・長野・山梨各県下の陸軍病院・赤十字病院等への御差遣去る五日出発
し十五日帰京につき、復命をお受けになる。午後、奥内謁見所において、故成久王妃房子

内親王と御対面になり、同じく宮城・福島両県下の陸軍病院等への御差遣去る七日出発
し十五日帰京につき、復命をお

受けになる。ついで故依仁親王妃周子と御対面になり、この日の東京府下の東京陸軍第二病院への御差遣につき、復命をお受けになる。その間、房子内親王は一旦退出し、繙帯巻きの作業を行う。故依

仁親王妃の退出後、再び奥内謁見所において房子内親王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日

誌、省中日誌、皇親録、侍従武官府歴史、宮内省省報、官報

十八日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より山本有三の新著『戦争と二人の婦人』の内容と山本の国語論についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

午後、奥内謁見所において、永久王妃祥子と御対面になり、今次の支那事変による戦傷病者の御慰問及び銃後援助事業概況の御聴取を目的とした、この日の東京府下の東京陸軍第二病院成城臨時分院・同大蔵臨時分院への御差遣につき、復命をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、皇親録、侍従武官府歴史、宮内省省報、官報

十九日 木曜日 午後、奥内謁見所において、恒憲王妃敏子と御対面になり、今次の支那事変による戦傷病者の御慰問及び銃後援助事業概況の御聴取を目的とした北海道去る十日出発し札幌陸軍病院・旭川陸軍病院・北海道庁等を訪問して十八日帰京への御差遣につき、復命をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、皇親録、宮内省省報、官報

二十日 金曜日 午後、紅葉山御養蚕所にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

二十一日 土曜日 午前、奥内謁見所において、稔彦王妃聡子内親王と御対面になり、今次の支那事変による戦傷病者の御慰問及び銃後援助事業概況の御聴取を目的とした群馬・栃木・茨城各県下の陸軍病院・赤十字病院等への御差遣去る十六日出発し二十日帰京につき、復命をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、皇親録、侍従武官府歴史、宮内省省報、官報

二十三日 月曜日 午前、奥内謁見所において、今般凱旋の元第二聯合航空隊司令官海軍少将三並貞三、第一聯合航空隊司令官海軍少将戸塚道太郎に謁を賜う。その際、慰労のお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、百武三郎日記

二十四日 火曜日 午後、紅葉山御養蚕所にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌

二十五日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より「国営職業紹介所について」と題する進講をお聴きになる。内容は、職業紹介の重要性、職業紹介事業の沿革・発達、改正職業紹介法の要旨に

昭和十三年五月

及ぶ。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穗積家文書

二十六日 木曜日 午後、皇太后御使として掌侍高松千歳子参内につき、奥内謁見所において謁を賜い、御機嫌伺い及び徐州陥落祝賀の御挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

夕刻、博義王妃朝子と御対面になり、この日の神奈川県下の臨時東京第三陸軍病院への御差遣につき、お礼言上並びに復命をお受けになる。この日をもって、一道四十五府県百九十箇所全ての傷病兵御慰問が終了する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、皇親録、侍従武官府歴史、宮内省省報、官報

二十七日 金曜日 午前、天皇と共に奥内謁見所において、博義王・同妃朝子、及び初参内の章子女王と御対面になる。退出の際、天皇・皇后より博義王・同妃・女王にそれぞれお品を御贈進になる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

二十八日 土曜日 午後、天皇と共に宮内省第二期庁舎侍医寮屋上にお出ましになり、先般世界新記録を樹立した東京帝国大学航空研究所試作の長距離機が東京上空を飛行する様子を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

三十日 月曜日 支那事変の戦傷病将兵御慰問を目的とした各地への御使御差遣終了につき、この日、御使を務めた雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子・故依仁親王妃周子・博義王妃朝子・恒憲王妃敏子・故邦彦王妃侃子・朝融王妃知子女王・守正王妃伊都子・稔彦王妃聡子内親王・故成久王妃房子内親王・永久王妃祥子・故恒久王妃昌子内親王・恒徳王妃光子・春仁王妃直子・李王垠妃方子女王の十五方をお招きになり、午餐を催される。奥内謁見所において御対面の後、御会食になる。御食後、各妃に白絹縮緬等を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、皇親録

奥内謁見所において、今般光照院門跡を兼任の善光寺住職大宮智栄に謁を賜い、御機嫌伺いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、贈賜録

天皇と共に奥内謁見所において、恒徳王と御対面になり、この日陸軍大学校卒業に当たり天皇・皇后よりお仕向け拝領につき、お礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、皇親録、皇族身分録、贈賜録

三十一日 火曜日 葉山御用邸附属邸より正仁親王帰京につき、午前、天皇と共に久方振りに御対面になり、御昼餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

午後、故恒久王妃昌子内親王参内につき、天皇と共に奥御対面所において御対面になり、昨日恒徳王の陸軍大学校卒業に当たり天皇・皇后よりのお仕向け拝領につき、お礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

夕刻、天皇と共に奥内謁見所において、この日北支戦線より凱旋の春仁王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、外交雑録、私の自叙伝

今次の事変による陸軍関係傷痍者に対し、思召しをもって繙帯一万五千本を下賜される。○侍従職日誌
この月 共立女子職業学校においてバザー開催につき、金一封を下賜される。○贈賜録

六月

一日 水曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

二日 木曜日 午前、奥内謁見所において、今般ペルー国へ赴任の特命全権公使北田正元及び同夫人、

昭和十三年六月

コロンビア国へ赴任の特命全権公使山形清に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中

日誌、拝謁参拝録、祭祀録、宮内省省報、官報

奥内謁見所において、今般第一軍司令官として出征の陸軍中将梅津美治郎に謁を賜い、お手編みの襟巻を下賜される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、拝謁参拝録、侍従武官府歴史、百武三郎日記

記

三日 金曜日 夕刻、正仁親王・宣仁親王妃喜久子と共に、紅葉山御養蚕所にお出ましになる。その後御養蚕所に到着した宣仁親王も加わり、御一緒に養蚕の模様を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍

従職日誌、内舍人日誌

五日 日曜日 午前、天皇と共に奥御対面所において、雍仁親王・同妃勢津子と御対面になり、親王

より支那・満洲視察を終えて昨日帰還した旨の挨拶をお受けになる。その際、満洲国皇帝より天皇・皇后への御贈進品が披露される。皇后には乾隆年製豆青粉彩螭耳瓶ほか一点が贈られる。○女官長日記、

女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、秩父宮御日誌、省中日誌、外交贈答録、進献録、宮内省省報、官報、雍仁親王実紀

故菊麿王妃常子百日祭につき、皇后宮使として皇后宮事務官入江相政を権舎^{山階}及び墓所^{豊島岡}に差し遣

わされ、それぞれ玉串をお供えになる。また、天皇・皇后より霊前に盛菓子をお供えになる。○女官長日記、女官日誌、侍

従日誌、侍従職日誌、省中日誌、皇親録、重要雑録、宮内省省報、官報

七日 火曜日 午前、繙帯巻きの作業中、宣仁親王妃喜久子参内につき、申ノ口において御対面になり、御一緒に繙帯巻きをされる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

今次の支那事変による戦傷病者の御慰問及び銃後援助事業概況の御聴取を目的として、先般皇族妃・王族妃を国内各地方に御差遣のところ、去る三日、宮内大臣より、今般朝鮮・台湾及び関東州へも皇族妃を御差遣になる旨の皇后の御沙汰が、故恒久王妃昌子内親王・稔彦王妃聡子内親王・守正王妃伊都子に伝えられる。御差遣の際には、陸海軍病院^{満洲国所在の関東軍の病院を除く}に入院中の戦傷病者^{満洲事変による者も含む}に対し、内地と同様に菓子料を下賜されることとなる。この日午前、奥内謁見所において、故恒久王妃昌子内親王と御対面になり、台湾への御差遣につきお礼言上をお受けになる。続いて、稔彦王妃聡子内親王と御対面になり、朝鮮への御差遣につきお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日記、省中日誌、皇親録、侍従武官府歴史、宮内省省報、官報

この日、正仁親王と共に大宮御所へ行啓予定のところ、正仁親王風気のためお取りやめになる。午後、御使として皇后宮女官津軽理喜子を大宮御所に差し遣わされ、皇太后の御機嫌をお伺いになる。○女官長日記、女官日記、官報

八日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より「大村益次郎について」と題する進講をお聴きになる。進講は田中惣五郎著『近代軍制の創始者 大村益次郎』に沿って行われる。○女官長日記、女官日記、侍従職日誌、穂積家文書

九日 木曜日 午後、奥内謁見所において、侍従長百武三郎夫人として初参内の百武まち子に謁を賜う。○女官長日記、女官日記、侍従職日誌、百武三郎日記

十日 金曜日 午前、天皇と共に奥内謁見所において、朝融王妃知子女王、及び初参拝の通子女王・英子女王と御対面になる。退出の際、天皇・皇后より朝融王妃・通子女王・英子女王にそれぞれお品

昭和十三年六月

を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌

今次の事変の陸軍関係傷病者に対し、思召しをもつて繙帯を下賜される。○侍従職日誌

十一日 土曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、養蚕の状況を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

十三日 月曜日 午前、東京帝国大学助教授板沢武雄より、上代の国民思想と外来思想との交渉についての進講をお聴きになる。二十日に第二回進講を、二十七日に第三回進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

奥内謁見所において、今般凱旋の元第一軍司令官陸軍中将香月清司、元第五師団長陸軍中将板垣征四郎、元関東軍参謀長陸軍中将東条英機に謁を賜う。その際、慰労のお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

十六日 木曜日 去る八日、福岡県糟屋郡志免村所在の海軍燃料廠採炭部第七坑においてガス爆発事故により多数の死傷者発生につき、天皇・皇后より御救恤として金一封を海軍大臣に下賜される。○省中日誌、恩賜録、宮内省省報、官報

十七日 金曜日 午前、守正王妃伊都子と御対面になり、今次の支那事変による戦傷病者の御慰問及び銃後状況の御視察を目的とした関東州への御差遣<sup>来る二十日出発
し七月二日帰京</sup>につき、お礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、皇親録、宮内省省報、官報

去る十五日、山陽本線と気・熊山駅間において旅客列車転覆衝突事故により多数の死傷者発生につき、天皇・皇后より御救恤として金一封を鉄道大臣に下賜される。○省中日誌、恩賜録、宮内省省報、官報

十八日 土曜日 午前、奥内謁見所において、故恒久王妃昌子内親王と御対面になり、今次の支那事変による戦傷病者の御慰問及び銃後状況の御視察を目的とした台湾への御差遣に当たり、台湾総督・台湾軍司令官に対する次のお言葉書を下される。

皇后陛下御言葉

此度ノ事変ニ際シ皇国^{ミヅ}ノ為傷痍ヲ受ケ病患ニ冒サレタル将兵ニハ氣ノ毒ニ堪ヘス係ノ者克ク氣ヲ付ケテ勞ハリ取ラセヨ又現下ノ時局ニ処シ官民拳ツテ銃後ノ活動ニ赤誠ヲ捧ケツ、アルヲ聞クハ深ク満足ニ思フ今後愈々協力一致シテ奉公ノ節ヲ効サムコトヲ希ム

朝鮮へ御差遣の稔彦王妃聡子内親王には、去る十一日別当^{東久邇宮付}を招致し、皇后宮大夫より朝鮮総督・朝鮮軍司令官へのお言葉書を伝達する。なお、関東州へのお言葉はない。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、皇親録、宮内省省報、官報

二十二日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より「貯蓄報国運動について」と題する進講をお聴きになる。内容は、時局下における貯蓄の必要とその目標、貯蓄模範例などに及ぶ。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

二十四日 金曜日 ストラスモア・アンド・キングホーン伯爵夫人^{英国皇后エリザベスの御母}死去につき、天皇・皇后より英国皇帝ジョージ六世及び皇后に弔電をお送りになる。二十六日、答電が寄せられる。○省中日誌、外交慶弔録、宮内省省報、官報

二十五日 土曜日 皇太后がお誕生日を迎えられる。時節柄、表向きの儀式はなく、御贈進品のお取り交わしのみ行われる。御昼餐前、御入側において天皇と共に、皇后宮女官長始め皇后宮女官一同よ

昭和十三年六月

り挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

二十六日 日曜日 午前、天皇と共に奥内謁見所において、この日騎兵第十四聯隊中隊長として満洲へ出發する恒徳王と御対面になり、暇乞いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内

舍人日誌、皇親録、贈賜録、皇族身分録、外交雜録

二十七日 月曜日 午前、雍仁親王妃勢津子参内につき、奥内謁見所において御対面になり、昨日成子内親王の仕立てによる浴衣を拝領につきお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

二十八日 火曜日 午後、奥内謁見所において、来る三十日に満洲国ハイラルへ出發する恒徳王妃光子と御対面になり、暇乞いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、贈賜録

二十九日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より三好学著『桜』についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

大宮御所へ行啓予定のところ、昨日来の強雨のため、お取りやめになる。午後、皇后宮女官長竹屋志計子を御使として大宮御所に差し遣わされ、皇太后の御機嫌をお伺いになる。○女官長日記、女官日誌、侍

従職日誌、幸啓録、官報

三十日 木曜日 午前、奥内謁見所において、今般凱旋の元第三潜水戦隊司令官海軍少将鋤柄玉造に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、満州及支那事變録、百武三郎日記

三条静子^{公爵三条公輝夫人}参内につき、奥内謁見所において謁を賜い、若葉会のバザーに関してお聞きになる。

同会に対し、金一封を下賜される。○女官長日記、女官日誌、贈賜録

七月

二日 土曜日 午前、天皇と共に、この日より伊香保御用邸へお成りの正仁親王と御対面になり、挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

四日 月曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、御養蚕納の儀を行われる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

午後、奥内謁見所において、守正王妃伊都子と御対面になり、今次の支那事変による戦傷病者の御慰問及び銃後状況の御視察を目的とした関東州への御差遣 去る六月二十日出発し七月二日帰京につき、復命をお受けになる。○

女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、皇親録、宮内省省報、官報、梨本伊都子日記

五日 火曜日 午前、奥内謁見所において、今般第十一軍司令官として出征の陸軍中将岡村寧次に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁参拝録

天皇及び成子内親王・厚子内親王・和子内親王と御夕餐を御会食になる。和子内親王は、今年のジフテリア罹患後の療養から全快し、この日、霞関離宮 沼津より帰京した四月二十三日以降療養のため居住より呉竹寮に帰寮する。天皇・

皇后より和子内親王にお祝品を下賜される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、呉竹寮日誌、孝宮御日誌、重要雑録、藤井種太郎日誌

去る六月二十七日より二十九日にかけての豪雨、及びこの月二日の豪雨等により関東地方を中心として水害発生につき、この日、天皇・皇后より御救恤として東京府・茨城県・神奈川県・静岡県に金一封を下賜される。○省中日誌、恩賜録、視察録、重要雑録、宮内省省報、官報

七日 木曜日 支那事変勃発一周年につき、午前、宮内大臣主催の戦没職員の慰霊祭が行われるに当

昭和十三年七月

たり、靈前に供物として盛菓子を下賜される。正午のサイレンを合図に暫時黙禱され、将兵の労苦を偲ばれ、戦没兵士の冥福をお祈りになる。○女官長日記、女官日誌、省中日誌

八日 金曜日 午前、奥内謁見所において、今般凱旋の元第十師団長陸軍中将磯谷廉介、元第十四師団長陸軍中将土肥原賢二に謁を賜う。その際、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

午後一時三十分御出門、大宮御所に行啓され、皇太后と御対面になる。四時四分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、幸啓録、宮内省省報、官報

九日 土曜日 午前、稔彦王妃聡子内親王と御対面になり、今次の支那事変による戦傷病者の御慰問及び銃後状況の御視察を目的とした朝鮮への御差遣^{去る六月十三日出発し七月七日帰京}につき、復命をお受けになる。聡子内

親王の言上書を御覧になり、また持ち帰り品の献上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、

省中日誌、皇親録、官報

夜、成子内親王・和子内親王・厚子内親王参内につき、関西地方水害についての特報ニュース映画等を天皇と共に御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、呉竹寮日誌

十日 日曜日 去る五日の豪雨により、兵庫県下において多数の死傷者及び倒潰・流出家屋発生につき、天皇の御使として侍従大金益次郎が差し遣わされ、この日兵庫県庁において聖旨並びに天皇・皇后よりの御救恤金が伝達される。○侍従日誌、侍従職日誌、省中日誌、恩賜録、視察録、重要雑録、宮内省省報

十五日 金曜日 午前、奥宮殿において、新任の侍従武官徳永鹿之助^{陸軍工兵中佐}に謁を賜う。ついで第一軍

参謀に転出する前任の侍従武官後藤光藏^{陸軍歩兵大佐}に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官府資料

午後、故恒久王妃昌子内親王と御対面になり、今次の支那事変による戦傷病者の御慰問及び銃後状況の御視察を目的とした台湾への御差遣^{去る六月二十四日出発し七月十三日帰京}につき、復命をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、皇親録、宮内省省報、官報

十六日 土曜日 午前、奥内謁見所において、拓務大臣宇垣一成・海軍大臣米内光政・陸軍大臣板垣征四郎・厚生大臣木戸幸一に謁を賜い、今般思召しをもって全国及び関東州・朝鮮・台湾に御名代として皇族妃・王族妃を差し遣わされたことについてのお札言上をお受けになる。その際、時局重大の折柄、銃後の施設の万全を期し、傷病兵の将来につき遺漏がないよう期する旨のお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、木戸幸一日記

十八日 月曜日 午前、天皇と共に奥内謁見所において、今般中支那派遣軍参謀として出征する恒憲王^{陸軍騎兵大佐}と御対面になり、暇乞いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、皇族身分録

正午、今次の支那事変による戦傷病者の御慰問及び銃後状況の御視察を目的として、御名代として台湾に御差遣の故恒久王妃昌子内親王、朝鮮に御差遣の稔彦王妃聡子内親王、関東州に御差遣の守正王妃伊都子をお招きになり、慰勞の思召しをもって午餐を催される。皇太后宮御休所において御対面の後、奥内謁見所において御会食になる。退出の際、記念品を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従

昭和十三年七月

職日誌、省中日誌、宮内省省報、官報

午後、奥内謁見所において、日本画家跡見玉枝に謁を賜い、過日お庭の桜の写生を拝命したことについてのお礼言上をお受けになる。なお、同人に金一封を下賜される。○女官長日記、女官日誌、贈賜録

十九日 火曜日 午前、奥内謁見所において、今般凱旋の元第二十師団長陸軍中将川岸文三郎、元第十八師団長陸軍中将牛島貞雄、元第百八師団長陸軍中将下元熊弥に謁を賜う。その際、お言葉を賜う。引き続き木戸ツルに謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁参拝録

昨十八日ルーマニア国皇帝カロール二世より天皇に、皇太后マリー崩御を報じる旨の親電が寄せられ、この日、天皇・皇后より同皇帝に弔電をお送りになる。二十四日に行われる葬儀には、天皇・皇后より御使として同国駐箚特命全権公使栗原正を枢前に差し遣わされ、花環をお供えになる。○省中日誌、外交慶弔録、外交贈答録、宮内省省報、官報

二十二日 金曜日 夕刻、今般支那方面艦隊・馬公要港部へ御差遣の侍従武官遠藤喜一に謁を賜い、令旨を下される。遠藤は二十五日出発、福岡県・台湾・支那及び同沿海に赴き、九月四日帰京、十三日復命する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、進退録、侍従武官府歴史

二十六日 火曜日 午前、天皇と共に、この日葉山御用邸附属邸へ出発する成子内親王・和子内親王・厚子内親王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、呉竹寮日誌

午後、奥内謁見所において、松平信子に謁を賜い、御機嫌伺いをお受けになる。皇太子・正仁親王・成子内親王・和子内親王・厚子内親王への献上品をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

二十八日 木曜日 午前、奥内謁見所において、三井銀子男爵三井八郎右衛門高公夫人に謁を賜い、去る二十六日の賜

品拝領についてのお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

二十九日 金曜日 夕刻、永久王・同妃祥子参内につき、御対面になり、暑中及び葉山行幸啓の御機嫌伺い、並びに来る八月一日満洲へ出発につき挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、宮内省省報

三十日 土曜日 午前、明治天皇例祭につき、皇后宮女官津輕理喜子に御代拝を仰せ付けられる。○

女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、儀式録、祭祀録、宮内省省報

天皇と共に葉山御用邸に行啓のため、午後一時五十八分御出門、三時二十二分同邸に御到着になり、附属邸に滞在中の成子内親王・和子内親王・厚子内親王のお出迎えをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、呉竹寮日誌、省中日誌、幸啓録、行幸録、宮内省省報、官報

八月

七日 日曜日 この日、満洲国皇帝より天皇・皇后・皇太后に、お手植えの玉蜀黍の御贈進がある。

○女官長日記、省中日誌、外交贈答録

十二日 金曜日 午前十時四十五分、成子内親王・和子内親王・厚子内親王のお見送りをお受けになり、天皇と共に葉山御用邸を御出門、午後零時十三分宮城に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、呉竹寮日誌、省中日誌、幸啓録、行幸録、宮内省省報、官報

十六日 火曜日 午前、奥内謁見所において、今般満洲より帰還の元第四師団長陸軍中将松井命、元第一師団長陸軍中将河村恭輔に謁を賜う。引き続き、今般事変地より凱旋の元第三飛行団長陸軍中将

昭和十三年八月

値賀忠治に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

夜、雍仁親王、宣仁親王・同妃喜久子参内につき、天皇と共に御対面になり、還幸啓の御機嫌伺いをお受けになる。ついで奥内謁見所にお出ましになり、守正王妃伊都子の福岡県下の病院視察状況の映画、出征兵士の博多出港の実況映画等を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

十八日 木曜日 午前、奥内謁見所において、昨日侍医寮御用掛を拝命の田章吾に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、省中日誌、進退録、宮内省省報

二十日 土曜日 この日葉山より帰京の成子内親王・和子内親王・厚子内親王参内につき、天皇と共に御昼餐及び御夕餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、吳竹寮日誌

二十一日 日曜日 午前、天皇と共に奥御対面所において、今般騎兵第十五聯隊中隊長職務心得を拝命の崇仁親王^{陸軍騎兵中尉}と御対面になり、御機嫌伺いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、皇族身分録、皇親録

二十二日 月曜日 午前、天皇と共に、この日那須御用邸附属邸へ出発する成子内親王・和子内親王・厚子内親王と御対面になり、挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、吳竹寮日誌、那須御用邸管理事務所日誌

今次の事変の陸軍関係傷痍者に対し、思召しをもって繙帯を下賜される。○侍従職日誌

二十五日 木曜日 午後、藤彦衛門制作の油彩画「皇后陛下横須賀海軍病院行啓」を御覧になる。○

女官長日記、女官日誌

二十六日 金曜日 去る二十四日、東京府下大森上空において濃霧のため日本飛行学校練習機と日本航空輸送会社機が衝突し墜落、双方の搭乗員五名が全員死亡し、また墜落後機体のガソリントankの爆発により、搭乗者救出作業に従事した近隣住民が百名以上死傷する。この日、天皇・皇后より御救恤として金一封を東京府に下賜される。○省中日誌、恩賜録、宮内省省報、官報、読売新聞

二十七日 土曜日 午前、奥御進講所において侍医頭八田善之進に謁を賜い、伊香保御用邸滞在中の正仁親王の様子をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

三十日 火曜日 夜、那須より交代帰京の皇子御養育掛名取はなに謁を賜い、成子内親王・和子内親王・厚子内親王の様子をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、呉竹寮日誌

九月

一日 木曜日 震災記念日につき、午前十一時五十八分黙禱をされる。○女官長日記、女官日誌、偕行社記事
六日 火曜日 去る一日、関東地方に襲来の台風により多大の被害発生につき、この日、天皇・皇后より御救恤として、神奈川県・埼玉県・千葉県・東京府・茨城県・栃木県・群馬県に金一封をそれぞれ下賜される。○侍従日誌、侍従職日誌、省中日誌、恩賜録、宮内省省報、官報

八月中旬及び下旬の両度にわたり朝鮮総督府管下において豪雨被害発生につき、天皇・皇后より御救恤として金一封を同総督府に下賜される。○省中日誌、恩賜録、宮内省省報、官報

七日 水曜日 昨日富山県氷見郡氷見町において火災被害発生につき、天皇・皇后より御救恤として金一封を同県に下賜される。○省中日誌、恩賜録、宮内省省報、官報

昭和十三年九月

九日 金曜日 午後、奥内謁見所において、この日誕生日を迎えた雍仁親王妃勢津子と御対面になり、天皇・皇后より鮮鯛拝領につき、お礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

十日 土曜日 夕刻、那須より帰京の成子内親王・和子内親王・厚子内親王参内につき、天皇と共に奥御食堂において御夕餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、吳竹寮日誌、省中日誌、那須御用邸管理事務所日誌

この月上旬徳島・兵庫両県下において暴風雨被害発生につき、この日、天皇・皇后より御救恤として両県にそれぞれ金一封を下賜される。○省中日誌、恩賜録、宮内省省報、官報

十一日 日曜日 昨日日光より帰京の皇太子、及び成子内親王・和子内親王・厚子内親王参内につき、天皇と共に御対面の後、御昼餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、吳竹寮日誌、省中日誌、宮内省省報

十二日 月曜日 午前、東京帝国大学助教授板沢武雄より支那思想との交渉についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

正午過ぎ、天皇と共に奥内謁見所において、この日皇后宮職御用掛を拝命の宇野千代・関松・原田リツに謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、進退録

十四日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より「張鼓峰沙草峰事件について」と題する進講をお聴きになる。内容は、張鼓峰事件の背景と経過、世界的反響などに及ぶ。○女官長日記、女官日誌、侍

従職日誌、穂積家文書

午後、御機嫌伺いのため故恒久王妃昌子内親王・故成久王妃房子内親王・稔彦王妃聡子内親王参内に
つき、天皇と共に奥御対面所において御対面になる。房子内親王より東園佐和子子爵東園基文夫人、
成久王第二王女の息子
に対する七夜のお仕向けにつきお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍
人日誌、贈賜録

十六日 金曜日 午後、今般北支那方面軍へ御差遣の侍従武官沢本理吉郎に謁を賜い、令旨を下され
る。沢本は九月二十日出発、同軍の状況を実視し、十月二十四日帰京、十一月一日復命する。○女官長
日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、進退録、侍従武官府歴史

十九日 月曜日 午前、東京帝国大学助教板沢武雄より「奈良朝時代政局の推移」についての進講
をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

午後、満洲より一昨日帰京の恒徳王妃光子参内につき、奥内謁見所において御対面になり、御機嫌伺
いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

二十日 火曜日 今次の張鼓峰事件の戦死者に対し、支那事変における戦死者と同様に天皇・皇后よ
り祭料を下賜されることとなる。また同事件に関し、事変地において戦死の陸軍将校以下に対し、
皇后より御歌及び菓子を下賜される。○省中日誌、皇后陛下御歌下賜録、例規録、官報

二十三日 金曜日 午後、伊香保より正仁親王帰京につき、天皇と共に奥宮殿において御対面になる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

二十四日 土曜日 午前、秋季皇霊祭・同神殿祭につき、皇后宮女官北村民枝に御代拝を仰せ付けら
れる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、儀式録、祭祀録、宮内省省報、官報

昭和十三年九月

今般陸軍大学校教官として満洲国へ出張の春仁王

陸軍騎兵少佐

参内につき、天皇と共に奥内謁見所において御

対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、外交雑録、陸軍上開書控簿

二十六日 月曜日 午前、東京帝国大学助教授板沢武雄より奈良時代の外来文化撰取の態度についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

御昼餐後、天皇と共に奥御食堂御入側にお出ましになり、過日皇后宮職御用掛を拝命の宇野千代・関松・原田リツに謁を賜い、この日より出勤する旨の挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、進退録

この日、月曜会においてバザー開催につき、金一封を下賜される。○贈賜録

二十八日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より「チェコ問題と欧洲の危機」と題する進講をお聴きになる。内容は、民族自決主義と少数民族問題、ドイツの「一民一国指導者」主義、チェコスロバキアの構成、ズデーテン地方割譲問題をめぐる欧州情勢に及ぶ。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

天皇・皇后の御使として皇后宮女官津軽理喜子を大宮御所に差し遣わされ、翌二十九日の御自身の御懷妊五箇月の発表、来る三十日の和子内親王の紐直し

子供の着物から付け紐を取り去り初めて帯を締める儀

について皇太后にお伝えになる。

午後、津軽女官を御使として常磐松町の久邇宮別邸に差し遣わされ、故邦彦王妃倪子に翌日の御自身の御懷妊五箇月の発表についてお伝えになる。後刻、津軽女官より復命をお受けになる。○女官長

日記、女官日誌

故依仁親王妃周子参内につき、奥内謁見所において御対面になり、去る二十六日の野菜拝領につきお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、贈賜録

二十九日 木曜日 午前十一時三十分、宮内省より、皇后が御懷妊五箇月で経過は順調である旨が発表される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、省中日誌、皇親録、読売新聞

三十日 金曜日 和子内親王の誕生日につき、夕刻、天皇と共に御座所において、成子内親王・和子内親王・厚子内親王と御対面になり、和子内親王にお祝品を御贈進になる。ついで天皇及び和子内親王と共に奥内謁見所において、内大臣・宮内大臣・侍従長始め総代、及び皇后宮女官等の拝賀をお受けになる。その後、天皇及び正仁親王・成子内親王・和子内親王・厚子内親王と共に、奥御食堂においてお祝御膳をお召し上がりになる。なお、和子内親王の紐直しにつき、天皇・皇后より付け帯・三種交魚を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、呉竹寮日誌、皇子保育録、重要雑録、贈賜録

十月

一日 土曜日 故多嘉王一年祭につき、皇后宮使として皇后宮事務官小出英経を権舎京都久邇宮別邸並びに墓所泉涌寺へ差し遣わされ、それぞれ玉串をお供えになる。なお、天皇・皇后より権舎に盛菓子を、墓所に

榊をそれぞれお供えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、皇親録、重要雑録、宮内省省報、官報

二日 日曜日 午前、雍仁親王・同妃勢津子、崇仁親王参内につき、天皇と共に奥御対面所において御対面になり、御懷妊につき祝詞言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、秩父宮御日誌、雍仁親王実紀

麿香間祇候公爵毛利元昭去る二十四日死去につき、この日、天皇・皇后・皇太后より祭資を下賜され

昭和十三年十月

る。なお、同人の病気に際しては、お尋ねとして天皇・皇后より果物を下賜される。○省中日誌、恩賜録、

進退録、宮内省省報

三日 月曜日 午前、東京帝国大学助教授板沢武雄より平安時代についての進講をお聴きになる。十

日に第二回進講を、二十四日に第三回進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

午後、皇后宮大夫を通じて内閣総理大臣近衛文麿に、傷痍将兵に対する次の御歌を御伝達になる。

あめつちの神もありませいたつきにいたてになやむますらをの身を

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、恩賜録、皇后陛下御歌下賜録、侍従武官府歴史、官報、公文類聚、陸普、読売新

聞

四日 火曜日 午前、奥内謁見所において、去る二日京都より帰京の稔彦王妃聡子内親王と御対面に

なり、御懷妊五箇月を迎えられたお喜びの言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、宮内省省報

五日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より「チェコ問題の平和的解決」と題する進講をお

聴きになる。雍仁親王妃勢津子が陪聴する。内容は、九月二十七日の独国總統の重大決意発表、同二

十九日のミュンヘン会談、同三十日のチェコによる四国協定受諾、及び欧州の新形勢^{英仏対独伊の二大枢軸}に及ぶ。

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、穂積家文書

九日 日曜日 午前、永久王参内につき、天皇と共に奥内謁見所において御対面になり、昨日満洲国

への出張より帰還の挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進献録、宮

内省省報

十日 月曜日 去る六日の夕張炭坑におけるガス爆発事故により多数の死傷者発生につき、天皇・皇

后より御救恤として金一封を北海道庁に下賜される。○省中日誌、恩賜録、宮内省省報、官報

十一日 火曜日 午前、奥内謁見所において、故恒久王妃昌子内親王と御対面になり、御懷妊五箇月を迎えられたことについての祝詞言上をお受けになる。また内親王自身の誕生日及び出征中の恒徳王へのお仕向けについてのお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、贈賜録

十二日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より「支那事变歌集抄」と題する進講をお聴きになる。宣仁親王妃喜久子が陪聴する。進講は、宮崎燐子^{柳原白蓮}著『塹壕の砂文字』に沿って行われる。○

女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、穂積家文書

十三日 木曜日 午前、皇太后御参内につき、天皇と共に奥御対面所において御対面になり、奥御食堂において支那料理の御昼餐を御会食になる。終わって、奥御対面所において成子内親王・和子内親王・厚子内親王を交えて御団欒になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、吳竹寮日誌、幸啓録、重要雜録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報

十五日 土曜日 午前、天皇と共に奥御進講所において、皇子御養育掛長藤井種太郎に謁を賜い、成子内親王・和子内親王・厚子内親王の成績につき奏上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、吳竹寮日誌、藤井種太郎日誌

十七日 月曜日 午前、神嘗祭につき、皇后宮女官津輕理喜子に御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、儀式録、祭祀録、宮内省省報、官報

十八日 火曜日 宮中顧問官伯爵清水谷実英去る十四日死去につき、この日、天皇・皇后・皇太后より祭資を下賜される。なお、同人の病氣に際しては、お尋ねとして天皇・皇后・皇太后より果物を下

昭和十三年十月

賜される。○省中日誌、恩賜録、進退録、宮内省省報

十九日 水曜日 別格官幣社靖国神社臨時大祭第二日につき、午前十時十五分のサイレンに合わせて黙禱される。また、臨時大祭につき、天皇・皇后より祭資を下賜される。○女官長日記、女官日誌、省中日誌、幸啓録

この日午前二時、海軍大佐大勲位博義王が心臓麻痺にて薨去する。突然の薨去につき、薨去発表に先立ち、早朝、天皇・皇后より病氣お尋ねとして侍医村山浩一・侍従戸田康英をそれぞれ伏見宮邸に差し遣わされる。また、天皇・皇后・皇太后より葡萄酒を下賜される。夕刻、弔問のため、皇后宮使として皇后宮事務官小倉庫次を同邸に差し遣わされる。二十二日には、正寝移柩の儀が行われ、天皇・皇后より盛菓子、皇后より盛花をお供えになる。二十四日には、櫛を賜い、天皇・皇后・皇太后より祭資を下賜される。二十五日には、靈代安置の儀が行われ、皇后宮使として皇后宮事務官小出英経を同邸に差し遣わされ、玉串をお供えになる。二十六日には、斂葬当日柩前祭の儀が行われ、皇后宮使として皇后宮事務官入江相政を同邸に、ついで葬場の儀には皇后宮事務官大益次郎を葬斎場_{豊島岡墓地}に差し遣わされ、玉串をお供えになる。なお三十一日には、皇后宮女官長竹屋志計子を伏見宮邸に差し遣わされ、喪中お尋ねのお言葉をお伝えになり、霊前に果物をお供えになる。

博義王は明治三十年、博恭王の第一王子として誕生する。海軍兵学校卒業の翌大正七年海軍少尉に任じられ、爾来海軍の軍務に就き、今次の事変に際しては第三驅逐隊司令・第六驅逐隊司令として従軍する。享年四十二。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、皇親録、皇族身分録、重要雑

録、墓誌銘録、博義王殿下御事蹟、宮内省省報、官報

二十日 木曜日 去る十四日から十五日にかけての鹿児島県下における暴風雨被害に対し、天皇・皇后より御救恤として金一封を同県に下賜される。○省中日誌、恩賜録、重要雜録、宮内省省報、官報

二十一日 金曜日 この日、内着帯の儀が行われる。午前、奥御座所において、参進の皇后宮女官長より帯をお受けになる。ついで皇后宮女官長が帯を傍の卓の上に安置した後、天皇の臨御があり、皇后宮女官長が天皇に帯を捧げ、皇后宮女官が陪侍して内着帯の儀が行われる。その後、天皇と共に奥内謁見所において、帯親の載仁親王と御対面になる。続いて、内大臣・宮内大臣・侍従長・皇后宮大夫始め総代の祝詞言上を、また皇后宮女官長始め皇后宮女官等の拝賀をお受けになる。ついでお一方にて奥御進講所において、宮内省御用掛磐瀬雄一、助産婦梅林寺こう・坂田あきに謁を賜う。終わつて、天皇と共に、雍仁親王妃勢津子と御対面になり、祝詞言上をお受けになる。また、天皇と共に奥内謁見所において、皇太后御使の典侍竹屋津根子に謁を賜い、祝詞言上とお祝品の御贈進をお受けになる。天皇・皇后より御使として皇后宮女官津軽理喜子を大宮御所に差し遣わされ、内着帯の儀終了とお礼をお伝えになり、お祝品を御贈進になる。

午後、天皇と共に奥内謁見所において、故邦彦王妃侃子と御対面になり、祝詞言上をお受けになる。その後、天皇と共に、成子内親王・厚子内親王と御対面になり、祝詞言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、呉竹寮日誌、省中日誌、皇親録

この日より帝国水難救済会において事業後援演劇会開催につき、御補助の思召しをもつて金一封を下賜される。○贈賜録

二十四日 月曜日 午前、故多嘉王妃静子参内につき、天皇と共に奥内謁見所において御対面になり、

昭和十三年十月

先般多嘉王の一年祭が終了したことにつきお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍

従職日誌、皇親録

午後、京都在住華族総代の子爵日野西資博参内につき、奥宮殿において謁を賜う。○女官長日記、女官日

誌、侍従職日誌、内舍人日誌

二十五日 火曜日 この月下旬千葉県下において台風被害発生につき、天皇・皇后より御救恤として

金一封を同県に下賜される。○省中日誌、恩賜録、宮内省省報、官報、読売新聞

二十七日 木曜日 天皇と御夕餐御会食の際、この日午後五時三十分には武漢三鎮^{武昌・漢口・漢陽}を完全に攻略

した旨を報じる大本営陸海軍部発表のニュースを、ラジオにてお聴きになる。その後、広東陥落と入城のニュース映画を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、侍従武官府

歴史、読売新聞

二十八日 金曜日 午前、二重橋側堤に出御され、宮城二重橋前広場における武漢三鎮攻略を奉祝する市民の旗行列を暫時御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、吳竹寮日誌、読売新聞

午後、天皇と共に奥内謁見所において、鳩彦王・孚彦王と御対面になり、孚彦王と藤堂千賀子^{伯爵藤堂高紹第五女子}の結婚勅許につき、お礼言上をお受けになる。天皇・皇后よりお悦びとして万那料等を御贈進になる。

なお、来る十一月二十日に行われる納采の儀に当たって、天皇・皇后より五種交魚を御贈進になる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、孚彦王殿下御結婚の件、重要雑録、宮内省省報、官報

夜、天皇と共に正門鉄橋上に出御され、宮城二重橋前広場を埋める提灯行列を御覧になり、提灯を振られて奉祝にお応えになる。入御後、天皇と共に漢口攻略第一報のニュース映画を御覧になる。○女官

長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官府歴史、読売新聞

三十一日 月曜日 午前、東京帝国大学助教授板沢武雄より、平安時代から武家時代にかけての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

午後、皇太后御使の掌侍高松千歳子に謁を賜い、武漢三鎮攻略のお喜びの言上とお祝品をお受けになり、お礼を述べられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、貞明皇后実録正本

勅任待遇以上の者、宮内官、国家社会に勲功ある者、特別御縁故者の死去に際しての幣帛及び祭資の下賜につき、勅使御差遣の範囲の縮小、祭資額の見直し等の改正が行われる。これに併せ、従来の支那事変による戦死将校以下に対する天皇・皇后からの祭料下賜は、将官に対して行うことを取りやめ、将官は同改正の下賜の該当者として扱い、在職年限にかかわらず祭資を下賜することに改められる。本件は、十一月十日以降の戦死者に対して実施される。○省中日誌、御覽モノ伺モノ控簿、例規録

十一月

一日 火曜日 午前、稔彦王妃聡子内親王参内につき、奥内謁見所にて御対面になり、稔彦王出征中の留守のお尋ねとして昨日賜品拝領につきお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

二日 水曜日 鳩彦王妃允子内親王五年祭に当たり、皇后宮女官津軽理喜子に天皇・皇后の御代拝を仰せ付けられ、靈殿祭^{朝香宮邸}・墓所祭^{豊島岡墓地}に差し遣わされる。また、天皇・皇后より靈殿に盛菓子を、墓

所に榊をお供えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、典式録、皇親録

三日 木曜日 明治節につき、午前、天皇と共に御学問所において、雍仁親王・同妃勢津子始め皇族・

昭和十三年十一月

王公族の拝賀をお受けになる。ついでお一方にて奥内謁見所において、内大臣・宮内大臣始め総代、皇后宮女官長始め皇后宮女官等の拝賀をお受けになる。なお、事変下につき、内宴はお取りやめとなる。また、天皇及び正仁親王・成子内親王との御昼餐御会食に際して、お祝御膳の供進はお取りやめとなる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、吳竹寮日誌、省中日誌、秩父宮御日誌、儀式録、宮内省

省報、官報

五日 土曜日 午前、奥内謁見所において、今般中支那派遣軍及び第二十一軍へ御差遣の侍従武官四手井綱正に謁を賜う。その際、両軍に対するお言葉を賜う。また、第二十一軍司令官陸軍中将古莊幹郎へ賜うお手編みの襟巻を託される。四手井は翌六日出発、両軍の状況を実視し、十二月二十八日帰京、翌年一月十日復命する。○女官長日記、女官日誌、省中日誌、進退録、侍従武官府歴史

六日 日曜日 午後、天皇及び成子内親王・厚子内親王と共に御学問所にお出ましになり、商工省提供の代用日用品^{金属・羊毛・皮革等の代わりに硝子・陶器・セルロイド・大豆蛋白製羊毛・人造繊維等により製造}を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、吳竹寮日誌、照宮御日誌、順宮御日誌

七日 月曜日 午前、東京帝国大学助教授板沢武雄より、鎌倉時代の文化と宋・元の文化の影響についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌

八日 火曜日 午後、朝融王妃知子女王参内につき、御対面になり、博義王薨去後の忌明けにつきお礼の挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

九日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より「東亜新秩序建設について」と題する進講をお聴きになる。雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子が陪聴する。内容は、去る三日の帝国政府声明、

池田蔵相兼商相の長期経済統制に関する声明、国際連盟との協力終止、帝国政府声明の列国に対する衝動、九国条約存廃問題に及ぶ。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、穂積家文書

午後、奥内謁見所において、伯爵壬生基泰御父邦彦王の妹篤子の子息・同夫人博子に謁を賜い、去る二日の結婚に際してお祝品拝領につき、お礼言上をお受けになる。夫妻それぞれに白羽二重・万那料を、夫人に白紋縮緬等を賜う。○女官長日記、女官日誌、贈賜録

元侍医頭入沢達吉昨日死去につき、この日、天皇・皇后・皇太后より祭資を、天皇・皇后より盛菓子を下賜される。なお、同人の病気に際して、天皇・皇后・皇太后より果物を、天皇・皇后より花卉を下賜される。○侍従職日誌、省中日誌、恩賜録、贈賜録、宮内省省報

十二日 土曜日 猷仁親王明治天皇第四皇子五十年式年祭につき、皇后宮職御用掛保科武子に墓所の御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、儀式録、祭祀録、宮内省省報

十四日 月曜日 午前、東京帝国大学助教授板沢武雄より『禁秘抄』についての進講をお聴きになる。二十一日、第二回の進講を聴取される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

十六日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より、川田順著『吉野朝の悲歌』から後醍醐天皇・後村上天皇・長慶天皇の御製についての進講をお聴きになる。雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子が陪聴する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、穂積家文書

十七日 木曜日 午前、皇后宮大夫広幡忠隆に託され、今般事変地へ第四艦隊司令長官として出征の海軍中将日比野正治に対し、令旨並びにお手編みの襟巻を下賜される。後刻、皇后宮女官津輕理喜子を通じて日比野よりのお礼言上をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省

昭和十三年十一月

中日誌、拝謁参拝録、侍従武官府歴史、宮内省省報

二十一日 月曜日 午前、奥内謁見所において、今般陸軍予科士官学校を卒業の彰常王と御対面になり、お礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、贈賜録

午後、伯爵二荒芳徳より献上の南京地図^{四間大}を御覧になる。○女官長日記、女官日誌

公爵西園寺公望九十歳の賀につき、天皇・皇后より王羲之木像^{森鳳声作}・万那料を下賜される。○御覧モノ伺モノ控簿、贈賜録

ノルウェー国皇后モード崩御につき、天皇・皇后より同国皇帝ホーコン七世に弔電を御發送になり、二十八日答電をお受けになる。葬儀当日には柩前に天皇・皇后より花環をお供えになる。○省中日誌、外

交慶弔録、外交贈答録、宮内省省報、官報

二十六日 土曜日 午前、北支那方面軍司令官に親補の陸軍大将杉山元に対し、皇后宮大夫を通じて、次の令旨とお手編みの襟巻を下賜される。

今回北支那方面軍司令官ノ重任ヲ帯ビテ彼地へ出発スル趣洵ニ御苦勞ニ思フ就テハ身体ヲ大切ニシテ御奉公ヲスルヤウニ

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、儀式録、侍従武官府歴史

二十八日 月曜日 正仁親王の誕生日につき、午前、天皇と共に奥内謁見所において、内大臣・宮内大臣・侍従長始め総代及び皇后宮女官等の拝賀をお受けになる。なお、皇后宮大夫広幡忠隆が、参賀の総代として葉山滞在中の正仁親王の許に赴く。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、呉

竹寮日誌、皇子保育録

二十九日 火曜日 午前、天皇と共に奥内謁見所において、今般退官の皇后宮女官長竹屋志計子・皇后宮女官津軽理喜子、及び新任の皇后宮女官長保科武子に謁を賜う。なお、竹屋は皇后宮職御用掛を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、進退録、贈賜録

この日、元第八戦隊司令官海軍少将小沢治三郎始め今般凱旋の海軍将官四名に対し、皇后宮大夫を通じて令旨を下される。○女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、満州及支那事変録

三十日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より「対米回答について」と題する進講をお聴きになる。雍仁親王妃勢津子が陪聴する。内容は、去る十月六日付米国政府の申し入れ、十一月十八日の帝国政府回答に及ぶ。なお、御懷妊のため、以後の進講を御休課とされる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

この月 今般二葉会においてバザー開催につき、金一封を下賜される。○贈賜録

十二月

一日 木曜日 午後、天皇と共に奥内謁見所において、今般退官の皇后宮女官津軽理喜子に謁を賜い、お礼言上をお受けになる。さらにお一方にて御書齋に同人を召され、思召しをもってお品を下賜される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

二日 金曜日 午後、今般凱旋の元第二十一軍司令官陸軍中将古莊幹郎参内につき、皇后宮大夫を通じて次の令旨及びお手編みの襟巻を下賜される。

南支那方面ノ作戦ハ見事ニ功ヲ奏シテ皇軍ノ威武ヲ発揚シタコトハ洵ニ御苦勞デアリマシタ

昭和十三年十二月

本日ハ凱旋デ喜バシク思ヒマス今後モ一層身体ヲ大切ニシテ御奉公ヲスル様ニ

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、侍従武官府資料、侍従武官府歴史

四日 日曜日 午前、天皇と共に奥宮殿において、この日任地の習志野より上京した崇仁親王騎兵第十五聯隊中隊長

心得、陸軍騎兵中尉と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宮内省省報

六日 火曜日 成子内親王の誕生日につき、午前、天皇と共に奥内謁見所において、内大臣・宮内大臣・侍従長始め総代、皇后宮女官長始め皇后宮女官等の拝賀をお受けになる。ついで元皇后宮女官に謁を賜う。その後、天皇と共に祝御膳の御昼餐をお召し上がりになる。過日来風気の成子内親王及び和子内親王・厚子内親王は、参内を取りやめる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、吳竹寮日誌、照宮御日誌、皇子保育録、重要雑録

七日 水曜日 故博義王五十日祭につき、皇后宮使として皇后宮事務官入江相政を伏見宮邸に、同永積

寅彦を墓所豊島岡墓地に差し遣わされ、それぞれ玉串をお供えになる。なお、天皇・皇后より霊前に盛菓子

を、墓所に榊をそれぞれお供えになる。○女官長日記、女官日誌、省中日誌、皇親録、重要雑録、宮内省省報、官報

八日 木曜日 午前、天皇と共に奥内謁見所において、参内の故博義王妃朝子と御対面になり、故博義王五十日祭終了と第一期喪明けにつきお札言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職

日誌、内舍人日誌、重要雑録

元侍従子爵土屋正直去る六日死去につき、この日、天皇・皇后・皇太后より祭資を、天皇・皇后より霊前に盛菓子を下賜される。なお、同人の病気に際して、天皇・皇后よりお尋ねとして果物を下賜さ

れる。○侍従職日誌、省中日誌、恩賜録、贈賜録、宮内省省報、官報

九日 金曜日 戦傷陸軍将兵に対して繙帶下賜の御沙汰を下され、皇太后宮大夫を通じて陸軍省医務局医事課長に伝達される。○偕行社記事

十二日 月曜日 午後、今般退職の元皇后宮職御用掛吉見光子参内につき、御書齋において謁を賜い、在職中のお礼言上をお受けになる。なお思召しをもって、お手許品を同人に下賜される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、恩賜録、進退録

天皇と共に奥内謁見所において、今般北支那方面軍司令部付として出征の李王垠^{陸軍少将}と御対面になる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、皇族身分録

この日、今般凱旋の元北支那方面軍司令官陸軍大将寺内寿一・元第百九師団長陸軍中将山岡重厚に対し、皇后宮大夫を通じてお言葉を賜う。寺内に対するお言葉は次のとおり。

出征以来克ク重大ナ任務ヲ全ウシテ皇軍ノ威武ヲ発揚シタコトハ洵ニ御苦勞デアリマシタ

本日ハ目出度ク凱旋デ喜バシク思ヒマス今後モ自愛シテ御奉公ヲスルヤウニ

○侍従職日誌、侍従武官府歴史

十三日 火曜日 愛国婦人会に対し、この年より昭和十七年までの五年間^{昭和八年より五年実施し、満期のところを継続}、金一封ず

つを下賜される。また、歳末に際し、帝都において官公私施療団体が協力して貧窮病者に救療を実施するに当たつて、東京府に金一封を下賜される。○省中日誌、恩賜録、宮内省省報、愛国婦人会四十年史

天皇・皇后より日本赤十字社病院補助費として金一封を下賜される。二十一日には、皇后より日本赤十字社病院救助患者施療費として金一封を下賜される。なお、この月、思召しをもって日本赤十字社

昭和十三年十二月

病院・恩賜財団済生会病院・東京慈恵会医院の各救助收容患者及び財団法人福田会育児院收容者に対し、お品物代として金一封事変の関係により例年の木綿反物等から変更をそれぞれ下賜される。○省中日誌、恩賜録、贈賜録、宮内省省報、

官報、事業年報（日本赤十字社）、日本赤十字社社史稿

十五日 木曜日 午前、前任の侍従武官遠藤喜一、新任の侍従武官醍醐忠重に謁を賜う。○女官長日記、

女官日誌、侍従職日誌、進退録、侍従武官府資料

夕刻、賢所御神楽の儀につき、皇后宮女官長保科武子に御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日

誌、侍従日誌、侍従職日誌、省中日誌、儀式録、祭祀録、宮内省省報

十六日 金曜日 午後、奥内謁見所において、結婚当日の参内朝見の儀を終えた孚彦王・同妃千賀子

と御対面になる。これに先立ち、皇后宮使として皇后宮女官長保科武子を朝香宮邸に差し遣わされ、

お祝いとして王に白縮緬を、同妃に白羽二重を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日

誌、省中日誌、皇親録、重要雑録、宮内省省報、官報

今般事変地へ出征の第五艦隊司令長官海軍中将近藤信竹に対し、皇后宮大夫を通じてお言葉及びお手

編みの襟巻を下賜される。○女官長日記、侍従職日誌

十七日 土曜日 午前、鳩彦王並びに昨日結婚の孚彦王・同妃千賀子参内につき、天皇と共に奥内謁

見所において御対面になり、お礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人

日誌、重要雑録

二十日 火曜日 午前、天皇と共に奥内謁見所において、昨日事変地より凱旋の恒憲王陸軍騎兵大佐と御対面

になり、中支那派遣軍参謀として武漢攻略戦に参加中の話をお聞きになる。また、凱旋に際しての賜

品に対するお礼言上をお受けになる。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、皇族身分録、重要雑録、外交雑録、侍従武官府歴史

二十三日 金曜日 皇太子の誕生日につき、午前、天皇と共に奥内謁見所において、内大臣・宮内大臣始め総代の拝賀を、皇后宮女官長始め皇后宮女官等の祝詞言上をお受けになる。また、元皇后宮女官等に謁を賜う。ついで、雍仁親王妃勢津子始め皇族・王公族の拝賀をお受けになる。その後、天皇と共にお祝御膳の御昼餐をお召し上がりになる。なお、皇太子の参内は、風気のため取りやめとなる。

○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、秩父宮御日誌、東宮録、重要雑録

二十五日 日曜日 大正天皇祭皇靈殿の儀につき、皇后宮職御用掛竹屋志計子に御代拝を仰せ付けられる。夕刻、同御神楽の儀につき、同御用掛に御代拝を仰せ付けられる。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、省中日誌、儀式録、祭祀録、宮内省省報

去る十九日、李鍵公妃誠子が第一公女を出産する。誕生した公女は、七夜に当たるこの日、沃子と命名される。命名当日に、天皇・皇后より李鍵公に白羽二重・酒・鮮鯛を賜う。○省中日誌、皇親録、李鍵公妃誠子殿下御分娩の件、宮内省省報、官報

二十六日 月曜日 午後、この日誕生日を迎えた宣仁親王妃喜久子と御対面になり、天皇・皇后より御贈進品についてのお礼言上をお受けになる。ついで、御常御殿御入側において御昼餐を御会食になる。○女官長日誌、女官日誌、侍従職日誌、贈賜録

故恒久王妃昌子内親王・故成久王妃房子内親王参内につき、天皇と共に奥御対面所において御対面になり、歳末の挨拶をお受けになる。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

昭和十三年十二月

二十七日 火曜日 天皇と共に、陸軍糧秣本廠よりお取り寄せの野戦兵食^{粟粥・豆麺・豚肉}の御昼餐をお召

し上がりになる。また、奥御食堂御入側に陳列の乾燥野菜等を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従

日誌、読売新聞

二十八日 水曜日 午前、皇太后御参内につき、天皇と共に奥御対面所において御対面になり、歳末の御挨拶をお受けになる。お揃いにて御昼餐を御会食の後、御歓談になる。○女官長日記、女官日誌、侍従

日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、重要雑録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報

二十九日 木曜日 歳末につき、午前、天皇と共に奥内謁見所において、内大臣・宮内大臣・侍従長・侍従武官長以下の総代より祝詞言上をお受けになる。ついで、守正王・同妃伊都子ほか参内の皇族・王族より祝詞言上をお受けになる。また、元皇后宮女官の津軽理喜子・山岡淑子・青山元子に謁を賜う。午後、お一方にて、松平信子に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

三十日 金曜日 去る二十七日富山県下黒部奥山樺平付近の雪崩により発電工事従事者中に多数の死傷者発生につき、天皇・皇后より御救恤として金一封を同県に下賜される。○省中日誌、恩賜録、宮内省省

報、官報

三十一日 土曜日 午前、歳末の祝詞言上のため参内の朝融王・盛厚王・恒憲王妃敏子と御対面になる。午後、皇太后御使として参内の皇太后宮職御用掛正親町鍾子に謁を賜い、御機嫌伺いをお受けになる。ついで天皇と共に、歳末の祝詞言上のため参内の雍仁親王・同妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、秩父宮御日誌、雍仁親王実

紀

昭和十四年（西暦一九三九年） 三十六歳

一月

一日 日曜日 新年につき、午前九時三十分、天皇と共に御学問所において、成子内親王・和子内親王・厚子内親王御使の皇子御養育掛長藤井種太郎の拝賀をお受けになり、ついで内大臣湯浅倉平・宮内大臣松平恒雄始め表奥の側近奉仕高等官の拝賀をお受けになる。なお、皇后は、御懷妊中につき、新年式に定められた鳳凰ノ間、正殿並びに西溜ノ間における拝賀にはお出ましにならず、奥内謁見所において皇族・王公族の拝賀のみお受けになる。この年より二日の恒例拝賀は参賀記帳に改められる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、儀式録

二日 月曜日 天皇と共に、午前より参内した皇太子と御昼餐を御会食になる。以後、この年も随時、皇太子始め皇子女と御対面・御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、宮内省省報

新年につき、午後、奥御対面所において、故恒久王妃昌子内親王・故成久王妃房子内親王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

三日 火曜日 午前、元始祭につき、皇后宮女官万里小路ソデに御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、儀式録、祭祀録、宮内省省報

新年につき、天皇と共に奥内謁見所において、邦寿王^{恒憲王第一王子}始め未成年の皇族・王族の拝賀をお受け

昭和十四年一月

になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

午後、天皇と共に奥御対面所において、旧女官の園祥子・生源寺伊佐雄等、続いて元皇后宮女官の津軽理喜子・山岡淑子・青山元子に謁を賜う。以後、この年も随時、元奉仕者の拝謁等がある。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

天皇と共に奥御対面所において、この日誕生日を迎えた宣仁親王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌

新年につき、天皇と共に奥内謁見所において、故依仁親王妃周子・故邦彦王妃倪子^{御母}と御対面になる。

○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌

四日 水曜日 御夕餐後、天皇と共に奥御対面所において、雍仁親王・同妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子と御対面になり、御一緒にニュース映画を御覧になる。以後、この年も随時、皇族・王公族・御親族と御対面・御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、秩父宮御日誌、秩父宮

附日記

五日 木曜日 この日、福井県三方郡北西郷村沖合において漁船が遭難、死者・行方不明者多数発生につき、天皇・皇后より同県に御救恤金を下賜される。○省中日誌、恩賜録、宮内省省報、官報

六日 金曜日 午後、内庭にお出ましになり、侍従武官山澄貞次郎の説明にて、横須賀海軍航空隊の帝都訪問飛行を御覧になる。同飛行には朝融王^{御兄}が横須賀鎮守府航空隊副長として参加する。○女官日

誌、侍従日誌、侍従職日誌、読売新聞

九日 月曜日 午後、皇太后御使の典侍竹屋津根子参内につき、謁を賜う。以後、この年も随時、参

内した皇太后御使に謁を賜い、また、天皇・皇后あるいは皇后から大宮御所に御使を差し遣わされる。

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

十一日 水曜日 多喜子内親王^{明治天皇第十皇女}四十年式年祭執行につき、皇后宮女官万里小路ソデを豊島岡墓地に差し遣わされ、御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、儀式録、祭祀録、宮内省省報

十三日 金曜日 御着帯につき、午前九時五分、奥内謁見所において、載仁親王^親が勅旨を奉じて進

献した御帯を、皇后宮大夫広幡忠隆・皇后宮女官長保科武子を介してお受けになる。その後、御帯は掌典に伝えられる。十時、賢所皇靈殿神殿に着帯奉告の儀が行われ、皇后宮女官伊達璋子に御代拝を仰せ付けられる。十一時、奥御対面所において、同所入側にて天皇をお出迎えになる。それより着帯の儀を行われる。終わって天皇と共に奥内謁見所において、内大臣始め総代及び皇后宮女官長始め皇后宮女官等より祝詞言上をお受けになる。ついで、皇太后御使の掌侍高松千歳子に謁を賜う。また元皇后宮女官総代等に謁を賜う。午後、お一方にて、雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子ほかと御対面になる。ついで天皇と共に載仁親王始め皇族・王公族と御対面になり、祝詞言上をお受けになる。

御帯進献の載仁親王には、天皇・皇后より紅白縮緬・肴料を御贈進になる。また、天皇・皇后と皇太后の間に、御使を通じて御贈進の品が取り交わされる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人

日誌、省中日誌、皇親録、儀式録、祭祀録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報

二十一日 土曜日 午後、天皇と共に奥御対面所において、雍仁親王妃勢津子と御対面になる。翌日より葉山別邸滞在につき、暇乞いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、

昭和十四年一月

秩父宮御日誌、宮内省省報

二十六日 木曜日 故博義王百日祭につき、皇后宮使として、皇后宮事務官永積寅彦を伏見宮邸の権舎に、同小倉庫次を豊島岡墓地の墓所に差し遣わされ、玉串をお供えになる。また、天皇・皇后より靈前に盛菓子をお供えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、省中日誌、皇親録、重要雑録、宮内省省報、官報

二十七日 金曜日 邦彦王^{御父}十年祭につき、皇后宮使として、靈殿^{久運宮邸}・墓所^{豊島岡墓地}に皇后宮事務官入江相政を差し遣わされる。また、天皇・皇后より靈殿に盛菓子をお供えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、贈賜録

二十八日 土曜日 去る二十一日、福岡県鞍手郡宮田町の貝島炭鉱株式会社大之浦新三坑においてガス爆発のため多数の死傷者・行方不明者発生につき、この日、天皇・皇后より同県に御救恤金を下賜される。○省中日誌、恩賜録、宮内省省報、官報

三十日 月曜日 午前、孝明天皇例祭につき、皇后宮女官北村民枝に御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、祭祀録、儀式録、宮内省省報

三十一日 火曜日 午前、歌会始の儀が行われる。皇后は、御静養中につき御欠席になる。この年のお題は「朝陽映島」であり、皇后宮御歌は次のとおり。

皇后宮御歌

大君のめくみあまねきしま／＼にひかりをそへて朝の日のさす

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、省中日誌、儀式録、宮内省省報、官報、あけぼの集

枢密顧問官桜井錠二去る二十八日死去につき、この日、天皇・皇后より祭資を下賜される。なお、二十八日、天皇・皇后より病氣お尋ねとして果物を下賜される。○恩賜録、省中日誌、宮内省省報、官報

二月

六日 月曜日 ベルギー国特命全權大使アルベール・ド・バツソンピエール及び同夫人今般帰国につき、午前、皇后宮職御用掛高木多都雄を同国大使館に差し遣わされ、御沙汰を賜い、夫人に唐織卓掛を下賜される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、外交贈答録、贈賜録

七日 火曜日 この度肺炎にて葉山の別邸において静養中の故依仁親王妃周子に、天皇・皇后よりお尋ねとして野菜^{新宿御苑産}を御贈進になる。以後、しばしば野菜やスープ・果物・寄植え等を御贈進になる。

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、贈賜録、皇族身分録

十一日 土曜日 午前、紀元節祭につき、皇后宮女官伊達璋子に御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、儀式録、宮内省省報

十四日 火曜日 皇太后御参内につき、正午前、天皇と共に奥御対面所において御対面になり、御昼餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、幸啓録、重要雑録、宮内省省報、官報

二十一日 火曜日 午前、仁孝天皇例祭につき、皇后宮職御用掛竹屋志計子に御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、儀式録

この日、大聖寺・宝鏡寺・曇華院・林丘寺・靈鑑寺・光照院・三時知恩寺・円照寺・水薬師寺・長福

昭和十四年三月

寺・中宮寺・瑞竜寺・善光寺・法華寺・禪智院に乾海苔を賜う。○女官長日記、贈賜録

二十三日 木曜日 夜、この日ドイツ国特命全権大使オイゲン・オットを経て同国宰相アドルフ・ヒトラーより天皇へ献上されたベルリン国立製陶所製花瓶を、天皇と共に御覧になる。○女官長日記、女官日誌、外交贈答録、進献録、入江相政日記

二十六日 日曜日 午前、故菊麿王妃常子一周年祭につき、皇后宮使として皇后宮事務官入江相政を、山階宮邸の権舎及び豊島岡墓地の墓所に差し遣わされ、それぞれ玉串をお供えになる。また、天皇・皇后より霊前に盛菓子を、墓前に櫛をお供えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、皇親録、重要雑録、宮内省省報、官報

二十七日 月曜日 午前、奥内謁見所において、去る二月六日付で乳人を拝命の矢部経子・松本夫佐に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、皇親録、進退録

三月

二日 木曜日 朝より御出産の兆しがあり、午後三時五十五分、御静養室より産室にお移りになる。四時三十五分、内親王を御出産になる。五時五十分、天皇が内親王と御対面になる。七時、産室において天皇と御対面になる。十一時前、御静養室にお移りになる。

内親王誕生につき、イタリア国皇帝・皇后より天皇・皇后に祝電が寄せられる。これに対し、天皇・皇后より答電をお送りになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、皇親録、外交慶弔録、宮内省省報、官報

三日 金曜日 午前十時より、昨日誕生の内親王に御剣を賜うの儀が行われ、勅使が内親王へ御剣及び御袴を賜う。皇后は、儀が滞りなく終わった旨を皇后宮女官万里小路ソデよりお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、省中日誌、儀式録、皇親録、宮内省省報、官報

この日、皇后宮女官外山豊子・皇后宮職御用掛宇野千代が皇子御養育掛を仰せ付けられる。○女官長日記、進退録

五日 日曜日 午前、御静養室において天皇と御対面になる。以後、天皇はしばしば御静養室に皇后をお見舞いになり、また内親王と御対面になる。○女官日誌

六日 月曜日 満三十六歳のお誕生日を迎えられる。

午前、総代の皇后宮女官長より祝詞言上をお受けになる。また、故邦彦王妃親子と御対面になる。夕刻、御静養室において天皇と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

八日 水曜日 午前七時、赤坂離宮内の寒香亭側において、去る二日に誕生した内親王の御胞衣埋納の儀が行われる。

誕生第七日に当たり、午前九時、浴湯の儀が行われる。十一時、命名の儀が行われ、内親王は貴子と命名され、清宮^{すがのみや}と称する。なお、内親王の印章は「橘」と定められる。同時刻、賢所皇靈殿神殿に誕生命名奉告の儀が行われ、皇后宮事務官小出英経に御代拝を仰せ付けられる。また、天皇・皇后より、御奉告のため御使として侍従岡部長章を多摩陵^{大正天皇陵}に差し遣わされる。なお、この日は故祐子内親王の祥月命日のため、表向の儀式のみ執行し、祝詞・御贈答等は翌日に延期される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、省中日誌、儀式録、皇親録、重要雑録、宮内省省報、官報

昭和十四年三月

九日 木曜日 貴子内親王お七夜のお祝いとして、天皇・皇后より内親王に初衣・生鯛代料等を御贈進になる。また、皇太后より天皇・皇后及び貴子内親王へのお祝品御贈進に対し、天皇・皇后より鮮鯛・御盆盛を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

二十二日 水曜日 この日枕直しにて御用済みの助産婦梅林寺こう・同坂田あきに、午後、御静養室において謁を賜う。○女官長日記、女官日誌

二十三日 木曜日 去る一日に発生した大阪府枚方町の大阪陸軍兵器支廠禁野倉庫における爆発事故により被害を受けた同府に対し、この日、天皇・皇后より御救恤金を下賜される。○省中日誌、重要雑録、

恩賜録、宮内省省報、官報

二十八日 火曜日 午後、御静養室において、天皇及び皇太子、成子内親王と御対面になる。この日、皇太子は、貴子内親王と初めて対面する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、

宮内省省報

二十九日 水曜日 女子学習院において卒業式挙行につき、守正王妃伊都子を差し遣わされる。また、御使として皇后宮事務官入江相政を差し遣わされ、恩賜品を伝達させられる。○女官長日記、女官日誌、侍

従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、皇親録、宮内省省報、官報

三十一日 金曜日 御出産後の経過順調につき、この日、御床払いになる。午前、成子内親王参内につき、御対面になる。ついで奥内謁見所において、皇太后御使の掌侍高松千歳子に謁を賜い、皇太后よりの祝詞言上をお受けになり、また三種交魚の御贈進をお受けになる。続いて、内大臣・宮内大臣・侍従長始め側近者総代、宮内省御用掛磐瀬雄一・侍医塚原伊勢松並びに皇后勤女官等より祝詞言上を

お受けになる。正午、御座所において天皇と御対面になり、天皇及び成子内親王と御昼餐を御会食になる。

御床払いにつき、大宮御所に御使として皇后宮職御用掛竹屋志計子を差し遣わされ、皇太后に御静養中のお礼を申し入れられ、万那及び菓子をお贈進になる。また、大正天皇の写真に果物・切り花をお供えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

午後、成子内親王と共に申ノ口において、女子学習院より届けられた成子内親王・和子内親王・厚子内親王の成績品並びに学生の成績品を御覧になる。○女官日誌

成子内親王と共に奥内謁見所において、故多嘉王妃静子、及び今般公爵二条弼基と結婚する恭仁子女王^{多嘉王の王女}と御対面になる。これに先立ち奥御進講所において、恭仁子女王が持参した、皇太后より拝領

の品々を御覧になる。なお、結婚が勅許された二月十六日並びに参内朝見の儀が行われた去る二十四日、皇后より同女王にお祝いの品をお贈りになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、重要雑録
元宮内大臣田中光顕去る二十八日死去につき、この日、天皇・皇后・皇太后より祭資を賜う。また、皇后より櫛をお供えになる。なお、同人の病気に際し、お尋ねとして天皇・皇后・皇太后より果物を下賜される。○侍従日誌、侍従職日誌、省中日誌、恩賜録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報

四月

一日 土曜日 夕刻、御静養室において、昨日の御床払いにつき挨拶のため参内した元皇后宮職御用掛吉見光子に謁を賜う。○女官日誌、侍従職日誌

昭和十四年四月

二日 日曜日 この日恭仁子女王結婚につき、天皇・皇后・皇太后よりお祝いとして同女王に紅白縮緬を、朝融王に酒・鮮鯛を賜う。○女官長日記、女官日誌、省中日誌、皇親録、重要雑録

四日 火曜日 午後、奥内謁見所において故多嘉王妃静子と御対面になり、去る二日の恭仁子女王結婚についてのお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

十七日 月曜日 午前、奥内謁見所において、李鍵公、及び今般上京の李嫺妃金氏と御対面になり、李鍵公の通訳にて御会話になる。李嫺妃より天皇・皇后に円盤の献上があり、また、二十三日皇后より友禅縮緬等の下賜がある。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、贈賜録

皇后宮女孀に麻疹の疑いのある者が出たため、皇后宮女官長保科武子を大宮御所に差し遣わされる。皇后の御依頼により、この日予定されていた皇太后の宮城行啓がお取りやめになる。○女官長日記、女官日誌、幸啓録、宮内省省報、官報

十八日 火曜日 午後、奥内謁見所において、新任の侍医寮御用掛遠藤卓夫に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、進退録、宮内省省報

二十二日 土曜日 傷痍軍人千葉療養所収容中の傷病将兵に対し、お見舞いとして草花の種子・球根を下賜される。○入江相政日記、軍人援護事業概要

二十四日 月曜日 別格官幣社靖国神社において臨時大祭挙行につき、この日、天皇・皇后より同社に祭資を下賜される。○省中日誌、幸啓録、儀式祭典録

二十六日 水曜日 午前、奥内謁見所において、先般支那方面艦隊へ差遣された侍従武官醍醐忠重の復命をお聞きになる。醍醐は二月十七日天皇の御沙汰並びに皇后の令旨を拝受し、翌十八日出発、支

那方面艦隊司令長官兼第三艦隊司令長官及川古志郎と面会し、三月十四日帰京した。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、省中日誌、進退録、侍従武官府歴史

この日東京慈恵会総会挙行につき、御名代として故邦彦王妃倪子を差し遣わされる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、皇親録、宮内省省報、官報

二十七日 木曜日 午前、奥内謁見所において、先般馬公要港部・第五艦隊・第四艦隊及び旅順要港部へ差遣された侍従武官山澄貞次郎に謁を賜い、復命をお聞きになる。山澄は三月十七日天皇の御沙汰、並びに皇后の令旨を拝受し、十九日出発、四月二十日帰京した。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、省中日誌、進退録、侍従武官府歴史

二十八日 金曜日 午前、奥内謁見所において内閣総理大臣平沼騏一郎に謁を賜い、次の令旨を下される。

国民体力ノ向上ハ国本ニ培フ所以ニシテ現下特ニ心ヲ致スヘキ所ナリ而シテ近時結核ノ蔓延甚シク其ノ国力ニ及ホス影響ノ大イナルニ鑑ミ誠ニ憂慮ニ堪ヘサルナリ茲ニ内帑ヲ頒チ之レカ予防並ニ治療ニ関スル施設ノ一助タラシメムトス官民克ク力ヲ戮セ之レカ目的ノ達成ニ努メムコトヲ望ム

併せて、結核予防並びに治療に関する事業御奨励の思召しをもって、御内帑金の下賜がある。なお五月一日の閣議において、この御下賜金を基に財団法人を設立し、内地・外地にわたる中央団体として結核の予防・治療に関する各種の事業を行うことが定められ、五月二十二日、財団法人結核予防会が発足する。同会の総裁に雍仁親王妃勢津子が、会長に厚生大臣広瀬久忠が、副会長に荒木寅三郎・池

昭和十四年五月

田成彬が就任する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、贈賜録、御下賜金関係書類、宮内省省報、官報、公文類聚、軍人援護事業概要、偕行社記事、結核予防会創立二十周年小史、朝日新聞

二十九日 土曜日 天長節につき、正午前、奥内謁見所において雍仁親王始め皇族・公族と御対面になり、拝賀をお受けになる。続いて正午過ぎ、内大臣・宮内大臣始め側近者総代、皇后宮女官長始め皇后宮女官等の拝賀をお受けになる。ついで天皇と共に奥御食堂において、お祝御膳をお召しになる。御食後、奥御対面所において、旧女官の園祥子・生源寺伊佐雄、元皇后宮女官に謁を賜う。その後、奥内謁見所において、軍務の都合により午後の参内となった崇仁親王と御対面になる。なお事変中につき、内宴はお取りやめになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、儀式録、宮内省省報、官報

三十日 日曜日 午前、天皇と共に、皇太子・成子内親王と御対面になり、天長節の拝賀をお受けになる。正午過ぎ、花蔭亭にお出ましになり、先着の天皇及び皇太子・成子内親王と御昼餐を御会食になる。御食後、御一緒に桜田門付近の竹藪にお出ましになり、筍掘りをされる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、宮内省省報

五月

三日 水曜日 午前、かねてより葉山に滞在中の正仁親王帰京につき、御対面になる。この日、正仁親王が初めて貴子内親王と対面する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

午後、奥内謁見所において、今般宮内大臣官房総務課長として転出の侍従大金益次郎^{皇后宮事務官}に謁を賜

う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、宮内省省報、官報

去る一日発生した秋田県を中心とする地震の被害に対し、天皇・皇后より御救恤金を同県に下賜される。○省中日誌、恩賜録、宮内省省報、官報、偕行社記事

四日 木曜日 この日、憲法記念館構内において日本赤十字社第四十七回通常総会挙行につき、御名代として故邦彦王妃倪子を差し遣わされる。この際、次の令旨を下される。

日本赤十字社第四十七回総会に際し各員に告ぐ

本社は総裁以下不断の努力により其の施設愈々整備し其の経営益々進展せるを見る今次事変に際しては多数の救護班を派し本社経営の病院には戦傷病者を収容し更に出征軍人遺家族に対しても力を効し恤兵報国の実を挙げつゝあるは深く満足に思ふ

昨年六月赤十字国際会議の倫敦に開かるゝや代表委員を出席せしめ各国赤十字社と友好を敦うしたり又客秋満洲国赤十字社の創設に当りては本社の既存施設を提供し爾来同国赤十字社事業の拡充を図りつゝあるは欣快に堪へず

現下時局の重大なるに鑑み本社員一同協心戮力益々国家社会に貢献せむことを望む

正午過ぎ、奥内謁見所において故邦彦王妃倪子と御対面になり、復命をお受けになる。終わって御昼餐を御会食になる。

またこの日、明治神宮外苑競技場において愛国婦人会第三十八回通常総会挙行につき、御名代として稔彦王妃聡子内親王を差し遣わされる。この際、次の令旨を下される。

茲に愛国婦人会第三十八回総会に際し諸員に告ぐ

本会が今次の事変に処し会員結束の力に依り克く銃後に備へ其の事蹟見るべきものあるは深く満

昭和十四年五月

足するところなり

今や内外の情勢益々多事にして婦人の勢力に俟つもの愈々多きを加ふるの秋会員宜しく堅忍持久奉公の誠を効し以て婦人報国の使命を完了せむことを望む

午後、奥内謁見所において稔彦王妃聡子内親王、並びに総裁代理春仁王妃直子とそれぞれ御対面になり、復命及びお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、皇親録、宮内省省報、官報、偕行社記事、事業年報（日本赤十字社）、日本赤十字社社史稿、愛国婦人会四十年史

五日 金曜日 午後、奥内謁見所において、この度新任の宮中顧問官杉栄三郎元帝室博物館総長・帝室博物館総

長渡部信元図書頭兼諸陵頭・図書頭兼諸陵頭金田才平元宮内省参事官・宮内省参事官本多猶一郎元宮内省事務官、並びに元宮内省京都

地方事務所長伊夫伎準一に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、宮内省省報、官報

去る四月二十九日に伯爵東伏見邦英御弟の第一女子誕生につき、七夜に当たるこの日、邦子くにこと命名され

る。命名当日に際し、故邦彦王妃倪子に万那料・人形・野菜を、邦英に三種交魚料・緋紋縮緬を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、贈賜録、重要雑録

九日 火曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、御養蚕始の儀を行われる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌

十日 水曜日 午前、賢所皇靈殿神殿に謁するの儀皇室親族令付式皇子誕生式中を終えた貴子内親王と、天皇と共に御

対面になる。ついで天皇及び貴子内親王と共に奥内謁見所にお出ましになり、皇族・王公族の拝賀を、続いて内大臣始め側近奉仕高等官の拝賀をお受けになる。それより皇太后御使の掌侍高松千歳子に謁

を賜う。なお事変中につき、内宴はお取りやめになる。この日、天皇・皇后より侍従岡部長章を多摩陵へ差し遣わされ、御代拝を仰せ付けられる。また、皇后宮女官万里小路ソデを天皇・皇后の御使として皇太后の許へ差し遣わされる。なお、天皇・皇后よりお祝いとして貴子内親王に袴人形・稚児人形・万那料を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、皇親録、重要雑録、宮内省省報、官報

午後、正仁親王と共に呉竹寮お庭にお出ましになり、成子内親王も交えて御一緒に、宮城内旧本丸跡で行われた陸軍将校による天覧馬術を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、重要雑録

十二日 金曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌
去る九日、東京市板橋区内において火災のため死傷者多数発生につき、この日、天皇・皇后より御救恤として金一封を東京府に下賜される。○省中日誌、恩賜録、宮内省省報、官報、偕行社記事

十三日 土曜日 元皇后宮職御用掛吉見光子去る十一日死去につき、この日、天皇・皇后より盛菓子を下賜される。また、天皇・皇后・皇太后より祭資を下賜される。なお、十一日、危篤に際して天皇・皇后より果物・菓子を下賜される。○女官長日記、女官日誌、恩賜録、贈賜録、進退録

十四日 日曜日 母の日につき、日本全国母の会よりカーネーション一籠の献上をお受けになる。○女官長日記

十八日 木曜日 午前、奥内謁見所において、恩賜財団軍人援護会会長奈良武次<sup>元侍従
武官長</sup>に謁を賜い、種々状況を御聴取になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

午後、正仁親王と共に紅葉山御養蚕所にお出ましになる。○女官日誌、侍従職日誌

昭和十四年五月

二十四日 水曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、臨時皇后宮職御用掛有泉善三の説明にて、蚕の状態等を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

二十五日 木曜日 午前、奥内謁見所において、今般帰国のラトビア国駐劄特命全権公使佐久間信及び同夫人に、続いて今般帰国のハンガリー国駐劄特命全権公使松宮順に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、拝謁参拝録、宮内省省報、官報

午後、奥内謁見所において、今般退任の侍従武官長宇佐美興屋、新任の侍従武官長畑俊六に謁を賜う。なお、今般退官の宇佐美に天皇・皇后より御紋付蒔絵手箱・御紋付銀時計及び金員を、皇后より陶製花瓶（染付瓜ノ図、岡本為治作）を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、重要雜録、儀式録、官報

二十六日 金曜日 午前、奥内謁見所において、新任の侍従次長甘露寺受長・式部次長山県武夫、また前任の式部次長鹿兒島虎雄に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、進退録、宮内省省報、官報

二十七日 土曜日 午後、天皇と共に紅葉山御養蚕所にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官府歴史

二十九日 月曜日 午前、奥内謁見所にお出ましになり、参内の瑞竜寺門跡（村雲御所）の九条日淨に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、贈賜録

三十一日 水曜日 午後、正仁親王と共に紅葉山御養蚕所にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

六月

一日 木曜日 天皇と共に御学問所において、新任の侍従武官長畑俊六及び前任の侍従武官長宇佐美興屋のための御晩餐に御臨席になる。新旧侍従武官長のほか、侍従長百武三郎・侍従次長甘露寺受長・皇后宮大夫広幡忠隆・皇后宮女官長保科武子・内大臣湯浅倉平・宮内大臣松平恒雄に御相伴を仰せ付けられる。なお、甘露寺侍従次長は新任につき、特に席に加えられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、重要雑録、侍従武官府歴史

翌二日より雍仁親王滿洲国へ出張につき、皇后より滿洲国皇帝へ御贈進の陶製置物^鶏・切り花^{新宿御苑}を親王に託される。○女官長日記、女官日誌、贈賜録、雍仁親王実紀

二日 金曜日 午後一時三十分御出門、天皇と共に大宮御所に行啓される。皇太后と御対面になり、三時三十二分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、幸啓録、宮内省省報、官報

六日 火曜日 午前、桐ノ間において、今般賜暇帰国のトルコ国特命全權大使ヒュスレヴ・ゲレデ及び同夫人に謁見を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、謁見録、宮内省省報、官報

皇太后御参内につき、天皇と共に奥御対面所において御対面になり、御昼餐を御会食になる。御食後、皇太后と共に紅葉山御養蚕所にお出ましになり、先着の正仁親王と蚕を御覧になる。その後、同所において成子内親王とも御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、幸啓録、重要雑録、宮内省省報、官報

昭和十四年六月

七日 水曜日 午後、天皇及び正仁親王と共に紅葉山御養蚕所にお出ましになり、臨時皇后宮職御用掛有泉善三の説明にて蚕を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官日誌

八日 木曜日 午前、奥内謁見所において、賜物拝領のお札言上並びに御機嫌奉伺のため参内の元内大臣牧野伸顕に謁を賜う。途中正仁親王も同席する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、贈賜録

午後、奥内謁見所において賜物拝領のお札言上のため参内の松平繁子公爵徳川家達の息女に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌

女官日誌

九日 金曜日 午前、奥内謁見所に出御され、今般赴任のハンガリー国駐箭特命全権公使井上庚二郎及び同夫人、ポルトガル国駐箭特命全権公使米沢菊二及び同夫人に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、拝謁参拝録、宮内省省報、官報

十日 土曜日 午後、奥内謁見所において、今般葉山別邸より帰京・参内の故依仁親王妃周子と御対面になり、病氣療養中のお尋ねにつきお札言上をお受けになる。途中より正仁親王も同席する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

公刊明治天皇御紀編纂長三上参次去る七日死去につき、この日、天皇・皇后・皇太后より祭資を下賜される。なお、去る七日、天皇・皇后より病氣お尋ねとして果物を下賜される。○省中日誌、恩賜録、贈賜録、進退録、宮内省省報、官報

十四日 水曜日 午前、桐ノ間において、新任のブラジル国特命全権大使フレデリコ・デ・カステロ・ブランコ・クラークに謁見を仰せ付けられる。引き続き、館員に謁見を仰せ付けられる。ついで、新任のペルー国特命全権公使リカルド・リヴェラ・シュレイベルに謁見を仰せ付けられる。○女官長日記、

女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、謁見録、宮内省省報、官報

午後、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、蚕の上簇を御覧になり、また繭搔きをされる。○女官長日記、

女官日誌、内舎人日誌

十六日 金曜日 午前、桐ノ間において、新任のスペイン国特命全権公使サンチアゴ・メンデス・デ・ヴィーゴ及び同夫人、同じく新任のコロンビア国特命全権公使アルフレド・ミケルセンに謁見を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、謁見録、宮内省省報、官報

午後、天皇と共に奥御対面所において、満洲・北支方面の出張から昨日帰京の雍仁親王と御対面になり、挨拶をお受けになる。なお、満洲国皇帝より雍仁親王に託して、天皇・皇后に御贈進の品があり、皇后には碧玉鳳瓶・繡枕が贈られる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、外交贈答録、秩父宮御日誌、雍仁親王実紀、秩父宮雍仁親王

十七日 土曜日 正午、天皇と共に花蔭亭にお出ましになり、先着の正仁親王と御昼餐を御会食になる。終わって正仁親王とお二方にて呉竹寮へお出ましになり、成子内親王のピアノの練習を御覧になる。以後、しばしば呉竹寮にお出ましになり、成子内親王・和子内親王・厚子内親王と御対面、また内親王方の勉強の様子などを御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌

十九日 月曜日 午前、桐ノ間において、新任のアルゼンチン国特命全権公使ロドルフォ・モレーノ、同じく新任のメキシコ国特命全権公使プリモ・ヴィリア・ミッチェル及び同夫人に謁見を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、謁見録、宮内省省報、官報

二十一日 水曜日 午後零時五分御出門、多摩陵に行啓される。陵所御休所において御手水の後、陵

昭和十四年六月

前において御拝礼になる。陵所御休所に戻られた後、元諸陵頭渡部信・陵墓監岡田重三郎ほかに謁を賜い、三時三十三分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、幸啓録、宮内省省報、官報

二十二日 木曜日 午前、桐ノ間において、新任のデンマーク国特命全権公使ラルス・ペデルセン・テイリッツェ及び同夫人に謁見を仰せ付けられる。続いて新任のギリシャ国特命全権公使アタナーズ・ポリティスに謁見を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、謁見録、宮内省省報、官報

二十三日 金曜日 午前、奥内謁見所において、この度チェコスロバキア国より帰国の特命全権公使藤井啓之助及び同夫人に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、拝謁参拝録、宮内省省報、官報

二十五日 日曜日 皇太后のお誕生日につき、正午、天皇と共に奥御食堂前御入側において、皇后宮女官長始め皇后宮女官等より祝詞言上をお受けになる。事変中につき、大宮御所への御使御差遣等はお取りやめになる。午後、天皇と共に奥御対面所において、この日誕生日を迎えた雍仁親王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、秩父宮御日誌、秩父宮附日誌、儀式録、貞明皇后実録正本、宮内省省報

二十六日 月曜日 午前十時十五分御出門、別格官幣社靖国神社に行啓され、御拝礼になる。同五十分還啓される。御参拝に際し、幣帛・神饌料をお供えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、幸啓録、宮内省省報、官報

二十七日 火曜日 午後、過日お庭の花及び果物を拝領したお礼言上と御機嫌伺いを兼ねて参内の松

平信子^{宮内大臣松平恒雄夫人}に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

二十八日 水曜日 午前、桐ノ間において、新任のアフガニスタン国特命全権公使ズル・フェカル・

カーンに謁見を仰せ付けられる。続いて、新任のルーマニア国特命全権公使ジョルジュ・パラスキヴエ
スクに謁見を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、謁見録、宮内省省報、官報

二十九日 木曜日 午前、桐ノ間において、元チエコスロバキア国特命全権公使フランティシエック・

ハヴリチエックに謁見を仰せ付けられる。なお、同国は去る三月ドイツ国に併合されたため、同公使

は公使たる資格を喪失した。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、謁見録、宮内省省報、官報

貴子内親王の箸初の儀が行われる。終わって、天皇と共に奥内謁見所において、貴子内親王と御対面
になる。ついで天皇及び貴子内親王と共に奥内謁見所において、侍従長・侍従武官長・皇后宮大夫・

侍医頭・皇子御養育掛長等の拝賀を、続いて皇后宮女官長始め皇后宮女官一同の拝賀をお受けになる。

箸初につき、天皇・皇后より皇太后に五種交魚を、貴子内親王に生鯛・御台人形を御贈進になる。○

女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、皇親録

三十日 金曜日 午前、天皇と共に奥内謁見所において、今般戦地より凱旋の恒徳王^{恒久王の王子}と御対面に

なる。午後、天皇と共に奥内謁見所において、この度出征の盛厚王^{稔彦王の王子}と御対面になる。なお、凱旋

の恒徳王、出征の盛厚王に、それぞれお祝品を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、

内舎人日誌、省中日誌、皇族身分録

昭和十四年七月

和子内親王・厚子内親王は百日咳のため沼津御用邸、ついで霞関離宮において静養中のところ、全快により、この日呉竹寮に帰還につき、午後、天皇と共に御座所において御対面になる。御夕餐には、天皇及び和子内親王・厚子内親王のほか、正仁親王・成子内親王も加わり御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

七月

一日 土曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、糸繰りの作業などを御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

三日 月曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、吹止真綿製作などを御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

奥内謁見所において侍従長百武三郎夫人まち子に謁を賜う。その際、貴子内親王も挨拶を受ける。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

午後、奥内謁見所において、結婚後初めて参内した公爵二条弼基・同夫人恭仁子に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、贈賜録

奥内謁見所において、故恒久王妃昌子内親王と御対面になり、恒徳王帰京に際しての賜物に対するお礼言上をお受けになる。正仁親王も同席する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

五日 水曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、御養蚕納の儀を行われる。なお、昨日製糸作業終了につき、東京高等蚕糸学校長伊藤広雄始め職員・生徒・関係員一同に賜物がある。○女官長日

記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

奥内謁見所において、この度凱旋の第九師団長吉住良輔に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

六日 木曜日 午前、御機嫌奉伺のため参内の木戸ツル^{内務大臣木戸幸一夫人}に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

七日 金曜日 午前、奥内謁見所において稔彦王妃聡子内親王と御対面になり、盛厚王出征に際しての賜物に対するお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

午後一時十七分御出門、大宮御所に行啓され、皇太后と御対面になる。三時五十六分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内省省報、官報

十二日 水曜日 天皇及び貴子内親王と共に葉山御用邸に行啓のため、午後一時五十五分御出門、三時二十一分同邸に御到着になる。附属邸に逗留中の皇太子と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、省中日誌、幸啓録、行幸録、宮内省省報、官報

十三日 木曜日 午前、皇太子と共に海岸にお出ましになり、皇太子の遊ぶ様子を御覧になる。以後、葉山御用邸御滞在中、折に触れて天皇や皇太子始め皇子女と海上及び海岸にお出ましになり、海藻等を御採集になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、幸啓録

十五日 土曜日 この月上旬の鹿児島県下における暴風雨の被害に対し、天皇・皇后より同県に御救恤金を下賜される。○省中日誌、恩賜録、宮内省省報、官報

十八日 火曜日 去る十一日の閣議において、今次のノモンハン付近における衝突事件について支那

昭和十四年八月

事変に準じて取り扱う旨が決定されたことを受け、この日、戦死の陸軍将校以下に対し、支那事変の戦死者と同様に、天皇・皇后より祭料を下賜されることが定められる。○皇后陛下御歌下賜録、例規録、軍人援護事業概要
本及び菓子を下賜されることが定められる。○皇后陛下御歌下賜録、例規録、軍人援護事業概要

二十二日 土曜日 この日皇太子が日光に転地につき、午前、本邸において天皇と共に御対面になる。夕刻、この日参邸の成子内親王・和子内親王・厚子内親王と、天皇と共に御対面になり、御夕餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、省中日誌、幸啓録、行幸録、宮内省省報、官報

二十四日 月曜日 那須御用邸に行啓のため、午前八時四十分、貴子内親王を伴われ葉山御用邸を御出門、午後二時那須御用邸に御到着になる。御着後、先着の正仁親王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、省中日誌、那須御用邸管理事務所日誌、幸啓録、行幸録、宮内省省報、官報
三十日 日曜日 午前、明治天皇例祭につき、皇后宮女官長保科武子に御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、儀式録、宮内省省報

八月

五日 土曜日 オランダ国皇族ベルンハルト皇嗣ユリアナの配偶者より、同国皇嗣ユリアナの王女出産を伝える親電が寄せられる。これに対し、天皇・皇后より祝電をお送りになる。○省中日誌、外交慶弔録、宮内省省報、官報
六日 日曜日 恩賜財団法人援護会の幹旋による戦没者遺児一千三百十五名の別格官幣社靖国神社参拝に際し、同遺児に菓子を賜う。○軍人援護事業概要

八日 火曜日 午後、近衛師団長飯田貞固並びに供奉将校等四名に謁を賜う。さらに別当^{高松}山内豊中及び高松宮御用取扱町野トキに謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、那須御用邸管理事務所日誌

十一日 金曜日 内閣参議大谷尊由去る一日死去につき、この日、皇后宮使として皇后宮事務官岡部長章を築地本願寺内の大谷邸に差し遣わされ、花を賜い、焼香させられる。さらに天皇・皇后より祭資を下賜される。なお、一日、同人の危篤に際して天皇・皇后よりお尋ねとして果物を下賜される。

○侍従職日誌、省中日誌、恩賜録、宮内省省報、官報

十三日 日曜日 午前、正仁親王を御同伴にて御門前広場にお出ましになり、儀仗隊の教練を御覧になる。翌十四日、翌々十五日にも御覧になる。○女官長日記、女官日誌、那須御用邸管理事務所日誌

十六日 水曜日 午前、李王^{李王}_{李王}^{李王}_{李王}妃方子女王・李玖^{李玖}_{李玖}と御対面になる。方子女王・李玖と共に嚶鳴亭にお出ましになり、先着の正仁親王と御対面になった後、方子女王・李玖をお相手にゴルフをされる。

後刻、李王^{李王}_{李王}も参邸し、御昼餐を御会食になる。なお、李王^{李王}_{李王}より北京から持ち帰った品々及び果物の献上があり、これに対して皇后より三方に御贈進の品がある。○女官長日記、女官日誌、那須御用邸管理事務所日誌

十八日 金曜日 枢密顧問官侯爵黒田長成去る十四日死去につき、この日、天皇・皇后より祭資を下賜される。なお、去る十四日、天皇・皇后より病氣お尋ねとして果物を下賜される。○省中日誌、恩賜録、宮内省省報

十九日 土曜日 博恭王妃経子昨十八日薨去につき、この日、弔問のため、皇后宮使として皇后宮事務官小倉庫次を伏見宮邸に差し遣わされる。また、満洲国皇帝溥儀より天皇・皇后に弔電が寄せられ

昭和十四年八月

る。翌二十日には、皇后宮職御用掛竹屋志計子を伏見宮邸に差し遣わされ、靈前に切り花・野菜いづれも新宿御苑をお供えになる。二十一日には正寝移柩の儀が行われ、靈前に盛花をお供えになる。二十三日には、

天皇・皇后・皇太后より祭資を、皇后より櫛を賜う。二十四日には靈代安置の儀が行われ、皇后宮使として皇后宮事務官岡部長章を伏見宮邸に差し遣わされ、玉串をお供えになる。二十五日には斂葬当日柩前祭の儀が行われ、皇后宮使として皇后宮事務官小出英経を伏見宮邸に差し遣わされ、玉串をお供えになる。同日豊島岡墓地における葬送には、皇后宮使として小出事務官を差し遣わされ、玉串をお供えになる。これより先、去る十六日、同妃の病氣重体に際して天皇・皇后よりお尋ねとして侍医荒井恵を差し遣わされる。また、天皇・皇后より鶏卵を、天皇・皇后・皇太后より果物を下賜される。十七日には、天皇・皇后より侍從小倉庫次を差し遣わされる。また、菓子・果物・万那料を下賜される。

博恭王妃経子は明治十五年、徳川慶喜の第九女子として生まれ、同三十年博恭王の妃となる。博義王始め子女七人を儲け、財団法人福田会及び陸海軍将校婦人会・日本赤十字社篤志看護婦人会の総裁を務める。享年五十八。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人供奉日誌、省中日誌、幸啓録、皇親録、重要雑録、皇族身分録、外交慶弔録、墓誌銘録、宮内省省報、官報

二十二日 火曜日 今般中支那派遣軍へ差遣される侍従武官沢本理吉郎に謁を賜い、令旨を下される。沢本は二十五日東京出發、九月三十日帰京し、十月十二日に復命する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、

侍従職日誌、省中日誌、進退録

二十七日 日曜日 還啓のため、午後零時二十五分貴子内親王を伴われ那須御用邸御出門、四時二十

八分宮城に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内省省報、官報

二十八日 月曜日 午前、奥内謁見所において朝融王と御対面になり、博恭王妃經子^{朝融王妃の母}薨去後の喪明けにつきお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

三十一日 木曜日 午前、奥内謁見所において、今般侍従武官長より転出の陸軍大臣畑俊六に謁を賜う。転出につき天皇・皇后より賜品がある。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、重要雜録、贈賜録、侍従武官府資料、官報、畑俊六日誌

九月

一日 金曜日 興亜奉公日につき、天皇と共に一汁一菜の御食膳とされる。これより先、昨月八日の閣議において、国民精神總動員委員会決定の「国民生活日」の趣旨が採択され、毎月一日が「興亜奉公日」と定められ、十一日の官報号外にて内閣総理大臣の名をもって「全国民ガ特ニ戦場ノ劳苦ヲ想ヒ、自肅自省、的確ニ之ヲ實際生活ノ上ニ具現シ、一億一心、興亜ノ大業ヲ翼賛シ、以テ国力ノ増強ヲ図リ、強力日本ノ建設ニ邁進スルノ日」とする旨の告諭が公布される。天皇・皇后は、震災記念日である毎年九月一日の御昼餐を簡素なお食事とされてきたが、この日より毎月一日、朝・昼・夕を通じて一菜程度の極めて簡単なお食事とされる。○女官長日記、女官日誌、雜件録、侍従武官府歴史、官報、公文類聚、内閣制度百年史

二日 土曜日 天津における水害による在留邦人の被害に対し、天皇・皇后より外務大臣に御救恤金

昭和十四年九月

を下賜される。○省中日誌、恩賜録、宮内省省報、官報

四日 月曜日 午前、桐ノ間において、今般帰国のフィンランド国特命全權公使フーゴー・ヴァルヴァ
ンネ及び同夫人に謁見を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、謁見録、宮
内省省報、官報

朝鮮総督府管内の凶作による被害に対して、この日、天皇・皇后より朝鮮総督府に御救恤金を下賜さ
れる。○省中日誌、重要雑録、恩賜録、宮内省省報、官報

五日 火曜日 午後、皇后宮女官長保科武子を伏見宮邸に差し遣わされ、翌六日の二十日祭につき博
恭王妃経子の霊前に菓子・切り花をお供えになる。また、博恭王ほかに賜物がある。○女官長日記、女官
日誌、重要雑録

六日 水曜日 午前、奥内謁見所において、今般凱旋の元駐蒙軍司令官陸軍中将蓮沼蕃に謁を賜う。
引き続き、新任侍従武官長として謁を賜う。夕刻、天皇と共に御学問所において、元侍従武官長畑俊
六及び新任侍従武官長蓮沼蕃と御夕餐を共にされる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日
誌、重要雑録、侍従武官府資料

八日 金曜日 午前、奥内謁見所において宣仁親王妃喜久子と御対面になり、博恭王妃経子宣仁親王妃の父の姉薨
去に伴う喪明けにつきお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

午後、奥宮殿において、内閣総理大臣阿部信行夫人光子に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

九日 土曜日 成子内親王・和子内親王・厚子内親王がこの日葉山より帰還につき、天皇及び三内親
王と御一緒に御昼餐を御会食になる。午後、奥内謁見所において、この日誕生日を迎えた雍仁親王妃

勢津子と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、秩父宮附日記

十二日 火曜日 午前十一時五十分御出門、大宮御所に行啓される。皇太后と御昼餐を共にされ、午後四時還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、幸啓録、宮内省省報、官報

十三日 水曜日 午前、奥内謁見所において、今般出征の第十二軍司令官飯田貞固に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

十四日 木曜日 午前、天皇と共に皇太子と御対面になり、御昼餐を御会食になる。皇太子は、去る十一日日光田母沢御用邸より還啓した。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、宮内省省報、官報

十五日 金曜日 午前、奥内謁見所において、今般凱旋の元第四軍司令官中島今朝吾に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

奥内謁見所において、カナダより賜暇帰国の特命全権公使富井周及び同夫人、イラク国へ赴任の特命全権公使隈部種樹に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、拝謁参拝録、祭祀録、宮内省省報、官報

十七日 日曜日 午前、天皇と共に奥内謁見所において博恭王と御対面になり、同妃經子薨去に伴う第一期喪明けのお礼言上をお受けになる。ついで、天皇と共に、故博義王妃朝子と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、重要雑録、宮内省省報

二十日 水曜日 午前、奥内謁見所において、今般満洲より帰還の元関東軍司令官植田謙吉に謁を賜う。その際、次のお言葉を賜う。

昭和十四年九月

満洲デハ永々御苦勞デアリマシタ此度ハ重要ナ任務ヲ終ヘテ目出度ク凱旋デ本當ニ喜ハシク思ヒ
マスドウカ更ニ自愛シテ御奉公ヲスル様ニ

○女官長日記、女官日誌、侍從職日誌、侍從武官府歴史

午後、この日那須御用邸から帰京の正仁親王と、天皇と共に御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍從

職日誌、内舎人日誌、那須御用邸管理事務所日誌

二十三日 土曜日 午前、奥内謁見所において、今般赴任の支那派遣軍總司令官西尾寿造に謁を賜う。

その際、お手ずからお編みの毛糸襟巻を同人に下賜される。○女官長日記、女官日誌、侍從職日誌、侍從武官府資

料

二十五日 月曜日 午前、奥内謁見所において、今般凱旋の元北支那方面軍司令官杉山元に謁を賜う。

その際、次のお言葉を賜う。

出征以来克ク重大ナ任務ヲ全ウシテ皇軍ノ威武ヲ發揚シタコトハ洵ニ御苦勞デアリマシタ

本日ハ目出度ク凱旋デ喜バシク思ヒマス今後モ自愛シテ御奉公ヲスル様ニ

ついで同じく凱旋の元独立混成第二旅団長常岡寛治^{前任者}・元独立混成第二旅団長上野亀甫^{後任者}に謁を賜

う。○女官長日記、女官日誌、侍從職日誌、侍從武官府歴史

二十六日 火曜日 午後、天皇と共に御学問所において、東京帝国大学助教授板沢武雄より後醍醐天

皇の御事蹟についての進講を御聴取になる。以後、しばしば板沢をお召しになり、この年は室町時代・戦国時代・安土桃山時代などの進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍從日誌、侍從職日誌、内舎人日

誌、進講録

二十七日 水曜日 午前、後醍醐天皇六百年式年祭につき、皇靈殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、儀式録、祭祀録、宮内省省報、官報

午後、奥内謁見所において、元学習院長野村吉三郎に謁を賜う。なおこの日、野村の外務大臣への転任につき、天皇・皇后・皇太后より賜品がある。○女官長日記、女官日誌、恩賜録、官報

三十日 土曜日 午前九時御出門、東宮仮御所に行啓される。正仁親王も参殿し、皇太子を中心に、女子学習院幼稚園の園児をお相手に体操やお絵描き等を行う様子を御覧になる。十一時五十九分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、幸啓録、宮内省省報、官報

天皇と共に御座所において、この日誕生日を迎えた和子内親王と御対面になる。ついで天皇及び和子内親王と共に奥内謁見所において、宮内大臣・内大臣始め総代、皇后宮女官等の拝賀をお受けになる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

十月

二日 月曜日 御風気につき、御静養室にてお過ごしになる。この日に予定されていた第五艦隊司令長官高須四郎の賜謁はなく、皇后宮大夫を介してお言葉を伝達される。また、この日御参内の皇太后との御会食を御欠席になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、幸啓録、重要雑録、侍従武官府歴史、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報

六日 金曜日 博恭王妃故経子五十日祭執行につき、権舎に皇后宮事務官小出英経を、墓所に皇后宮事務官岡部長章を御差遣になる。天皇・皇后より霊前に盛菓子、墓所に榊をお供えになる。○女官長日記

昭和十四年十月

記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、省中日誌、皇親録、重要雜録、宮内省省報、官報

八日 日曜日 高德院宮理忠尼大禪師後水尾天皇皇女理忠女王二百五十年御忌相当につき、宝鏡寺に御供養料を下賜

される。○贈賜録

十日 火曜日 御風氣御全快につき、御床払いになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌

午後、天皇と共に奥内謁見所において朝融王妃知子女王と御対面になり、博恭王妃經子知子女王の母薨去に伴う忌明けにつきお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌

十一日 水曜日 午前、奥内謁見所において、京都在住華族総代として御機嫌奉伺のため参内の子爵植松雅道に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、贈賜録

午後、天皇と共に奥内謁見所において、この度第一聯合航空隊参謀として事変地へ出征の朝融王と御対面になる。皇后より御贈進の品がある。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁参拝録
十三日 金曜日 午前、奥内謁見所において、今般凱旋の元第五艦隊司令長官近藤信竹・中支那派遣軍司令官山田乙三、凱旋の第十六師団長藤江恵輔にそれぞれ謁を賜う。山田司令官へは次のお言葉を賜う。

出征以来克ク重大ナル任務ヲ全ウシテ皇軍ノ威武ヲ発揚シタコトハ洵ニ御苦勞デアリマシタ

本日ハ目出度ク凱旋デ喜バシク思ヒマス今後モ自愛シテ御奉公ヲスル様ニ

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、侍従武官府歴史

午後、天皇と共に奥御進講所において、皇子御養育掛長藤井種太郎に謁を賜い、成子内親王・和子内親王・厚子内親王の成績につき言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、藤井種太

郎日誌

翌日より成子内親王東北旅行^{二十二}につき、天皇及び正仁親王・成子内親王・和子内親王・厚子内親王と御夕餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、吳竹寮日誌

十四日 土曜日 午後、奥内謁見所において、この度皇后宮事務官兼侍従を拝命の三井安弥に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、宮内省省報、官報

夕刻、皇后宮女官長保科武子を久邇宮邸に差し遣わされ、翌日中支方面に出征の朝融王に三種交魚・鉄兜用真綿帽子・千人針腹帯・御守・菓子を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌

十六日 月曜日 午前、奥内謁見所において、今般凱旋の第十師団長佐々木到一・元第二十師団長牛島実常・元第百九師団長阿南惟幾ほかに謁を賜い、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、拝謁

参拝録

十七日 火曜日 午前、神嘗祭につき、皇后宮女官万里小路ソデに御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、儀式録、祭祀録、宮内省省報、官報

十八日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より「欧洲大戦の原因について」と題する進講をお聴きになる。雍仁親王妃勢津子が陪聴する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、秩父宮御日誌、

穂積家文書

奥内謁見所において、新任の学習院長山梨勝之進、並びに今般凱旋の元第一聯合特別陸戦隊司令官桑折英三郎に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、省中日誌、進退録、宮内省省報、官報

翌十九日に還暦を迎える故邦彦王妃侃子と御書齋にて御対面になる。還暦に当たり、同妃にお手製の

昭和十四年十月

紹刺しハンドバッグ等のお祝いの品を贈られる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

十九日 木曜日 故博義王一年祭につき、権舎に皇后宮事務官入江相政を、墓所に皇后宮事務官小倉庫次を差し遣わされ、玉串をお供えになる。天皇・皇后より靈前に盛菓子、墓所に柿をお供えになる。

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、皇親録、宮内省省報、官報

二十二日 日曜日 天皇と共に、この日東北地方の旅より帰京した成子内親王、及び皇太子・正仁親王・和子内親王・厚子内親王と御昼餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、宮内省省報

二十四日 火曜日 先般九州・沖縄地方において暴風雨により被害発生につき、天皇・皇后より宮崎・沖縄・鹿児島各県に御救恤金を下賜される。○省中日誌、恩賜録、宮内省省報、官報

二十五日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より、「中等学校入学試験廃止問題について」と題する進講をお聞きになる。雍仁親王妃勢津子が陪聴する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

二十七日 金曜日 午前、皇后宮職御用掛加藤虎之亮より『大学』についての進講をお聞きになる。以後、金曜日を中心にししば加藤をお召しになり、進講をお聴きになる。なお、この年加藤は『大学』及び『日本外史』について進講する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、加藤虎之亮関係資料

三十一日 火曜日 午前、奥内謁見所において、今般イタリア国より帰国の特命全権大使白鳥敏夫、並びに仏国へ赴任の特命全権大使沢田廉三及び同夫人、スイス国へ赴任の特命全権公使栗原正及び同夫人に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、拝謁参拝録、宮内省省報、官報

奥内謁見所において、守正王妃伊都子と御対面になり、今般日本赤十字社篤志看護婦人会総裁を拝命したことにつき、お札言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

十一月

三日 金曜日 午前、明治節につき、参内の皇太子、ついで成子内親王・和子内親王・厚子内親王と御対面になる。十一時十分、天皇と共に御学問所において、雍仁親王・同妃勢津子始め皇族・王公族の拝賀を、引き続き内大臣・宮内大臣始め側近高等官一同の拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、儀式録、宮内省省報、官報

六日 月曜日 午前、桐ノ間において、新任のベルギー国特命全権大使ピエール・フォルトム及び同夫人・息女、同じく新任のフィンランド国特命全権公使カール・グスタフ・イドマンに順次謁見を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、謁見録、宮内省省報、官報

午後一時御出門、大宮御所に行啓される。皇太后と御対面、御機嫌をお伺いになり、四時二分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、幸啓録、宮内省省報、官報

奥内謁見所において恒徳王と御対面になり、今般満洲へ出張につき御機嫌奉伺をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

七日 火曜日 天皇の静岡県行幸をお見送りのため皇太后より御差遣の皇太后宮大夫大谷正男に、奥内謁見所において謁を賜い、昨日の大宮御所行啓のお札言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

昭和十四年十一月

八日 水曜日 午前九時御出門、別格官幣社靖国神社に行啓される。先着の雍仁親王妃勢津子以下のお出迎えをお受けになり、御拝所に進まれ御拝礼になる。九時三十三分還啓される。御参拝に際して、同社に幣帛料・神饌料をお供えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、幸啓録、宮内省省報、官報、偕行社記事

東京帝国大学教授穂積重遠より、「裁判と法律」と題する進講をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

九日 木曜日 午前九時四十五分御出門、東宮仮御所に行啓される。皇太子と御対面になり、苑内を御散策、御昼餐を御会食になった後、皇太子が動物園に行啓した際の様子を撮影した活動写真等を御一緒に御覧になる。午後三時四十五分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、幸啓録、宮内省省報、官報

十三日 月曜日 陽徳院<sup>後陽成天皇
女永宗女王</sup>二百五十年御忌相当につき、大聖寺に供養料を下賜される。○贈賜録

十四日 火曜日 午後、天皇と共に奥内謁見所において、今般凱旋の盛厚王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、皇親録、皇族身分録、進献録

昨十三日永久王妃祥子第一王女出産につき、この日、お祝いとして天皇・皇后より故成久王妃房子内親王及び永久王・同妃に三種交魚を御贈進になる。この日誕生した王女は、七夜に当たる十九日に肇子^{はつこ}と命名される。命名当日に、天皇・皇后より永久王に白羽二重・酒・鮮鯛を、肇子女王に産衣を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、省中日誌、永久王妃祥子殿下御分娩の件、皇親録、贈賜録、皇族身分録、宮内省省報、官報

十五日 水曜日 午前、奥内謁見所において、新任の侍従武官鮫島具重に謁を賜う。ついで、今般転出の元侍従武官平田昇に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、重要雜録

奥御進講所において、東京帝国大学教授穂積重遠より「司法沿革誌拔萃」と題する進講をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

この日、日本赤十字社本社において赤十字条約成立七十五周年記念式典挙行につき、奥内謁見所において日本赤十字社総裁載仁親王と御対面になり、次の令旨を下される。

茲ニ赤十字条約成立第七十五周年ヲ迎ヘソノ式典ヲ挙行スルヲ歛フ日本赤十字社ハ創始以来年ヲ逐ウテ隆昌ニ赴キ又各国赤十字社トノ提携愈々固ク成績益々挙カレルハ深ク満足ニ思フ所ナリ

現下時局ノ重大ナルニ鑑ミ本社員一同協心戮力益々国家社会ニ貢献セムコトヲ望ム

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、事業年報（日本赤十字社）、日本赤十字社史稿

午後、奥内謁見所において、今般満洲国より帰国の関東軍司令官梅津美治郎に謁を賜う。なお、満洲国皇帝溥儀より梅津を通じて天皇・皇后・皇太后へ御贈進の品があり、天皇・皇后には満洲風俗人形が、皇后には玉製置物・瑪瑙置物が贈られる。これに対し、梅津が帰任する際に、天皇・皇后より満洲国皇帝に掛物桜下游鯉之図を、同国皇后に鼈甲製手文庫を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、侍従職

日誌、内舍人日誌、省中日誌、贈賜録、外交贈答録、進献録

十六日 木曜日 午前九時三十分御出門、女子学習院に行啓される。御着後、在学の皇族方、及び院長・職員・学生一同のお出迎えをお受けになり、便殿に入御され、院長長屋順耳、教授山口徳三郎に謁を賜う。それより各教室を巡られ授業を御覧になる。御昼餐後も引き続き御巡覧になり、便殿に入

昭和十四年十一月

御後、特に院長をお召しになりお言葉を賜う。今回は平常の学校の様子を御覧になるとの御趣旨にて、成子内親王の読方の授業、和子内親王の算術の授業、厚子内親王の遊観の授業等を御覧になる。午後三時四分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、宮内省省報、官報

去る十日、岩手県岩手郡松尾村所在の松尾鉾山において落盤のため死傷者多数発生につき、この日、天皇・皇后より同県に御救恤金を下賜される。○省中日誌、恩賜録、陸軍上聞書控簿、宮内省省報、官報

十七日 金曜日 午前、奥内謁見所において、今般出征の第一遣支艦隊司令長官谷本馬太郎・第三遣支艦隊司令長官野村直邦に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、拝謁参拝録

奥内謁見所において、今般欧米出張へ出発の特命全権公使河相達夫に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、拝謁参拝録、宮内省省報、官報

稔彦王妃聡子内親王と御対面になり、盛厚王凱旋のお祝品御贈進のお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

二十日 月曜日 午前、奥内謁見所において、今般満洲より凱旋の元第六軍司令官荻洲立兵に謁を賜い、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

桐ノ間において、新任のソビエト連邦特命全権大使コンスタンチン・スメターニン及び同夫人、大使館員及びその夫人に謁見を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、謁見録、宮内省省報、官報

日本赤十字社篤志看護婦人会創立五十周年記念式典に御臨席のため、午後一時四分御出門、同社に行啓される。便殿に入御の後、日本赤十字社総裁載仁親王、篤志看護婦人会総裁守正王妃伊都子のほか、

雍仁親王妃勢津子・故依仁親王妃周子・故邦彦王妃倪子・孚彦王妃千賀子・稔彦王妃聡子内親王・恒徳王妃光子・春仁王妃直子・李鍵公妃誠子と御対面になり、ついで国務大臣ほかに謁を賜う。それより同婦人会会長徳川泰子・副社長徳川圀順より書類捧呈、現況について言上をお受けになる。ついで別室にお移りになり、列立する理事以下約百三十名に謁を賜う。一旦便殿に入御された後、貴賓室にお出ましになり、副社長の説明にて各種図表を御覧になる。御昼餐後、篤志看護婦人会創立五十周年記念式典会場に臨御され、次の令旨を賜う。

日本赤十字社篤志看護婦人会創立五十周年記念式典ニ臨ミ親シク諸子ヲ見ルヲ怡フ

本会力創立以来幾多ノ困難ヲ排シテ能ク本社ノ事業ヲ幫助シ今次事変ニ処シ亦能ク救護ト慰問ニ勉メタルハ深ク満足スル所ナリ

諸子宜シク時局ニ鑑ミ今後愈々力ヲ協セ目的ノ達成ニ勗メムコトヲ望ム

総裁守正王妃より奉答をお受けになり、会場を御退出になる。ついで赤十字博物館にて開催中の日本民族優生展覧会日本学術振興会・日本民族衛生協会・日本精神衛生協会・日本赤十字社共同主催を御覧になる。御休憩の後、第一・第二作業室において、

総裁守正王妃の説明にて、雍仁親王妃を始めとする繙帯卷きなどの作業を御覧になる。三時四十七分還啓される。還啓後、奥内謁見所において、載仁親王及び守正王妃と御対面になり、この日の行啓についてのお礼言上をお受けになる。なお本行啓に際し、同社に賜金がある。○女官長日記、女官日誌、侍従

職日誌、内舍人日誌、省中日誌、幸啓録、宮内省省報、官報、事業年報（日本赤十字社）、日本赤十字社史稿、偕行社記事、軍人援護事業概要

二十一日 火曜日 来る二十三日より十二月六日まで東京府立商工奨励館において開催される財団法人

昭和十四年十一月

人結核予防会主催の令旨奉体結核予防展覽会に、この日、お手許の運動用具テニス用ラケットをお貸し下げになる。皇太子・正仁親王・成子内親王・和子内親王・厚子内親王それぞれの運動用具もお貸し下げになる。○重要雑録

二十二日 水曜日 午前、奥御進講所において東京帝国大学教授穂積重遠より「米国中立法の修正について」と題する進講をお聞きになる。雍仁親王妃勢津子が陪聴する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

二十五日 土曜日 博恭王妃故経子百日祭につき、皇后宮使として、皇后宮事務官入江相政を伏見宮邸に、同小出英経を豊島岡墓地に差し遣わされ、玉串をお供えになる。また、天皇・皇后より霊前に盛菓子、墓所に榊をお供えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、皇親録、重要雑録、宮内省省報、官報

二十八日 火曜日 午前、正仁親王静岡県興津に滞在中の誕生日につき、天皇と共に奥内謁見所において、内大臣・宮内大臣始め側近奉仕高等官総代及び奥職員のの拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍

従職日誌、内舍人日誌

奥内謁見所において、皇太后御使の権典侍清水谷英子に謁を賜い、正仁親王誕生日の祝詞言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

夜、天皇と共に御学問所において、陸軍大将杉山元より献上の支那楽器ほかを御覧になる。○女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、進献録

二十九日 水曜日 午前、奥御進講所において、東京帝国大学教授穂積重遠より「米の問題について」

と題する進講をお聞きになる。内容は、この年四月の米穀配給統制法施行、近年の公定米価などの米穀政策に及ぶ。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

奥内謁見所において、今般事変地より凱旋の元第四艦隊司令長官日比野正治・同艦隊参謀長岡新に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

奥内謁見所において、先般北支方面へ差遣された侍従武官清水規矩に謁を賜い、復命をお受けになる。

清水は、去る十月五日天皇の御沙汰を、翌六日皇后宮大夫を経て皇后の令旨を拝受し、八日出発、支那派遣軍総司令官西尾寿造以下に御沙汰並びに令旨を伝達、十一月十三日帰京した。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、進退録、侍従武官府歴史、第三十五師団歴史

三十日 木曜日 午前、奥内謁見所において、今般新任のチリ国特命全権公使アルマンド・ラブラ・カルヴァハル及び同夫人・息女に謁見を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、謁見録、宮内省省報、官報

十二月

四日 月曜日 今次の事変における海軍関係傷病者に繃帯六百本を下賜される。○侍従職日誌、軍人援護事業概要

五日 火曜日 午前、奥内謁見所において、今般南支那派遣軍へ御差遣の侍従武官横山明に謁を賜い、次の令旨を下される。

軍司令官以下一同力幾多ノ困難ヲ忍ヒテ克ク出師ノ目的達成ニ努メ大イニ我カ国威ヲ宣揚シツツ

昭和十四年十二月

アルハ洵ニ苦勞ニ思フ特ニ君國ノ為職務ニ殫レタル者ニ對シテハ氣ノ毒ニ堪エス尚氣候風土著シク異ル所ナレハ各自一層身体ヲ大切ニシテ本分ヲ勵ム様申伝ヘヨ又傷病者ハ篤ク勞ハリ遣ハセ

横山はこの日出發、南支方面において状況を実視し、三十一日帰京、翌年三月九日に復命する。○女官長日記、女官日誌、侍從職日誌、侍從武官日誌、省中日誌、重要雜錄、進退錄、侍從武官府歴史、近衛歩兵第一聯隊歴史

夜、雍仁親王・同妃勢津子参内につき、天皇と共にニュース映画を御覧になる。この際、雍仁親王より中支方面御視察後の挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍從日誌、侍從職日誌、内舍人日誌、秩父宮御日誌、秩父宮附日記、雍仁親王実紀

六日 水曜日 午前、成子内親王誕生日につき、天皇と共に奥内謁見所において、内大臣・宮内大臣始め側近奉仕高等官総代及び皇后宮女官等の拝賀をお受けになる。続いて、元皇后宮女官の拝賀をお受けになる。また後刻、奥内謁見所において元皇后宮大夫・元皇后宮女官に謁を賜い、祝詞言上をお受けになる。なお成子内親王は、学友中に伝染病が発生したため参内を取りやめる。○女官長日記、女官日誌、侍從日誌、侍從職日誌、内舍人日誌、吳竹寮日誌

東京帝国大学教授穂積重遠より「ロシアのフィンランド侵略について」と題する進講をお聞きになる。

○女官長日記、女官日誌、穂積家文書

八日 金曜日 午前、奥内謁見所において、今般スウェーデン国へ赴任の特命全權公使松島鹿夫及び同夫人に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍從職日誌、内舍人日誌、省中日誌、拝謁参拝録、宮内省省報、官報

今般事変地より凱旋の元第一聯合航空隊司令官塚原二四三ほか十名に、三組に分けて謁を賜い、お言葉をお賜う。○女官長日記、女官日誌、侍從職日誌

十一日 月曜日 午後一時御出門、大宮御所へ行啓される。四時還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、幸啓録、宮内省省報、官報

歳末に際し、東京府下の官公私立診療団体が協力して貧窮病者救済のために診療を実施するに当たり、思召しをもつて東京府に金一封を下賜される。○省中日誌、恩賜録、宮内省省報

天皇・皇后より日本赤十字社病院補助のため金一封を下賜される。また二十二日、日本赤十字社病院救助収容患者・恩賜財団済生会病院救助収容患者・東京慈恵会医院救助収容患者・財団法人福田会育児院収容者に対し、皇后より反物料として金一封を下賜される。○省中日誌、恩賜録、贈賜録、宮内省省報、事業年報（日本赤十字社）、日本赤十字社史稿

十三日 水曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より「赤穂義士の母と妻」と題する進講をお聞きになる。雍仁親王妃勢津子が陪聴する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

十四日 木曜日 午前、奥内謁見所において、今般ノモンハン方面より凱旋の元航空兵団司令官江橋英次郎・元第二十三師団長小松原道太郎ほかに謁を賜い、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、小松原將軍日記

桐ノ間において、新任のトルコ国特命全權大使フエリト・テック及び同夫人・息女、さらに大使随員及び同夫人に謁見を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、謁見録、宮内省省報、官報

午後、奥内謁見所において、元女子学習院教授^{元二葉保育園園長}野口幽香に謁を賜い、過日二葉保育園にてバザー催しの際に皇后より賜金を拝領したお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、贈賜録

昭和十四年十二月

十五日 金曜日 午前、奥内謁見所において、今般事変地より凱旋の第二航空戦隊司令官戸塚道太郎に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

夕刻、賢所御神樂につき、御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、儀式録、祭祀録、宮内省省報、官報

十八日 月曜日 午前、奥内謁見所において、今般ドイツ国より帰国の特命全權大使大島浩及び同夫人に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、拝謁参拝録、宮内省省報、官報

奥内謁見所において、今般御用を免じられた貴子内親王の乳人矢部経子・同松本夫佐に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

十九日 火曜日 午前、天皇と共に奥内謁見所において、今般満洲より帰還の恒徳王と御対面になる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

午後、木戸ツル内務大臣木戸幸一夫人に謁を賜い、病中お尋ねのお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従

職日誌、贈賜録

二十日 水曜日 午前九時三十分御出門、東宮仮御所に行啓される。皇太子を始め幼稚園児の遊戯を御覧になる。内庭にて、赤坂離宮へ行啓中の皇太后と御対面になる。皇太子と御昼餐を御会食になり、侍医佐藤久による手品の余興を御覧になる。午後三時四十三分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従

職日誌、幸啓録、宮内省省報、官報

二十一日 木曜日 午前、奥内謁見所において、今般凱旋の第百九師団長酒井鎬次・元第百十師団長桑本崇明・元第六師団長稲葉四郎に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、拝謁参拝録

桐ノ間において、新任のハンガリー国特命全権公使ジョルジュ・ギカ及び同息女に謁見を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、謁見録、宮内省省報、官報

正午前、天皇と共に奥御対面所において、御参内の皇太后と御対面になり、御昼餐を御会食になる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、重要雜録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報

二十三日 土曜日 皇太子の誕生日につき、午前、天皇と共に奥内謁見所において、載仁親王始め皇族・王公族より拝賀をお受けになる。ついで内大臣・宮内大臣始め側近奉仕高等官総代及び奥職員より拝賀をお受けになる。正午過ぎ、呉竹寮より和子内親王・厚子内親王参内につき、貴子内親王も交えお祝御膳を御会食になる。皇太子は、風気のため参内を取りやめる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

二十七日 水曜日 午前、奥内謁見所において鍋島紀久子^{鳩彦王の王女}に謁を賜い、歳末の御機嫌奉伺をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

二十八日 木曜日 午後一時三十分御出門、大宮御所に行啓される。皇太后と御対面になり、歳末の御挨拶を申し上げる。三時五十三分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、幸啓録、宮内省省報、官報

二十九日 金曜日 歳末につき、午前、天皇と共に奥内謁見所において、内大臣・宮内大臣始め側近奉仕高等官総代及び皇后宮女官長始め皇后宮女官等より歳末の祝詞言上をお受けになる。また、元皇后宮女官の山岡淑子・青山元子に謁を賜う。ついで、崇仁親王・載仁親王始め皇族・公族より歳末の祝詞言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

皇太子参内につき、天皇と共に御昼餐を御会食になる。皇太子退出後、天皇と共に、故恒久王妃昌子

昭和十四年十二月

内親王・故成久王妃房子内親王と御対面になり、歳末の祝詞言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、宮内省省報

三十一日 日曜日 午前、皇后宮職御用掛竹屋志計子が大宮御所に差し遣わされ、大正天皇の写真に菓子をお供えになる。午後、奥内謁見所において、皇太后御使の皇太后宮職御用掛正親町鍾子に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

午後、天皇と共に奥御対面所において、雍仁親王・同妃勢津子と御対面になり、歳末の祝詞言上をお受けになる。○女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、秩父宮御日誌、秩父宮附日記、雍仁親王実紀